

全学共通科目

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1101	東邦学園と中部圏	1・2年	前期	2	選択	榎直樹

【授業の目的と概要】

副題は「真面目学」。東邦学園の歩みと建学の精神並びに校訓を、歴史と共に理解すること。工業出荷額全国一を誇る愛知の基盤は、明治・大正の先人が築いた。学園創設者もその一人だ。創始から問もなく全国に名を馳せた学園は戦時期、勤労動員生徒らの犠牲を体験。戦後は復興から高度成長・ベビーブームに乗って、発展を続けた。東西冷戦下の保革対立、学園紛争、高度成長もたらした公害も起きた。半世紀の成長至上主義は「失われた20年」を経て、今は少子化、人口減少への対応を迫られている。

この学園が誇りとする教育の方針は「建学の精神」と「校訓」に基づく。1世紀前に掲げられた方針を、現代社会に照らすとどう受け止められるか、考える場としたい。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	講義の目的と学園創設者・下出民義の足取り	下出民義は幕末の泉州生まれ。15歳で小学校の教壇に立ち、石炭売買から実業人の歩みを始めた。名古屋に拠を移して福沢桃介と出会い、電力開発、鉄道網整備、製鋼所設立、企業買収と事業を拡大し、政界とも関わった。
第2回	明治から戦前までの学制の変遷と私学の創立	藩校の時代から明治に入り、教育制度はどう変わったか。新たに私立学校を創設した人々の思いや時代の雰囲気には何が合ったのか。近代国家に向けて富国強兵下、教育制度が担った「使命」とは。
第3回	学園創設に込められた「建学の精神」の意味	東邦学園の創始・東邦商業学校は、建学の精神をなぜ「真に信頼して事を任せうる人格の育成」と掲げたのか。そこに込められた下出父子の願いと開学に至る経緯は。
第4回	満州事変から戦時中までの教育と東邦商業	創立8年後の1931年に満州事変が勃発。東邦商業は野球部が春の甲子園で3度優勝する一方、戦地へ向う生徒と教員も相次ぐ。勤労動員先が空襲され教員と生徒に犠牲者も出た。15年に及んだ戦火は無条件降伏で止む。
第5回	焼野原からの復興。「民主化」に基づく教育	占領下で責任追及が行われ、学園初代理事長は戦争協力者として公職追放。教科書は黒塗り、かつての思想や制度は、「民主化」の名の下、教育も内容・制度が変わり、第二代理事長は公選制で愛知県教育委員に選ばれた。
第6回	ベビーブームと進学者激増、東邦短大の発足	戦地、勤労動員先、疎開地から人が戻りベビーブームが起きる。1950年代後半から児童が一挙に増え、高校進学、さらに大学進学者の増となる。東邦学園短大が1965年に発足、学園は新たな歩み始めた。
第7回	冷戦時代と60年・70年安保、学園闘争	冷戦期、米国とソ連は核兵器を背景に、世界の覇権を競った。日本では日米安保条約改定をめぐる国論が激化、デモ学生に死者も。ベトナム戦争、日米安保、沖縄返還から学園自治まで、日本中の大学が荒れた。
第8回	高度成長の光と影。辿り着いた失われた20年	高度成長時代、賃上げ2万円越えの一方、公害も広がった。経済成長最優先の意識と仕組みは、最後にバブルに踊り狂い、日本を破綻と長い低迷へ突き落とした。就職も超氷河期が続いた。「失われた20年」を振り返る。
第9回	企業の行動規範と社会的責任	失われた20年で問われたのは企業の行動規範と社会的責任。業績の粉飾や産地、品質、強度などの偽装、リコール隠しが相次いで明るみでた。「信頼」と「真面目」の精神から見た企業の在り方とは。
第10回	商売訓・ことわざから考える「真面目」	ICT化、人工知能がいくら進化し、ビジネスが巨大化しても、商売の根底を支える精神は不変なのではないか。人間同士の「信頼」である。長く受け継がれた「商訓」「ことわざ」から、現代のビジネスを考える。
第11回	超長寿企業を支える「信頼」と「真面目」	日本には創業200年以上の企業が3000社、100年以上は1万9500社にのぼる。ドイツ1500社、フランス300社である。超長寿企業が抜きん出て多い秘訣は何か。社訓・家訓に目立つ「信」と「真」から考える。
第12回	スポーツの世界に「真面目」は有り得るか	スポーツが勝ち負けを競うとき、「フェアプレイ」にどれほどの価値があるのか。国威発揚、高収入のため、薬物の力を借りてなぜ悪いのか。他方で高校野球の勝負を度外視した直向きなプレーに、なぜ拍手するのか。
第13回	先人から学ぶ「真面目」とは	ノーベル受賞の大村智博士は、夜間定時制高校教員の時、働きながら学ぶ生徒の真摯な姿に心打たれ、「人のためになるう」の一念で発起、アフリカの2億人を失明から救った。人の道から真面目の価値を追究してみよう。
第14回	非営利事業、非営利団体の理念とは	民間企業のような利益を求めず、しかし役所のような税金に頼ることもしない自立性がある——社会貢献を第一に掲げる非営利団体やNGOの活動ぶりから、働く意味と真面目を考える。
第15回	まとめ	世代の半数が大学へ進む今、大学生自身の意識と社会が見る目も変わった。「信頼」と「真面目」を通じて大学における学びの姿を、おさらいしながら考えたい。

【授業の到達目標】

4年間過ごす大学は、どんな歴史と理念を踏まえて学ぶのか。自らの将来を志を持って進む道標となるよう、日本の近現代史も振り返りつつ理解し、考える力を高め、記述力も身につけること。

【事前・事後学習】

次回のテーマの予習と、毎回示す歴史上のキーワードの復習を求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、講義に基づいて提出を義務付けるレポートに関して、コメントを付して、受講者を称揚すると共に、一層物事を多面的、多角的に捉えて、深く考える姿勢を促す。

【成績評価基準】

毎講義で取り上げるキーワードを理解できたか問う。筆記試験はキーワードを複数用いた「ストーリー」の記述を求める。日本と学園の歩み、校訓の意義等の理解度を評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
55	30	15	0	0

【テキスト】

・なし（プリントを適宜配布）

【参考図書】

・「もういちど読む 山川日本史」（山川出版社）
・池井戸潤作「空飛ぶタイヤ」

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1102	基礎演習 I	1年	前期	2	必修	伊藤 数馬 他

【授業の目的と概要】

大学人としての個人の基礎力をつけることが本講義の目的である。高大接続を意識しつつ、導入教育として、学生同士の人間関係の構築を図り、大学生活への導入をスムーズに行えるようにする。また、学びへの関心を引き起こし、自分の成長のための自己管理の重要性を認識させ、習慣化させる。自己管理にはポートフォリオを活用し、その記録を確認しながら個別の面談により、指導を行う。また、講義の受け方、他人の話の聞き方、話し方などに加えて、レポートの書き方などを行う。同時に新しい人間関係の構築も目指す。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	基礎演習の説明、履修登録の確認、係り決め、キャンパスガイドの説明。
第2回	個別面談、レポート	個別面談を行う。レポートテーマは「子ども発達学科で学びたいこと」。
第3回	図書館ガイダンスと学生ポートフォリオの説明	図書館の利用方法と学生ポートフォリオの記入方法を学ぶ。
第4回	学長による講話	建学の精神、「真面目」「真に信頼される」ことについて、学長による講話から学ぶ。
第5回	読後レポートの準備（資料集め）	読後レポートのための資料集めを行う。
第6回	読後レポートの準備（発表準備）	読後レポートのための発表準備を行う。
第7回	読後レポートの発表	読後レポートの発表を行う。
第8回	ゲストスピーチ	専門分野で活躍するゲストスピーカーの講演を行う。
第9回	スポーツ大会の計画と準備	スポーツ大会の計画と準備をグループで行う。
第10回	スポーツ大会の実施	スポーツ大会を行いグループのチームワークを深める。
第11回	レポートの書き方（マナー）	レポートの基本的なマナーを学ぶ。
第12回	レポートの書き方（資料集め）	レポートの基本的な資料収集の方法を学ぶ。
第13回	レポートの書き方（記入）	レポートを完成させる。
第14回	レポートの書き方（発表）	レポートの発表を行う。
第15回	まとめ	前期で改善すべき点や反省点を話し合う。

【授業の到達目標】

この授業では、学生自身が能力を伸ばし、人間として成長することを目標とする。具体的には、「聞く」「話す」「考える」「行動する」ことができるようになることである。

【事前・事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回指示するテーマや課題を予め調べておく。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートについては、添削・採点の上返却し、全体で共有する機会も持ちながら課題に対しフィードバックを行う。

【成績評価基準】

図書館の利用法やレポート作成方法等の技術を学ぶことができたか。テーマに沿った資料収集を行い、まとめる体験ができたか。グループ活動を通して学習効果をあげ、同時に人との関わりを学ぶことができたか。専門に対するモチベーションを高めることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	30	0	30（発表）

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・授業の中で、必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1103	基礎演習Ⅱ	1年	後期	2	必修	伊藤 数馬 他

【授業の目的と概要】

課題解決型学習の基礎、専門演習の入門と位置づける。課題解決型学習の例として、地域活動プロジェクト、地域スポーツイベントプロジェクト、学内イベントプロジェクト（大学祭、スポーツ大会など）の活動がある。課題解決型学習の授業手法を取り入れてグループで専門に関連する課題を設定し、解決する。その成果を機会を設けて報告する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーションー課題解決型学習とはー	講義概要の説明と課題解決型学習とは何かを考察する。
第2回	専門演習の入門と位置づけ	専門演習の入門と位置づけについて理解する。
第3回	課題解決型学習について	課題解決型学習【PBL（Problem-Based Learning）】の基礎について学習する。
第4回	イベントプロジェクトの検討ー地域活動プロジェクト	地域活動プロジェクトの具体的内容を検討する。
第5回	イベントプロジェクトの検討ー地域スポーツイベントプロジェクト	地域スポーツ イベント プロジェクトの具体的内容を検討する。
第6回	イベントプロジェクトの検討ー学内イベントプロジェクト	学内イベントプロジェクトの具体的内容を検討する。
第7回	イベントプロジェクトの検討ー大学祭	大学祭についての具体的内容を検討する。
第8回	イベントプロジェクトの検討ースポーツ大会	スポーツ大会についての具体的内容を検討する。
第9回	中間報告発表会	中間報告発表会を行う。
第10回	課題解決型学習のグループ学習（1）課題発見	テーマに関する課題を見つけ、討議する。
第11回	課題解決型学習のグループ学習（2）計画立案	テーマに関する課題解決のための計画を作成立案する。
第12回	課題解決型学習のグループ学習（3）資料収集	テーマに関する資料を収集する。
第13回	課題解決型学習のグループ学習（4）発表準備	グループ（A、B）ごとに分かれて、発表内容をまとめる。
第14回	Aグループの成果の発表・報告	Aグループの発表によって発表内容を深める。
第15回	Bグループの成果の発表・報告	Bグループの発表によって発表内容を深める。

【授業の到達目標】

課題解決型学習を通して、主体的に取り組む姿勢をもつことができ、仲間とのコミュニケーション力を養うことができる。

【事前・事後学習】

講義時に提示されているテーマについて、事前にリサーチしてから授業に臨むこと。

講義で学んだ内容等については、実践（実習）で使えるよう反復練習すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生たちが各々の発表について意見を出し合う、また教員が解説や補足することにより、改善に向けてのフィードバックを行なう。

【成績評価基準】

課題解決型学習を通して、主体的に取り組む姿勢をもつことができ、仲間とのコミュニケーション力を養うことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	40	30	0

【テキスト】

・必要に応じて講義時に配布する。

【参考図書】

・必要に応じて講義時に紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1202	憲法	1・2年	前期 後期	2	選択	江場 純一

【授業の目的と概要】

憲法というと、何か難しいイメージがあり、自分には関係がないと思われる方も少なくないかもしれません。しかし、身の回りに起こっている出来事が憲法に関わることも多いです。この講義では、憲法の学説や判例を考え、すこしでも憲法や基本的人権を身近なものとして感じてもらいたいと思っています。また、各種国家試験などにも対応できるようにしたいと思います。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	憲法概説	憲法とは何か
第2回	日本国憲法の成立について	憲法の制定過程と基本原理について
第3回	人権総論(1)	人権の享有主体とは
第4回	人権総論(2)	私人間効力について
第5回	人権総論(3)	特別な法律関係と人権について
第6回	基本的人権の制約原理	公共の福祉による制限とは何か
第7回	幸福追求権(1)	包括的基本権について
第8回	幸福追求権(2)	プライバシー権などの新しい人権を判例を交えて
第9回	憲法14条について	法の平等について判例を交えながら
第10回	憲法19条について	思想・良心の自由についての学説と判例
第11回	憲法20条について	政教分離の原理と判例
第12回	憲法21条について	表現の自由がなぜ大切なのかを、学説と判例を紹介します
第13回	憲法25条について	生存権についての学説と判例を紹介します
第14回	憲法26条について	教育を受ける権利について学説と判例を紹介します
第15回	まとめ	憲法全体について

【授業の到達目標】

憲法や基本的人権な考え方を理解できるようになること。そして、社会における様々な問題を法的に考える力すなわち法的思考能力を修得すること。

【事前・事後学習】

自分で憲法の条文を読んでおくこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験の模範解答を解説とともに提示します。

【成績評価基準】

各条文についての正しい理解と、判例について論理的に説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
100	0	0	0	0

【テキスト】

【参考図書】

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
LA1203	経 済 学	1・2年	前期	2	選択	中山 孝男

【授業の目的と概要】

経済学の入門的内容を15回に分けて講義する。まず、経済学への興味を起こさせるために戦後日本経済の歩みを駆け足でたどった後、ミクロ経済学として、家計の消費行動論から需要曲線を、企業の生産決定論から供給曲線をそれぞれ導く。それらに基づき市場経済論を扱う。また、マクロ経済学では、国内総生産（GDP）の各構成要因を説明したうえで、GDP決定論を扱う。その後、国際収支、外国為替相場について基礎的内容を説明し、最後に最近の日本経済の状況に触れる。この授業の目的は、経済学的な基礎知識を身につけることと、各自がその中で毎日の生活を送っている日本経済の現状が理解できるようになることである。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	この講義の概要説明	この講義で学ぶ目的、学ぶ内容、および授業の進め方を説明し、履修する上での注意点、成績評価の方法などを伝える。
第2回	戦後日本経済の歩み（その1）――終戦直後～高度成長期――	経済学を学ぶ上で必要な知識として、日本経済が歩んできた歴史を、第2次世界大戦直後から高度成長期にかけて講義する。
第3回	戦後日本経済の歩み（その2）――高度成長期～石油ショック――	経済学を学ぶ上で必要な知識として、日本経済が歩んできた歴史を、高度成長期から2度の石油ショックが起こった1970年代末頃までを講義する。
第4回	戦後日本経済の歩み（その3）――バブル経済とその崩壊――	経済学を学ぶ上で必要な知識として、日本経済が歩んできた歴史を、1980年代を中心に講義する。
第5回	戦後日本経済の歩み（その4）――1990年代不況以後――	経済学を学ぶ上で必要な知識として、日本経済が歩んできた歴史を、1990年代以降最近までを講義する。
第6回	市場の仕組みと物価の動き	商品が売買される場、すなわち市場で何がどのように起こっているのかを、価格や物価の動きを中心に講義する。
第7回	経済の仕組みと家計	経済全体の仕組みの中で、私たちの生活に関わる経済活動（とくに消費）がどのようにして行われているのかについて講義する。
第8回	私たちの生活と労働	家計の経済活動のうち、前回の消費と並んで重要な労働すなわち働くということを中心に講義する。
第9回	資本主義経済と企業	毎日の生活がなされている今の経済制度は、資本主義経済とよばれているが、それについて最も簡単に説明する。
第10回	貨幣と金融	貨幣とは何か、金融とは何か、そうしたことを中心に講義する。
第11回	財政の役割	家計と企業だけでは世の中がうまく動かない。その調整役である政府の経済活動すなわち財政について講義する。
第12回	景気循環と政府の政策	資本主義経済にとって不可避な景気循環とそれにたいする景気対策などについて講義する。
第13回	社会保障の仕組み	市場原理に任せていただけでは解決できない問題の1つに福祉の問題がある。それを含めて社会保障について講義する。
第14回	国際経済と日本	「経済のグローバル化」が叫ばれて久しい。貿易、国際収支、外国為替相場などについて講義する。
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業の到達目標】

最低限の目標：新聞・テレビで伝えられる毎日のニュースの意味、内容が少しでもわかる、または興味を持てるようになる。
 努力目標：この講義で使うテキストより高度なレベルの書物に手が伸び、読んでみようという意欲がわくようになる。

【事前・事後学習】

下記テキストに沿って講義を進めていくので、毎回の講義部分を（1時間程度）予習することは必要な事前学習である。また、事後学習として講義内容を最低30分は復習すること。なお、疑問点があればいつでも質問に来てほしい。さらに言えば、毎日の経済ニュースを見たり読んだりすることも事前学習であり、事後学習である。

【課題に対するフィードバックの方法】

原則として毎回、前回の内容理解の程度を測る小テストを行う。正解は毎回実施直後に説明し、採点した答案用紙は3回くらいずつまとめて返却する。

【成績評価基準】

講義内容を正確に理解したうえで、若干の応用力が身についているかどうかをもとに評価する。より具体的には、講義の中で出てきた経済用語を自分の言葉で説明できるかどうかを問う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70%	0%	30%	0%	0%

【テキスト】

・高橋勉『「公民」が苦手だった人のための現代経済入門教室』三恵社、2018年

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1208	情報倫理	1・2年	後期	2	選択	長谷川 明生

【授業の目的と概要】

パーソナルコンピュータや携帯電話でのインターネットアクセスが社会常識と化している現代、その反面、情報の取り扱いについての基本認識を欠いた人が増加している。結果として架空請求やネット詐欺、ソフトウェアの不適切な利用により犯罪の被害者になったり、意図せず法令に違反したりする例も後を絶たない。そうならないために安全に情報を取り扱う方法や考え方について学習していくことをその目的とする。情報を取り扱う上での日々の常識を身に付け、実践できるようになることを目標とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ネットワーク社会と情報	情報倫理とは何か、また、ICT社会の現状と問題について概観する。
第2回	情報とはなにか	情報の意味や価値との関連に基づいて、情報社会での倫理のあり方について考える
第3回	ネチケット	ネットワーク社会でのモラルやエチケットのあり方について考える
第4回	インターネットの基礎	情報倫理を学ぶ上でのインターネットの技術的側面について理解する。
第5回	電子メールの常識	電子メールやSNSでの振る舞い方について習得する
第6回	Webの常識	Webにおける利便性の一方にある危険性について学習する
第7回	ネットワーク犯罪とは	ネットワーク犯罪の動向とネットワーク犯罪からの身の守り方について学ぶ
第8回	個人情報の扱い	個人情報およびプライバシーとは何か、個人情報の取り扱い方について学ぶ。
第9回	落ちやすいワナ	ICT社会での危険性について例を参考に学習する。
第10回	知的財産権	著作権等の知的財産権について、日常生活において必要な事柄について理解する。
第11回	ウィルス対策	ウィルスとは何か、マルウェアとは何か、どのように身を守るかについて学習する。
第12回	パソコンを守る技術	PCやスマートフォンでのマルウェアから防護について学ぶ。
第13回	認証の安全性	ネットでの認証技術や通信における暗号、認証情報の扱いについて学習する。
第14回	インターネットと法律	ICT社会における常識人たるための法律知識について学習する。
第15回	まとめと到達度チェックテスト	全体をまとめて、理解度をチェックする。

【授業の到達目標】

情報倫理に関わるICTの基礎技術について理解し説明できる。マルウェア対策や個人情報の保護について理解し、対応できる。不正アクセスや著作権に関する法律の基礎知識やモラルについて理解し説明できる。

【事前・事後学習】

ネットワーク上や日々のニュースで、ICTに関係しそうな事件や事故に関する情報に興味を向け、日常的に収集しておくこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

ほぼ毎回実施のオンライン小テストでは、その場で正解・不正解が表示されるとともに、ヒントもしくはアドバイスが自動で表示される。

【成績評価基準】

スマホ等で受験できる簡単な確認テスト(5点満点)を毎回実施する。また、最後にスマホで実施する簡単な試験(10点満点)を実施する。これに平常点(20点満点)を合算して評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
章ごとの達成度試験(80点)	0	20	0	0

【テキスト】

・山住富也『モバイルネットワーク時代の情報倫理』近代科学社

【参考図書】

・岡田仁志他『ITセキュリティカフェ』丸善株式会社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1211 LA1211	現代名古屋文化論 名古屋文化論	1・2年	前期	2	選択	長坂 英生

【授業の目的と概要】

近年、東京一極集中化などによって、地方都市の文化の画一化が進んでいる。名古屋も例外ではない。本授業では、主に戦後の名古屋の写真を教材として、名古屋の独特の歴史文化を発見する。そして、今後のまちづくりの在り方について考える。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	名古屋の戦後復興	戦後復興のシンボルである百メートル道路の建設と「アメリカ村」など進駐軍の写真を中心に紹介し、名古屋の終戦直後の様子と復興計画を視覚的に学ぶ。合わせて、本講座の概要を紹介する。
第2回	新しいランドマーク・テレビ塔の成り立ち	終戦から9年後に建設された名古屋テレビ塔の計画から完成までを中心に写真で振り返り、中心市街地のまちづくりとテレビ文化の創生を学ぶ。
第3回	名古屋城の再建と伊勢湾台風	戦時に焼け落ちた名古屋城は昭和34年に再建された。その計画から完成までを写真で紹介し、完成直後に襲った伊勢湾台風についても学ぶ。
第4回	名古屋のメインストリート・広小路	名古屋のメインストリート・広小路は江戸期から名古屋の経済・文化の中心だった。名古屋駅から栄に至る広小路の変貌をとらえた写真を紹介し、その歴史を学ぶ。
第5回	名古屋の中心街・栄と百貨店	名古屋の中心街・栄地区の百貨店を中心に戦後の発展を写真で振り返り、百貨店の歴史と消費文化を学ぶ。
第6回	愛知国体と戦後インフラ整備	昭和25年に開催された愛知国体はインフラ整備など名古屋の戦後復興を後押しした。愛知国体を中心に大相撲名古屋場所やオートバイレースなど戦後の大衆を熱狂させたスポーツ文化を写真で学ぶ。
第7回	知られざる野球文化	野球は戦後、映画と共に「娯楽の王様」となった。戦後初めて来日した米国野球チームや女子プロ野球の興業、そして鳴海球場など今はなき球場を写真で紹介し、知られざる野球文化を学ぶ。
第8回	名古屋の市電	戦前から市民の足となった市電は昭和49年に全廃した。戦後の全盛時代の様子を写真で振り返り、市電の歴史を学ぶ。
第9回	大衆の街・大須	連日にぎわいをみせる大須。その成り立ちから戦後復興、現在の繁栄のきっかけとなったイベントなどを写真で紹介し、大須を中心とする大衆・若者文化を学ぶ。
第10回	名古屋の商店街	昭和初期から30年代まで市民の消費活動の中心となった各地の商店街はモータリゼーションや量販店の発展で衰退した。各地の商店街の戦後全盛時代の様子を写真で振り返り、商店街の歴史と役割を学ぶ。
第11回	名古屋の山車祭り	名古屋の祭りを象徴する山車。各地の山車文化の歴史を中心に写真で紹介し、名古屋における祭り文化を学ぶ。
第12回	名古屋まつりと花電車	終戦直後の「復興祭」をルーツとする名古屋まつりは昭和30年に始まった。市電廃止までは花電車が祭りの華となった。江戸時代にさかのぼり、名古屋まつりのルーツを写真で振り返り、その歴史を学ぶ。
第13回	名古屋の映画文化①	戦後、野球と共に大衆文化をリードした映画を2回に分けて学ぶ。1回目は映画館。人口比で映画館の数が日本一だった「映画王国・名古屋」の隆盛を写真で振り返る。
第14回	名古屋の映画文化②	現在に劣らず、名古屋は映画のロケ地として何度も利用された。その様子を写真で紹介し、同時に来名した当時のスターたちが新聞インタビューで語った「名古屋評」から名古屋文化の特徴を考える。
第15回	東山動物園の変遷	全国有数の東山動物園は終戦直後の「象列車」、昭和30年代の「ゴリラショー」など戦後史を彩ってきた。東山動物園の戦後史を写真で振り返り、動物園の役割について考える。

【授業の到達目標】

戦後の名古屋の歩みを「写真」を通して視覚的に学び、名古屋の街と文化のオリジナリティーを知り、「まちづくり」の在り方を考えることができる。

【事前・事後学習】

以下の参考図書を読み、各授業前には該当テーマ部分を熟読してください。荒俣宏監修「名古屋開府400年記念誌 尾張名古屋大百科」(名古屋開府400年記念事業実行委員会)、名古屋市政100周年記念誌編集委員会編集「なごや100年」(名古屋市長務局)

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポートを、翌週にまとめてフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

現地に行って取材し感じる事。そして文化の多様性を理解し、柔軟で寛容な思考ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	80%	20%	0%	なし

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・荒俣宏監修「名古屋開府400年記念誌 尾張名古屋大百科」(名古屋開府400年記念事業実行委員会)
 ・名古屋市政100周年記念誌編集委員会編集「なごや100年」(名古屋市長務局)

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1213	ボランティア論	1・2年	前期 後期	2	選択	神田 浩史

【授業の目的と概要】

ボランティアについての理解を高め、積極的にボランティア活動に参加するための動機づけを目的とする。そのために、ボランティアに対する基本的な理解から始め、具体的な活動、歴史などを学び、ボランティア団体、NPO（非営利組織）の基礎に至るまで、学んでいく。授業の目標は以下のとおり。(1) ボランティアについての基本理解の確立、(2) ボランティア活動の概略と大学近辺における各種ボランティア活動についての理解、(3) ボランティア体験と発表、(4) ボランティア団体とNPOについての理解、(5) ボランティア活動への参加意欲の涵養。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	体験的ボランティア論	授業の進め方、成績評価方針、講座計画を説明した上で、担当者の自己紹介を兼ねてボランティア体験を共有する。
第2回	ボランティアってなに？	ボランティアってなに？というテーマでグループ・ディスカッションを行い、その結果を全体で共有する。
第3回	ボランティアを必要とする世界の現状を知る	なぜ、ボランティアのニーズが高まっているのか、を考えるために、ワークショップ形式で世界の現状について考える。
第4回	災害時に活躍するボランティア1（ワークショップ）	ボランティアのニーズが最も高い災害時対応について、ワークショップ形式でどういった活動が可能か具体的に考える。
第5回	災害時に活躍するボランティア2（振り返り）	前回のワークショップの振り返りを行い、災害時のボランティアの重要性について再確認する。
第6回	身近に活動するボランティア	授業後半の課題となるボランティア体験を積むために、名古屋市近辺におけるボランティア活動の紹介と、自分自身にあった活動の調べ方について学ぶ。
第7回	国境を越えて活動するボランティア1	海外におけるボランティア事例について、担当者の体験をもとに考える。
第8回	国境を越えて活動するボランティア2（ボランティア活動ランキング）	海外におけるボランティアの重要性について、ワークショップ形式で考える。
第9回	国境を越えて活動するボランティア3（振り返り）	前回のワークショップの振り返りを行い、海外でのボランティアの重要性について再確認する。
第10回	日本社会に見るボランティアの歴史1	外来語のボランティアという言葉が用いられる前から、日本社会におけるボランティアの歴史を概括する。
第11回	日本社会に見るボランティアの歴史2	1995年の阪神・淡路大震災が“ボランティア元年”と言われた、その時期以降の日本社会におけるボランティアについて考える。
第12回	発表・ボランティア体験1	後半の課題であるボランティア体験についての発表会1。
第13回	発表・ボランティア体験2	後半の課題であるボランティア体験についての発表会2。
第14回	ボランティア活動の未来に向けて	ボランティア活動の将来像、未来についてワークショップ形式で考える。
第15回	全体のまとめ	授業全体を振り返り、授業評価を行う。

【授業の到達目標】

ボランティアとはなにか、について説明することができる。
 ボランティアを実際に体験することができる。
 ボランティアをテーマに、様々な角度から受講生同士で議論することができる。
 議論した結果を人前で発表することができる。

【事前・事後学習】

授業前半においては、メディアで報じられたボランティアについて情報収集し、その内容を分析した上で、考察し、レポートにまとめる。
 授業後半においては、自分自身でボランティア体験先を見つけ、コンタクトをとり、実際にボランティアを体験し、その結果を授業時に発表する、もしくはレポートとしてまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

授業の節目に5回コメント・ペーパーを課すが、そのコメント・ペーパーに、授業に対する自分自身の考えや質問などを授業内容に即して書くことができるか。
 前半に課したレポートについて、的確な情報収集を行い、内容分析、考察を行うことができるか。
 後半のボランティア体験について、自分自身でアレンジし、体験をまとめ、分析し、発表できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
	15%	60%	25%（ボランティア体験発表）	

【テキスト】

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1215	異文化コミュニケーション	1・2年	後期	2	選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

この授業では、社会人として場面に応じた適切なコミュニケーションができる力を養成します。価値観・世界観・行動のパターンなどについて理解を深めながら、態度や行動が具体的に変わるよう実践的に学んでいきます。毎回の授業でエクササイズを行いますので、主体的に参加する受講者を歓迎します。また、日本と諸外国の文化の違いを考えていきますから、留学経験のある受講生や複数の文化を持つ受講生を特に歓迎します。東邦基礎力科目の「日本語表現」を履修済みであることが望ましいです。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・出席・課題・成績評価等について説明
第2回	異文化コミュニケーションとは？	異文化コミュニケーションの定義
第3回	コミュニケーション・モデル	コミュニケーション・モデルの定義
第4回	コミュニケーション・スタイル	コミュニケーション・スタイルの理解
第5回	言語メッセージ	言語メッセージの理解
第6回	配慮表現	配慮表現の理解と運用
第7回	発表（1）	グループワークと発表
第8回	非言語メッセージ	非言語メッセージの理解
第9回	文化の価値観	文化が内包する価値の理解
第10回	発表（2）	グループワークと発表
第11回	文化の価値志向	価値観の志向の理解
第12回	自己開示	自己開示の理解
第13回	発表（3）	グループワークと発表
第14回	自文化中心主義と文化相対主義	自文化中心主義と文化相対主義の定義
第15回	まとめ	授業のまとめ

【授業の到達目標】

異文化に対する理解を深め、他者に共感し、適切な行動ができるようになる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに、次週で扱うテキストのページについて1.5時間程度予習してくること。
授業で学んだことは15分程度振り返り（復習）を行って、文章にまとめること。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表と振り返りについては、翌週の授業で紹介し、全体で共有する。

【成績評価基準】

社会人として、相手や場面等に応じた適切なコミュニケーションがとれるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験:70%	0%	0%	0%	発表:30%

【テキスト】

・八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子(2009)『異文化トレーニング [改訂版]:ボーダレス社会を生きる』三修社

【参考図書】

・伊佐雅子（監修）（2007）『改訂新版 多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社
・古田暁（監修）（1996）『異文化コミュニケーション [改訂版]』有斐閣

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1219	自然科学基礎	1・2年	前期	2	選択	高木 靖彦

【授業の目的と概要】

高度に発達した各種技術に立脚した現代社会で生活していくためには、その基となる自然科学に関する素養も求められることとなる。この講義では自然科学全般（ただし数学分野は扱わない）を広く学習し、自然科学的な考え方の基礎を身につけることを目的とする。しかし、自然科学全てを対象とすると非常に範囲が広いので、社会問題、国際問題、環境問題にもつながる「エネルギー」をキーワードにした事柄を扱うことにする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	はじめに -この講義の目的-	この講義ではどのような事を扱い、何を理解して欲しいかを説明する。その中で、人間の知的好奇心の根源が何か、学問とはなにかを考える。
第2回	電気エネルギーと発電	電圧、電流、抵抗といった電気に関する基本的な物理量、および、それらの量の関係を学習する。そして、その電気を作り出す発電の基本を学習する。
第3回	力学的エネルギー	運動している物体のもつエネルギーである運動エネルギー、力の場の中の位置で決まる位置エネルギーについて学習する。
第4回	物体の運動と力	なにも“力”が働かないと物体は等速直線運動を続けること、“力”が働くとそれに比例した加速をすることを学習する。
第5回	物質の状態と熱	物質の状態（固体・液体・気体）変化および温度変化とそれに伴う熱量＝エネルギーの出入りを学習する。
第6回	物質の構造	すべての物質のもととなっている原子の構造、原子番号の等しい原子だけからなる物質である元素について学習する。
第7回	化学反応と反応熱	元素同士の化学反応により性質の異なる物質が作られることを学習する。
第8回	核エネルギー	原子の中心に存在する原子核の構造と、その分裂および融合反応、それにより発生するエネルギーについて学習する。
第9回	地球の内部構造とテクトニクス	地球の内部構造、および、その起源と進化を学習し、我々ヒトやヒトを取り囲む環境との関係を考える。
第10回	地震と火山	地震発生のしくみとプレートテクトニクスを学習し、世界で最も地震の多い日本列島の宿命を理解する。
第11回	地球の熱収支	地球が太陽から受け取る熱が地表、大気などの間でどのように流れていくか、そして最終的にどうなるかを学習する。
第12回	地球温暖化問題	地球環境のしくみの基本を学習し、現代社会において避けて通れない問題となっている地球環境問題を考える。
第13回	生物のしくみ	細胞をはじめとする生物の基本的しくみを学修する。それらを基に生物の定義を考える。
第14回	呼吸と光合成	動物と植物の違い、特に栄養の取得の方法の違いを学習する。その違いの基となる光合成についても学修する。
第15回	エネルギーの変換と保存	この講義で扱ってきた色々なエネルギーがどのように相互に変換され、保存されているかを学習して、この講義全体のまとめとする。

【授業の到達目標】

現代人として必要な最小限の科学的知識を習得し、新聞の一面などに載った自然科学に関連する記事を読んで、その内容の概要を説明できる。

【事前・事後学習】

その週の分の資料・ノート等を使って見直し、毎週最後に実施する小テストで自分が提出した解答の自己採点を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された各回末の小テストは、原則として次回講義までのオフィスアワーにL棟2階で返却し、次回講義において解説を行う。

【成績評価基準】

現代社会で必須な科学的事柄を正しく説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	0	0	30（各回末の小テスト）

【テキスト】

・特に使わない

【参考図書】

・左巻 健男、『新しい科学の教科書 第1分野／化学・物理編』、文一総合出版
 ・左巻 健男、『新しい科学の教科書 第2分野／生物・地学編』、文一総合出版
 ・中学・高校時代に自分が使った理科の教科書

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1221	食と健康	1・2年	前期	2	選択	尚爾華

【授業の目的と概要】

本講義では、食と健康に関する諸問題や健康に生きるための食生活のあり方を学ぶ。人の生命活動には、必要な物質を食物から取り入れ、生命活動に必要なエネルギーを獲得し、生体成分をつくり、不要なものは排せつする。栄養素とその役割、代謝のしくみを中心に、基礎から学ぶとともに、栄養不良・過剰栄養、健康食品や食育、食の安全など食と健康をとりまく重要な問題について学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	食と健康ガイダンス	食と健康の関係、食生活指針、食事バランスガイドについて学ぶ。
第2回	食事と栄養素①	炭水化物の分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ。食品成分表を用いて、各食品に含まれる炭水化物の量やカロリーを学ぶ。血糖コントロールをよくする食事を学ぶ。
第3回	食事と栄養素②	たんぱく質の構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ。食品成分表を用いて、各食品に含まれるたんぱく質の量やカロリーを学ぶ。腎臓負担を減らす低たんぱく食を学ぶ。
第4回	食事と栄養素③	脂質の構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ。食品成分表を用いて、各食品に含まれる脂質の量やカロリーを学ぶ。コレステロールと食事の関係について学ぶ。
第5回	食事と栄養素④	ビタミン、ミネラルの構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ。食品成分表を用いて、各食品に含まれるビタミン、ミネラルの量について学ぶ。
第6回	食品成分表①	穀類、イモ類、砂糖、豆類、種実類、果実類の栄養上の特徴や調理法、食文化などについて学ぶ。
第7回	食品成分表②	きのこ、藻類、魚介類の栄養上の特徴や調理法、食文化などについて学ぶ。
第8回	食品成分表③	肉類の栄養上の特徴や調理法、食文化などについて学ぶ。
第9回	食品成分表④	卵類、乳類の栄養上の特徴や調理法、食文化などについて学ぶ。
第10回	食品成分表⑤	油脂類、菓子類、嗜好飲料類、調味料・香辛料、調理加工食品類の栄養上の特徴や調理法、食文化などについて学ぶ。
第11回	調理の基本①	調理器具、計量と調理の基本を学ぶ。
第12回	調理の基本②	食材の切り方、下ごしらえ、和・中・洋の主な調理法を学ぶ。
第13回	健康と栄養、医食同源について	栄養不良の分類と対策、過剰栄養の現状、肥満対策、摂食障害の予防について学ぶ。生活習慣病の食事療法や「薬食同源」について、旬の食材の健康増進効果について学ぶ。
第14回	食を取り巻く環境、食品の安全	食の安全、食中毒、食品添加物、食品表示について学ぶ
第15回	まとめと練習問題の解説	食と健康についてまとめる。練習問題の解説をする。

【授業の到達目標】

健康な食生活を送るための基礎知識の習得し、食品の成分、五大栄養素の働き、調理の基本、食の安全について説明ができる。

【事前・事後学習】

各回の授業内容について復習をし、次回の内容について指定された参考資料を熟読すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポート・小テストは翌週フィードバックし、解説とともに解答例を提示し、全体で共有する。

【成績評価基準】

- 1、食品の成分、五大栄養素の働きを説明できるか
- 2、健康食品、食育、食事療法、食の安全について理解ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80%	10%	10%	0	0

【テキスト】

・実教出版編集部。オールガイド食品成分表2018。実教出版

【参考図書】

- ・健康管理士一般指導員テキスト4「生活を守る栄養学」
- ・辻野 将之 「からだを心を整える「食養生」——食より大切な思考と実践」 技術評論社
- ・垣原 登志子 他 「食育入門 —生活に役立つ食のサイエンス」 共立出版
- ・金川克、他 「食生活の基礎と事例から学ぶ食事支援・指導」 中央法規
- ・小西 すず、他 「いきいき栄養学」 診断と治療社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1222	わたしたちの身体	1・2年	前期	2	選択	尚 爾華

【授業の目的と概要】

私たちの身体を支える筋肉や骨、体内の様々な機能に関わる物質は、食物から摂取する栄養素によってつくられている。また、私たちが身体を動かし、生命を維持するためには、食物からエネルギーを摂取することが必要である。食物を消化・吸収するための消化管の構造、エネルギーとなる栄養素の消化・吸収の仕組み、それらの栄養素を含む食品について学習する。実習では、栄養調査、身体測定の方法を学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンスー人体とは何か	ガイダンス。自分の身体について考える。
第2回	人体の成分と栄養素	人体の構成元素と含有量、人体の構成成分
第3回	栄養バランスと健康	食品の成分、食品の機能性と種類、
第4回	食物の摂取ー食欲、消化、吸収	食物の摂取、消化作用、吸収機構
第5回	栄養素と健康①	炭水化物、脂質、たんぱく質の代謝と栄養
第6回	栄養素と健康②	無機質、ビタミン、食物繊維の代謝と栄養、水分平衡の重要性。
第7回	ゲストスピーカーによる講演（保健師）	保健所保健師による地域住民の健康・栄養状況についての講演
第8回	栄養評価・栄養補給	栄養素の取れた食事（バランス型紙を利用）を考案
第9回	基礎代謝とエネルギー	基礎代謝の測定条件、自分の基礎代謝値を推定する。
第10回	視覚教材による学習。	「身体をつくる栄養」「エネルギーとなる栄養」視覚教材を視聴する。
第11回	栄養調査、身体計測	栄養調査の方法を学ぶ。皮下脂肪、などの身体測定法を学ぶ。
第12回	栄養調査、身体計測の実習①	グループに分けて、栄養調査・身体測定を行う。
第13回	栄養調査、身体計測の実習②	グループに分けて、栄養調査・身体測定を行う。
第14回	栄養調査、身体計測の実習③	グループに分けて、栄養調査・身体測定を行う。
第15回	まとめ	全体のまとめ

【授業の到達目標】

- ①身体をつくる栄養素、エネルギーとなる栄養素について理解ができる。
- ②実習ではメンバーと協力し、栄養調査、身体測定ができる。

【事前・事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回の授業後にノートの整理をすること。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポート・小テストは翌週フィードバックし、解説とともに解答例を提示し、全体で共有する。

【成績評価基準】

- ①身体をつくる栄養素、エネルギーとなる栄養素について理解ができるか。
- ②実技として栄養調査・身体測定について正しく実施できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80%	10%	0%	10%	0

【テキスト】

・使用しない。

【参考図書】

・随時に配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1223	心の健康・心の病	1・2年	後期	2	選択	高柳 伸哉

【授業の目的と概要】

自分の心の状況を観察し、自己理解を深め、他者との関係性のあり方を探ることを目的とする。めまぐるしく変化していく社会状況の中で、揺れ動く心のバランスを保っていくことは、誰にとっても容易なことではない。まして、大学時代は学業上の問題、対人関係、進路の問題等、不安定になりやすい時期である。さらに、社会生活においても保健・医療における心理的課題や災害時の心理について学ぶことの重要性は一層高まっている。授業では受講生自身の心や日常の対人関係を素材にし、心理学の知見を紹介しながら、人間のこころと行動について理解を深める。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション心の健康とは	心の健康や心の安定について考えることにより、心の健康、心の病について考えを深める。
第2回	第一印象と対人認知、人間関係	第一印象や対人認知について学ぶことにより、人と人の関わり方の心理について学習する。
第3回	友情と孤独	友人関係における友情と孤独について考察することにより、人を好きになる心理について学習する。
第4回	説得的コミュニケーション	個人的なレベルや社会的なレベルにおいて私たちが他者からどのような影響を受けているのかを心理学的に考える。
第5回	集団の仕組みと影響	集団と個人のかかわりを集団からの影響、集団と集団の関係などの側面から心理学的に考える。
第6回	対人関係の諸問題(1)葛藤	他者との関わりの中で生じる、葛藤や欲求不満について心理学的に学習する。
第7回	対人関係の諸問題(2)攻撃行動	攻撃行動のあらわれである、いじめや家庭内における暴力、虐待などの対人関係の問題について学習する。
第8回	自己理解	自己理解を深めるための様々な方法について学習する。
第9回	ストレスと人間関係	ストレスがどのようにもたらされるのか、そのメカニズムを理解する。
第10回	大学生の対応ストレス、レジリエンス(回復力)	大学生の人間関係にかかわるストレスやレジリエンス(回復力)について学ぶ。
第11回	保健分野における心理的課題と必要な支援	保健機関で必要とされる心理的な視点や支援について学ぶ。
第12回	医療分野における心理的課題と必要な支援	医療機関で必要とされる心理的な視点や支援について学ぶ。
第13回	災害における心理的影響と必要な支援	災害時の一般的な心理状態や必要な心理的支援について学ぶ。
第14回	幸福感と人間関係	日々の幸福感を増やしたり、減らしたりする原因について学習し自分や他者の幸せについて考えるきっかけにする。
第15回	まとめ	これまでの授業を振り返り、心の健康・心の病と自分の生活・人生を関連させて考察する。

【授業の到達目標】

人間形成や対人関係のよりよいあり方について説明できる。

自己についての理解を深め、自分の対人関係について振り返り心の安定について分析することができる。

社会生活における心理社会的な視点と保健・医療等の現場で求められる支援について説明できる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードについて調べる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業後に提出するミニレポートは、採点の上で翌週返却します。

【成績評価基準】

人間形成や対人関係のよりよいあり方について説明できるか。

自己についての理解を深め、自分の対人関係について振り返り心の安定について分析することができるか。

保健・医療等の現場に必要な心理的な視点や支援について説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20 (毎授業後に提出するミニレポート)

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1224	健康・スポーツ実習	1・2年	前期 後期	2	選択	大勝 志津穂 小島 正憲 上田 裕司 内藤 法永 徳武 岳

【授業の目的と概要】

本講義では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習と講義を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。また、講義と実習を行うことによって、それぞれの種目に対する理解をより深めることができる。講義では、各種目の歴史と特性を理解し、チームで勝利するための戦術や方法・方策を考える。実習では、自らの技術の向上を目指すだけでなく、講義で学んだ知識をもとに、チームのメンバーと協力・協働しながら、チームの目的を達成するために、課題を見つけ、その解決方法を実践的に学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス、チーム編成（講義）	種目紹介とチーム編成を行う
第2回	ラグビーの歴史と種目特性（講義）	ラグビーの歴史と種目特性について知る
第3回	ラグビーの基礎練習	タグを使ったゲーム、「スローフォワード」とルールの確認
第4回	ラグビーの総合練習	1対1、2対2、3対3のゲーム
第5回	ラグビーの戦術研究（講義）	攻め方と守り方を考える
第6回	ラグビーのゲーム1 ランの戦術とディフェンス	チームごとに「ラン」を主として戦術を考え実践。また、ランの戦術に対する守り方を考える。
第7回	ラグビーのゲーム2 パスの戦術とディフェンス	チームごとに「ラン」に「パス」を加えた戦術を考え実践。また、その戦術に対する守り方を考える。
第8回	ラグビーのゲーム3 全員でトライを目指す	5対5のゲームを行い、チーム全員でトライを目指す
第9回	ラグビーフットボールの歴史と種目特性（講義）	ラグビーフットボールの歴史と種目特性について知る
第10回	ラグビーフットボールの基礎練習 ラッシングとパス	ラグビーを使ったゲーム、「スタップ」「ハンドオフ」「パス」の練習
第11回	ラグビーフットボールの総合練習1 オフェンスの戦術	「パス」と「ラン」を使って攻める
第12回	ラグビーフットボールの総合練習2 ディフェンスの戦術	「マンツーマンディフェンス」「ゾーンディフェンス」を考える
第13回	ラグビーフットボールの戦術研究（講義）	個人の得意分野をみつけ、個人がいきるプレイをチームで考える
第14回	ラグビーフットボールのゲーム1 ラッシングの戦術を考える	「ラン」を主とした戦術をチームごとに考える。戦術カードを作成する
第15回	ラグビーフットボールのゲーム2 パッシングの戦術を考える	「パス」を主とした戦術をチームごとに考える。戦術カードを作成する
第16回	ラグビーフットボールのゲーム3 全員でタッチダウンを目指す	これまで作成した戦術カードを使って、チーム全員でタッチダウンを目指す
第17回	アルティメットの歴史と種目特性（講義）	アルティメットの歴史と種目特性について知る
第18回	アルティメットの基礎練習 スローイング&キャッチング	ディスクのスロー（バックハンド、フォアハンド）とキャッチの練習
第19回	アルティメットの総合練習1 オフェンスの戦術	攻めの戦術を考え実践する
第20回	アルティメットの総合練習2 ディフェンスの戦術	守りの戦術を考え実践する
第21回	アルティメットの戦術研究（講義）	攻めと守りの戦術を深める
第22回	アルティメットのゲーム1 3 on 3 空間を使う	3対3のゲームで、空間を使った戦術を考え実践する。変則的なコートで空間利用を考える。
第23回	アルティメットのゲーム2 5 vs 5 オフェンスの戦術を考える	5対5のゲームで、攻めの戦術を考え実践する
第24回	アルティメットのゲーム3 5 vs 5 効果的なディフェンスを考える	5対5のゲームで、効果的なディフェンスをチームで考え実践する
第25回	アルティメットのゲーム4 7 vs 7 チームの戦術を実行する	7対7のゲームを行い、これまでのチームの戦術を実践する
第26回	アルティメットのゲーム5 7 vs 7 全員で得点を目指す	7対7のゲームで、チーム全員で得点を目指す
第27回	フットサルの歴史・種目特性（講義）	フットサルの歴史と種目特性について知る
第28回	フットサルの基礎練習と総合練習	ボールを止めて蹴ること。パス、シュートの練習。ミニゲームを行う
第29回	フットサルのゲーム1 全員がボールを触る	全員がボールを触ってゴールを目指す
第30回	フットサルのゲーム2 全員で得点を目指す	全員で戦術を考え、ゴールを目指す

【授業の到達目標】

各個人が、それぞれの種目の特性を理解し、ゲームを楽しむことができる。
個人の技術だけでなく、チームの技術を高め、ゲームでの勝利を目指すことができる。
チームの学生と協力・協働しながら、メンバーそれぞれが役割を果たすことができる

【事前・事後学習】

それぞれの種目の競技特性を調べ、戦術を考える。
チームのメンバーの特性を知り、それぞれの特徴をいかせるような戦術を考える。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間、学生は授業内容をカードに記し提出する。
その内容を確認し、必要な場合にはコメントを書き、次の授業時間に返却する。

【成績評価基準】

各種目の特性やルールを理解し、ゲームを行うことができるか。
各種目の基本技術を習得しているか。
各チームでの個人の役割を果たしているか。
チームがどれくらい勝つことができるか。
準備や片付けを行うことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	80（チームへの貢献度＋授業への参加度）	0	10（チームの勝利）10（個人のスキル）

【テキスト】

特になし

【参考図書】

・ラグビーオフィシャルウェブサイト：<http://www.tagrugby-japan.jp>
・公益財団法人ラグビーフットボール協会：<https://www.japanflag.org>
・一般社団法人日本フライングディスク協会：<http://www.jfda.or.jp>
・後藤完夫「ラグビーフットボール入門」タッチダウン株式会社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1303 LA1301	英語基礎 I C I 英語基礎 I	1年	前期	1	選択必修	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

文法、語彙の習得を確認しながら英文の内容を的確に把握し、大学での学びに必要な英語力習得を目的とする。教科書の英文を発展させ、語彙については類語と意味のニュアンスを学び、英語での表現力向上を目指す。保育、幼児教育に関する教科書の内容を発展させ、興味を持って英語に取り組み、将来の職場で活用できるよう専門領域の英語理解につなげていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業の進め方、Pre-unit Please Speak More Slowly	授業の目的と進め方、Pre-unit の内容把握
第2回	Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka (1)	Unit 1 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第3回	Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka (2)	Unit 1 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第4回	Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room? (1)	Unit 2 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第5回	Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room? (2)	Unit 2 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第6回	Unit 3 Good Morning. How Are You Today? (1)	Unit 3 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第7回	Unit 3 Good Morning. How Are You Today? (2)	Unit 3に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第8回	Unit 4 What Color Do You Like? (1)	Unit 4 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第9回	Unit 4 What Color Do You Like? (2)	Unit 4 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第10回	Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf (1)	Unit 5 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第11回	Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf (2)	Unit 5 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第12回	Unit 6 It's Time to Play Outside (1)	Unit 6 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第13回	Unit 6 It's Time to Play Outside (2)	Unit 6 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第14回	Unit 7 She Is Allergic to Eggs (1)	Unit 7 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第15回	Unit 7 She Is Allergic to Eggs (2)	Unit 7に関連したアクティビティ、英語のゲーム

【授業の到達目標】

基本的な英文法、語彙を確認しながら、平易な英文を読んで内容を把握できる。

英和辞典の効果的使用法を習得し、自ら英文を読み解くことができる。

基本的な英語の歌やゲームができる。

【事前・事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。

授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行うことにより、テストに備えること。

【課題に対するフィードバックの方法】

アクティビティには、教科書の文章を使つての英語での紙芝居・ペープサートも含まれる。グループ発表の後、録画で発表をチェックして改良点などを話し合う。

小テスト等は、返却後間違っていた部分を改めて書いて確認するプリントを配布し、提出する。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な英単語を習得、内容を把握し、関連した内容を英語で表現できる。

基礎的な英語の歌を歌うことができ、英語のゲームを教えることができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60 (小テストなど)	10	15	15	0

【テキスト】

・土屋麻衣子著『Happy English for Childcare (保育のための基礎英語)』金星堂

・投野由紀夫編『チャンクで英単語 Basic』三省堂

・必要に応じて配布する。

【参考図書】

・高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参すること。

・必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1306 LA1302	英語基礎Ⅱ CⅡ 英語基礎Ⅱ	1年	後期	1	選択必修	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

文法、語彙の習得を確認しながら英文の内容を的確に把握し、大学での学びに必要な英語力習得を目的とする。教科書の英文を発展させ、語彙については類語と意味のニュアンスを学び、英語での表現力向上を目指す。保育、幼児教育に関する教科書の内容を発展させ、興味を持って英語に取り組み、将来の職場で活用できるよう専門領域の英語理解につなげていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業の進め方、Pre-unit Please Speak More Slowly	授業の目的と進め方、Pre-unit の内容把握
第2回	Unit 8 You Should Go to the Bathroom (1)	Unit 8 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第3回	Unit 8 You Should Go to the Bathroom (2)	Unit 8 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第4回	Unit 9 We Made Masks Today (1)	Unit 9 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第5回	Unit 9 We Made Masks Today (2)	Unit 9 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第6回	Unit 10 If It Rains, What Happens? (1)	Unit 10 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第7回	Unit 10 If It Rains, What Happens? (2)	Unit 10 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第8回	Unit 11 What Shall We Do Today? (1)	Unit 11 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第9回	Unit 11 What Shall We Do Today? (2)	Unit 11 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第10回	Unit 12 I Feel Feverish (1)	Unit 12 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第11回	Unit 12 I Feel Feverish (2)	Unit 12 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第12回	Unit 13 This Is Yumi from Cosmos Day Care Center (1)	Unit 13 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第13回	Unit 13 This Is Yumi from Cosmos Day Care Center (2)	Unit 13 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第14回	Unit 14 Thank You Very Much for Everything (1)	Unit 14 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第15回	Unit 14 Thank You Very Much for Everything (2)	Unit 14 に関連したアクティビティ、英語のゲーム

【授業の到達目標】

基本的な英文法、語彙を確認しながら、平易な英文を読んで内容を把握できる。

英和辞典の効果的使用法を習得し、自ら英文を読み解くことができる。

基本的な英語の歌やゲームができる。

【事前・事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。

授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行うことにより、テストに備えること。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは返却後、復習プリントを配布し、学生は解答が間違っていた部分すべてについて、正解を記入して提出する。既に行った小テスト数回分を範囲として、再度テストを行い、定着を目指す。

アクティビティは、教科書の英文を使って紙芝居・ペープサート等の発表を行ない、録画して改善点を話し合う。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な英単語を習得、内容を把握し、関連した内容を英語で表現できる。

基礎的な英語の歌を歌うことができ、英語のゲームを教えることができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
55 (小テストなど)	10	15	20	0

【テキスト】

- ・土屋麻衣子著『Happy English for Childcare (保育のための基礎英語)』金星堂
- ・投野由紀夫編『チャンクで英単語 Basic』三省堂
- ・必要に応じて配布する。

【参考図書】

- ・高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参すること。
- ・必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1309 LA1303	英語 I 英語 CI	1年	前期	1	選択必修	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

文法、語彙の習得を確認しながら英文の内容を的確に把握し、大学での学びに必要な英語力習得を目的とする。教科書の英文を発展させ、語彙については類語と意味のニュアンスを学び、英語での表現力向上を目指す。保育、幼児教育に関する教科書の内容を発展させ、興味を持って英語に取り組み、将来の職場で活用できるよう専門領域の英語理解につなげていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業の進め方、Unit 1 First Step to Childcare English (1)	授業の目的と進め方、Unit 1 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第2回	Unit 1 First Step to Childcare English (2)	Unit 1 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第3回	Unit 2 Welcome to Minato Nursery School! (1)	Unit 2 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第4回	Unit 2 Welcome to Minato Nursery School! (2)	Unit 2 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第5回	Unit 3 Time and Numbers (1)	Unit 3 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第6回	Unit 3 Time and Numbers (2)	Unit 3 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第7回	Unit 4 Directions (1)	Unit 4 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第8回	Unit 4 Directions (2)	Unit 4 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第9回	Unit 5 Davy Meets His Classmate Takashi (1)	Unit 5 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第10回	Unit 5 Davy Meets His Classmate Takashi (2)	Unit 5 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第11回	Unit 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up (1)	Unit 6 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第12回	Unit 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up (2)	Unit 6 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第13回	Unit 7 Jobs at Nursery School (1)	Unit 7 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第14回	Unit 7 Jobs at Nursery School (2)	Unit 7 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第15回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

基本的な英文法、語彙を確認しながら、平易な英文を読んで内容を把握できる。
英和辞典の効果的使用法を習得し、自ら英文を読み解くことができる。
基本的な英語の歌やゲームができる。

【事前・事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。
授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行うことにより、テストに備えること。

【課題に対するフィードバックの方法】

アクティビティには、英語での紙芝居・ペープサートも含まれる。グループ発表の後、録画で発表をチェックして改良点などを話し合う。
小テスト等は、返却後間違っていた部分を改めて書いて確認するプリントを配布し、提出する。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な英単語を習得、内容を把握し、関連した内容を英語で表現できる。
基礎的な英語の歌を歌うことができ、英語のゲームを教えることができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
55 (小テストなど)	10	15	20	0

【テキスト】

- ・赤松直子・久富洋子 著 『保育の英会話』 萌文書林
- ・投野由紀夫編『チャンクで英単語 Basic』三省堂
- ・必要に応じて配布する。

【参考図書】

- ・高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参すること。
- ・必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1312 LA1304	英 語 II C II 英 語 II	1年	後期	1	選択必修	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

文法、語彙の習得を確認しながら英文の内容を的確に把握し、大学での学びに必要な英語力習得を目的とする。教科書の英文を発展させ、語彙については類語と意味のニュアンスを学び、英語での表現力向上を目指す。保育、幼児教育に関する教科書の内容を発展させ、興味を持って英語に取り組み、将来の職場で活用できるよう専門領域の英語理解につなげていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業の進め方、Unit 8 Lunchtime (1)	授業の目的と進め方、Unit 8 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第2回	Unit 8 Lunchtime (2)	Unit 8 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第3回	Unit 9 Toilet Dialog (1)	Unit 9 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第4回	Unit 9 Toilet Dialog (2)	Unit 9 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第5回	Unit 10 Fighting (1)	Unit 10 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第6回	Unit 10 Fighting (2)	Unit 10 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第7回	Unit 11 Injuries and Illness (1)	Unit 11 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第8回	Unit 11 Injuries and Illness (2)	Unit 11 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第9回	Unit 12 Telephone Calls (1)	Unit 12 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第10回	Unit 12 Telephone Calls (2)	Unit 12 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第11回	Unit 13 Field Trip (1)	Unit 13 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第12回	Unit 13 Field Trip (2)	Unit 13 に関連したアクティビティ、英語のゲーム
第13回	Unit 14 Baby Care	Unit 14 の語彙確認と内容把握、英語の歌
第14回	Unit 15 Graduation Day	Unit 15 の語彙確認と内容把握、英語のゲーム
第15回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

基本的な英文法、語彙を確認しながら、平易な英文を読んで内容を把握できる。

英和辞典の効果的使用法を習得し、自ら英文を読み解くことができる。

基本的な英語の歌やゲームができる。

【事前・事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。

授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行うことにより、テストに備えること。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは返却後、復習プリントを配布し、学生は解答が間違っていた部分すべてについて、正解を記入して提出する。既に行った小テスト数回分を範囲として、再度テストを行い、定着を目指す。

アクティビティの発表は、録画を見て、改善点を話し合う。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な英単語を習得、内容を把握し、関連した内容を英語で表現できる。

基礎的な英語の歌を歌うことができ、英語のゲームを教えることができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
55 (小テストなど)	10	15	20	0

【テキスト】

- ・赤松直子・久富洋子 著 『保育の英会話』 明文書林
- ・投野由紀夫 編『チャンクで英単語 Basic』三省堂
- ・必要に応じて配布する。

【参考図書】

- ・高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参すること。
- ・必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1317 LA1307	英語オーラルコミュニケーションⅠC 英語オーラルコミュニケーションⅠ	1年	前期	1	選択必修	ナイレ・キナン

【授業の目的と概要】

Communicating in English is fun and easy! Although the lessons in this course have grammar content we will mainly be concentrating on speaking and listening. Coming to class regularly and speaking as much as you can will really help you to be a much better English speaker. You need to come to at least 2/3 of the lessons, try your best, and most of all have fun!!

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション (1)	I will introduce myself and this course, my method of teaching and the textbook I have selected. Students will have the chance to ask questions about this class.
第2回	オリエンテーション (2)	I will introduce myself and this course, my method of teaching and the textbook I have selected. Students will have the chance to ask questions about this class.
第3回	役に立つ表現	As much as possible the class will be taught in English so this lesson will be devoted to useful vocabulary for communicating with me during the lesson
第4回	経験 (1) 現在完了形	We will focus on the simple past and present perfect tenses in English.
第5回	知り合う (1) 初対面	We will cover a range of simple information questions which can be used when we meet someone for the first time. The focus will be small talk.
第6回	経験 (2) ~したことがありますか?	Students will share their best memories/ experiences with each other in an information exchange exercise.
第7回	知り合う (2) 自己紹介	This lesson will cover personal information questions and appropriate body language/ gesture when greeting somebody for the first time.
第8回	復習	This class will be a review of what we have covered so far through a variety of pair work exercises and games.
第9回	興味 (1) 好きなもの嫌いなもの	Students will ask and answer about their likes /dislikes. The focus will be on degree and agreement/disagreement.
第10回	場所 (1) 位置	Prepositions of place - the position of objects within the home..
第11回	興味 (2) 趣味と自由時間	Students will talk about how they enjoy their free time. We will touch on frequency and abilities.
第12回	場所 (2) 方向	Prepositions of place - giving directions in the city and on public transport.
第13回	家族	This lesson includes a wide range of vocabulary about family which students will use to introduce their family.
第14回	旅行 (1) レストランの予約	Making a restaurant reservation when traveling abroad.
第15回	人を表現する	We will practice describing what people look like and what their character is. The focus will be distinguishing between the two.

【授業の到達目標】

The purpose of this course is to target natural communication in class. The activities are designed to be fun and simple to help students to be more confident when they speak English. Grammar will be included in the lessons as related to a specific function of communication rather than as an isolated topic and the focus will be on encouraging natural and appropriate use in conversation rather than understanding the structure.

【事前・事後学習】

Students should be prepared to take notes in class - not only from the whiteboard but also and hints and corrections made to them directly. They should write down any new words that they have asked the teacher or to check at home with their dictionary. They should prepare for lessons in advance by reading over the text, checking vocabulary and underlining anything that they don't understand so that they can check with me immediately. Reviewing after class is equally important as is recycling newly learned words and phrases into future lessons. Using what you learn as often as possible is the very best way to remember it.

【課題に対するフィードバックの方法】

The beginning of each lesson will include a ten minute 'review and check' time devoted to revising the main points and vocabulary of the previous lesson and previewing key words and structures from the upcoming one. During this time students will have a chance to ask about anything they are unsure of and demonstrate recall of previous learning.

【成績評価基準】

Students need to show personal motivation to participate and improve their abilities. Very regular attendance and being active in class will result in a marked improvement in both speaking and listening skills both of which will be necessary to pass the course. Students must complete all activities and assignments diligently and take responsibility for their own personal improvement.

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
10	0	30	0	60 (Behaviour in class and participation)

【テキスト】

・「Talk a Lot」 EFL Press

【参考図書】

・特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1320 LA1308	英語オーラルコミュニケーションⅡC 英語オーラルコミュニケーションⅡ	1年	後期	1	選択必修	ナイレ・キナン

【授業の目的と概要】

Communicating in English is fun and easy! Although the lessons in this course have grammar content we will mainly be concentrating on speaking and listening. Coming to class regularly and speaking as much as you can will really help you to be a much better English speaker. You need to come to at least 2/3 of the lessons, try your best, and most of all have fun!!

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	I will introduce myself and this course, my method of teaching and the textbook I have selected. Students will have the chance to ask questions about this class.
第2回	経験 (1) 現在完了形	We will focus on the simple past and present perfect tenses in English.
第3回	経験 (2) ~したことがありますか?	Students will share their best memories/ experiences with each other in an information exchange exercise.
第4回	復習	This class will be a review of what we have covered so far through a variety of pair work exercises and games.
第5回	場所 (1) 位置	Prepositions of place - the position of objects within the home..
第6回	場所 (2) 方向	Prepositions of place - giving directions in the city and on public transport.
第7回	旅行 (1) レストランの予約	Making a restaurant reservation when traveling abroad.
第8回	日本の物	Explaining Japanese culture to foreign visitors.
第9回	価格	Large numbers and currency specifically in relation to shopping.
第10回	これから行う行事 (1) 未来形	We will talk about decided future plans using 'going to'. Students make plans with each other using a schedule.
第11回	これから行う行事 (2) 計画を立てる	'Will' and 'wont' to talk about possibilities and make predictions.
第12回	学校 (1) 科目と時間割	Vocabulary for school life and education. Students will share with each other the subjects they enjoyed/didn't enjoy at high school.
第13回	学校 (2) 規則	School rules. Using 'have to' and 'must' we will focus on rules.
第14回	旅行 (2) 飛行機の予約	We will practice using functional English for in a hotel using role plays.
第15回	病気と健康	Health awareness, illness and parts of the body. Vocabulary and pronunciation will be the main focus.

【授業の到達目標】

The purpose of this course is to target natural communication in class. The activities are designed to be fun and simple to help students to be more confident when they speak English. Grammar will be included in the lessons as related to a specific function of communication rather than as an isolated topic and the focus will be on encouraging natural and appropriate use in conversation rather than understanding the structure.

【事前・事後学習】

Students should be prepared to take notes in class - not only from the whiteboard but also and hints and corrections made to them directly. They should write down any new words that they have asked the teacher or to check at home with their dictionary. They should prepare for lessons in advance by reading over the text, checking vocabulary and underlining anything that they don't understand so that they can check with me immediately. Reviewing after class is equally important as is recycling newly learned words and phrases into future lessons. Using what you learn as often as possible is the very best way to remember it.

【課題に対するフィードバックの方法】

The beginning of each lesson will include a ten minute 'review and check' time devoted to revising the main points and vocabulary of the previous lesson and previewing key words and structures from the upcoming one. During this time students will have a chance to ask about anything they are unsure of and demonstrate recall of previous learning.

【成績評価基準】

Students need to show personal motivation to participate and improve their abilities. Very regular attendance and being active in class will result in a marked improvement in both speaking and listening skills both of which will be necessary to pass the course. Students must complete all activities and assignments diligently and take responsibility for their own personal improvement.

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
10	0	30	0	60 (Behaviour in class and participation)

【テキスト】

・担当者から指示する

【参考図書】

・特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1321	中国語総合 I	1・2年	前期	1	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

中国語を初めて学ぶ人が対象です。中国語の発音・文法・単語を総合的に学びます。

中国語の文法は比較的やさしく、単語も日本語と似ているものが多いので、入門しやすい外国語です。この授業では、日本の大学を舞台とした教科書の会話を通じて、基本的な表現を学びます。中国語オーラルコミュニケーションIと同時に履修すると学習効果が高まります。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス:	ガイダンスと中国語の概略の説明
第2回	A:声調	声調の練習
第3回	B:何年生ですか?	母音の練習
第4回	C:先生こんにちは	まぎらわしい発音の練習
第5回	D:お名前は?	名前の聞き方、答え方
第6回	筆記テストと復習	これまでの復習と、筆記テスト(数字)
第7回	第1課 昼食会(1)	指示代名詞、形容詞述語文などの文法の説明
第8回	第2課 昼食会(2)	いろいろな疑問文の文法
第9回	第3課 昼食会(3)	親族名称のいいかた、年齢のききかたの文法
第10回	筆記テストと復習	第1課から第3課までの本文の筆記テストと復習
第11回	第4課 中華街に行く(1)	助動詞の使いかた
第12回	第5課 中華街に行く(2)	月のいいかたと時刻のいいかた
第13回	第6課 中華街に行く(3)	100以上の数のいいかた
第14回	復習	総復習
第15回	筆記テストとまとめ	筆記テストとまとめ

【授業の到達目標】

中国語の基本的を習得することです。

【事前・事後学習】

1日10分でいいので、教科書付属のCDをよく聞いて中国語の発音に慣れてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

練習問題の解答は毎回全員で答え合わせをしながら板書して解説します。

【成績評価基準】

入門レベルの中国語を理解できることです。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	30		

【テキスト】

・『ともだち・朋友1』董燕・遠藤光暁著、朝日出版社

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1322	中国語総合Ⅱ	1・2年	後期	1	選択必修	竹越美奈子

【授業の目的と概要】

中国語を半年程度学んだ人が対象です。初級レベルの中国語の文法・単語・発音について総合的に学びます。

中国語の文法は比較的やさしく、単語も日本語と似ているものが多いので、学びやすい外国語です。この授業では、日本の大学を舞台とした教科書の会話を通じて、基本的な表現の応用を学びます。中国語オーラルコミュニケーションⅡと同時に履修すると学習効果が高まります。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	ガイダンスと中国語の基本のおさらい
第2回	第7課 合宿(1)	動詞と前置詞の文法と練習
第3回	第8課 合宿(2)	二重目的語の文法と練習
第4回	第9課 合宿(3)	禁止の文法と練習
第5回	第10課 合宿(4)	比較の文法と練習
第6回	第11課 卓球大会(1)	完了の文法と練習
第7回	第12課 卓球大会(2)	変化の文法と練習
第8回	第13課 卓球大会(3)	過去の文法と練習
第9回	筆記テストと復習	文法項目のまとめとテスト
第10回	第14課 先生の家を訪ねる(1)	結果補語の文法と練習
第11回	第15課 先生の家を訪ねる(2)	持続の文法と練習
第12回	第16課 京劇を見に行く(1)	一致と類似の文法と練習
第13回	第17課 京劇を見に行く(2)	方向補語の文法と練習
第14回	第18課 京劇を見に行く(3)	可能補語の文法と練習
第15回	筆記テストと復習	筆記テストとまとめ

【授業の到達目標】

やさしい中国語の文法項目を理解し、中国語で簡単な会話ができるようになることです。

【事前・事後学習】

1日10分でいいので教科書付属のCDをよく聞いて、中国語の発音に慣れてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

練習問題の解答は毎回全員で答え合わせをしながら板書して解説します。

【成績評価基準】

初級レベルの中国語を理解し、簡単な会話ができるかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	30		

【テキスト】

・『ともだち・朋友1』董燕・遠藤光暁著、朝日出版社

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1323	中国語オールラウンドコミュニケーションⅠ	1・2年	前期	1	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

初めて中国語を学ぶ人が対象です。授業では、まず中国語の基本である発音をしっかりと学び、その後は北京を舞台にした映像を見ながら、タクシーでの行き先の告げ方や自己紹介の仕方、チェックインの時の会話や買い物の表現など、中国に行ったとき実際に役に立つ会話を練習します。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形で使えるものです。このような実用性のほかに、ビデオを通じて美しい北京の風景や文化に親しむ機会を増やします。以上の内容を演習形式で行います。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	授業の運営方針の説明
第2回	第1課 タクシーに乗る	中国語の基本語順
第3回	第2課 自己紹介	疑問文
第4回	第3課 チェックイン	名前の言い方
第5回	第4課 数字	選択疑問文
第6回	第5課 またあとで	指示代詞
第7回	復習	文の基本構造
第8回	まとめと確認テスト(1)	疑問文のまとめ
第9回	第6課 プレゼント	助動詞(1)
第10回	第7課 お茶をどうぞ	量詞
第11回	第8課 学生食堂	前置詞
第12回	第9課 何年生ですか?	数詞述語文
第13回	第10課 ほめすぎです	助動詞(2)
第14回	復習	練習問題(1)
第15回	まとめと確認テスト(2)	練習問題(2)

【授業の到達目標】

個人旅行で中国に行って用事が足せること、中国人と友達になっているいろいろなことをおしゃべりできるようになることです。それとともに、本格的に中国語をマスターしたいと志す人のために、確実な語学力の基礎をつくることもねらいとしています。

【事前・事後学習】

1日10分でいいので、教科書付属のCDを繰り返し聞いて中国語の発音に慣れましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回発音小テストを行い、その場で評価および上達のためのアドバイスをします。

【成績評価基準】

- (1) 中国語の基本的な文法項目が理解できているか
- (2) 中国語で簡単な会話ができるかどうか
- (3) 中国語の正しい発音が身についているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%		30%	発音テスト30%	

【テキスト】

・『理香と王麗 スリム版』朝日出版社

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1324	中国語オールラウンドコミュニケーションⅡ	1・2年	後期	1	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

中国語を半年程度勉強した人が対象です。

授業では、入門レベルの復習をします。

その後は北京を舞台にした映像を見ながら、買い物や表現、時間や曜日の言い方など、中国に行ったとき実際に役に立つ会話を学びます。授業の主役はみなさん一人一人です。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形ですぐに使えます。

このような実用性ととも、映像を通じて北京の美しい風景や文化に親しむこともこの授業の目的のひとつです。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	授業の運営方針の説明
第2回	第11課 チャイナドレスを買う	曜日の言い方
第3回	第12課 バスに乗る)	助動詞
第4回	第13課 買い物	比較の言い方
第5回	第14課 いくらですか	年月日の言い方
第6回	第15課 カードで払う	動量詞
第7回	復習	助動詞のまとめ
第8回	筆記テストとまとめ(1)	文法のまとめ
第9回	第16課 雑技	連動文
第10回	第17課 今なんじですか?	進行
第11回	第18課 プログラム	可能
第12回	第19課 写真をとる	経験
第13回	復習	復習
第14回	筆記テストとまとめ(2)	筆記テストとまとめ(2)
第15回	応用練習	中級への道(今後の中国語学習へのアドバイス)

【授業の到達目標】

個人旅行で中国へ行って、いろいろな用事を足せるようになることと、中国人と友達になっておしゃべりできるようになることです。それとともに、中級の中国語へ進めるように、基礎的な文法事項が身に着くようにします。

【事前・事後学習】

1日10分でいいので、教科書付属のCDを繰り返し聞いて発音の練習をしてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

- (1) 初級レベルの中国語の文法項目を身につけている
- (2) 初級レベルの中国語を聞いて理解できる
- (3) 初級レベルの中国語の会話ができる

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%		30%	発音小テスト30%	

【テキスト】

・『理香と王麗スリム版』朝日出版社

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1327	韓国語総合Ⅰ	1・2年	前期	1	選択必修	金由那

【授業の目的と概要】

この授業は講義および実習形式で行われる。韓国語を初めて学ぶ人を対象とする。韓国語の基本構文の全般的な習得を目指す。具体的にははじめに文字を一通り学んだうえで、挨拶の表現、動詞の活用の練習などをする。読み書きを中心にそれらの適切な使用方法を学んでいくことを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学び、学んだ韓国語の知識を実際の言語運用に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ハングルの構成、母音①基本母音6個	ハングルの基本子音
第2回	母音②派生母音4個	母音24個を学習するとハングルの読み書きができる
第3回	子音①子音字母7個(ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅁ, ㅂ, ㅅ)	ハングルの基本子音、母音24個を学習するとハングルの読み書きができる。
第4回	子音②子音字母7個(ㅇ, ㅃ, ㅅ, ㅆ, ㅈ, ㅊ, ㅋ)	ハングルの基本子音、母音24個を学習するとハングルの読み書きができる。
第5回	子音③子音字母の練習 平音・激音・濃音	平音・激音・濃音の発音の区別などが出来る。
第6回	複合中声	複合中声の11個を練習する。
第7回	終声(パッチム): 鳴音、阻害音 終声(パッチム)	終声(パッチム) ①鳴音、阻害音 終声(パッチム)
第8回	韓国文化授業(韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する)	韓国文化授業(韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する)
第9回	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表連音化	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表を理解できる 連音化を理解する。
第10回	挨拶表現(感謝、お礼、お詫び等)	挨拶表現(感謝、お礼、お詫び等)を学習する。
第11回	国、どこの国の人、職業の表現	国の名前、人、名前を質問して返事できる。
第12回	自己紹介	自己紹介を言える、書ける
第13回	固有数詞	固有数詞(一つ、二つ・・・)を数えることができる。
第14回	家族の呼び方	家族の呼び方と人数を言える。
第15回	前期のまとめ	前期の学習の確認

【授業の到達目標】

韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック・話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前・事後学習】

事前学習: 授業中に配付した資料を必ず自宅学習してくる。その知識を元に授業は積極的に取り組んで、声を出して、ハングルを発音しましょう。

事後学習: 自分で足りなかったと思うところを再度、確認してください。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは授業中に適宜行う。提出されたレポートは、添削、採点の上で返却します。

各課の資料は課題とする。それについてフィードバックは単語などの小テストがある。

【成績評価基準】

授業に積極的に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験 40%		授業への参加度 40%		小テスト20%

【テキスト】

・康承恵「楽しく学ぶ韓国語」DARAKWON

【参考図書】

・必要に応じて授業中に紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1328	韓国語総合Ⅱ	1・2年	後期	1	選択必修	金由那

【授業の目的と概要】

基礎的文法知識を完成させる。ごく平明な文章が読み、簡単な手紙が書け、簡単な会話ができるなど基本的運用能力を養成することを内容とする。特に、聞き取りの力を養うようにする。また、様々な角度から、韓国・朝鮮の風俗・習慣・文化に対する理解が深められるようにする。韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学ぶ。学んだ韓国語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	位置を説明する(上、下、中・・・)	場所と位置を表現できる。～の上に～があります
第2回	存在(～に～があります。ありません)	場所と位置の否定表現を表す。～に～はありません
第3回	過去形(ハムニダ体)	過去形の作り型の練習
第4回	へヨ体(丁寧形)	非格式の丁寧形。～아요, 어요, 해요
第5回	へヨ体(過去形)	非格式の丁寧形の過去。～았어요, 었어요, 했어요
第6回	曜日表現	曜日の表現を覚える
第7回	名詞の過去形(だった、でした)	名所の過去形を学ぶ
第8回	日記を書く	過去形を使って日記を書く練習をする
第9回	韓国文化授業	韓国関連の視聴覚を見ながら文化の紹介
第10回	値段の表現	数字の練習
第11回	買い物の表現	漢数字を使って、誕生日を言える
第12回	食堂での注文する	固有数字を使って、時計と年齢を言える
第13回	命令形	命令形～してください
第14回	お願い表現	お願い表現～していただける
第15回	希望の肯定表現	希望の表現～したいです

【授業の到達目標】

前期の学習を基にして、韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック・話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前・事後学習】

事前学習: 授業中に配付した資料を必ず自宅で学習してくる。その知識を元に授業は積極的に取り組んで、声を出して、ハングルを発音しましょう。

事後学習: 自分で足りなかったと思うところを再度学習してください。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは授業中に適宜行う。提出されたレポートは、添削、採点の上で返却します。各課の資料は課題とする。それについてフィードバックは単語などの小テストがある。

【成績評価基準】

授業に積極的に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現をすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記評価40%		授業参加度40%		小テスト20%

【テキスト】

・「楽しく学ぶ韓国語」 DARA KWON

【参考図書】

・聴いて学ぶ韓国語会話
・必要に応じて授業中に紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1329	韓国語オールラウンドコミュニケーションⅠ	1・2年	前期	1	選択必修	金三淑

【授業の目的と概要】

韓国語の自然な発音の練習や実際の場面を想定した言語活動を積極的に導入し、韓国語の実践的オールラウンドコミュニケーション能力を習得することを目標とします。韓国語の文字と基礎文法を学び、また、韓国映画などの文化に触れながら理解を深めていきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	授業の全体的な説明、自己紹介
第2回	基本母音	基本母音、基本的な挨拶1
第3回	基本子音1	基本子音、基本的な挨拶2
第4回	基本子音2	基本子音 激音と濃音
第5回	合成母音	合成母音、ミニ会話1
第6回	確認テスト1	確認テスト1、ミニ会話2
第7回	終声字	終声字、ミニ会話3
第8回	発音ルール1	発音ルール1、ミニ会話4
第9回	発音ルール2	発音ルール2
第10回	確認テスト2	確認テスト2、文化体験 映画鑑賞1
第11回	文化体験	映画鑑賞2
第12回	第1課	私は日本人です。〈～は～です。〉表現練習、自己紹介表現1
第13回	第2課	学生ではありません。〈～が～ではありません。〉、自己紹介表現2
第14回	第3課	コーヒーを飲みません。〈～を〉、自己紹介表現3
第15回	まとめ	まとめと確認テスト3

【授業の到達目標】

韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を見につけることができます。お互い自己紹介ができるようになります。ただし、学生のレベルに合わせて調節します。

【事前・事後学習】

各回1時間の予習・復習をします。

K-POP、ドラマなど韓国の文化に触れ合うことをお勧めします。

興味を持って学習を進めることが大事だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

確認テストと課題はできる限り翌週フィードバックし、全体で共有する時間を設けます。

【成績評価基準】

課題・テスト・授業への参加・貢献度を合わせて考え、総合的に評価します。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	20	30	20	

【テキスト】

・黄聖媛・黄晷媛、『話せる！初級韓国語』、朝日出版社

【参考図書】

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
LA1330	韓国語オーラルコミュニケーションⅡ	1・2年	後期	1	選択必修	金 三 淑

【授業の目的と概要】

「韓国語オーラルコミュニケーションⅠ」レベルの内容を習得済みの人を対象とします。文法・聴解・会話を高めると共に実際に使える韓国語に慣れることを目標とします。授業はテキストを中心に進めますが、ペアワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めていきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	授業の全体的な説明、復習
第2回	確認テスト1	自己紹介
第3回	第4課	これはいくらですか。漢字語数字
第4回	第5課	朝10時からテストがあります。固有語数字
第5回	第6課	語幹1
第6回	第7課	語幹2
第7回	確認テスト2	確認テスト2、文化体験 映画鑑賞1
第8回	文化体験	映画鑑賞2
第9回	第8課1	連体形1
第10回	第8課2	連体形2
第11回	自由作文	連体形の練習
第12回	第9課	語幹3
第13回	第10課	変格活用用言
第14回	日常会話	動詞・形容詞の活用練習
第15回	確認テスト3	まとめと確認テスト3

【授業の到達目標】

韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を見につけることができます。自己紹介、さらに簡単な日常会話ができるようになります。ただし、学生のレベルに合わせて調節します。

【事前・事後学習】

各回1時間の予習・復習をします。

K-POP、ドラマなど韓国の文化に触れ合うことをお勧めします。

興味を持って学習を進めることが大事だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

確認テストと課題はできる限り翌週フィードバックし、全体で共有する時間を設けます。

【成績評価基準】

課題・テスト・授業への参加・貢献度を合わせて考え、総合的に評価します。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	20	30	20	

【テキスト】

・黄聖媛・黄晷媛、『話せる！初級韓国語』、朝日出版社

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1331	日本語表現 I	1年	前期	2	選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

この授業は、受講生の能動的な協働活動に依り行います。大学での学修に必要なコミュニケーション能力（伝える力・受けとめる力）とライティング能力（客観的な文章を書く力）を身につけるため、実践的な日本語の表現活動を課題（タスク）ベースで進めていきます。タスクは受講生同士の対話、つまりピア活動を通して行います。正確な文や表現を書くため、毎回の授業で同音異字・慣用句など基本的な漢字・語彙を確認します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・出席・課題・評価等について説明する
第2回	授業の目的を理解する	この授業で学ぶことを理解する
第3回	漢字・語彙の確認、自分を伝える（1）	話したいことを整理する
第4回	漢字・語彙の小テスト、自分を伝える（2）	話したいことを相手に伝える
第5回	漢字・語彙の確認、情報を理解する（1）	必要な情報を整理する
第6回	漢字・語彙の小テスト、情報を理解する（2）	マップを書く
第7回	漢字・語彙の確認、スピーチの準備をする（1）	整理した情報を使って伝える（1）
第8回	漢字・語彙の小テスト、スピーチの準備をする（2）	整理した情報を使って伝える（2）
第9回	漢字・語彙の確認、スピーチをする（1）	スピーチを通じて、互いをリソースとして認識する（1）
第10回	漢字・語彙の小テスト、スピーチをする（2）	スピーチを通じて、互いをリソースとして認識する（2）
第11回	漢字・語彙の確認、計画書を書く（1）	計画書を書く
第12回	漢字・語彙の小テスト、計画書を書く（2）	計画書を互いに読みあう
第13回	漢字・語彙の確認、情報を探す（1）	情報の探し方を知る（1）
第14回	漢字・語彙の小テスト、情報を探す（2）	情報の探し方を知る（2）
第15回	まとめ	学んだことを振り返る

【授業の到達目標】

課題達成に向けて、協力して取り組み、互いに貢献できる。
日本語のバリエーションを理解して、適切に運用できる。

【事前・事後学習】

テキスト『日本語検定 必勝単語帳 入門編』の課題を毎日30分程度行うこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、翌週の授業で紹介し、全体で共有する。
小テストの結果は、翌週の授業で解説を行う。

【成績評価基準】

課題達成に向けて、協力して取り組み、互いに貢献できたか。
日本語のバリエーションを理解して、適切に運用できるようになったか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30%	0	課題40%、小テスト30% (5×6回)

【テキスト】

- ・大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂・池田玲子（2012）『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房
- ・東京書籍研修部（2008）『日本語検定 必勝単語帳 入門編』東京書籍

【参考図書】

- ・適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1332	日本語表現Ⅱ	1年	後期	2	選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

この授業は、受講生の能動的な協働活動に依り行います。大学での学修に必要なコミュニケーション能力（伝える力・受けとめる力）とライティング能力（客観的な文章を書く力）を身につけるため、実践的な日本語の表現活動を課題（タスク）ベースで進めていきます。タスクは受講生同士の対話、つまりピア活動を通して行います。「日本語表現Ⅰ」に引き続き、本を紹介し、批判的に分析するグループワークを行います。正確な文や表現を書くため、毎回の授業で基本的な漢字・語彙の確認作業も続行します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・出席・課題・評価等について説明する。
第2回	漢字・語彙の確認、情報を読んで伝える（1）	読み取った情報を伝える（1）
第3回	漢字・語彙の小テスト、情報を読んで伝える（2）	読み取った情報を伝える（2）
第4回	漢字・語彙の確認、アウトラインを書く（1）	複数の本を比較して、テーマに関する理解を深める（1）
第5回	漢字・語彙の小テスト、アウトラインを書く（2）	複数の本を比較して、テーマに関する理解を深める（2）
第6回	漢字・語彙の確認、ポスター発表を準備する（1）	ポスターのレイアウトを考える
第7回	漢字・語彙の小テスト、ポスター発表を準備する（2）	ポスターの効果的な発表を考える
第8回	漢字・語彙の確認、ポスター発表する（1）	ポスター発表する、発表者へ質問・コメントをする（1）
第9回	漢字・語彙の小テスト、ポスター発表する（2）	ポスター発表する、発表者へ質問・コメントをする（2）
第10回	漢字・語彙の確認、ブック・レポートを書く（1）	読んだ本の情報を正しい形式で引用する（1）
第11回	漢字・語彙の小テスト、ブック・レポートを書く（2）	読んだ本の情報を正しい形式で引用する（2）
第12回	漢字・語彙の確認、内容を検討する（1）	読み手と協力して相手に伝わるレポートにする（1）
第13回	漢字・語彙の小テスト、内容を検討する（2）	読み手と協力して相手に伝わるレポートにする（2）
第14回	表現・形式を点検する	レポートの表現・形式のポイントを知る
第15回	まとめ	学んだことを振り返り、今後活かす

【授業の到達目標】

課題達成に向けて、協力して取り組み、互いに貢献できる。
日本語のバリエーションを理解して、適切に運用できる。

【事前・事後学習】

テキスト『日本語検定 必勝単語帳 入門編』の課題を毎日30分程度行うこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、翌週の授業で紹介し、全体で共有する。
小テストの結果は、翌週の授業で解説を行う。

【成績評価基準】

課題達成に向けて、協力して取り組み、互いに貢献できたか。
日本語のバリエーションを理解して、適切に運用できるようになったか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30%	0	課題40%、小テスト30% (5×6回)

【テキスト】

・大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂・池田玲子（2012）『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房

・東京書籍研修部（2008）『日本語検定 必勝単語帳 入門編』東京書籍

【参考図書】

・適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1336	入門コンピュータ	1年	前期	2	2018年度入学生:選択 2017年度以前入学生:必修	高木 靖彦 杉谷 正次 成田 良一 正岡 元 中島 俊明

【授業の目的と概要】

現代社会では、コンピュータを使った情報の読書きが必須の技能として求められる。大学においても同様で、学習に必須の技能である。入学後最初の半年間で、これら大学の学習に必要なコンピュータを使った情報の読書き術（コンピュータリテラシー）を習得するのが、この科目の目的である。大学での学習を円滑に進めるために、この科目の内容を十分に理解しておく必要がある。ただし、コンピュータの取り扱い講習会やHOW-TO講座ではない。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	起動と終了、Windows入門	電源の入れ方、ログオンの仕方、マウスの操作、アプリケーションソフトウェアの起動、ウィンドウの操作、電源の切り方を学習し、学修情報ポータル（TOPOS）を使ってみる。
第2回	キーボードの使い方、タイピング練習	実際に文字を入力してみることで、キーボードの使い方を学習する。タイピングの練習をする。
第3回	英文入力	タイピング練習の後、英文文書を入力し、それをファイルへ保存する。その後さらに、保存したファイルを開く。
第4回	日本語入力	タイピング練習の後、前回入力した英文を印刷する。半角文字と全角文字の違いを理解した上で、日本語入力を学習する。
第5回	クラウドストレージの利用と動画編集	クラウドストレージの仕組みを学習し、自分のスマートフォンから動画をストレージに保存する。そして、その動画を教室コンピュータに転送し、さらに動画の編集を行う。
第6回	文書作成の基礎（1）ワープロでの入力	前回まで使っていたテキストエディタとは異なり、ワープロ・ソフトウェアを使って日本語文書を入力する。
第7回	文書作成の基礎（2）文字や段落の設定	前回ワープロで入力した文章の段落書式の指定、フォント・サイズの指定、ページ設定を行い印刷する。その後、レポート用ひな形を使ってレポートを作成する。その作成したレポートの文字列の検索と置換を行う。
第8回	電子メールの基礎（1）簡単な送受信	考えてきたパスワードに変更する。インターネットとドメイン名、電子メールアドレスを理解し、メールを自分自身と隣の人に出してみる。また、隣の人に返事を出す。アドレスを間違った場合を経験する。メールでレポートを送る。
第9回	電子メールの基礎（2）メーリングリスト・添付書類	少し進んだメールの使う方として、メーリングリストを使う。メールの整理を行う。添付書類を送る。添付書類を受取る。
第10回	すこし高度な文書作成（1）箇条書きの作成	少し高度なワープロの使い方として、改ページ、ページ番号付け、インデントの設定、文字数のカウントを行う。
第11回	すこし高度な文書作成（2）表の作成	少し高度なワープロの使い方として、タブを用いた表を作る。次いで、罫線を用いた表を作る。
第12回	すこし高度な文書作成（3）プレゼンテーション資料の作成	ワープロソフトウェアで画像を入れたプレゼンテーション資料を作成する。それをPDFへの変換し、PDFを用いたプレゼンテーション方法を学習する。
第13回	WWWによる情報検索	インターネットを通じた情報検索、WWWの仕組みとハイパーテキストを学習し、実際にWWWブラウザを用いて、リンクを辿った検索、URLを指定した検索、ページや文書の保存、画像を保存を実習する。また、検索エンジンを使った検索を行う。
第14回	表計算の基礎	表計算ソフトウェアの基本を理解し、各セルに必要なデータを入力し、それらを用いてグラフを作成する。
第15回	ファイルの整理とまとめ	ファイルの削除方法、ファイル名の変更方法を学習し、ファイル整理の実習をする。また、実際に自分がこの科目で作成したファイルを整理する。

【授業の到達目標】

操作の目的・意味を理解して、コンピュータを使った情報の読み書き・情報の表現・情報の加工（特にワープロによる文書作成、メールの送受信）ができる。

必要な操作手順は、自分で調べられる。

【事前・事後学習】

講義前に教科書の該当する部分を読んで、その回の内容を確かめておく。特に提出すべき課題を確認しておく。講義後には、その回に提出した課題が教科書で指示された書式（フォント、行ぞろえ等）や条件を満たしているか見直す。見直して誤りが見つかった場合は、訂正をして次の週の開始時間までに提出する。また、なんらかの事由により講義時間内に完成した物を提出できなかった課題は次の週の開始時間までに必ず完成して提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は、原則として、数週間以内に採点・講評を行ったうえで返却する。それを確認して、必要ならば再提出をすること。

【成績評価基準】

ワープロ文書などの作成をフォント・行揃えなど指示された形式・条件を満たした形で行ない、かつ、メール添付など指定された方法で提出することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
7	0	0	0	93（各回の提出課題）

【テキスト】

・高木靖彦・正岡元・成田良一、『コンピュータリテラシー（2018年度版）』

【参考図書】

・特になし

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
LA1337	基 礎 コ ン ピ ュ ー タ	1年	後期	2	選択	正岡 元

【授業の目的と概要】

「入門コンピュータ」の履修を前提に、現代社会での必須の技能となっているコンピュータを使った情報の読書きの術を習得していくことがこの科目の目的である。特に、図形の描画、表計算ソフトウェアを用いた数値整理・グラフ作成、プレゼンテーションソフトウェアを用いた資料作成の基礎を学習し、それをマスターすることが目標である。これらの技能は、後の大学での学習を円滑に進めるためにも必要である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	タイピングと日本語入力(1)	電源の入れ方・切り方を復習した後、この科目用フォルダを作成する。その後、タイピング練習をし、ワープロで日本語を作成・印刷する
第2回	タイピングと日本語入力(2)	タイピング練習の後、ワープロでの日本語を続ける。作成したワープロ文書はメールで提出する。
第3回	表計算の基礎(1)	セルへの入力、数式・関数の入力、セルの移動・複写、オートフィル、セル表示の変更、ワークシートの印刷、列の幅・行の高さ
第4回	表計算の基礎(2)	統計計算、セルの結合、絶対参照を用いた計算
第5回	図の作成(ペイント)	グラフィックスの2種類の形式を学習し、そのうちのペイント図形を描く。その後、描いた図形をワープロ文書へ読み込む
第6回	図の作成(ドロー)	コンピュータグラフィックスのもう一つの形式であるドロー図形を作成する
第7回	プレゼンテーションソフトウェアを使う(1)	動画を挿入したプレゼンテーションファイルを作り、そのスライドショーを実行実行する。さらに、スライドに工夫を加える
第8回	プレゼンテーションソフトウェアを使う(2)	クラウドストレージを介してスマートフォン等で撮影した動画を転送する。その動画の編集を行い、動画を入れたプレゼンテーション資料を作る
第9回	グラフの作成(1)	折れ線グラフ2つの作成を実習する。その中で、グラフタイトルおよび軸ラベルの作成、第2軸の作成、行と列の入れ替え等を学習する。
第10回	グラフの作成(2)	折れ線以外のグラフ形式として、棒グラフおよび円グラフの作成を実習する。
第11回	データ分析の基礎(1)	スポーツデータ、健康・体力データを使って、初歩的なデータ分析の学習を行う。
第12回	データ分析の基礎(2)	スポーツデータ、健康・体力データを使って、初歩的なデータ分析の学習を行う。
第13回	データ分析結果を入れた文書の作成	データ分析により得られた各種数値、および、それらの数値を用いて作成されたグラフを入れた文書をワープロで作成する。
第14回	データ分析結果を入れたプレゼン資料の作成	データ分析により得られた各種数値、および、それらの数値を用いて作成されたグラフを入れた資料をプレゼンテーションソフトウェアで作成する。
第15回	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表とまとめ	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表を行い、スライドショーの実行方法を習得する。今まで作成したファイルを提出する。

【授業の到達目標】

操作の目的・意味を理解して、コンピュータを使った情報の読み書き・情報の表現・情報の加工（特に、図形描画、表計算）ができる。必要な操作手順は、自分で調べられる。

【事前・事後学習】

講義前に教科書の該当する部分を読んで、その回の内容を確かめておく。特に提出すべき課題を確認しておく。講義後には、その回に提出した課題が教科書で指示された書式（フォント、行ぞろえ等）や条件を満たしているか見直す。見直して誤りが見つかった場合は、訂正をして次の週の開始時間までに提出する。また、なんらかの事由により講義時間内に完成した物を提出できなかった課題は次の週の開始時間までに必ず完成して提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は、原則として数週間以内に採点・講評を行ったうえで返却する。それを確認して、必要ならば再提出をすること。

【成績評価基準】

ワープロ文章の作成、図形の作成、スプレッドシートの作成、グラフの作成、プレゼンテーションファイルの作成を、フォント・行揃えなど指示された形式・条件を満たして行ない提出することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（各回の提出課題）

【テキスト】

・高木靖彦・正岡元・成田良一、『コンピュータリテラシー（2018年度版）』

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1339	コンピュータ概論	1・2年	後期	2	選択	正岡元

【授業の目的と概要】

この講義では情報科学を専門としない学生に対して、日常生活や業務で接する（パソコン以外の）コンピュータとどのように向き合っていくのかを学修する。

講義ではまずコンピュータの基本を扱い、コンピュータがどのような機械であるのかという基本的概念の形成を目指す。情報の概念やデジタルとアナログの違いなど、コンピュータが世の中を理解する仕組みと動作原理を解説する。さらに、すでにインフラとも言えるほど生活に密接に関わるインターネットをはじめとする情報通信技術について解説する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	身の回りのコンピュータ	コンピュータとはなにか、パソコン以外のコンピュータも含めて具体的な例を用いて解説する
第2回	コンピュータの歴史（ものを数える道具から計算機へ）	人類がものを数え始めてから、計算する道具が発展していく歴史を追う
第3回	コンピュータの歴史（計算機からコンピュータへ）	数を計算する計算機がどのように「コンピュータ」へと進化してきたか追う
第4回	情報理論	計算を高速にできるだけの電子計算機を、様々なことができるコンピュータへ進化させた情報理論について述べる
第5回	ブール代数	ビットで表現した情報を「計算機」で扱うための数学分野「ブール代数」について述べる
第6回	論理学入門	ブール代数が扱う論理学の基礎を学び、コンピュータの考え方に触れる
第7回	コンピュータはどのように動くのか（論理回路入門）	簡単な論理回路を読み解き、コンピュータが計算をする仕組みに触れる
第8回	プログラムはどのように動くのか（アルゴリズムとデータ構造）	プログラムの中でも重要な位置を占めるアルゴリズムとデータ構造について述べる
第9回	コンピュータの裏方（オペレーティングシステム）	アプリケーションソフトウェアに対して様々な機能を提供するオペレーティングシステムの概要について述べる
第10回	情報通信ネットワークの歴史（情報と通信のはじまり）	人類の起源から順に、古代の情報ネットワークの発生をたどる
第11回	情報通信ネットワークの歴史（コンピュータネットワーク）	コンピュータ同士を接続するネットワークの概念について述べる
第12回	インターネットのしくみ	現在世界最大規模のコンピュータネットワークであるインターネットの概念について述べる
第13回	電腦社会の落とし穴	インターネットが一般に普及するにしたがって増えてきた様々な脅威について述べる
第14回	ネットワークリテラシー	コンピュータネットワークをどのように利用していけばよいか考える
第15回	身近な最新技術	情報通信技術に関連する様々な最新技術を紹介する

【授業の到達目標】

コンピュータやインターネットの基本的な仕組みを理解し、コンピュータを構成する要素や通信の仕組みについて説明することができる。また、コンピュータやインターネットの問題点についても理解し、どのような脅威があるのか、どうすれば安全に使えるか意見を述べられる。

【事前・事後学習】

講義の中で随時理解度確認のための小テストを行う。

その内容について事後学習を行い、理解を深めておくこと。

また、次回の講義のテーマについて教科書および事前配布資料を読み、内容の理解と、疑問点の整理を行っておくこと。疑問点について、次回の講義の中で質問を受け付ける。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストのうち明快な答えのある問題については、次回の講義内で模範解答を示し、解説を行う。

それ以外の問題については、匿名化して集計した後に、統計資料として示すことがある。

【成績評価基準】

計算機科学における理論体系を理解し、その概要を説明できるか。

簡単な論理回路やブール代数の計算ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	0	0	40%(講義中に課す課題)

【テキスト】

・坂村健, 痛快! コンピュータ学, 集英社文庫

【参考図書】

・大駒誠一, コンピュータ開発史—歴史の誤りをただす「最初の計算機」をたずねる旅, 共立出版

・トム・スタンダーズ, ヴィクトリア朝時代のインターネット, NTT出版

・秋田 純一, ゼロから学ぶデジタル論理回路, 講談社

・長岡亮介, 総合的研究 論理学で学ぶ数学, 旺文社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2201	歴史学	2・3年	前期 後期	2	選択	増田 孝

【授業の目的と概要】

原始時代から近世までの日本の歴史を、政治・経済・文化の流れを中心に学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	原始・古代の日本（日本のあけぼの）と大和王権の成立。	人類の誕生。旧石器文化・新石器文化、縄文文化・弥生文化の違いを知る。
第2回	古代国家の成立と律令国家の変質。奈良時代の文化。	小国の時代から古墳時代へ。飛鳥文化と大化の改新。天平文化とはどのようなものか。
第3回	弘仁・貞観文化。平安貴族政治と平安時代の文化。	弘仁貞観文化をつうじて、平安時代初期の文化の特色は何かを考える。藤原氏による平安貴族時代はいかにして形成されたかを考える。
第4回	武家社会の形成。院政期から鎌倉期へ。	院政期と武家の抬頭、関東武士団の活躍をとらえる。文化の変質の過程を捉える。
第5回	武家社会の転換。蒙古襲来。室町幕府と北山文化。	鎌倉期を通じて武家政権はどのように変化したかを見る。鎌倉文化とは何か。
第6回	東山文化と応仁の乱。下剋上の時代と戦国大名。	室町時代の文化として、北山文化・東山文化についてその違いなどの理解を深める。
第7回	織豊期と安土桃山時代の文化。	応仁の乱のあとの京都を中心に花開いた織豊文化について織田信長・豊臣秀吉・徳川家康を中心に考える。
第8回	幕藩体制の確立。	近世の枠組みとしての幕藩体制はどのようにして形成されたか。
第9回	鎖国と近世日本の文化。	鎖国は日本の文化形成にどのような影響を持ったか。
第10回	文治政治。	徳川幕府はなぜ長期政権たり得たか。幕府による大名・寺社の統制などを知る。
第11回	近世の町人文化。	江戸時代の文化・学問・芸術などと近代日本とのかかわりを展望する。
第12回	幕藩体制の動揺と様々な改革。	幕府が行った様々な改革と各藩による藩政改革。
第13回	新しい学問。	幕府が行った様々な改革と各藩による藩政改革。
第14回	攘夷から倒幕へ。	化政期の文化と天保の改革。藩内の近代工業の芽生え。江戸時代後期の文化と近代日本との関係。
第15回	近代国家の成立と明治維新。	明治維新はいかにして行われたか。

【授業の到達目標】

古代から近現代まで、各時代をあらわす特徴的な事実を知り、日本の歴史の流れを「文化」をひとつの指標として理解し、論じることができる。今日本が置かれている状況を歴史を通して冷静に見、将来への展望を得る手がかりとしたい。

【事前・事後学習】

テキストにしたがって、毎時、着目点を示すので、各自、歴史用語等を調べるようにする。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは、翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

ある時代の日本の文化の流れの中において捉え、そこに自分なりの指標を設定して説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
毎時間終了時にレポートを提出。	レポートの内容をもって成績評価とする。レポート80%。	授業への参加・貢献度。20%。	0	0

【テキスト】

- 『もういちど読む 山川日本史』 山川出版社 ISBN978-4-634-59064-9
- ・プリントを配布

【参考図書】

- ・日本史年表 岩波書店

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2204	統計学	2・3年	前期	2	選択	岩本 光一郎

【授業の目的と概要】

社会科学はその名の通り、社会そのものを考察の対象とする学問分野である。統計は、その社会の実際の姿を把握するために極めて有用なツールであり、その統計をどう扱うべきかというルール、すなわち統計学を学んでおくことは社会科学を学ぼうとするものにとっては必須の要件と言える。本講義では、主に社会科学の観点から必要と思われる統計学の基本的知識とノウハウを学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	統計学とは何か	社会科学における統計的手法を用いた分析の必要性を学ぶ
第2回	標本データの記述 1	度数分布表の作り方から、データの集約の方法を学ぶ
第3回	標本データの記述 2	ヒストグラムの描き方と意味を学ぶ
第4回	代表値 1	平均という概念について学ぶ
第5回	代表値 2	中央値やモードなど、平均以外のデータの性質を一言で表す指標について学ぶ
第6回	ばらつきとリスク 1	四分位数や分散・標準偏差などについて学ぶ
第7回	ばらつきとリスク 2	標準偏差についての理解を深める
第8回	標本データの記述 3	複数系列のデータの扱い方としてクロス集計表の作り方、読み方を修得する
第9回	相関分析	複数系列のデータ間の関係を示す相関係数の計算方法と、その意味を学ぶ
第10回	確率 1	代表的な確率分布の一つである二項分布について学ぶ
第11回	確率 2	最も重要な確率分布である正規分布の基礎知識について学ぶ
第12回	統計的推測 1	正規分布と統計的推定の関係を概観し、仮説検定の考え方について学ぶ
第13回	統計的推測 2	実際のデータを用いて、区間推定の手法について学ぶ
第14回	統計的推測 3	標本と母集団の関係、そしてサンプリングの概念を学ぶ
第15回	総括	ここまでの学習内容の振り返りを行う

【授業の到達目標】

1. 平均や分散といった統計学の基本概念が身に付く
2. 数量的データの基本的な分析ができるようになる

【事前・事後学習】

事前学習としては参考図書もしくは初級の統計学のテキストを読んでおく程度で十分である。事後学習としては、講義内で扱った例題・練習問題をもう一度、完全に自力で解いてみることを推奨する。また、折に触れて講義内容に則した課題を出すので、自宅で回答し、提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義期間中に4,5回ほど持ち帰り課題が発生するが、その内容については次回講義の冒頭において解説する。

【成績評価基準】

1. 与えられたデータを適切な方法で縮約できているか
2. 「統計的推測」という言葉の意味を正しく理解できているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	20	0	10 (持ち帰り課題)

【テキスト】

・使用しない（講義中に使用したPPTシートはpdf形式で配布する）

【参考図書】

・小島寛之「統計学入門」ダイヤモンド社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2205	政治学	2・3年	後期	2	選択	安武 裕和

【授業の目的と概要】

現代および過去の日本を初めとする民主主義諸国における政治システム（行政府と立法府の権力分立、立法府の内部構造、中央・地方関係、選挙制度、政党システム、etc.）の多様性を学ぶことで、今後の政治体制の「あるべき姿」を考える上での幅広い視座を手に入れると同時に、他の社会科学の分野を学ぶ上でも必要な基礎知識および論理的な思考力を養うことを目標とする。講義形式で行い、レジュメとパワーポイントを併用する。最終的な評価点は平常点と試験点の合算で決定する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	政治とは何か？～社会集団における統一的意思決定～	「政治（国内政治・国際政治）」の定義とこの講義で学ぶ内容の概要
第2回	国家の意思決定構造～民主主義体制と非民主主義体制～	「この講義内における便宜的定義」としての「民主主義」の位置付け
第3回	行政府と立法府の関係～二元代表制と議院内閣制～	二元代表制・議院内閣制・半大統領制・議会統治制という四類型
第4回	立法府の構造～一院制と二院制～	一院制と二院制の相違および二院制内の上院の選出方法と権限配分
第5回	中央と地方の関係～単一国家と連邦制国家～	中央機関と地方機関の権限配分の多様性とその歴史的起源
第6回	国家主権と国際機構の関係～国家連合と超国家機関～	複数の国家間で結成される国家連合や超国家機構とその構成諸国
第7回	選挙方式の基本概念～多数代表制と比例代表制～	主に議会選挙において用いられる選挙方式の基礎概念としての八類型
第8回	選挙方式の複合的運用～複数の制度の複合的運用～	複数の選挙方式を組み合わせで用いる際の選択肢（並立制、併用制など）
第9回	現代における政党の役割～社会と政治を繋ぐ存在～	「政党」という概念の歴史的変遷と現代において期待される役割
第10回	政党の基盤となる社会集団～民族・宗教・地域主義～	各国における民族政党、宗教政党、地域政党などのバリエーション
第11回	政党の基盤となるイデオロギー～左右軸の意義と限界～	政党の基盤となるイデオロギーを区分する基準としての「右派」と「左派」
第12回	戦後日本政党史1～55年体制の成立と動揺～	55年体制の成立から崩壊に至るまでの自民党内外の諸勢力の変遷
第13回	戦後日本政党史2～細川政権以降の政界再編～	細川政権から森政権に至るまでの間の政権交代と政界再編の過程
第14回	戦後日本政党史3～小泉政権以降の諸政党の動向～	小泉政権成立から現代に至るまでの政治的動向の概略
第15回	まとめ～本講義を通じて得られた知見の確認～	ここまでの講義内容が十分に理解出来ているかどうかの確認

【授業の到達目標】

現代民主主義諸国の政治制度および政治慣習についての多様性を学ぶことを通じて、今後の日本の政治システム改革が目指すべき方向性を相対的・客観的に考える上での基礎的な視座を獲得する。

【事前・事後学習】

予習は不要だが、講義は毎回、「過去の講義内容を理解していること」を前提として進めていくので、復習は必須。最低限、講義の前日に5～10分程度かけて講義レジュメを読み返すことは必要。また、内容確認のために、過去のレジュメを毎回持参することを推奨。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

期末試験は講義中に説明した各国の政治システム（権力構造、院間関係、選挙制度、政党配置、etc.）への理解度を基準として採点し（X/100点満点）、それとは別に毎回の講義ごとに提出するコメント用紙の内容（感想、質問、etc.）に応じて5点以内の平常点（Y/75点満点）を与えた上で、最終的には「 $X + (100 - X) \times Y \div 100$ 」で点数を算出する（ただし、試験に欠席した場合は「0点」とする）。なお、期末試験は「一問一答」と「論述」を組み合わせた全5問（各20点）であり、全てのレジュメおよび参考書を持込可とする。また、レポート課題などは一切課さない。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
上記参照	なし	上記参照	なし	なし

【テキスト】

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2207	地域コミュニティ論	2・3年	後期	2	選択	安藤 純子

【授業の目的と概要】

地域社会の歴史的構造及び変容を踏まえ、コミュニティ研究及び政策、ネットワーク研究、コミュニティ活動などの事例研究による持続可能なコミュニティ発展にむけた社会的な考察を通して、コミュニティ活動の必要性を学習していくことを目的とする。また諸外国のコミュニティ研究・ネットワーク研究を参考に、日本のコミュニティ活動の在り方を考察する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	講義概要	授業全体の概要について説明する
第2回	コミュニティとは	コミュニティの概念について考察する
第3回	海外のコミュニティに関する研究1	ヨーロッパにおける古典的なコミュニティ理論について考察する
第4回	海外のコミュニティに関する研究2	アメリカにおけるコミュニティ概念について考察する
第5回	海外のコミュニティに関する研究3	アメリカにおけるコミュニティ研究について考察する
第6回	海外のコミュニティに関する研究4	ヨーロッパのアメリカのコミュニティ概念の違いについて考察する
第7回	日本のコミュニティに関する研究1	日本のコミュニティ概念について考察する
第8回	日本のコミュニティに関する研究2	都市化とコミュニティの課題（環境問題）について考察する
第9回	日本のコミュニティに関する研究3	都市化とコミュニティの課題（過疎問題）について考察する
第10回	日本のコミュニティに関する研究4	「コミュニティモデル」という考え方について考察する
第11回	コミュニティ活動の主体について	コミュニティ活動の主体は誰かについて考察する
第12回	コミュニティ・ネットワーク研究1	「コミュニティ解放論」について考察する
第13回	コミュニティ・ネットワーク研究2	友人ネットワーク研究について考察する
第14回	コミュニティ・ネットワーク研究3	夫婦ネットワーク研究について考察する
第15回	まとめ	これからの地域コミュニティ形成の課題について考察する

【授業の到達目標】

- (1) コミュニティとはどのようなものかを説明することができる
- (2) コミュニティとネットワークとの関係について理解することができる

【事前・事後学習】

新聞・テレビ・ネットなどのメディアを通して、コミュニティ活動に関する情報を見聞しておいてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験について、評価基準を明確にするために解答例を提示する

【成績評価基準】

コミュニティ及びネットワーク研究内容についての理解度を評価基準とする

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	0

【テキスト】

・使用しない

【参考図書】

・特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2209	哲 学	2・3年	後期	2	選択	井上 研

【授業の目的と概要】

哲学とは素朴な疑問を持つことから始まります。他者の心は存在するのだろうか？わたしはなぜわたしでいつづけられるのだろうか？機械は心を持てるのか？講義ではこれらの疑問について古代より現代まで続いている議論について学びます。難解な哲学的問題の理解を促進するために映画を活用します。この講義を通じて、自分でも哲学的に考えられるようになることを目的としています。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	イントロダクション①	些か長めのイントロダクション、パート1。哲学とは何かを考える前にまず、「われわれは考えるのではなく考えさせられる」という言葉について考察する。
第2回	イントロダクション②	些か長めのイントロダクション、パート2。イントロ前半で考察したことを踏まえた上で、「哲学的に考えること」のエッセンス、特徴を解説する。講義全体の展望。
第3回	あなた①ー他我問題	他者の心の存在について考察する。また、他人の気持ちや想いがわかるとはどのようなことなのかについて考察する。
第4回	あなた②ー歯医者には患者の痛みが理解できるか？	他者に心が存在するという信念の根底にある「類推」について批判的に検討する。
第5回	機械①ー考える機械の哀しみ①	コンピュータの歴史について。計算主義の解説をする。『考える機械の哀しみ』という対話劇を通じて「中国語の部屋」などの思考実験を解説する。
第6回	機械②ー考える機械の哀しみ②	引き続き『考える機械の哀しみ』という対話劇を通じて、コンピュータに知能や感情は宿るか、について考察する。「チューリングテスト」について解説する。
第7回	機械③ー考える機械の哀しみ③	映画『エクス・マキナ』などを鑑賞して、「考える機械」について理解を深める。
第8回	わたし①ーわたしがわたしであること	わたしがわたしであるためにもっとも重要なものは何か、という自己の問題について考察する。
第9回	わたし②ー昨日のわたしはわたしなのか？	「人格の同一性（アイデンティティ）」について考察する。映画『セルフ/レス』を鑑賞する。
第10回	わたし③ービューティ・インサイド	映画『ビューティ・インサイド』を鑑賞し、自己の同一性にとって何が重要なのかを考察する。
第11回	わたし④ー複製される自己	「スワンプマン」や「転送機」といった思考実験を通じて、「複製させる自己」と「自己の同一性」について考察する。
第12回	わたし⑤ー世界に一つだけの自己…？	「世界に一つだけの自己」という常識的な信念について、批判的に検討する。
第13回	科学技術と人間①ーコンピュータに政治をまかせたら…？	「AIに政治を任せる」ということについて考察する。
第14回	科学技術と人間②ー遺伝子操作とエンハンスメントの倫理	遺伝子操作とエンハンスメントの倫理について考察する。
第15回	まとめ	これまでの講義のまとめ。レポートの作成指導など。

【授業の到達目標】

1. 日常生活の中に哲学的な問題が潜んでいることを知る。
2. 多様なものの見方、考え方ができる。
3. 他者の意見を聞いた上で、自分の考えを述べることができる。

【事前・事後学習】

教員からの質問について自分なりの答えを考えてみる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは採点の上、返却する。

【成績評価基準】

期末レポートで評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
	100%			

【テキスト】

・使用しない。

【参考図書】

- ・スティーブン・ロー『北極の北には何がある？』ランダムハウス講談社文庫
- ・岡本裕一郎『思考実験：世界と哲学をつなぐ75問』ちくま新書
- ・岡本裕一郎『いま世界の哲学者が考えていること』ダイヤモンド社
- ・ジュリアン・バジーニ『100の思考実験』紀伊國屋書店
- ・トマス・ネーゲル『哲学ってどんなこと？—とっても短い哲学入門』昭和堂

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2212	世界の食文化	2・3年	後期	2	選択	石山 絹子

【授業の目的と概要】

食文化は様々な地域や場面において人の価値観に対応する形で成立してきた。それは食材の選択、生産、加工、献立、食作法にまで及び、多様性を生み、食に関する技術を発展させてきた。しかし、近年における技術の発展や食文化のあり方は人にとって好ましいものばかりとは限らない。食文化の未来の展望やあるべき姿について考えを持つことを目標とし、授業では食文化の変遷とその背景を振り返ることで先人の工夫と努力を見つめ直し、食文化の現代的な問題点を検討する。また、グローバル化をたどる現代のニーズに応えられるよう世界の多彩な食文化学習対象とし、基礎知識を身につける。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	はじめに	「何のために食べるのか」を考え、本講義で学ぶ内容を確認する。
第2回	食の歴史	食に関する歴史を学び、食文化の変遷を知る。
第3回	食と宗教の関わり 食作法・マナー	食の選択に大きく影響を及ぼす宗教・思想・食のタブーについて学ぶ。また、食作法、食器・食具に関する文化、その背景を学ぶ。
第4回	日本の食文化	日本の食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。
第5回	ヨーロッパの食文化	フランスを中心にヨーロッパの食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。イタリア、イギリスの食文化にもふれる。
第6回	アジアの食文化	中国を中心にアジアの食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。
第7回	中東の食文化	世界三大料理と言われるトルコ料理やイスラム教圏を中心に中東の食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。
第8回	アメリカの食文化	アメリカの食文化の成立の背景や特徴を学ぶ。
第9回	嗜好性の追求	味覚のしくみやおいしさとは何かを確認し、嗜好性の追求による食文化や技術の発展について学ぶ。
第10回	食料の保存方法	食料の劣化や保存の原理を確認し、長い歴史の中で成立してきた保存食や現代の科学技術による保存方法について学ぶ。
第11回	発酵食品	世界各地にみられる発酵食品についてその成立の背景や発酵のしくみについて学ぶ。
第12回	健康志向	飽食の時代を迎えた国々で起こる食の健康志向について、その背景や食が健康に及ぼす影響を学ぶ。
第13回	食の合理化、簡便性の追求と安全性の見直し	食産業や科学の発達により得られた便利さの裏で脅かされる食の安全性について学ぶ。
第14回	これからの食文化を考える	現代の食文化に起きている様々な変化とそれにより失われるものを学び、今後の食文化のあるべき形を考える。
第15回	まとめ	本講義をふり返し、様々な食文化について興味を持ったことや意見・期待することなど、自ら考えたことをレポートにまとめる。

【授業の到達目標】

本講義を通して広く食に関する知識を習得し、現代の食文化に期待することや課題について自らの考えをまとめることができる。

【事前・事後学習】

食に関するニュース等にも興味を持つこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の講義内で記入するノートおよび感想は提出し、採点后返却する。

【成績評価基準】

課題レポートの内容が到達目標に達しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

・必要時にプリントを配布する

【参考図書】

・講義内で適宜紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2216	世界の芸術	2・3年	前期	2	選択	長谷川 潤子

【授業の目的と概要】

実際に手を動かして、目で見て、足を運んで、芸術を考える。

今回は「写真」「絵画表現」をテーマに進める。

各単元ごとに、1、テーマ作品の鑑賞 製作の時代背景や、技術、構成を理解する。

2、同じテーマでの表現方法の提案

3、絵画表現の体験 という流れで進める。

今、一番身近な自己表現の一つである写真の手法から、効果的な表現方法を考えていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業の説明	15回の内容と 準備について
第2回	写真 ①デザインと線の構成	現代の 若手写真家の作品を取り上げ、構図と効果について考える。 ワークショップ～線で構成した作品
第3回	写真② 面の構成とテクスチャ	前回の授業に基づき、各自 効果を考えて作品を撮影してきたものを発表。 ワークショップ～鉛筆で表現の可能性
第4回	写真③ トリミング 強調と省略	日常生活の中の美しさをみつける。 ワークショップ～素描立体を描く
第5回	絵画 ① 主役とわき役	浮世絵作品を取り上げて技術を解説。 素描①構成
第6回	絵画 ② 構図と効果	浮世絵作品の与えた影響。 素描②
第7回	絵画 ③ 空間を生かす	作品制作 鑑賞 作品を仕上げたテーマとするものが表現できているのか 発表して考察。 講評
第8回	美術鑑賞①	近郊の美術館にテーマのもと 鑑賞。
第9回	美術鑑賞 ②	レポート制作、提出。
第10回	アイデアをカタチに① 抽象表現	抽象絵画を参考にて、テーマについて自己表現の方法を探す。
第11回	アイデアをカタチに② 現代の美術	現代美術家の作品紹介と、好きな作品について鑑賞と考察。 コンセプトにそったモチーフを探して構成する。
第12回	アイデアをカタチに③アートを身近に	いろいろなアート作品が、環境や観た人にあたえる影響について。
第13回	アイデアをカタチに④色彩	まとめ1『写真・印象派・浮世絵』色彩「効果的な配色」
第14回	小テスト 解説 作品提出	作品製作 構図表現 を中心に小テストと解説 作品提出
第15回	講評 まとめ 作品返却	まとめ 講評 作品返却

【授業の到達目標】

作品を実際に製作する事で芸術作品や 作者に対して接点を見つけだして、自分の言葉で意見が言えるようになりたい。

【事前・事後学習】

作品作りのためのモチーフとなる物の準備がほぼ毎回ある。課題の写真を準備したり

テーマにそった自分の考えをまとめておく。(30分から2時間程度)

また、授業の教材とするために授業の前に準備した素材や課題を

メール等を使って事前にあげておくことが、授業参加の条件になる。

初回に説明しますが、ワークショップや実技の画材等のそれぞれで購入しておく。

【課題に対するフィードバックの方法】

小課題については、その都度評価して返却。

できるだけ授業で取り上げ、講評や話し合いの教材として、全体で共有する。

作品は発表 展示できる機会を作る。

【成績評価基準】

①出席、提出作品、小テスト、美術館鑑賞レポートについて基準ポイント以上で

②作品、レポートにおいて自分の考えを示す事ができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
	30%	30%(小テストも含める)		作品40%(2点)

【テキスト】

・資料を配布する

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2217	地震と安全	2・3年	後期	2	選択	葛 漢彬

【授業の目的と概要】

(1)地震を起こす原動力となっているプレート・テクトニクスについての解説。(2)震源、震央、震度、マグニチュードなど地震の基礎的事項の解説。(3)個々の地震は活断層に沿って大地がずれることによって起こるが、この活断層について解説。(4)日本列島および周辺の主要な活断層の解説。(5)日本列島および周辺で起こった主要な(巨大)地震について解説。(6)想定される南海トラフの巨大地震などに備えて国や地方公共団体などが施すべき防災・減災・安全対策(地震動や津波などへの対応)を検討。(7)巨大地震に備えて地域・家庭や個人の心構えと安全対策などを検討。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	この講義の内容、成績評価方法などの説明
第2回	プレートテクトニクス	地震を起こす原動力となっているプレート・テクトニクスの説明
第3回	地層・地質の概要	地層・地質の構造の説明
第4回	地震の基礎的事項	地震動特性、震度、マグニチュードなどの説明
第5回	地震被害その1	兵庫県南部地震とその被害の説明
第6回	地震被害その2	東北地方太平洋沖地震とその被害の説明
第7回	地震被害その3	熊本地震とその被害の説明
第8回	活断層	日本列島の活断層の説明
第9回	災害と地形・地質	災害と地形・地質との関係の説明
第10回	都市災害	現代都市災害の特徴
第11回	耐震技術の進歩	耐震技術の現状の説明
第12回	災害に関する規則・規制その1	災害対策基本法などの説明
第13回	災害に関する規則・規制その2	大規模地震対策特別措置法、地震保険などの説明
第14回	防災知識	地震から自らと家族を守るための防災対策の説明
第15回	まとめ	総括

【授業の到達目標】

- 1.地震の発生メカニズムを簡潔に説明できる。
- 2.南海トラフ巨大地震の現状を理解できる。
- 3.地震に対する自分なりの対策を検討できる。

【事前・事後学習】

地震と震災のニュースなどより積極的情報収集する。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験は、解説とともに解答例を提示する。

【成績評価基準】

- 1.地震の発生メカニズムを簡潔に説明することができるのか。
- 2.南海トラフ巨大地震の現状を理解することができるのか。
- 3.地震に対する自分なりの対策を検討することができるのか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
100%	0%	0%	0%	0%

【テキスト】

・プリント配布

【参考図書】

・講義中に適宜紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2220	数 理 の 世 界	2・3年	前期	2	選択	成田 良一

【授業の目的と概要】

数学的なものの見方を身につける。数学の多く分野の中で、特に整数の性質の基礎に焦点をあてて、素数、ユークリッドの互除法、合同式、一次不定方程式などの初等整数論の入門を扱う。これらを駆使して、インターネットなどで使用される現代的な公開鍵暗号系であるRSA暗号の仕組みの理解にいたる。これらを通じて数学が実際に生活の役に立っていることを認識する。概念や手法の理解を深めるために、適宜、問題演習を行う。以上を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	数の世界	自然数、整数、有理数、実数と数の概念が順次拡大される。それは代数的性質や連続性によるものである。
第2回	計算と証明	$\sqrt{2}$ が無理数であることの証明を例として、数学的な証明と計算の基礎を学ぶ。
第3回	整数の割り算	小学校以来の整数の割り算は商と余りを求めるものである。この割り算がこの講義の全ての基礎となる。
第4回	約数と倍数	整数の間の「割り切る」関係が約数・倍数となる。二つの数の公約数・公倍数について整理する。
第5回	素数と合成数	素数は整数全体の掛け算の関係において基礎的な数となる。素数は無限にある。既知の最大素数と GIMPS を紹介する。
第6回	素数の性質	素因数分解が一意にできることを示す。また素因数分解の応用を扱う。
第7回	ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法は最大公約数を求める計算法である。効率的な計算の面でも理論的面でも重要な方法である。
第8回	暗号の基本	古くから用いられてきた対称鍵暗号系の基礎を扱う。特に、単純換字式暗号は十分なサンプルがあれば解読できることを解説する。
第9回	剰余の四則と合同式	合同式を導入し、それが整数の剰余の計算を簡略化することを示す。合同式は見方を変えれば剰余環の計算である。
第10回	一次不定方程式の解法	一次不定方程式について整数解があるか否か、その判定と初等的解法を紹介する。
第11回	一次不定方程式の解の構造	一次不定方程式の一般解の構造は線型である。一般解の求め方を紹介する。
第12回	冪乗の剰余	合同式の応用として、冪乗して余りを求める計算を行う。また二進冪乗法について紹介する。
第13回	公開鍵暗号系	公開鍵暗号の原理を紹介する。これがインターネット通販などで現実的な方法であることを学ぶ。
第14回	RSA暗号系	RSA暗号系は公開鍵暗号系の一種であり、これまで紹介した初等整数論の基礎を総動員して仕組みを理解することができる。
第15回	整数論の基礎と発展	これまで扱った初等整数論の基礎を復習・整理する。整数論に関する発展的話題を紹介する。

【授業の到達目標】

初等整数論の基礎理論を理解し、基本的な計算問題や証明ができる。公開鍵暗号、特にRSA暗号の仕組みを説明できる。

【事前・事後学習】

Google Classroom を使用して、講義内容や補足説明などを提示する。講義中には必ずノートをとること。事前には次回の資料を1時間程度予習する。事後には2時間程度各自のノートを見直して疑問が残らないようにする。また、問題集を2回配布するので、講義で扱った内容を参考にして解く。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験は、解説とともに回答例を提示する。

【成績評価基準】

整数の割り算、約数と倍数、素数、一次不定方程式、合同式などの基礎的な整数の計算ができるか。整数に関する基礎的な定理の証明ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
100				

【テキスト】

【参考図書】

- ・SOJIN『素数大百科』共立出版
- ・小林昭七『なっとくするオイラーとフェルマー』講談社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2225	スポーツ実習	2・3年	前期後期	1	選択	上田 裕司 山村 伸

【授業の目的と概要】

本講義では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習形式を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。その際には、集団で行動すること、集団で目的を達成するための課題や解決方法を実践的に学ぶことができる。その結果、コミュニケーション能力、リーダーシップなどについても実習を通じて学ぶこととなる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス、導入	この授業の目的の説明を行う
第2回	バドミントンの基礎練習（ハイクリアー）とゲーム	ハイクリアーの練習を行い、コートの奥までシャトルを運ぶことのできるゲームを行う
第3回	バドミントンの基礎練習（ドロップショット）とゲーム	ハイクリアーとドロップショット練習を行い、相手を前後に揺さぶることを目指したゲームを行う
第4回	バドミントンの基礎練習（スマッシュ）とゲーム	スマッシュの練習を行いコートの全域を用いることを目指したゲームを行う
第5回	ソフトバレーの基礎練習（オーバーハンドパス）とゲーム	オーバーハンドパスをゲームへの導入することを目指した練習を行ったのちにゲームを行う
第6回	ソフトバレーの基礎練習（アンダーハンドパス）とゲーム	アンダーハンドパスとオーバーハンドパスを組み合わせ練習を行ったのちにゲームを行う
第7回	ソフトバレーの基礎練習（サブカット）とゲーム	相手のサーブを自チームの攻撃へつなげる練習を行ったのちにゲームを行う
第8回	ソフトバレーの基礎練習（アタック）とゲーム	相手のサーブをアタックで終える練習を行ったのちにゲームを行う
第9回	フットサルの基礎練習（パス）とゲーム	パスの練習を行ったのちに、自チーム内でボールを回して攻撃することを目指したゲームを行う
第10回	フットサルの基礎練習（ロンド）とゲーム	相手からの守備のプレッシャーがある中でパスを回す練習を行い、ゲームを行う
第11回	フットサルの基礎練習（ドリブル）とゲーム	ドリブルの練習を行い、パスとドリブルを組み合わせたゲームを目指す
第12回	フットサルの基礎練習（シュート）とゲーム	シュートの練習を行い、ゲームを行う
第13回	卓球の基礎練習（フォアハンド）とゲーム	フォアハンドストロークをゲームへ導入することを目指した練習を行ったのちにゲームを行う
第14回	卓球の基礎練習（バックハンド）とゲーム	バックハンドストロークをゲームへの導入となる練習を行ったのちにゲームを行う
第15回	卓球の基礎練習（ドライブ回転とした回転）とゲーム	前時までに学習したストロークについてボールに回転をかける練習を行ったのちにゲームを行う

【授業の到達目標】

各スポーツを楽しめるレベルの技量で実施できるようになり、スポーツ活動へ参加する際に集団全体が楽しみよう配慮できるようになる。

【事前・事後学習】

第一回の授業は必ず出席すること。授業に関する重要な連絡をするため、欠席者は履修を認めないことがあるので注意すること。授業後に、その日の学習を振り返るレポートを作成し提出する。また、各授業に際して、提出したレポートを振り返り、その日の学習の課題を明確にして授業に取り組むこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎週提出されたレポートを用いて評価のフィードバック、前回の授業の復習を行ってから実習を行う。

【成績評価基準】

各回の授業内容を振り返り、自身の課題を整理したのちに授業に取り組み、その取り組みを再び記述できるようになっているか。他の受講生の活動の様子を記述しているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100% (毎回の授業後に提出)	0	0	0

【テキスト】

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2313 LA2310	英中級英語Ⅲ語	2・3・4年	前期	1	選択	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

この授業では、英文読解力向上を目的として、その具体的な方法、未知の単語の意味を類推する方法を学び、様々な種類英文を、インターネット上の英文も含めて、多読ならびに速読する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	The 100 Words・Fable 1	英語の基本100語を確認する、Fable 1の速読
第2回	Learning Vocabulary・Fable 2	語彙習得の方法を学ぶ、Fable 2の速読
第3回	Focusing on the Topic・Fable 3	英文のTopicを把握する、Fable 3の速読
第4回	Thinking in English Unit 1(1)・Fable 4	英問英答問題を解く(1)、Fable 4の速読
第5回	Guessing Meaning from Context(1)・Fable 5	内容から単語の意味を類推する(1)、Fable 5の速読
第6回	Guessing Meaning from Context(2)・Fable 6	内容から単語の意味を類推する(2)、Fable 6の速読
第7回	Thinking in English Unit 1 (2)・Fable 7	英問英答問題を解く(2)、Fable 7の速読
第8回	Word Parts・Fable 8	英単語を部分に分けて理解する、Fable 8の速読
第9回	How Words Are Used Together・Fable 9	熟語の成り立ちを学ぶ、Fable 9の速読
第10回	Thinking in English Unit 1 (3)・Fable 10	英問英答問題を解く(3)、Fable 10の速読
第11回	Guessing Meaning from Context(1)・Fable 11	内容から単語の意味を類推する(3)、Fable 11の速読
第12回	Guessing Meaning from Context(2)・Fable 12	内容から単語の意味を類推する(4)、Fable 12の速読
第13回	Thinking in English Unit 1 (4)・Fable 13	英問英答問題を解く(4)、Fable 13の速読
第14回	Fable 14	Fable 14の速読
第15回	Review・Test	まとめ、筆記テスト

【授業の到達目標】

様々なリーディングのスキルを学び、簡単な英文を多読し、日本語に訳すことなく、英文をその順のまま抵抗なく読みこなすことができる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに、次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。授業で学んだ教材を毎回必ず見直し、理解を深めるための復習を各自で行なうこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは、間違った部分を訂正したものを提出して、正解が理解されていることを確認する。

【成績評価基準】

基本的な英単語を習得できている。

リーディングスキルを使って、簡単な英文を読解し、全体の意味を把握できる。

インターネットで海外のサイトから情報を得て、読解する方法が身に付いている。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60 (小テストを含む)	10	30	0	0

【テキスト】

・L. Jeffries ほか『Basic Reading Power 1』(Third Edition) Pearson Longman

【参考図書】

- ・高校生レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回必ず持参すること。
- ・必要に応じて資料を配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2314 LA2311	英語Ⅳ ビジネス英語	2・3・4年	後期	1	選択	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

オフィスにおける英語での会話と英語での実務の基本を学ぶことを目的とする。会話では、応対、電話、予約、伝言などの基本的表現を学び、実践的な練習を行う。実務では、ビジネスレターの基礎知識と各種レターの書き方、e-mailの書き方とのやりとり、国際会議の準備、スケジュール管理、ファイリング、英文履歴書の書き方など日常的に必要なとされる知識と実務の方法を学び、練習する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	Getting a visitor (来客受付)	来客応対の基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習して身につける。
第2回	Making a visitor comfortable (来客案内)	受付終了後の来客に対する対応の基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習し身につける。
第3回	Receiving incoming calls (電話を受ける)	電話応答の基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習して身につける。
第4回	Making outgoing calls (電話をかける)	電話をかけて相手を確認、アポイントメントを取るための基本表現を学び、実技で練習して身につける。
第5回	Making a reservation (予約をする)	電話でホテルの予約をする基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習して身につける。
第6回	Giving messages (伝言を知らせる)	オフィスで上司や同僚に伝言や報告をするための基本表現を学び、実技で練習して身に付ける。
第7回	Working on the computer (コンピュータの活用)	コンピュータを使って、文書処理、データ処理、情報検索、メール交換等をする際のオフィスでの会話の基本表現を学び、実技で練習して身に付ける。
第8回	Writing business letters (ビジネスレター)	英文ビジネスレターの基本知識を学び、読んで理解し、それについての会話表現を学ぶ。
第9回	Exchanging e-mails (eメールの活用)	英文eメールの基本知識を学び、基本表現を身に付ける。
第10回	Preparing meetings (会議の準備)	国際会議の準備についての基本知識を学び、準備・進行の際の仕事について理解する。
第11回	Scheduling (スケジュール管理)	スケジュール管理をするための予定表の種類や記入方法、管理の仕方、出張時の旅程表の書き方について学ぶ。
第12回	Filing (ファイリング)	ファイリングの基本知識と方法について学び、文書管理、名刺管理についても学ぶ。
第13回	Writing a resume (履歴書を書く)	英文履歴書の基本知識を学び、各自の履歴書を作成し、求人広告の読み方について学ぶ。
第14回	Writing an application letter and a thank-you letter (就職活動のための手紙)	就職活動において必要となる英文ビジネスレターについて学び、各自作成する。
第15回	A job interview at the office (就職面接を受ける)	英語での就職面接における表現を学び、実技で練習して身に付ける。

【授業の到達目標】

基本的レベルの英語を使って、次のことができる。
 来客受付・応対・電話応対・予約、伝言、報告
 ビジネスレターやeメールの読み書き
 会議の準備、スケジュール管理、ファイリング
 履歴書、面接等の就職活動

【事前・事後学習】

毎授業前までに、次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。
 毎回復習を兼ねた課題があるので、次回までに確実にやり、提出すること。不明な点があれば、次回必ず質問をして、理解に努めること。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは返却後、復習プリントを配布し、学生は解答が間違っていた部分すべてについて、正解を記入して提出する。既に行った小テスト数回分を範囲として、再度テストを行い、定着を目指す。

【成績評価基準】

学んだ英語表現を使って、会話ができるか。
 学んだ知識を使って、英文ビジネスレター、履歴書等が読め、書けるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
35(小テストを含む)	10	20	35	0

【テキスト】

・西崎有多子ほか 『英語で学ぶ オフィスコミュニケーション』 西文社

【参考図書】

・英和辞典(電子辞書可)を毎回必ず持参すること。
 ・他の資料は必要に応じて配布。

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
LA2325	中国語オーラルコミュニケーションⅢ	2・3・4年	後期	1	選択	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

1年程度中国語を学んだ経験者を対象とします。1年の復習をしながらやさしい会話を学びます。そのあとでリスニング中心の問題をやります。以上の内容を演習形式で行います。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	授業の運営方針の説明
第2回	1年の復習	初級レベルの文法と発音の復習
第3回	第1課 いくつですか？	数字の言い方・干支の言い方
第4回	第2課 くつしたはどこ？	場所を表す表現・いいわけのしかた
第5回	第3課 なにしてるの？	持続と進行・イベント会場で
第6回	第4課 歩き疲れた	結果補語・散歩
第7回	まとめとテスト	まとめとテスト
第8回	第5課 道を聞く	場所を聞く表現・地図を読む
第9回	第6課 タクシーで	慣用表現・タクシーの乗り方
第10回	第7課 一夜漬け	時間量・テスト勉強
第11回	第8課 夏休みのバイト	お金の言い方・バイト
第12回	第9課 Eメール	番号・電話番号
第13回	第10課 値切る	金額・値切り方
第14回	第11課 中国料理	料理の表現・中華料理の楽しみ方
第15回	まとめとテスト	まとめとテスト

【授業の到達目標】

中級程度の中国語の表現力を身につけて、中国語で雑談をすることができる。

【事前・事後学習】

教科書付属のCDを繰り返し聞いて発音を身につけましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回全員が発音し、それに対してアドバイスします。

【成績評価基準】

中級程度の中国語の会話ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%	0%	60%	0%	0%

【テキスト】

・『大事なことはみんなやさしい中国語で言える』朝日出版社

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2326	中国語ライティング	2・3・4年	前期	1	選択	竹越美奈子

【授業の目的と概要】

中国語を1年程度勉強した人が対象です。外国語学習は、初めのうちはやる気もあるし、学習事項がそれほどたまっていないので、勉強すればするほど実力がついていくことを実感できます。ところが、だんだん既習事項が増えてくると、前の表現がうる覚えになり、先に進むのが困難になってくる場合があります。この教科書は一つの課で学ぶ文法事項が少なくおさえられていて、前に学習したことが繰り返し出てくるので、復習しながら楽しく前に進むことができます。あわせて中国の文化にも関心を持ちましょう。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス 初級の復習	授業の進め方と注意
第2回	第1課 一語文・一句文	短い文、形容詞の肯定形
第3回	第2課 基本構文と主題化	基本構文と主題化
第4回	第3課 時間	時点と時間量
第5回	第4課 場所と存在・移動	方位詞
第6回	テストとまとめ（1）	テストとまとめ（1）
第7回	第5課 疑問・否定	疑問詞疑問文
第8回	第6課 願望・必要	助動詞
第9回	第7課 命令・依頼・可能	命令文
第10回	第8課 推定・伝聞	推定と蓋然性
第11回	第9課 数量表現	量詞
第12回	第10課 修飾語	定語と状語
第13回	第11課 形容詞の程度と動詞の様態	形容詞の部分否定
第14回	第12課 比較・類似	比較の言い方と比較の否定
第15回	テストとまとめ（2）	テストとまとめ（2）

【授業の到達目標】

中国語の基本的な文法事項をマスターすることです。
この教科書を学び終われば、中国語の基本的な文法事項の輪郭をほぼ終えたこととなります。

【事前・事後学習】

授業で学習する中国語の文章に学習事項のエッセンスがすべて含まれているので、これを完全に暗記することが有効です。付属のCDを活用して各課の本文を完全に覚えましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回全員で練習問題をやり、その場で黒板に書いて解説します。

【成績評価基準】

- (1) 中級程度の文法が理解できるか
- (2) 中級程度の作文ができるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	0	60	0	0

【テキスト】

・董燕・遠藤光暁『書く中国語』朝日出版

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2339	アカデミック・ライティング	2年	前期	2	選択	橋村 晴美

【授業の目的と概要】

アカデミック・ライティング＝学術的な文章や学術的な文章を書くための技術を習得する。それぞれ、自分の関心ある研究課題について取り組み、どの手順でライティングしていくのが良いかを把握し、段階を踏んで進めていく、演習型授業である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	アカデミック・ライティングとは	学術的文章とは何かを学ぶ
第2回	研究テーマの設定	知りたいことを見つけて研究テーマを決める
第3回	アウトライン構想	テーマに沿ってアウトライン（論文構成）を作成する
第4回	先行研究の集め方	資料の整理方法について学ぶ
第5回	研究テーマについてレポートを作成する	研究テーマに沿って、レポートを書き始める
第6回	文章の書き進め方	論理的な思考の組み立て方や語句の使い方について学ぶ
第7回	中間発表	レポート発表、意見交換をして、レポートを加筆修正する
第8回	論理的な文型と表現	論点を整理する
第9回	論理を裏付けるための資料	資料の活用法について学ぶ
第10回	論文作法	引用の仕方や参考文献の記し方について学ぶ
第11回	パタグラフ・ライティング	パタグラフ・ライティングについて学ぶ
第12回	図表	図表の作り方・使い方を学ぶ
第13回	論文レイアウト（題目・要約・謝辞・付録）	論文形式の整え方について学ぶ
第14回	推敲	論文の点検の仕方について学ぶ
第15回	レポートの発表報告	レポートの発表報告を行う

【授業の到達目標】

アカデミック・ライティングの特徴やルールに従って、文章を書くことができる。

レポートを他者にわかりやすく発表することができる。

【事前・事後学習】

授業後に課題を指示するので、次回授業までに、準備をしてくる。

毎授業までに1日10分、関心のある研究論文やレポートを読み、読んだ箇所を要約してくる。

【課題に対するフィードバックの方法】

定期的に課題を回収し、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。

よくできた課題を印刷・配付などして、全体に紹介する。

【成績評価基準】

レポートは、「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」の観点から、

授業への参加貢献度は「関心・意欲・態度」の観点から、

その他は、「報告会プレゼンテーション」のうち「技能・表現」の観点から到達度を見る。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	50%	25%	0%	25%

【テキスト】

・演習中に適宜、資料を配布する。

【参考図書】

・木下是雄「レポートの組み立て方（1994）」ちくま学芸文庫

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2340	コミュニケーション技能	2・3年	前期	2	選択	堀内 裕一郎

【授業の目的と概要】

自己分析、対人関係とのコミュニケーション、集団への適応といった対人関係能力を高めるために、演習形式を行う。授業は心理学にもとづき、表現力、傾聴能力、伝達能力、情熱力、表現力などさまざまなワークを取り入れながら、他者と円滑なコミュニケーションを行うために必要な能力を学び、演習を通じて深めていく。また、コミュニケーション論の概念、理論を理解し、人間関係や社会の場で効果的、かつ適切にコミュニケーション行動が展開できるような学びとする。

コミュニケーション能力を身に付ける事により、就活、恋愛、夢、目標などは、間違いなく手に入れる事ができる。コンサルタントとしてあらゆるケーススタディからお伝えします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	講義のガイダンス、なぜ対人コミュニケーションが求められる時代なのか	就職試験で求められる能力の1位はコミュニケーション能力。なぜ、今、求められているか学ぶ
第2回	コミュニケーションの基本的な考え方【伝える・伝わる・理解する】	言葉を使うバーバルコミュニケーションを方法を知る
第3回	ノンバーバル・コミュニケーション、感情表現に関連する非言語的行動の解釈、グループワーク	言葉を使わないコミュニケーションの難しさをグループワークで学ぶ
第4回	言葉とコミュニケーション、言語的コミュニケーションの利点と限界、グループワーク	言葉とは何か、言語と非言語に分けられ、ともに恣意性、曖昧性、それに抽象性という特徴を理解する
第5回	魂を揺さぶるスピーチテクニック、グループワーク【スピーチ力】	スピーチで聞き手の魂を揺さぶるテクニックを学ぶ
第6回	人を動かすコミュニケーション【説得力・情熱力・表現力】	命令でなく、自主的に動いてもらえるコミュニケーションを理解する
第7回	スピーチコンテスト【バーバル・ノンバーバル・コミュニケーション】	今まで学んだ理論とテクニックを使い、スピーチコンテストを行う
第8回	人を傷つける話し方、喜ばれる話し方、グループワーク【チームワーク・コミュニケーション力】	会話と雑談の違いを理解し、不愉快な思いをさせない話し方を学ぶ
第9回	相手の心をつかむコミュニケーション【雑談力】	雑談力の方法と雑談力から相手の心を掴む方法を学ぶ
第10回	相手の話を聴くカウンセリング能力【質問力・傾聴能力】	カウンセラーが使っている傾聴能力と、コンサルタントが使っている質問力を学ぶ
第11回	魅力的に伝えるプレゼンテーション能力 前半【スピーチ力・思考力・表現力】	プレゼンテーションで大切な第一印象の理解と実践
第12回	魅力的に伝えるプレゼンテーション能力 後半【魅力・説得力・情熱力】	プレゼンテーションの絶対条件である内面的は力を実践
第13回	プレゼンテーションコンテスト	学んだ事を理解できているかプレゼンテーションコンテストを行う
第14回	メンタルヘルスのためのコミュニケーション【傾聴能力】	悩んでいる人の話を聞くためのテクニックを知る
第15回	コミュニケーション・マジック【スピーチ力・段取り力・状況把握力・リスク管理能力】	マジックで必要なコミュニケーション能力を論理的に理解できる

【授業の到達目標】

1. コミュニケーション論の概念、理論を理解する。
2. コミュニケーション論の概念、理論をもとに実践方法を理解する。
3. 実習を通してコミュニケーションの概念、理論をフィードバックできる。
4. 対人関係において自己コミュニケーションについて考える事ができる。
5. 相手に自分の考えを「伝えて・伝わり・理解する」事ができる。
6. ビジネスで必要な10分プレゼンテーションが出来る。
7. ビジネスで必要な人の心を動かす1分スピーチができる。

【事前・事後学習】

事前学習は教科書と配布テキストを読んできてもらいます。事後学習では、授業後に課題をだし、レポート作成。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

コミュニケーションで大切な事は何か、学んだ事を使いながら、自分なりに客観的に説明する事ができるか。また、自分軸だけでなく、相手軸でも考える事ができ、相手の状況を分析する事ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
20%	課題レポート10%	グループワークと全体討論20%	コンテスト【試験】50%	

【テキスト】

・堀内裕一郎 「話し方ひとつで面白いほど仕事がうまくいく本」 あさ出版 2016年

【参考図書】

・宮原哲 「新版 入門コミュニケーション論」 松柏社 2007

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2341	プレゼンテーション技術	2・3年	後期	2	選択	相田 一成

【授業の目的と概要】

【個人発表・グループワークが中心です】 プレゼンテーション技術は「ただ伝えるだけ」の技術ではありません。相手に理解してもらうこと、そして行動してもらうことが重要です。授業の目標は、学生がゼミでの発表やミーティングの場、クラブやサークルなどの課外で、そして就職活動での面接の場で自分をPRする時に、相手に納得してもらう技術を身につけること。そして、相手に行動を起こしてもらうために必要な知識やスキルの習得を目指します。パワーポイントのスライドの作成スキルなどを学ぶだけでなく、グループワークや発表の場を盛り込み、学生同士のコミュニケーションを重視したロールプレイングによる演習方式の授業を展開していきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業の説明	授業のルールと評価について説明 パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います (1グループ) パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います (2グループ) パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います (3グループ) パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います (4グループ) グループディスカッションの演習① グループディスカッションの演習②
第2回	日本語検定4級にチャレンジ	自分の日本語力がどれくらいのレベルなのか確認します
第3回	事実をわかりやすく表現する	抽象度の高い言葉を使わずに表現できるかを実践します
第4回	パワーポイント作成の大切なポイントを学ぶ①	パワーポイントのスライドを作成する際に必要な知識、スキルを学びます 1回目
第5回	パワーポイント作成の大切なポイントを学ぶ②	パワーポイントのスライドを作成する際に必要な知識、スキルを学びます 2回目
第6回	自己紹介のプレゼンスライドを作成①	自分らしさを聴き手に理解してもらうためのパワーポイントファイルを作成①
第7回	自己紹介のプレゼンスライドを作成②	自分らしさを聴き手に理解してもらうためのパワーポイントファイルを作成②
第8回	個人発表:自己紹介のプレゼンテーション①	個人発表:自己紹介パワーポイントファイルで3分のプレゼンテーションを行います①
第9回	個人発表:自己紹介のプレゼンテーション②	個人発表:自己紹介パワーポイントファイルで3分のプレゼンテーションを行います②
第10回	愛知東邦大学紹介のプレゼンスライド作成①	高校生に愛知東邦大学に入学したいと思わせる学校紹介のパワーポイントファイルを作成します①
第11回	愛知東邦大学紹介のプレゼンスライド作成②	高校生に愛知東邦大学に入学したいと思わせる学校紹介のパワーポイントファイルを作成します②
第12回	愛知東邦大学紹介のプレゼンスライド作成③	高校生に愛知東邦大学に入学したいと思わせる学校紹介のパワーポイントファイルを作成します③
第13回	個人発表:愛知東邦大学紹介のプレゼンテーション①	個人発表:学校紹介パワーポイントファイルで5分のプレゼンテーションを行います①
第14回	個人発表:愛知東邦大学紹介のプレゼンテーション②	個人発表:学校紹介パワーポイントファイルで5分のプレゼンテーションを行います②
第15回	個人発表:愛知東邦大学紹介のプレゼンテーション③	個人発表:学校紹介パワーポイントファイルで5分のプレゼンテーションを行います③

【授業の到達目標】

就職活動の場面で、エントリーシート・面接で自分をプレゼンテーションできるレベルにしていきます。

【事前・事後学習】

パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行います。パワーポイントの知識・スキルの事前学習。プレゼンテーションの前の準備・シミュレーションをしてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは、添削・採点の上で返却します。

【成績評価基準】

これから迎える就職活動において自分自身をES、面接でプレゼンテーションできるレベルかどうかを声の大きさ、表情、態度、パワーポイントの内容で判断をします。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	80	20	実技試験の内容は自己紹介と学校紹介のプレゼンテーションファイルと個人発表(プレゼンテーション)の完成度を評価します

【テキスト】

・使用しない

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2344	Web ページ作成演習	2・3年	後期	2	選択	高木 靖彦

【授業の目的と概要】

情報発信の手段として現代社会で最も重要なものの一つとなっているWebの基礎を理解するとともに、基本的な作成方法を習得していくことがこの科目の目的である。「入門コンピュータ」および「基礎コンピュータ」を履修したことを前提とした40人程度の演習形式により、テキストエディタを用いたHTML文書の作成、サーバーへのファイル転送等を学習していく。合わせて、画像描画、階層的ファイル整理などの基本的技能の再確認を行う。成績評価は、毎回の小課題および期末の課題（自己紹介などのページ作成）により行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	WWWの仕組み、Web ブラウザの使い方	サンプルwebページのソース (HTML 書式) を眺める、HTML入力に多用される特殊記号の入力練習をテキストエディタを用いて行う。
第2回	HTML 超入門	バイナリ・ファイルとテキスト・ファイルの違いを理解する、テキスト・ファイルを入力するツールであるエディタになれる、HTMLの基本がタグであることを学修し、簡単なHTMLファイルを入力する。それをブラウザで眺める。
第3回	画像を入れる	画像を入れたHTMLファイルを作成し、ブラウザで眺めてみる。
第4回	簡単なHTMLの作成	基本的なタグを学修し、リストを使ったページを作る。
第5回	簡単なHTMLの作成 (2)	ハイパーテキストとリンクを学修し、リンクボタンを含むページを作成する
第6回	画像の作成	画像作成ソフトウェアを用いて背景画像およびロゴ画像を作る。画像のサイズ・色調等の調整を行う。
第7回	マルチメディアの扱い	写真のExif情報の削除、画像の色調等の調整、動画の編集を行う。
第8回	少し高度なHTMLの作成 (1) 表の作成	HTML で表作成を行なう、セルを結合したような複雑な表の作り方も学習する。
第9回	少し高度なHTMLの作成 (2) ディレクトリ構造化	複数のHTMLファイルに分かれたページを作成する。サブディレクトリにあるファイルへのリンクを作る。
第10回	WWWサーバーとファイル転送	ファイル転送ソフトウェアを用いて、web サーバへファイルを送る。URL とサーバー上のディレクトリの関係を学修する。
第11回	CSS を使う	カスケーディング・スタイル・シートを用いて web の見え方を変える。
第12回	Webオーサリングツール	Web オーサリングツールを使ってHTMLファイルを作る。
第13回	テーマのページ (最終課題) の作成	提出済みファイルをサーバーから削除、最終課題を作成する。
第14回	テーマのページ (最終課題) の作成 (2)	最終課題を作成する。
第15回	テーマのページ (最終課題) の作成とまとめ	最終課題を作成する。

【授業の到達目標】

HTMLの文法の基礎を理解し、テキストエディタを用いて、階層的ディレクトリ構造を使い画像・リンクボタンを入れたWebページを作れるようになる。その中で、WWWの標準に則った「人に優しい」Webページを作る技術を身につける。

【事前・事後学習】

その回の提出した課題が条件を満たしていたかを再度確認する。満たしていないことを見つけた場合は、次回の講義までに修正して提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

最終回の講義において、提出された各人の課題に対する講評等を行い、その後に修正できる期間を設定して最終的な提出とする。

【成績評価基準】

講義で学修したタグを用いて、HTMLが作成できているか。文法的に誤っているものは減点する。また、最終課題に関しては、指示された条件を満たして作成しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	0	50 (各回の提出課題)

【テキスト】

・資料を配布する。配布された資料は翌週以降必ず持参すること。

【参考図書】

- ・ローラ・リメイ (武者他訳) 『HTML入門 - WWW ページの作成と公開 -』 プレンティスホール
- ・E. A. Mayer 『CSS完全ガイド』 オライリー・ジャパン

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2346	OSとプログラミング	2・3年	前期	2	選択	正岡元

【授業の目的と概要】

この科目では、メールサーバやWWWサーバで使われているUnix系OSの一つであるLinuxを用いて、ファイルシステムやプロセス管理などのOSの基本的な原理や、ファイルの操作やエディタの使い方などの基本的な操作を学習するとともに、コンピュータプログラムの作成を通して、コンピュータおよびOSの動作原理の理解を目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	はじめに	オペレーティングシステムの基礎、Linuxの使い方、端末エミュレータとコマンドラインの概要を理解する
第2回	オペレーティングシステム入門(1)	OSの様々な役割(プロセス管理、メモリ管理等)を紹介し、コマンドを入力しながらそれらの機能を体感する
第3回	オペレーティングシステム入門(2)	OSの様々な役割(デバイスドライバ、ユーザインタフェース等)を紹介し、コマンドを入力しながらそれらの機能を体感する
第4回	ファイルシステムのはたらき～ファイルとディレクトリ概念～	OSの役割の一つであるファイルシステムについて学び、コマンドでファイルを操作する
第5回	プログラミング入門	簡単なプログラムを実際にも書き、プログラムの書き方の作法や実行のしかたを学ぶ
第6回	変数と制御構造(1)	変数の概念と使い方および制御構造の基本を理解する
第7回	変数と制御構造(2)	様々な制御構造の使い方を学ぶ
第8回	アルゴリズムとデータ構造	問題を解決するための手順を論理的に組み立てる方法を学ぶ
第9回	値の型変換	データ型の概念と型の返還について学ぶ
第10回	正規表現	文字列処理の基礎である正規表現を学ぶ
第11回	配列(1)	配列の概念について理解する
第12回	配列(2)	配列のさまざまな使い方を理解する
第13回	ファイル入出力(1)	データをファイルから入力する方法を理解する
第14回	ファイル入出力(2)	結果をファイルに出力する方法を理解する
第15回	まとめ	これまで学んだ知識を用いてプログラムを作成する

【授業の到達目標】

簡単なプログラムを書いて実行できるようになる。プログラミングの考え方を理解し、処理の手順を論理的に考えられるようになる。

【事前・事後学習】

各回で扱ったLinuxの操作やプログラミングの概念については何度も練習し、十分理解を進めておくこと。

随時事前事後学習のためのサンプルを提示する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提示した課題は翌週に模範解答を示し、解説を行う。

【成績評価基準】

OSの基礎的な概念を理解し、OSの役割、機能を説明できる。

簡単なLinuxの操作を身に付け、実際に基本的な操作ができる。

論理的な思考を身に付け、問題の解決手法を考え、それを細かい手順に分解し、フローチャートを作成できる。

プログラムの基礎的な概念を理解し、フローチャートをもとに簡単なプログラムを作成することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100% (毎回の講義中に課す課題および小テスト)

【テキスト】

・広瀬雄二, Ruby プログラミング基礎講座, 技術評論社

【参考図書】

・高橋 征義, たのしいRuby 第3版, ソフトバンククリエイティブ

・大角 祐介, 新しいLinuxの教科書, SBクリエイティブ

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2402	ライフデザインⅡ	2年	後期	2	選択	手嶋 慎介

【授業の目的と概要】

自分の生涯にわたるキャリアをライフキャリアという。ライフキャリアについて自分が納得感を持ち、自分の個性を認識しデザイン（設計）することがライフデザインである。この授業では、「自己理解」「社会で求められる人材」について学ぶ。併せて筋道を立てて物事を考えること（論理的思考法）を通して「物事について自分なりに考え、組み立てる力」「コミュニケーション能力」を身につけることを目的とする。授業は座学以外に、グループでの話し合いや発表等の活動（アクティブラーニング）も積極的に取り入れていく。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の確認と、ライフデザインを俯瞰的に捉えるため「必要な視点」「外的キャリアと内的キャリア」等について学ぶ。(提出課題)「後期の行動目標」
第2回	世の中で求められる人材とは	「世の中で求められる人材」について学び、自身の社会人力を確認する。その後、社会人力チェックを行う。
第3回	ロールモデル（憧れ、手本となる人物）を探してみよう	「ロールモデル」について学び、自身のロールモデルを探し、その人物について調べ、まとめる。ロールモデルを考えることで、自分がどの様に生きていきたいかを考える。(提出課題)「私のロールモデル」
第4回	ロールモデルを発表する	第3回で調べた「ロールモデル」について、少人数グループで発表を行い、お互いの人生観を共有する。
第5回	自分にとって大切な価値観とは何か？	自分の価値観（14の労働価値）に優先順位をつける。また、これまでの人生を振り返り、「人生の棚卸」を行うことで、自分の人生がどのように築かれてきたかを明らかにし、今後について考える。
第6回	「私の強み」を見つけよう	自身の「強み」「弱み」について考え、「キャリア・アンカー」を確認する。(提出課題)「私のキャリア・アンカー」
第7回	ライフマネーについて考える	ゲストスピーカーからのレクチャーをもとに「ライフマネー」について学ぶ。自らの「ライフマネー」設計を行う。
第8回	ディスカッションの方法を学ぶ	与えられたテーマをグループで話し合い、結論を出す。話し合いにおける役割、論理的に話し合う手法について学ぶ。
第9回	地域に目を向けてみよう	地域が抱える社会課題（イシュー）について考える。「人口減少」「高齢化」「結婚・出産」「育児」に着目し、課題について自分なりの主張を考える。主張は「三角ロジック」手法を用い、論理的かどうか確認しながら主張を考える。
第10回	チームで活動する（グループワーク）	ある課題に関し、グループで多数決ではなく、コンセンサス（合意、意見の一致）を取り、解答を導き出す。グループ活動を通して、他人と論理的かつ、他人を思いやる話し合う方法を学ぶ。(提出課題)「グループワークの振り返り」
第11回	企画書を書いてみよう1（調べる・集める）	企画書とはどのようなものか。事例を元に学ぶ。次週、与えられたテーマについて企画書を作成するための下調べを各自で行う。
第12回	企画書を書いてみよう2（まとめる）	第11回の続き。企画書の作成と発表の準備を行う。(提出課題)「企画書」
第13回	企画書を発表しよう	第12回で作成した企画書を少人数グループで発表する。グループで一番良かった企画書を元に、話し合いを行い、更に良い企画書にブラッシュアップさせる。
第14回	自己理解と目標設定	Big Five尺度（5因子）を用いて、自分の性格の傾向を把握し、自分の価値観をチェックリストを用いて確認する。
第15回	ミニレポートの作成	まとめとして、授業で確認した自分自身、身に付けたい力を元に卒業までに自分のすべきことをミニレポートにまとめる。(ミニレポート)「卒業までに私のすべきこと」

【授業の到達目標】

自分の価値観や強みを明らかにすることができる。
 「世の中で求められる人材」を理解し、自身の状況を把握した上で、今後、身に付けたい力を明確にすることができる。
 物事を筋道立てて考え、表現することができる。

【事前・事後学習】

事後）授業で扱った「社会人力」「就業力」について自分の将来を考え、伸ばしたいと思う力についてどのようにすれば伸ばすことができるか具体的な行動レベルで考え、行動してください。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポート等は、添削・採点の上で返却します。
 プレゼンテーションは、評価表に基づいてフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

毎回のポートフォリオの書き込みから、授業に対して能動的に取り組んでいるか
 指定された提出物から、自己理解・自らの将来を切り拓く力が備わっていることが見えるか
 ミニレポートを通して、自己理解と将来に向けての目標設定ができてきているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50 (40 授業内で指定した提出物・5回、10 第15回に作成するミニレポート)

【テキスト】

・資料等を授業内で配付

【参考図書】

・授業の中で紹介していく

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
LA3206	高 齢 社 会 論	3・4年	後期	2	選択	中村 教子

【授業の目的と概要】

わが国の高齢化の特徴が説明できる。高齢社会を取り巻く社会問題の発生状況および高齢者に関わる社会問題について理解できる。老人福祉の理念、高齢者支援関係法規、介護保険制度の概要について理解が深まる。高齢者への尊厳を理念に、高齢者特性・生活実態、社会的ニーズ、制度、政策を理解し説明できる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	高齢社会と高齢者を取り巻く社会問題	わが国の高齢化の特徴を理解し、高齢者を取り巻く諸問題を学ぶ。
第2回	高齢者保健福祉の歴史	高齢者保健福祉の歴史（古代から現代）を学ぶ。
第3回	高齢者の特性	高齢者の社会的、身体的、精神的、総合的理解を把握する。
第4回	高齢者支援関係法規	高齢者支援関係法規 老人福祉法、高齢者虐待防止法を学ぶ。
第5回	介護保険 創設、実施後の経緯	介護保険制度 創設の背景、目的、実施等の経緯を学ぶ。
第6回	介護保険 概要	介護保険制度 概要・仕組み等を理解する。
第7回	介護保険 サービス体系	介護保険制度 サービスの体系を学ぶ。
第8回	地域支援事業	地域支援事業について理解を深める。
第9回	地域包括支援センター	地域包括支援センターについて理解する。
第10回	高齢者医療 地域包括ケアシステム	高齢者医療 地域包括ケアについて理解する。
第11回	認知症支援	認知症支援、新オレンジプラン等について学ぶ。
第12回	権利擁護	成年後見制度 日常生活自立支援制度等について把握する。
第13回	高齢者の経済問題	高齢者の年金の概要、経済問題等をつかむ。
第14回	高齢者の住まい	高齢者の住まい 住宅環境、地域環境整備等について理解を深める。
第15回	高齢者支援の方法	高齢者支援の方法と課題について纏める。

【授業の到達目標】

- 1、高齢者の社会的、身体的、精神的、総合的特性を説明できる。
- 2、介護保険、高齢者支援法規等を説明できる。
- 3、高齢者の生活実態、ニーズ、高齢者を取り巻く社会的問題を検討できる。

【事前・事後学習】

- 1、新聞等を読み高齢者の抱える問題を整理し纏める。
- 2、自分の住んでいる地域で行われている高齢者のためのサポート、福祉サービス等を調べ纏める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポートは*翌週フィードバックし全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

- 1、高齢者の心身の特性が説明できる。
- 2、高齢者支援の制度、政策、関連法規、福祉サービス等が説明できる。
- 3、高齢者の実態、高齢者を取り巻く社会問題を分析できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	30	30	なし	課題レポートは翌週全体で共有する機会を持ちます。

【テキスト】

・資料配布

【参考図書】

- ・社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険最新版』中央法規
- ・ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法最新版』ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3214	ジェンダー論	3・4年	前期	2	選択	中島 美幸

【授業の目的と概要】

社会は男と女に異なる役割を期待し、その中で当の男女もそれが当たり前と思い込んでいたりする。このような、社会が作った男女の性別をジェンダーと言う。ジェンダーを作り出し、再生産している社会と文化の構造を明らかにするとともに、ジェンダーの呪縛から、男女ともいかにして自己解放を図るかを考え、差別のない社会の実現を模索することを内容とする。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識の獲得を目標とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	講義概要説明／多様性とエンパワメント	全15回の講義の概要説明。「多様性」「エンパワメント」が意味することを理解する。講義
第2回	作られる「女らしさ」「男らしさ」	ジェンダー再生産の場としての家庭・社会・学校問題を考える。講義
第3回	暴力の根絶	DVやセクハラなどの暴力問題を考える。講義
第4回	「男らしさ」からの解放	性差別社会においては男性も男女平等の恵みを受けていないのであり、いかにしたら男性が「自分らしく」生きられるかを考える。講義
第5回	現在と50年後の日本	50年後の日本の推計から、大きく変貌せざるを得ない日本における男女のありかたを考える。講義
第6回	男女をめぐる国際比較	国際社会における日本の男女平等の現状を確認する。講義
第7回	男女ともに働きやすい社会に	男女ともに、仕事と生活の調和のとれた働き方を探る。講義
第8回	「表現」とジェンダー	「ことば」や「CM」「アート」など、表現に潜む性差別について考える。講義
第9回	恋愛・結婚とジェンダー	ロマンチックラブイデオロギーの陥穽や、結婚や家族をめぐる制度・慣習を考える。講義
第10回	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	女性の「性」の歴史と、性と生殖に関する自己決定について学ぶ。講義
第11回	母になる、父になる、ということ	子育ては女性の役割との決めつけを解消し、「イクメン」「イクボス」との呼称が示すような男性の育児参加を展望する。講義
第12回	性別分業の起源と歴史①世界	人類において性差別がいかにして発生したかを確認する。講義
第13回	性別分業の起源と歴史②日本	日本において性差別がいかにして定着していったかを検証する。講義
第14回	女性解放運動の歴史	差別解消に向けた国内外の長い戦いの歴史を知る。講義
第15回	平等な社会を求めて～世界と日本の今	リアルタイムの新しい動向を確認する。講義

【授業の到達目標】

ジェンダーセンシティブな視点で多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。そして、将来のライフデザインをより明確に描くことができる。さらに、社会に対して主体的に働きかけることができる。

【事前・事後学習】

事前学習としては、新聞やテレビニュースなどで、男女に関する社会の新しい動きに注意しておくこと。事後学習としては、学んだ各回のテーマについて、配布資料を参照しながら、1時間程度さらに詳しく調べる。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験は、解説とコメントを提示します。

【成績評価基準】

社会や個人の中にあるジェンダー問題を分析するとともに、男女差別のない社会についての展望を説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80		20		

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・授業時に紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3218	環境科学	3・4年	後期	2	選択	高木 靖彦

【授業の目的と概要】

人類にとって重要な課題になっている地球環境問題を理解するために、地球環境のしくみを基礎から考えていく。地球環境をシステムとして捉え、大気圏・水圏など各サブシステムの構成・起源・進化、その中で熱や物質の流れといったものを理解し、それらを基に現在問題となっている各種の地球環境問題を考えていく。自然科学の講義ではあるが数式を用いることなく、図表を多用して理解できるように努めていく。成績評価は、原則として期末試験の結果による。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	はじめに、地球環境の時間的スケール、空間的スケール	この科目で考える地球環境の時間的および空間的スケールを確かめる。
第2回	システムとしての地球環境	システムとは何か、地球環境がなぜシステムなのか、そのサブシステムがどのようなものかを学修する。
第3回	固体地球（地圏）の構成	固体地球はどのように調べられるか、その構造がどのようにになっているか、その構造が地表の環境にどう関わっているかを学修する。
第4回	水圏の構成	地球表面付近に存在する水の分布状態、および、水の物理的・化学的性質を学修し、地球環境における水の重要性を考える。
第5回	大気圏の構成	地球大気圏の化学組成・物理的性質を他の惑星や衛星と比較しながら理解し、その形成過程を理解する。
第6回	生物圏の構成	太陽系内の惑星・衛星で地球だけに存在する生物圏の多様性と起源・進化を学修し、地球環境と生物圏の共進化を理解する。
第7回	物の流れ（1）水	生物圏および人間の文明にとって非常に重要な水が、地球環境の中でどのように循環しているかを理解し、流れの重要性を考える。
第8回	物の流れ（2）炭素	生物を構成する有機物の中心であり、地球温暖化問題で重要性を持つ元素・炭素が、地球環境の中でどのように循環しているかを理解し、流れの重要性を考える。
第9回	地球の熱収支	地球が太陽から受取る熱と地球が宇宙に放射している熱のバランスを通して、地球の温度がどのように決まるかを理解する。
第10回	熱の流れ	太陽から光の形で受取ったエネルギーが、地球環境の中でどのように循環し、最終的に宇宙に放出されるかを学修する。その中で、地球環境における熱の流れの特徴を考える。
第11回	温室効果ガスの増加	地球環境の中で熱の流れにおいて重要な役割をしている大気中の温室効果ガスについて理解をし、その濃度が増加していることを学修する。
第12回	地球温暖化の問題	温室効果ガスの増加、過去の気温変化など学修してきた事柄を総合的に捉えることにより、現在問題になっている「温暖化」が真実なのか、原因が何かを考える。また、将来どうなるかを考える。
第13回	オゾン層破壊と酸性雨	地球規模の環境問題の一つである、クロロフルオロカーボンによるオゾン層の破壊と、窒素酸化物・硫黄酸化物による酸性雨の問題を考える。
第14回	地球環境の歴史	ここまで扱ってきた事柄を総合して、地球の誕生以来現在にいたる地球環境の歴史を考える。特に生物圏とそれ以外の地球環境の関係に着目する。
第15回	地球環境と人類の将来	今日のような地球環境問題の根本的原因を探り、地球環境と人類の将来を考える。

【授業の到達目標】

現代人として必要な最小限の科学的知識を習得し、新聞の一面などに掲載された環境問題に関連する記事を読んで、その内容の概要を説明できる。

【事前・事後学習】

資料・ノート等を使って、その週に学修した事を見直し、毎週実施する小テストで自分が提出した解答が適切であったか自己採点を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された各回末の小テストは、原則として次回講義までのオフィスアワーにL棟2階で返却し、次回講義において解説を行う。

【成績評価基準】

与えられたグラフや表に示されるデータの科学的意味を正しく説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	0	0	30（各回末の小テスト）

【テキスト】

・特になし

【参考図書】

・特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3403	企業研究	3年	前期	2	選択	浅野 和也

【授業の目的と概要】

いわゆる先進資本主義国では、企業の活動がその国の経済を牽引しており、同時に多くの人々が企業で働き賃金を得て生活を営んでいます。昨今の企業活動は、グローバル化は当たり前であり、取引相手・競争相手は国内にとどまりません。私たちは、その国の国民であるだけでなく、消費者であり企業の従業員でもあります。この講義では、日本を代表する企業の活動について考察し、働いている人たちへの影響を考えます。そして、企業の活動が社会に対してどのような意味を持つのか、考えたいと思います。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス	授業の計画・進め方などについて解説します。
第2回	コンビニエンスストア セブンイレブン1	セブンイレブンにおけるフランチャイズの歴史について解説します。
第3回	コンビニエンスストア セブンイレブン2	セブンイレブンの物流およびPOSシステムの展開について解説します。
第4回	コンビニエンスストア セブンイレブン3	コンビニエンスストアの24時間営業が社会にもたらす影響について解説します。
第5回	ゲームメーカー 任天堂1	任天堂がどのようにしてゲーム機を開発・販売していくかを解説します。
第6回	ゲームメーカー 任天堂2	任天堂が築き上げたゲーム業界の現状および今後の展望について解説します。
第7回	自動車メーカー トヨタ自動車1	トヨタ独自の生産システムであるトヨタ生産方式について解説します。
第8回	自動車メーカー トヨタ自動車2	トヨタ独自の生産システムであるトヨタ生産方式について解説します。
第9回	自動車メーカー トヨタ自動車3	トヨタ生産方式にもとづいたトヨタの労働実態について解説します。
第10回	日本企業における賃金の特徴	日本における年功賃金から今日の脱年功への取り組みの特徴について解説します。
第11回	日本企業における労働時間の特徴	日本の労働時間の特徴である長時間労働が常態化しているのか解説します。
第12回	賃金・労働時間の国際比較	賃金・労働時間について各種データ等による国際比較を行い、日本の今後の課題について解説します。
第13回	労働問題ー過労死・過労自殺・うつ病	なぜ過労死・過労自殺・うつ病などがなくなるのか、日本企業における働き方をふまえて解説します。
第14回	労働問題ーブラック企業・ブラックバイト	労働のブラック化が社会にもたらす影響について解説します。
第15回	まとめ	これまでの講義の総括をします。

【授業の到達目標】

日本の代表的産業である企業について、特徴と問題点および社会への影響を説明できること。

【事前・事後学習】

テレビ・インターネットのニュースで企業経営に関するものは積極的にチェックしてください。新聞を読む習慣をつけてください。まずは10分で結構です、毎日の習慣として30分をめざしてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

解答例を示し全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

生活の身近にある企業がどのような活動をしており社会に何をもたらしているか、同時に問題点や取り組むべき課題について説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	25	25	0	0

【テキスト】

・なし。プリントを配布します。

【参考図書】

・講義内で紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3404	キャリアデザイン	3年	後期	2	選択	手嶋 慎介 相田 一成

【授業の目的と概要】

就職活動に必要な事項をもれなく提示することを目的とする。授業の目標は以下のとおり。1. 大学から職業社会へのスムーズな移行を図るために必要な知識・スキルについて適切に理解すること、2. 「就職活動」とは何をすることなのか、についてグループ検討や事例検討を通じて様々な考え方に触れ、自身の方向性を見出すきっかけを得ること、3. 大学生が就職活動で最も難しいと考える「自己分析」「面接実技」を体験学習することにより就職活動に自信をもつこと。以上の内容を講義・演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション
第2回	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインに関する概要
第3回	キャリアデザインと就職活動	キャリアデザインと就職活動とは何か
第4回	職業とキャリア	「学生」と「社会人」の相違を考える
第5回	社会の変化と就業	企業間の繋がりと業界の捉え方など、社会の変化を前提とした就業について
第6回	就業に必要な力	社会で必要とされる「力」を知り、どのように伸ばしていくか
第7回	中間のまとめ	ここまでの授業のまとめを行う
第8回	コミュニケーションの構造1	「伝えるということ」の理解
第9回	コミュニケーションの構造2	文章構造の基本理解
第10回	職業社会が求めるコミュニケーション能力1	文章表現と自己紹介書1
第11回	職業社会が求めるコミュニケーション能力2	文章表現と自己紹介書2
第12回	職業社会における基礎的マナー1	職業社会における立ち居振舞い
第13回	職業社会における基礎的マナー2	職業社会で必要とされる面接実技ワーク
第14回	まとめ1	実践的・体験的な学習（就職合宿など）の成果をまとめる
第15回	まとめ2	授業全体のまとめを行う

【授業の到達目標】

具体的には、次の知識・技能を学ぶことを目的とする。

1. 大学から職業社会へのスムーズな移行を図るために必要な知識・スキルについて適切に理解することができる。
2. 「就職活動」とは何をすることなのか、についてグループ検討や事例検討を通じて様々な考え方に触れ、自身の方向性を見出すきっかけを得ることができる。
3. 大学生が就職活動で最も難しいと考える「自己分析」「面接実技」を体験学習することにより就職活動に自信をもつことができる。

【事前・事後学習】

グループによる検討や様々なワークを行うことから、事前の課題（ex. 「自己PR文」、「作文」など）は必ず次回授業までに完成させておくこと。また、課題等は受講生全員に事例として披露する場合がありますので丁寧に作成し、指摘を受けた箇所は次回までに必ず修正しておくこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポート等は、添削・採点の上で返却します。

プレゼンテーションは、評価表に基づいてフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

指定された提出物に、自己理解・職業理解・自らの将来を切り拓く力が備わっていることが窺えるか。

レポート等を通して、自己理解と将来に向けての目標設定ができていくか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	50	0	10（毎回の課題）

【テキスト】

・資料等を授業内で配付する

【参考図書】

- ・(財)全国大学実務教育協会編『実践キャリア考—体験からキャリアを考える』実教出版
- ・愛知東邦大学キャンパスガイド「就職活動」のページ
- ・その他、授業の中で紹介していく

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3405	インターンシップ事前事後指導	3年	前期	1	選択	手嶋 慎介

【授業の目的と概要】

インターンシップ（就業体験）に必要な基本的な常識とマナーなど、実習先職場を確定するために必要な知識・技能を演習形式で習得する。具体的には、実習前にインターンシップの意義と目的・内容、ビジネスマナー、実習の際の留意事項などを学び、各自の専攻、将来のキャリアに関連した実習先を決定する。実習後には、実習の体験を各自でまとめ、報告会・反省会などの体験交流から学び、自らの今後のキャリアについて自己決定する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション 1	講義の進め方、注意事項などを理解し、履修を確定する
第2回	オリエンテーション 2	インターンシップとは何か、実習のルール、手順、心構えを理解する
第3回	ビジネス文書作成 1	実習申込書への記入の方法を理解し、実際に記入することなど
第4回	企業紹介	企業選定に必要な知識・技能について学ぶ
第5回	ビジネスマナー 1	一般社会で必要とされる基礎的なビジネスマナーについて学ぶ
第6回	ビジネスマナー 2	一般社会で必要とされる応用的なビジネスマナーについて学ぶ
第7回	ビジネスマナー 3	実習先で必要とされるビジネスマナーを身につける
第8回	グループ研修	グループにわかれ業界研究を行う
第9回	グループ研修	グループにわかれ企業研究を行う
第10回	ビジネス文書作成 2	自己紹介書への記入の方法を理解し、実際に記入することなど
第11回	ビジネス文書作成 3	日報・実習ノートの記入の方法を理解し、実際に記入することなど
第12回	実習先への事前訪問とその報告について	実習先への事前訪問の方法と、その実施報告までの過程を理解し、実際に開始する
第13回	まとめ	全体のまとめを行う
第14回	実習後の報告について 1	実習後の反省会の準備
第15回	実習後の報告について 2	実習後の報告会の準備

【授業の到達目標】

インターンシップ（就業体験）に必要な基本的な常識とマナーなど、実習先職場を確定するために必要な知識・技能を習得し、自らのキャリアについて自己決定できる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに、次週で扱うテキストのページを読んでくること。

「インターンシップ」の実習先への事前訪問を行うこと。

夏期の「インターンシップ」では、社会人と同様の気持ちで臨む必要があるため、本授業の開講時期より、新聞などから社会の動向をとらえる習慣を身につけること。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポート等は、添削・採点の上で返却します。

プレゼンテーションは、評価表に基づいてフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

インターンシップ（就業体験）に必要な基本的な常識とマナーなど、実習先職場を確定するために必要な知識・技能を習得しているか。自らのキャリア（とくに実習先に関連して）について自己決定できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	25	50	0	25（提出書類）

【テキスト】

・古閑博美編著・手嶋慎介 他著（2015）『インターンシップーキャリア形成に資する就業体験ー』学文社

【参考図書】

・（財）全国大学実務教育協会編・手嶋慎介 他著（2013）『サービス実務入門』日経BP社

・日本インターンシップ学会東日本支部監修・手嶋慎介 他著（2017）『インターンシップ実践ガイド』玉川大学出版部

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
LA3406	イ ン タ ー ン シ ッ プ	3年	前期	2	選択	手嶋 慎介

【授業の目的と概要】

「インターンシップ事前事後指導」の事前指導の後に、一般企業やNPOなど各自で決定した実習先において就業体験をして、各自で立てた目標を達成する。実習内容は実習先によって異なるが、科目共通の実習ノートを用いて、実習先の担当者から指導を受ける。夏期休暇中の2週間前後の実習（標準的には、土、日を挟んで実質10日間）を済ませた後に、実習ノート・レポートの提出をする。「社会で働く」実体験を経験し、自らのキャリアについて自己決定できるようにする。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	事前訪問準備・アポイント	事前訪問準備を行い、実習先にアポイントをとる
第2回	事前訪問	実習先に事前訪問を行う
第3回	実習初日	実習先における初日のオリエンテーションなどに参加する
第4回	実習2日目	2日目の実習を行う
第5回	実習3日目	3日目の実習を行う
第6回	実習4日目	4日目の実習を行う
第7回	実習5日目（中間チェック）	5日目の実習を行う（中間チェック）
第8回	実習6日目	6日目の実習を行う
第9回	実習7日目	7日目の実習を行う
第10回	実習8日目	8日目の実習を行う
第11回	実習9日目	9日目の実習を行う
第12回	実習最終日	最終日として実習を行う
第13回	まとめ	実習内容のまとめを行う
第14回	事後訪問準備・アポイント	事後訪問準備を行い、実習先にアポイントをとる
第15回	事後訪問	実習先に事後訪問を行う

【授業の到達目標】

「社会で働く」実体験を経験し、自らのキャリアについて自己決定できる。

【事前・事後学習】

新聞を読むなど社会の動向に関心を持ち、毎日、実習ノートをまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポート等は、添削・採点の上で返却します。

プレゼンテーションは、評価表に基づいてフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

「社会で働く」実体験を経験し、振り返り、その成果を発表することができるか。

今後の自らのキャリアについて自己決定できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	25（実習ノート）	50	0	25（プレゼンテーション）

【テキスト】

・古閑博美編著・手嶋慎介 他著（2015）『インターンシップ—キャリア形成に資する就業体験—』学文社

【参考図書】

・（財）全国大学実務教育協会編・手嶋慎介 他著（2013）『サービス実務入門』日経BP社

・日本インターンシップ学会東日本支部監修・手嶋慎介 他著（2017）『インターンシップ実践ガイド』玉川大学出版部

子ども発達学科 専門科目

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1101	教職概論(幼・小)	1年	後期	2	必修	今津孝次郎

【授業の目的と概要】

第一に教師の現状を把握するために、教師の歴史をはじめ、教師の服務や身分保障など役割特性の観点から教師の実態を捉える。第二に教師の資質・能力のしくみを明確にする。第三に教師の専門性と研修について検討する。第四に一方では教師教育の制度を概観しながら、他方では教師が育つ幅広い学校環境について解明する。第五に教師の成長をもたらす協働性と教員評価の課題を探る。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	教師の現状－1980年代以降の教育問題と教師への信頼性	1980年代以降の「教師バッシング」の状況を基に、教師への信頼性の低下を解明する。
第2回	教師の役割(1)「教師」と「教員」	あるべき「教師」像の追求と、学校組織内での現実的な「教員」実態とを対比的に検討する。
第3回	教師の役割(2)教師の服務	法規的に定められた教師の服務と、教師に保障された労働条件について概観する。
第4回	教師の歴史－聖職・労働者・専門職	教師の基本的捉え方として、聖職・労働者・専門職という三つの性格を歴史のなかで検討する。
第5回	教師と生徒の関係－権威関係と権力関係	教師－生徒関係は授業だけでなく他の場面でも重要で、権威と権力の観点から再検討する。
第6回	専門職としての教師(1)専門職の要件	現代の教師の捉え方である専門職について、一般的な基本要件を整理する。
第7回	専門職としての教師(2)教師の専門性	教師の専門性について、従来のような羅列主義でなく構造化した内容として捉え直す。
第8回	教師の資質・能力(1)資質・能力の構成	教師の資質・能力の構成を層化して捉え、現在の学校問題を解決しうる力量として理解する。
第9回	教師の資質・能力(2)資質・能力の向上	資質・能力向上の方策として、公的な現職研修だけでなく私的な自主研修にも注目する。
第10回	教師教育制度(1)教員養成	教員養成の制度について、歴史的変遷から外国との比較、最近の改革について概観する。
第11回	教師教育制度(2)現職研修	現職研修の制度的しくみと、具体的な取り組み事例について紹介し、今後の課題を指摘する。
第12回	教師教育制度(3)指導力不足教員の指導改善研修	あまり触れられない指導力不足教員の基本的特徴を明らかにし、改善研修についても報告する。
第13回	教師が育つ学校環境－学校での「出会い」と教師を支援する人々	学校で教師は種々の「出会い」を経験し、多くの人々の支援を得るといった側面に目を向ける。
第14回	教員評価の課題－評価による教師の成長	教員評価については誤解もあるので評価自体を見直し、教師の成長と評価の関係を問う。
第15回	教職に向けたキャリア選択ととしての学校参加の諸機会－学校訪問・「サービス・ラーニング」・授業参観	教師を目指す自己を見つめ直す機会を提供する学校参加の諸方法を紹介する。

【授業の到達目標】

学校教育の質は教師如何に関わると常に言われるほど、人々の教師に対する人々の期待は大きい。昨今の教師批判の世論も実は期待の裏返しと考えられる。そこで、そうした期待に応えるためにも、教師の職務を中心とした実態と専門職としての理念について多面からの確に理解することを通じて、教職への意欲や責任感を培うことができる。

【事前・事後学習】

毎回の授業開始時に一つまたは二つの課題を提示して、授業終了直前に小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習をさらに展開する。次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通すことで事前学習を促す。

【課題に対するフィードバックの方法】

小レポート内容については、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する。

【成績評価基準】

授業に集中することによって、どれだけ「聴く」力を体得でき、自分なりの考えを持つことができるか。毎回提出する小レポートや期末に提出する最終レポートで与えられる現代教育問題についてどれだけ的確に答えることができるか、という点が評価基準である。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	毎回の課題小レポート(30%)、期末最終レポート(60%)	授業への集中的態度－質問や意見、感想の発言など－(10%)	0	0

【テキスト】

・今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波新書

【参考図書】

・参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて随時配布する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1102	保育者論	1年	前期	2	選択	川崎 勝彦

【授業の目的と概要】

保育者へのニーズが高まっている現在、そのニーズの背景を理解しながら、保育者の役割と専門性を中心に総合的な知識を習得し、実際の諸課題を把握する。具体的な内容としては、第一に保育者の役割と倫理について理解する。第二に保育士の制度的な位置づけを理解する。第三に保育者の専門性について考察し、理解する。第四に保育者の組織的協働について理解する。第五に保育者の専門的成長について理解する。講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育者になるとは	職業としてどのような性格や専門性を持ち、保育士の社会的な位置づけを知る
第2回	保育の制度	保育者がどのような法令で規定されているか職務が理解できる
第3回	保育者の専門性と保育者の資格	どのように保育者の資格や免許を取得するのか仕組みを理解する
第4回	保育士・幼稚園教諭の法的根拠	法から見た保育士の職務・資格の特色と、幼稚園教諭の免許状特色を理解する
第5回	認定こども園における保育者	認可幼稚園と認可保育所とが連携して一体的な運営を行う幼保連携を理解する
第6回	保育の専門性と倫理性	社会から信頼される保育者として、専門職としての倫理性を学ぶ
第7回	保育者としての成長	保育者としてのキャリアや発達やメンタルヘルスについて理解する
第8回	保育者の協働	保育という子どもの健全育成を目指す組織として、よりよい保育を目指すことを理解する
第9回	保育者の研修	自己研鑽を基盤として、園内・園外研修から力量や資質の向上を理解する
第10回	子どもの園生活の構造	子どもの自由遊び、グループ活動、テーマのある活動から行事へと生活の構造を学ぶ
第11回	子どもの園生活と保育者のかかわり	食事を中心とした基本的な生活習慣と保育者の関わり方の留意点を理解する
第12回	保護者・地域における子育て支援	子育て環境の変化と、保護者・地域における子育て支援する保育者と内容を体得する
第13回	多文化共生の保育	多文化共生の現実と保育者の役割と、外国籍の子どもの保育を理解する
第14回	これからの保育者の課題、幼保小の連携	社会の変化から子どもたちの育ちを理解し、幼保小の連携への取り組みを学ぶ
第15回	これからの保育者の課題、保育施設以外での保育	放課後児童クラブ、医療現場における保育者の役割と、災害時の保育の在り方を理解する

【授業の到達目標】

社会から信頼される保育者として職業倫理に基づいて「子どもの最善の利益」を最優先に考慮し、専門職としての自覚を持って行動することができる。

【事前・事後学習】

自主的に保育現場や地域の子育て支援の現場に出向き、子ども理解と保護者援助の現状の理解に努める。また、授業内に渡されるプリント等の事前・事後学習に励む。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験は、授業内で配布した資料を基にQ & Aで記入し提出。
 課題に対してレポートなどを書いて提出。
 欠席の場合は原点とし、出席の場合でも態度・貢献度・発言力などを含め評価。
 授業の中で、校外での体験学習を行う。

【成績評価基準】

社会から信頼される保育者となるべく、専門職に就く自覚を持って行動できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	40	20	10	

【テキスト】

・プリントを配布する。

【参考図書】

・必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1103	教育原理	1年	前期	2	必修	今津 孝次郎

【授業の目的と概要】

本授業は大きく六つの柱から成る。第一に人間の発達と教育の原理、第二に教育の思想の歴史、第三に現代の学校の特徴、第四に学校制度の詳細な内容、第五に教師教育、第六に学校と地域との関係、である。これら六つの観点から総合的に検討しながら、現代の学校教育の課題を浮き彫りにする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	教育の意義と目的（1）人間発達と教育	人間の発達過程を概観し、そのなかでの教育の重要性を指摘する。
第2回	教育の意義と目的（2）しつけと教育	習俗としての「しつけ」と学校の影響を受けた「教育」の相違を明確にして子育てを再認識する。
第3回	教育の思想と歴史（1）ルソーと「子どもの発見」	近代教育の出発点ともいえるべき「子どもの発見」について、ルソーの議論に親しむ。
第4回	教育の思想と歴史（2）デューイとモンテッソーリの新教育	20世紀初頭の新教育運動の代表格として、デューイとモンテッソーリの議論に親しむ。
第5回	現代の学校の基本的特徴（1）高度産業社会と学校	高度産業社会の学校が新たに帯びることになった、学歴や学校歴の意味について検討する。
第6回	現代の学校の基本的特徴（2）生涯学習時代と学校	20世紀後半に世界的に広がった「生涯学習」の考え方と、その下での学校改革を検討する。
第7回	学校制度（1）教育課程とカリキュラム	カリキュラムの意味を考えながら、教育課程のしくみと問題、基本的課題を明らかにする。
第8回	学校制度（2）学力の構造	学力に関して子どもと学校の両側面から捉え、評価と査定の見点からも検討する。
第9回	学校制度（3）学校組織と学校評価	組織としての学校をどう評価して改革するかについて、これまでの動向と今後の課題を考える。
第10回	学校制度（4）市場競争主義のなかの学校づくり	近年の市場競争主義の下での学校の実態を解明し、問題点を乗り越える方策を検討する。
第11回	教師教育（1）専門職としての教師の資質・能力	教師を専門職として捉え、その資質・能力をどう理解するかについて総合的に考察する。
第12回	教師教育（2）教員養成・現職教育と資質・能力	教師を育てる教員養成制度と、教師が育つ道筋について現職教育も含めながら考える。
第13回	学校と地域社会（1）学校教育と児童福祉	今日の学校が抱える諸課題は地域の児童福祉の立場とも協働する必要性に着目する。
第14回	学校と地域社会（2）学校を支える諸機関とスクールソーシャルワーク	学校教育を支える幅広い諸機関に目を向けて、新たなスクールソーシャルワーク活動を学ぶ。
第15回	現代の学校教育の課題	学校とその社会環境を包括的に捉えながら、学校の実践的課題について考察する。

【授業の到達目標】

人間の営みである教育についての幅広い視点を理解しながら、教職にとって最低限必要な知識を習得する。とりわけ学校の制度や内容、方法などの原理に関して、歴史的な変遷も踏まえながら、同時に現代の人々が大きな関心を抱いている実際的な教育課題についても具体的に解き明かすことのできる能力を培うことが目標である。

【事前・事後学習】

毎回の授業開始時に一つまたは二つの課題を提示して、授業終了直前に小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習をさらに展開する。次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通すことで事前学習を促す。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

授業に集中することによって、どれだけ「聴く」力を体得でき、自分なりの考えを持つことができるか。毎回提出する小レポートや期末に提出する最終レポートで与えられる現代教育問題についてどれだけ的確に答えることができるか、という点が評価基準である。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	毎回の課題小レポート（30%）、期末最終レポート（60%）	授業への集中的態度一質問や意見、感想の発言などー（10%）	0	0

【テキスト】

・汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房

【参考図書】

・参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて適宜配布する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1104	保育原理	1年	後期	2	選択	後藤 永子

【授業の目的と概要】

養護と保育の一体的な営みである保育の意義と、どのような役割を持つかを学ぶ。保育の歴史と思想、保育制度を中心に講義をする。さらに、保育所保育の歴史と役割、保育所保育指針の保育観と保育の内容と方法、保育士の役割について講義する。また、今日の保育所の課題を取り上げ、保育ニーズの多様化への対応、家庭や地域との連携など、これからの保育所のあり方を学ぶ。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育とは	保育とはどのような営みか理解する
第2回	子どもを理解する	生涯発達における乳幼児時期の意義を学ぶ
第3回	家庭の保育	家庭と保育現場での保育を理解する
第4回	保育の歴史の変遷①「子ども」理解から	保育の歴史の変遷①未熟な大人ではないという意味の「子ども」を理解する
第5回	保育の歴史の変遷②世界の歴史から	保育の歴史の変遷②世界の保育の歴史を学ぶ
第6回	保育の歴史の変遷③日本の歴史から	保育の歴史の変遷③日本の保育の歴史を学ぶ
第7回	子ども観	人間形成の基礎としての乳幼児の育ちを学ぶ
第8回	保育の内容	生活の場としての保育所を理解する
第9回	保育の計画と方法	実践のなかで生み出される保育方法を理解する
第10回	保育者の役割	保育者の専門性としての役割を理解する
第11回	保育の目的と目標	保育の基本的な目的と目標を理解する
第12回	保育所・幼稚園の目的と目標	保育所と幼稚園の違いから保育の目的と目標を理解する
第13回	時代が求める保育のあり方	これからの保育の方向性と問題点を学ぶ
第14回	現代の保育	さまざまな保育から現代の保育を理解する
第15回	まとめ	まとめを行う、どのように保育を実践すべきかを理解する

【授業の到達目標】

保育とは何か、どのように保育を実践すべきか、養護と保育の一体的な営みである保育の意義と、どのような役割を持つかを体得できる。

【事前・事後学習】

日ごろから新聞等で報道された子どもに関する問題等に関心を持って記録や保存をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは添削し、採点が済んだものは、返却する。2回の確認テストは、次週に採点したものを返却し、解説をして、合格点に達しない学生は、再度、同じ内容の確認テストをする。

【成績評価基準】

保育とは何か、どのように保育を実践すべきか、養護と保育の一体的な営みである保育の意義と、どのような役割を持つかを体得できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	20	0	40 (確認小テスト)

【テキスト】

- ・毎回プリントを用意します。
- ・前期「保育内容総論」に使用した保育所保育指針・幼稚園教育要領

【参考図書】

- ・必要に応じて紹介する

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC1201	発 達 心 理 学	1年	前期	2	必修	堀 篤実

【授業の目的と概要】

人の心理を発達という観点から理解し、様々な発達段階での心理的問題について考える力を習得できるようにすることを目標とする。発達に関わる心理学の基礎や教育・保育実践にかかわる心理学の知識を学ぶ。また、人との相互作用を通して子どもが発達していくことを具体的に理解する。生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について学び、教育及び保育との関連について理解を深めるとともに、人生のあらゆる発達段階においても発達可能であることを学習する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	発達心理学とは	発達心理学という学問やこの授業で扱う内容について説明する。
第2回	胎児、新生児の可能性と心の世界	人間の発達の特異性について学び、発達という変化のメカニズムについて理解する。
第3回	初期経験の意味、一貫性と変化性	胎児、新生児の可能性について学ぶとともにこの時期の心の世界についての理解を深める。
第4回	親子関係から見る人間関係	赤ちゃんの泣きやほほえみの発達を通して、情緒や感情の発達の理解を深める。
第5回	愛着の形成・発達	量ではない質と構造の変化について学ぶとともに、発達が増強だけではなく消失・衰退することについて学習する。
第6回	生得的気質と性格の発達	他者の心を知る「心の理論」の発達について学習し、他者の心の理解を促進するものについて理解を深める。
第7回	性役割とその発達	他者から情報と力を引き出す赤ちゃんの特徴として、共同注視や社会的参照について学習する。
第8回	自己認識の広がり	安心・安全装置としての愛着の発達と社会的ネットワークの形成について学習する。
第9回	文化による子ども観及び発達課題の違い	親のしつけや園・学校の教育の働きを考えることにより、社会化としての発達について理解する。
第10回	発達の遅れや気になる行動と障害	心や行動と性差の関係や性的社会化について学習する。
第11回	アイデンティティの獲得	自分の人生を導く指針としての「自己」形成とアイデンティティの獲得について学習する。
第12回	養護性の発達と親の人格発達	「親になる」ことと「親をする」ことについて考え、養護性の発達と親の人格発達について理解する。
第13回	人口問題と発達	少子高齢化社会が心の発達に及ぼす影響について学習し、親子関係や夫婦関係の変革について理解を深める。
第14回	高齢期の発達	加齢に伴う心理発達について学習し、高齢期のからだと心の変化と喪失の受容について理解する。
第15回	まとめ	授業で学習したことの振り返りと筆記試験を実施する。

【授業の到達目標】

人の心理を発達という観点から理解し説明できる。
様々な発達段階での心理的問題について考えることができる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードについて調べる。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、講義後に振り返りを提出します。それは採点され、翌週フィードバックし、全体で共有したほうが良い内容については次回授業の冒頭で紹介します。

【成績評価基準】

人の心理を発達という観点から理解し説明できるか。
様々な発達段階での心理的問題について考えることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20 (毎授業後に提出する振り返りの紙)

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・特になし。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1202	教育心理学	1年	後期	2	必修	堀 篤実

【授業の目的と概要】

幼児および児童の心身の発達および学習の過程について理解し、実践の場で活用できるようにすることを目標とする。効果的な学習を促すために発達、学習、教授、適応・人格、評価などさまざまな視点から基本的な人間理解を深める。その上で、教育実践が有効かつ適切なものとなるように、学級集団の指導、教育評価の方法などを修得する。また障害のある子どもたちの発達過程の理解と、望ましい教育のあり方についても学習する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション（教育心理学とは）	教育心理学という学問やこの授業で扱う内容について説明する。
第2回	発達の諸相と教育	発達の意味とその要因や発達段階について学習し、発達の諸相と教育の関係について理解する。
第3回	学習理論（学習過程）の理解	学習の意味と様式について学び、学習理論や学習過程の理解を深める。
第4回	動機づけと帰属原因	動機づけ意味や働きについて学ぶとともに帰属原因のかかわりについて理解を深める。
第5回	教科の心理と指導	子ども集団の意味を理解し、集団の働きや協力と競争の原理について学習する。
第6回	学級集団の理解と指導	子どもの日常生活における経験と学びの関係について学習する。
第7回	性格形成と教育	子どもにおける遊びの意味について理解するとともに、学びとの関係について学習する。
第8回	適応と機制	性格とその理論について学び、性格形成の機制と要因や教育のかかわりについて理解を深める。
第9回	欲求と不適応	子どもの主体性を伸ばす大人のかかわりについて学習し、主体性の形成と発達援助について理解を深める。
第10回	生活指導と教育	適応の意味と適応機制について学習する。
第11回	障害のある幼児・児童の理解	欲求の意味と発達および、欲求不満の原因と欲求不満耐性の形成について学習する。また、不適応の理解と援助についても学習する。
第12回	評価と測定	知的障害や発達障害など障がいのある幼児・児童の特徴について学習し理解を深める。
第13回	教師とその役割	「気になる子ども」の発達課題に応じた援助やかかわりについて学習する。
第14回	教師の精神保健	評価の意味とその方法について学習する。また、教育における測定の意味とその信頼性や妥当性について学ぶ。
第15回	まとめ	授業で学習したことの振り返りと筆記試験を実施する。

【授業の到達目標】

幼児および児童の心身の発達および学習の過程について理解説明できる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードについて調べる。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、講義後に振り返りを提出します。それは採点され、翌週フィードバックし、全体で共有したほうが良い内容については次回授業の冒頭で紹介しします。

【成績評価基準】

幼児および児童の心身の発達および学習の過程について理解説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（毎授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・特になし。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2203	教育社会学	2年	後期	2	必修	今津 孝次郎

【授業の目的と概要】

前半では教育問題の解明と解決を検討することを目的とする学校臨床社会学の基礎概念を整理する。後半では具体的な教育問題に関するフィールドワークを紹介しつつ、学校を取り巻く社会との関係を分析する。第一に多文化社会の学校、第二に学校いじめと子ども集団、第三に情報メディア社会と子ども、である。

以上をまとめながら、教育問題を解決する学校づくりの課題を指摘する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	社会変化と教育問題－問題解明と問題解決	1980年代を通じて発生し、「教育荒廃」とも呼ばれた諸種の学校教育問題について、時代社会の変化というマクロな視点から解き明かす。
第2回	学校の組織文化（1）学校の多様性	学校の組織文化の概念を提起し、その視点から各学校組織がどれだけ多様であるかを説明する。
第3回	学校の組織文化（2）組織学習と組織文化の変革	学校は組織として学習する側面を指摘し、校内研修を中心として学校の各組織文化がいかに変革しようかの過程を読み解く。
第4回	学校の臨床社会学（1）臨床社会学	臨床社会学の原理についてシカゴ学派に即しながら解説し、デュエイ「学校と社会」が源流であるとの考え方を示す。
第5回	学校の臨床社会学（2）介入参画法	学校臨床社会学の方法的特徴は「介入参画法」であることを提起し、介入参画法の手順について解説する。
第6回	多文化社会の学校（1）学校のなかの異文化	地域の多文化化によって外国人児童生徒が在籍するようになっている現実を紹介し、学校のなかの異文化に注目する。
第7回	多文化社会の学校（2）外国人児童生徒教育	外国人児童生徒教育の目的・対象・方法について、これまでの全国の実績に即しながら整理する。
第8回	多文化社会の学校（3）外国人児童の学力保障の試み	外国人児童生徒の日本での高校・大学進学率が上昇するにつれて、かれらの学力保障が現在の最大の課題であり、日本語学習の仕組みについて解明する。
第9回	学校いじめと子ども集団（1）青年前期の集団といじめ	1980年代から続く「いじめ問題」について、青年前期の発達の特徴の視点から解き明かす。
第10回	学校いじめと子ども集団（2）いじめ言説の諸相	いじめ問題についての世論の多様な受け止め方について、「いじめ言説」として論じる。
第11回	学校いじめと子ども集団（3）子ども中心のいじめ克服の試み	いじめ問題克服の方法について、地域子ども集団と学校内生徒集団の比較から検討する。
第12回	情報メディア社会と子ども（1）メディアと子どもの実態	情報メディアが急速に進化するなかでの「子どもとメディア」の実態を描き出す。
第13回	情報メディア社会と子ども（2）メディアリテラシー	子どもにとって緊急に要請されている「メディア・リテラシー」の意味と意義を明らかにする。
第14回	情報メディア社会と子ども（3）ケータイハンドブック制作の試み	子どもが「自己規律主義」によってみずから「メディア・リテラシー」を培う実践事例を紹介し、その意義を考察する。
第15回	教育問題を克服する学校づくり	以上の具体的諸問題に関する諸議論をまとめながら、教育問題を克服するための学校づくりについて総合的に検討する。

【授業の到達目標】

教育社会学は、教育と学校を統計資料によりマクロな視点から分析する一方、学校や地域のフィールドワークによりミクロな視点からも探究する。本授業では後者の立場に沿いながら、臨床社会学的アプローチを導入して学校のミクロな分析をおこない、そこから学校制度や学校経営にも言及する。こうした議論を通じて、さまざまな教育問題の解明とその解決を考えるうえで、幅広い視点と基礎的知見を習得することができる。

【事前・事後学習】

毎回の授業開始時に一つまたは二つの課題を提示して、授業終了直前に小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習をさらに展開する。次のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通すことで事前学習を促す。

【課題に対するフィードバックの方法】

小レポート内容については、翌週にまとめてフィードバックし、全体で共有する。

【成績評価基準】

授業に集中することによって、どれだけ「聴く」力を体得でき、自分なりの考えを持つことができるか。毎回提出する小レポートや期末に提出する最終レポートで与えられる現代教育問題についてどれだけの確に答えることができるか、という点が評価の基準である。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	毎回の小課題レポート（30%）、期末最終レポート（60%）	授業への集中的態度－質問や意見、感想の発言など－（10%）	0	0

【テキスト】

・今津孝次郎『学校と暴力－いじめ・体罰問題の本質－』平凡社新書

【参考図書】

・今津孝次郎『学校臨床社会学－教育問題の解明と解決のために－』新曜社
 ・その他の参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて随時配布する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2204	教育課程論	2年	前期	2	必修	久野千津

【授業の目的と概要】

教育課程は子どもたちの豊かな発達を保障するために組織された総合的な教育計画である。本授業ではその意味と運用の理解を図ることを目的とする。授業内容は第1に教育課程の基本的な意味を学力や学習指導要領等と関連させながら理解する。第2に教育課程の歴史や諸外国の教育事情を把握する。第3に教育課程をめぐる周辺要素として、個性化教育、総合的な学習の時間、教育評価、授業分析等を取り上げてさらに理解を深める。なお本授業は講義形式で行うが、グループ活動や話し合いを随時取り入れて学習活動の活性化を図る。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	教育課程とは何か	学校教育における教育課程の意義・目的・編成方法について理解する。
第2回	学習指導要領・教育要領・保育指針	教育課程を作成するときの基準になる「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育園保育指針」について学ぶ。
第3回	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷を時代背景や社会的ニーズと対応しながら学ぶ。
第4回	諸外国の教育事情	今後の教育課程を検討するために参考となる諸外国の教育課程の基準の動向について学ぶ。
第5回	新学習指導要領について①	今回改訂された学習指導要領の基本的な考え方について学ぶ。
第6回	新学習指導要領について②	「主体的・対話的で深い学び」について理解し、子どもたちにこの学びをどう獲得させればよいかを考える。
第7回	新学習指導要領について③	「カリキュラムマネジメント」について理解し、各種指導計画の計画・実施・改善について考える。
第8回	新学習指導要領について④	教育内容の改善点である「言語能力の育成」「道徳教育の充実」「外国語教育の充実」などについて学ぶ。
第9回	新学習指導要領について⑤	幼稚園教育要領で明確化された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学ぶ。
第10回	総合的な学習・生活科などと教育課程	小学校入学当初における生活科「スタートカリキュラム」や総合的な学習の「教科横断的な学習」について学ぶ。
第11回	学力と評価	指導と評価の一体化、今授業で行われている評価の観点・評価規準について学び、具体的場面で観点別評価規準を作成してみる。
第12回	教育課程と学校の取り組み	学校教育の目的や目標を達成するために各校が編成している教育課程について学び、簡単な教育課程を作成してみる。
第13回	指導案の作成 ～総合的な学習～	新学習指導要領の意図を反映させた総合的な学習の指導案を作成してみる。
第14回	指導案の作成 ～教科～	新学習指導要領の意図を反映させた教科の指導案を作成してみる。
第15回	テストおよびテストの解説	テストの実施、および、解説を行う。

【授業の到達目標】

教育課程を理解し、新学習指導要領に基づいた授業案を作成することができる。

【事前・事後学習】

指導案や観点別評価規準を作成することを授業に取り入れる。そのため、作成する予定の教科や単元を前時に示し、事前に準備できるようにする。毎回の授業の終わりに授業で学んだことや考えたことを記録し、復習に充てる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された指導案や観点別評価規準について添削・採点の上返却する。

【成績評価基準】

指導案・観点別評価規準・模擬教育課程の作成及び簡単なテストで学習内容が理解できているかを評価する。グループ等での話し合いでの参加状況の評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
25%	50%	25%	0%	0%

【テキスト】

・「小学校指導要領解説総則」文部科学省

【参考図書】

- ・「幼稚園教育要領」文部科学省
- ・「保育所保育指針」厚生労働省
- ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領」厚生労働省

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC2205	保 育 課 程 論	2年	後期	2	選択	鹿渡 よしみ

【授業の目的と概要】

保育の課程を構想していく際の、基本的な理論と技法を具体的に理解することを目的とする。「一人ひとりの子どもが生き生きと主体的に活動し、仲間と共に育ち合える」事を主題とした保育を実践するためには、「子どもが主体となる遊び」を中心とした保育カリキュラムの必要性を理論的に理解する。子どもの発達を見通した保育課程と、長期・短期の指導計画のあり方など、時間軸の変化との関連から捉える事も理解する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と評価について知る。「保育課程」について考える。
第2回	保育課程とは	「保育課程」の定義と位置付けについて考える。
第3回	保育課程の制度	日本の幼児教育の歴史を確認しつつ制度を知る。
第4回	保育課程の諸要素	「保育課程」の編成にあたり諸要素を確認する。
第5回	教育課程と保育課程	「教育課程」と「保育課程」を確認しつつポイントを学ぶ。
第6回	長期指導計画	長期指導計画の作成と留意事項について学ぶ。
第7回	短期指導計画	短期指導計画の作成と留意事項について学ぶ。
第8回	幼稚園の教育課程	幼稚園の「教育課程」について学び、保育課程と評価について考える。
第9回	保育所の保育課程	保育所の「保育課程」について学び、保育計画と評価について考える。
第10回	カリキュラムデザイン	カリキュラムを作成し、理解する。
第11回	海外の保育カリキュラム	海外の保育や教育を調べたり比較したりして、日本の教育・保育について考えてみる。
第12回	子ども観とカリキュラム	「子ども観」について確認をして、カリキュラムに反映する工夫や案を考える。
第13回	子どもの学びとカリキュラム	「子どもの学び」について考える。カリキュラムから、何を大切にしているのかなどを理解する。
第14回	豊かな保育実践にむけて	「豊かな保育」の内容と質について、実践に向けて考える。
第15回	まとめ	授業内容を振り返り、確認をする。復習テストをする。

【授業の到達目標】

保育課程の基本的な理論と実践について理解し、保育課程及び指導計画をデザインするための基礎を身につける。

【事前・事後学習】

事前には、テキストのページから内容に目を通しておく。

事後には、テキストで授業内容の復習と、前回の復習テストを見直して理解を深める。

この科目はテキストを基本としますが、レポートや復習テストも大切にしてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

復習テストは全体で共有し、チェック後に返却します。

【成績評価基準】

保育内容の基本的な内容を理解できているか、保育課程の編成と指導計画を作成するための基礎を習得しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%	50%	10%	0%	0%

【テキスト】

・松村和子 他 『教育課程・保育課程を学ぶ』 ななみ書房

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3206	教育法規	3年	後期	2	選択	中嶋 哲彦

【授業の目的と概要】

日本の教育法規の基本原則と法体系概要を理解し、その意義と問題点を考察する。その際、公教育の基本原則の理解を基礎に、教育法規の歴史的展開を知り、近年における教育制度改革や教育政策の展開と教育法規の連関とその意味を考察する。また、教育法規について考察を深めるために必要な各種ツールや関連する各種情報の収集・利用方法を学習する。さらに、教育裁判、教育改革、学校事故などの事例を素材にし、そこにいかなる問題があるかを発見し、法的・制度論的視点で考察しディスカッション及び口頭で発表する。本科目は講義形式で実施する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	学校と生徒の実態・教育法規の視点から	日本の学校と生徒の実態と課題を知り、教育法規の意義を考える。
第2回	近代公教育制度の成立と展開	近代公教育制度の原理と成立過程を概観しつつ、現行教育法規の基本原則と法体系の構造を知る。
第3回	教育を受ける権利の保障	日本国憲法に定める教育を受ける権利の法的意義を、日本の教育制度の実態や国際教育法規の現状に照らして考える。
第4回	教育費の負担と経済的支援	教育を受ける権利の保障の経済的側面について、教育費の公私負担区分や私費負担の実態に照らして考える。また、経済的困窮層に対する経済支援制度について知る。
第5回	義務教育と中等教育	教育基本法及び学校教育法に定める義務教育の原理と制度について知る。また、中等教育に関する教育法規について知る。
第6回	教育の目的・目標と教育課程	教育基本法及び学校教育法に定める義務教育の目標、各学校の目的、教育目標を概観しつつ、教育課程基準に関する教育法規の概要を知る。
第7回	教科書の検定・採択・使用及び無償給与	教科書の使用義務、検定制度、採択の所在及び義務教育諸学校に関する教科書無償制度を知る。
第8回	教員の職務と身分（養成・採用・研修）	教員の養成・採用・研修に関する教育法規を知る。また、教員の勤務実態と教員法制に照らして、教員の職務と身分保障について考える。
第9回	学校経営及び地域との連携	学校経営における校長及び教員の地位と役割について知る。また、学校運営委員会制度や学校評議員制度を概観しつつ、学校と地域の連携の在り方を考える。
第10回	学校における生徒の地位と教育的処遇	学校における児童生徒の地位と教育的処遇に関する教育法規を知る。その際、学校安全・学校保健に関する教育法規の概要を知る。
第11回	学校の福祉的機能	学校の福祉的機能に関する教育法規の概要を知る。その際、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの他専門職や、児童相談所や医療機関などの他機関及び地域との連携も扱う。
第12回	学校の設置・管理と地方教育行政制度	学校の設置者管理主義・設置者負担主義の意義と制度の実態を知り、公立学校の設置管理に関して地方教育行政制度を知る。
第13回	国の教育政策と教育行政	国の教育行政機関及びその権限と役割について知る。また、教育行政における国と地方公共団体の関係を知る。
第14回	今日の教育問題と教育改革	今日の教育問題を教育法規の視点から考えるとともに、今後における教育改革の課題を考える。
第15回	教育法規をめぐる諸問題と課題の考察	本講義で学んだ基本原則に照らして、日本の教育法規の問題点と課題を考察する。

【授業の到達目標】

日本の教育法規の基本原則を知り、それらが教育制度や教育実践にどのような意味をもち、またそこにはどのような課題があるかを理解する。また、教育法令集や教育判決など、教育法規を学習するための基本的なツールが使えるようになる。

【事前・事後学習】

各回で取り上げる教育法規の概要を、授業前までに「教育小六法」を用いて確認する。各回の学習事項について関連する法令・条項をノートに整理する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に提出するレポートについては、解答例を提示する。最終レポートについては、評価の観点を提示する。

【成績評価基準】

- (1) 日本の教育法規の基本原則を理解しているか。
- (2) 日本の教育制度を教育法規の観点から正しく認識しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
	60%	40% (授業期間中に提出する小レポート及び授業中にディスカッションへの参加)		

【テキスト】

・『教育小六法』2018年版（学陽書房）

【参考図書】

- ・『教育法の現代的争点』（北樹出版）
- ・『テキスト教育と教育行政』（勁草書房）

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3207	教育史	3年	後期	2	選択	吉川 卓治

【授業の目的と概要】

この授業では、近現代日本における教育の歩みを、模索期、成立期、確立期、展開期、戦時期、戦後期の六つに時期区分し講義形式で概説する。模索期では幕末から維新期の動向を扱う。成立期では「学制」から森文政期までを講じる。確立期では第2次・第3次小学校令を扱い義務教育の成立過程を中心に論じる。展開期では大正期の教育改革を説明し、戦時期では国民学校など、戦後期では教育基本法・学校教育法とその下での新学制の成立からその後の展開について説明する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	イントロダクション	授業の目的、概要、到達目標、事前・事後学習、成績評価の基準、評価方法、テキスト、参考文献について概説する。
第2回	武士の学校／庶民の学校－模索期	近世社会の特徴、近世の学校（寺子屋、藩校、昌平坂学問所、塾）についてその特徴を説明する。
第3回	立身出世をめざす教育－成立期（1）	1872年に発布された「学制」の成立過程、理念、内容、特徴および同時期の教育状況を説明する。
第4回	学校なんかいらな－成立期（2）	1879年の「教育令」の制定と教育状況およびその改正について社会や家庭の教育要求の観点から説明する。
第5回	暗殺された文部大臣－成立期（3）	初代文部大臣の森有礼についてその思想と彼の行なった教育改革について学校令を中心に説明する。
第6回	教育勅語の登場－確立期（1）	教育勅語の成立過程と内容について説明する。
第7回	学校・地域・国家－確立期（2）	地方自治制度の整備とそれとともなって1890年に出された第2次小学校令の内容と特徴について説明する。
第8回	義務教育のはじまり－確立期（3）	1900年の第3次小学校令によって成立した義務教育制度の内容と国定教科書制度、教育年限の延長について説明する。
第9回	ゆとりか、学力か－展開期（1）	沢柳政太郎の取り組みを軸にゆとりか学力かをめぐって揺れる教育政策の動向を説明する。
第10回	大正デモクラシーと教育改革－展開期（2）	大正時代に政府によって設置された臨時教育会議での審議内容とそれに基づく教育改革について説明する。
第11回	トットちゃんはどう育ったか－展開期（3）	大正デモクラシーの影響を受けて展開された新学校での実践と思想について家庭や社会の動きを押さえつつ説明する。
第12回	戦争と教育－戦時期	1930年代における戦時体制への移行と教育審議会、教育刷新評議会について説明し、青年学校令および国民学校令の制定とその内容を説明する。
第13回	戦後教育改革－戦後期（1）	1945年の四大教育指令、第一次米対日教育使節団報告書、教育基本法、学校教育法について説明する。
第14回	教育はどう変わったか－戦後期（2）	戦後新教育の展開について説明する。
第15回	試験と試験の解説	試験を行ない、終了後に試験の内容について解説する。

【授業の到達目標】

この授業は、近現代日本教育史をテーマとし、受講者が近現代日本の教育の歴史について基本的な知識および視座を身につけることを目標としている。

【事前・事後学習】

事前学習：1時間程度の時間をかけ毎回の授業内容に対応するテキストの章・節を読んでおく。

事後学習：2時間程度の時間をかけて、授業時にとったメモと教科書を参考に、資料プリントを使って授業の内容をノートに整理する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の小テストは授業時間内に解説し回収したうえで点検して次回返却する。

筆記試験は試験後に解説する。

【成績評価基準】

(1) 近現代日本における教育の歴史的な流れを説明できるか。

(2) 基本的な概念について説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	30	0	0

【テキスト】

・江藤恭二監修『新版 子どもの教育の歴史』名古屋大学出版会、2008年

【参考図書】

・加藤詔士ほか編『西洋世界と日本の近代化－教育文化交流史研究－』大学教育出版、2010年

・久保義三ほか編『現代教育史事典』東京書籍、2001年

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1208	社会福祉概論	1年	前期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

この講義は、社会福祉の歴史を通じて意義や理念を学び、多様な福祉サービスの機能と役割、そして相談援助活動と福祉政策についての理解を深めていくものである。特に社会福祉と呼ばれる政策および援助活動の根底を貫く原理を理解するとともに、その基盤となる知識を習得することが目的である。さらに社会福祉の全体像を把握できるように努めつつ、現代における社会福祉の意義とその役割について、常に保育・児童家庭福祉と結びつけながら学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育・児童家庭福祉と社会福祉	社会福祉と保育・児童家庭福祉の関係を整理する
第2回	私たちの暮らしと社会福祉	現代の社会問題を取り上げ、社会福祉をめぐる動向・課題を考える
第3回	社会福祉の概念と基本理念	社会福祉の概念・基本理念・定義を理解する
第4回	日本の社会福祉の歴史	社会事業前史から今日までの日本の社会福祉の歴史を取り上げる
第5回	欧米の社会福祉の歴史	イギリスの救貧法以降の歴史と、アメリカの福祉制度の歴史を取り上げる
第6回	社会福祉の法制	社会福祉の主な法体系を理解する
第7回	社会福祉のしくみと行財政	社会福祉の行政組織、機関、福祉団体等と利用制度を理解する
第8回	地域の福祉	地域福祉の概念、方法、地域福祉計画、マンパワー、課題等を取り上げる
第9回	社会福祉施設	児童福祉を中心に、社会福祉法人と施設を理解する
第10回	社会福祉の担い手	社会福祉を担う専門職と資格制度、職業倫理を理解する
第11回	ソーシャルワークの技術と方法	ソーシャルワークの理論と倫理、原則、技術を学ぶ
第12回	児童家庭福祉、女性と家族の福祉	児童・家族・女性をめぐる福祉の現状、主な制度と課題を理解する
第13回	障がい者、高齢者、生活困窮者の福祉	障がい者、高齢者、生活困窮者をめぐる福祉の現状、主な制度と課題を理解する
第14回	社会福祉と社会保険	社会保険制度を理解する
第15回	社会福祉のまとめ	社会福祉政策の論点をまとめ、保育・児童家庭福祉との関係を理解する

【授業の到達目標】

1. 現代社会の問題を社会問題として捉えることができる。
2. 社会福祉は、社会問題を解決するために福祉政策として実施されることを理解できる。
3. 社会福祉は、福祉サービスを中心に福祉専門職の活動を通して実施されることを理解できる
4. 社会福祉と保育・児童家庭福祉の関係を理解できる

【事前・事後学習】

1. つねに社会問題に関心を持ち、新聞記事を読む習慣をつけること
2. 教科書をよく読んで事前・事後学習をすること
3. 事前・事後学習課題に取り組むこと
4. 授業で使用した配布資料・レポート・小テスト等はすべてポートフォリオにまとめておくこと

【課題に対するフィードバックの方法】

授業で使用するブリーフレポートは回収後、評価を入れて次回授業時に返却する。小テストは採点后に返却し、模範解答を解説する。

【成績評価基準】

1. 社会問題を自分の関心事として捉えることができること
 2. 福祉サービスの内容を自分の家族や地域の問題をしてとらえることができること
 3. 社会福祉の理念を自分のものとして、自分の言葉で語れるようになること
- 以上を総合評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	20	0	小テスト・提出物・ポートフォリオ 60

【テキスト】

- ・後藤卓郎編『新選 社会福祉』みらい
- ・『保育・福祉小六法』みらい

【参考図書】

- ・授業時に提示

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC1209	社 会 的 養 護	1年	後期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

社会の変化は子どもや家庭、地域社会に大きな影響を与えている。それにより子どもや家族にさまざまな問題が生じ、社会的養護の役割もさらに大きくなっている。この授業では社会的養護のなかの児童福祉施設における養護を中心に家庭養護との比較から理解する。児童養護施設などの児童福祉施設を利用しなければならなくなった子どもたちの背景、養護の内容や方法、養護の体系や制度、援助者に要求されることなど、養護の基本を理解させるとともに、施設内虐待などの養護をめぐる現状や課題についても学ばせる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	社会的養護を学ぶために 学習方法と評価について	社会的養護の授業を受ける上でのオリエンテーションを行う。特に、事前事後学習の方法や施設等への見学・ボランティア活動等への参加方法を説明する。
第2回	保育士と社会的養護	保育と社会的養護の関係を整理しながら、保育士・教職員を目指す学生が社会的養護を学ぶ意義を考える。
第3回	現代の家族と児童養護問題	現代の家族に焦点を当てながら、貧困と格差、孤立化が進行する現代の日本社会が抱える病理が生み出している児童養護問題の本質を理解する。
第4回	社会的養護の基礎概念 ～社会的養護とは何か～	社会的養護で使用する用語や基礎的な概念を把握しながら社会的養護の意味と全体像を理解する。
第5回	社会的養護の原理と子どもの権利	社会的養護の原理を整理しつつ、とりわけ子どもの権利保障と社会的養護についての関係性、関連する政策について学ぶ。
第6回	社会的養護の歴史①近代までの歴史と岡山孤児院	わが国の社会的養護の起源と近代までの歴史を概観する中で、特に岡山孤児院における先駆的な社会的養護実践を紹介する。
第7回	社会的養護の歴史②ホスピタリズム論争と家庭的養護の推進	社会的養護の現代史におけるホスピタリズム論争とともに、「社会的養護の課題と将来像」を取り上げ、施設の小規模化と家庭的養護の推進が求められている現状を理解する。
第8回	子どもを保護する仕組みと社会的養護の機関 ～児童相談所を中心に～	まず、子どもを虐待から保護する仕組みを理解する。そして、社会的養護において重要な役割を果たしている児童相談所における児童相談体制とその役割を学ぶ。
第9回	社会的養護の社会資源 ①児童福祉施設	社会的養護の社会資源として児童福祉施設を取り上げて整理する。
第10回	社会的養護の社会資源 ②児童福祉事業と里親	社会的養護の社会資源として児童福祉事業を取り上げて整理する。
第11回	施設養護の実際 ～児童養護施設・乳児院等のVTR学習～	施設養護の実際について、児童養護施設及び乳児院のVTRや画像を視聴しながら理解する。
第12回	施設養護の構造と実践方法	建物の構造・人の構造・援助の構造・生活の構造など、具体的な施設養護の構造を把握しながらその機能についても学ぶ。
第13回	社会的養護の担い手/レジデンシャルワークと施設内虐待	施設における多様な専門職に加え、里親・ファミリーホーム養育者等の非専門的マンパワーの現状と課題など、社会的養護の担い手について理解する。また、レジデンシャルワークの内容を把握した上で、施設養護の課題として施設内虐待を取り上げる。
第14回	家庭養護の実際と本質 ～里親とファミリーホーム～	里親とファミリーホームの実際について、ビデオや画像を視聴しながら理解する。
第15回	施設養護と家庭養護 / 社会的養護のこれから	里親等の家庭養護に関する制度と実際を把握し、施設養護との比較により家庭養護の特徴を理解する。その上で、これからの社会的養護のあり方を考える。

【授業の到達目標】

1. 社会的養護の仕組みと全体像を理解できる
2. 社会的養護の今日的課題を把握できる
3. 施設養護の原理と構造を理解できる
4. 施設養護と家庭養護の違いと特徴を理解できる
5. 社会的養護の担い手として求められる資質や専門性、倫理観を体得できる

【事前・事後学習】

本授業の事前学習としては、まず、身近な児童養護施設・乳児院・ファミリーホーム等の社会的養護サービスを見学したり、ボランティア活動に参加するなど、各自が休日等を利用して社会的養護の現場と関わる事を望みたい。また、新聞等のマスメディアにおける児童虐待や社会的養護関連の報道についても把握してもらいたい。その上で、授業時間までにはテキストにおける該当する箇所を読み込みながら、分からない部分に下線を引き、関連項目を各自調べた上で授業に臨んでもらいたい。授業後には配布資料やワークシートをポートフォリオに整理して事後学習に役立てること。

また、社会的養護の授業と施設実習は表裏一体的に位置づけられるため、施設実習及び事前事後学習と一体的に学習することが望ましい。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業で使用するブリーフレポートは回収後、評価を入れて次回授業時に返却する。小テストは採点后に返却し、模範解答を解説する。

【成績評価基準】

1. 社会的養護の仕組みと全体像を理解できるか
2. 社会的養護の今日的課題を把握できるか
3. 施設養護の原理と構造を理解できるか
4. 施設養護と家庭養護の違いと特徴を理解できるか
5. 社会的養護の担い手として求められる資質や専門性、倫理観を体得できるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	10	0	小テスト・ワークシート・ポートフォリオ70

【テキスト】

- ・喜多一憲監修・堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護』みらい
- ・『保育・福祉小六法』みらい

【参考図書】

- ・長谷川真人監修『しあわせな明日を信じて』福村出版
- ・『社会的養護とファミリーホーム』福村出版

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1210	児童家庭福祉	1年	前期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

すべての子どもたちがより良く生きていくための福祉について理解する。そして児童虐待、不登校、非行問題など子どもたちの様々な問題について考えていく。そういった子どもの問題を考えるためには、子どもが暮らす家庭のことも考えなければならない。子どもと家族についての視点を持ちつつ、児童福祉の現場での事例などを紹介して児童福祉についての理解を深めていく。以上のような内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	児童家庭福祉を学ぶために/児童家庭福祉の視点	児童家庭福祉を学ぶためにオリエンテーションを行う。講師の経歴と自己紹介を通して児童家庭福祉の実践の一端を紹介する。ストリートチルドレンを取り上げる。
第2回	現代社会と児童家庭福祉	現代の①少子化②子どもの貧困③児童虐待④自死の問題を取り上げる。
第3回	児童家庭福祉の基礎概念	児童家庭福祉とは何かについて、キーワードや社会福祉制度から整理する。
第4回	児童家庭福祉の歴史1 古代から近代までの児童福祉前史と先駆的な実践	日本の児童福祉の歴史として、古代からの前史を踏まえ、戦前の先駆的児童福祉実践までを概観する。
第5回	児童家庭福祉の歴史2 戦後児童福祉の歴史と現状	日本の児童福祉の歴史として、戦後児童福祉現代史を整理する。
第6回	児童福祉の世界史 欧米諸国の歴史	日本の児童福祉に大きな影響を与えているイギリスの児童福祉を中心にその歴史を概観する。
第7回	児童家庭福祉の理念と子どもの権利・国連子どもの権利に関する条約	児童家庭福祉の理念と価値に触れながら、子どもの権利保障に関する歴史を概観し、国連子どもの権利に関する法律を取り上げる。
第8回	児童家庭福祉の法制度1 児童福祉法	児童福祉法の全体像とポイントを整理する。
第9回	児童家庭福祉の法制度2 児童扶養手当法・母子保健法・母子及び寡婦福祉法など	児童扶養手当法、特別児童扶養手当に関する法律、母子保健法、母子及び寡婦福祉法、児童手当法、児童虐待の防止等に関する法律等を取り上げる。
第10回	児童家庭福祉の実施体制	児童家庭福祉の実施体制の全体像を整理するとともに、児童相談所について理解する。
第11回	児童家庭福祉の施設と事業	児童福祉施設と児童福祉事業を取り上げて整理する。
第12回	保育・児童健全育成・一人親家庭福祉・母子保健のサービス	保育サービス、児童健全育成サービス、一人親家庭福祉サービス、母子保健サービスを取り上げて整理しながらその実際の一旦を知る。
第13回	社会的養護・障害児福祉のサービス	社会的養護サービス、障害児福祉サービスを取り上げて整理しながらその実際の一旦を知る。
第14回	児童家庭福祉の仕組みと財源・児童家庭福祉の担い手	2015年度からの新制度を含む措置制度から利用契約制度への移行を概観して整理するとともに、児童福祉の仕組みと財源を学ぶ。また、児童福祉の担い手と資格制度を取り上げる。
第15回	まとめと到達度の確認	全体のまとめと到達度の確認を行なう。

【授業の到達目標】

- 今日の児童問題を体感的に理解できる
- 児童問題の本質を理解できる
- 児童福祉史の概観と、優れた先駆者たちの実践を知ることができる
- 児童家庭福祉の仕組みと法制度及びサービスの全体像を理解できる
- 児童家庭福祉援助者としての正しい理念と価値観を身につけることができる

【事前・事後学習】

子どもと家族に関する問題に関心を持ち、児童福祉施設等の見学やサービス・ラーニングに参加することによって子どもと関わり、できるだけ実践現場に触れながら児童家庭福祉への意識を高め、実践的な学習姿勢を身につけておくこと。毎授業までに該当するテキストを精読して分からない部分に下線を引いておくこと。授業後には配布資料等をポートフォリオに整理して事後学習に役立てること。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業で使用するブリーフレポートは回収後、評価を入れて次回授業時に返却する。小テストは採点后に返却し、模範解答を解説する。

【成績評価基準】

- 今日の児童問題を理解できるか
- 児童問題の本質を理解できるか
- 児童福祉史の概観と、優れた先駆者たちの実践を知ることができるか
- 児童家庭福祉の仕組みと法制度及びサービスの全体像を理解できるか
- 児童家庭福祉援助者としての正しい理念と価値観を身につけることができるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	10	0	小テスト・ワークシート・提出物・ポートフォリオ 90

【テキスト】

- 『保育福祉小六法 2017年度版』 みらい
- 喜多一憲監修・堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ボックス 児童家庭福祉』

【参考図書】

- 授業内で紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1211	保育内容総論	1年	前期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	後藤 永子

【授業の目的と概要】

幼稚園・保育所の保育の基本と保育内容を理解する。保育と保育内容、保育の構造を学び、保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容と方法について理解する。また、保育課程と教育課程、その指導計画も理解する。さらに、保育内容の展開と、保育現場と小学校との接続についても理解し、保育の多様な展開についても学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育内容とは	保育内容とは、園の保育の目標に向けて展開されるすべてを意味し、その時代やその場所の子どもの生活への願いが具体化されたものである
第2回	保育の構造と保育内容	保育は計画の層と実践の層、そして評価の層から成り立っており、未来に向かって往還している
第3回	子どもの発達を援助すること	保育の基本は保育内容をつくり上げる相手である子どもをいかに保育者が理解することである、さらに子どもは発達・成長する存在である
第4回	個と集団の発達と保育	個の発達と集団の発達は相反するものではなく、個の発達が集団の発達に繋がる
第5回	保育することと子どもの生活	子どもが主体となり遊ぶことが生活であり、援助することが保育者である
第6回	保育所の保育内容の展開	保育所では環境を通して、養護と教育を一体的に行うことを特性としている
第7回	幼稚園の保育内容の展開	幼稚園では幼児が環境とかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものである
第8回	保育所保育指針における保育内容と保育の方法	保育所における保育の方法の特色は保護者に関わる事項が入っていることである
第9回	幼稚園教育要領における保育内容と保育の方法	幼稚園では、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものである
第10回	家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育	保育所・幼稚園独自の生活の仕方と小学校独自の生活の仕方が、連続としてとらえる必要性が重要である
第11回	教育課程・保育課程と指導計画	子どもの自発性や主体性を大切にするとともに、保育者が計画的に保育を展開するものである
第12回	特別な支援を必要とする子どもの保育と、健常児とのかかわり	一人ひとりを大切に、ともに育ち合う保育のあり方を理解する
第13回	保育内容の歴史の変遷と、これからの保育	地域全体で保育を支えるレッジョ・エミリアの活動から、これからの保育を学ぶ
第14回	多文化共生の保育	特別な対応を必要とする子どもにとって、ふさわしい生活が送れる場であり、母国の文化を大切にする
第15回	まとめ	幼稚園・保育所の保育の基本を理解する。保育の構造を確認する

【授業の到達目標】

幼稚園・保育所の保育の基本と、保育内容の全体的な構造を理解し、展開することができる

【事前・事後学習】

保育所や幼稚園への自主実習(ボランティア)から子ども理解と、保育者の援助を理解する。授業終了時に出されるテキストのページを熟読し、小レポートをつくり提出する

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは添削し、採点が済んだものは、返却する。2回の確認テストは、次週に採点したものを返却し、解説をして、合格点に達しない学生は、再度、同じ内容の確認テストをする。

【成績評価基準】

幼稚園・保育所の保育の基本と、保育内容の全体的な構造を理解し、展開することができるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	20	0	60(確認ミニテスト)

【テキスト】

- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」<平成29年度告示>フレーベル館
- ・「保育所保育指針」<平成29年度告示>フレーベル館
- ・「幼稚園教育要領」<平成29年度告示>フレーベル館

【参考図書】

- ・適宜、紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3301	発達障害論	3年	前期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	堀 篤実

【授業の目的と概要】

発達障害の特徴を理解するとともに、個々の特徴に合った支援方法を身につけることを目標とする。近年、社会的に関心の高まりがあるものの、周りが気づきにくい、周りから気づかれにくい「発達障害」である自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動性障害などについて学習する。概念の変遷などこれまでの流れや障害の気づきに必要な内容を扱うとともに、実践にとっても大切であると考えられる事柄を扱い、支援に必要となるスキルを修得する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	発達障害の概念	発達障害の概念やこの授業で扱い内容について説明する。
第2回	心理学的アセスメント	心理学的アセスメントを学習し、知識と技術を習得する。
第3回	自閉スペクトラム症の特徴(1)(認知特性)	自閉スペクトラム症の特徴である認知特性についての理解を深める。
第4回	自閉スペクトラム症の特徴(2)(パニック)	自閉スペクトラム症の特徴であるパニックについての理解を深める。
第5回	自閉スペクトラム症の特徴(3)(身体感覚など)	自閉スペクトラム症の特徴である身体感覚などについての理解を深める。
第6回	自閉スペクトラム症の支援	自閉スペクトラム症の効果的な支援についての理解を深める。
第7回	学習障害(LD)の特徴	学習障害(LD)の特徴についての理解を深める。
第8回	学習障害(LD)の支援	学習障害(LD)の効果的な支援についての理解を深める。
第9回	注意欠陥多動性障害(ADHD)の特徴	注意欠陥多動性障害(ADHD)の特徴についての理解を深める。
第10回	注意欠陥多動性障害(ADHD)の支援	注意欠陥多動性障害(ADHD)の効果的な支援についての理解を深める。
第11回	発達障害児の自己理解と心のケア	発達障害児の自己理解への配慮と心のケアについて学習する。
第12回	発達障害の親の受容と心のケア	発達障害の親の受容の心理的变化と心のケアについて学習する。
第13回	環境と発達	発達障害における環境と発達にかかわりについて理解を深める。
第14回	ソーシャルスキルトレーニング	ソーシャルスキルトレーニングを理解しその手法を習得する。
第15回	まとめ	まとめの試験を実施し、その後に試験の解説を行う。

【授業の到達目標】

発達障害の特徴を理解するとともに、個々の特徴に合った支援方法を身につける。

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードについて調べる。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、講義後に振り返りを提出します。それは採点され、翌週フィードバックし、全体で共有したほうが良い内容については次回授業の冒頭で紹介しします。

【成績評価基準】

発達障害の症状や個性の特徴を理解しているか。

発達障害の症状や個性に合わせた効果的な支援を修得しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20 (毎授業後に提出する振り返りの紙)

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・特になし。

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC1302	子 ども の 保 健 I A	1年	前期	2	選択	安本 卓也

【授業の目的と概要】

子どもの心身の発育・発達、生活、家族や社会とのつながりについての基本的知識を身につけ、保健の意義を理解することができることを目標とする。子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。また、子どもの身体発育や生理機能および運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。さらに、現代社会における子どもと家族を取り巻く環境を理解するとともに、地域における保健活動について学ぶ。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション、子どもの健康	本授業の内容の概略、到達目標、事前・事後学習、成績評価等について、オリエンテーションを行う。子どもおよび健康の定義を理解し、子どもの健康とは何か、保健の意義とは何かを考え意見交換する。
第2回	発育の原則、身体発育	ヒトの発育の原則について学習する。乳児期・幼児期・学童期・思春期における身体発育（体重、身長、頭囲等の発育）を理解する。
第3回	感覚・運動機能、内分泌機能	感覚機能（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚覚）の発達と、原始反射、姿勢および手先の微細運動の発達を理解する。また、内分泌機能について学習する。
第4回	精神機能、睡眠	知的機能、言語機能、情緒・社会性の発達を理解し、精神機能の評価法について学習する。また、睡眠の必要性と子どもの睡眠の特徴について理解する。
第5回	呼吸、循環	生命を維持する呼吸・循環について学ぶ。胎児循環、出生後の循環変化、呼吸機能の発達について理解する。
第6回	体温、免疫	体温調節機能の発達を理解する。また、体内に侵入する異物より生体を守るしくみ（免疫）について学習し、子どもの免疫の特徴を理解する。
第7回	栄養	摂食機能および消化機能の発達について理解する。日本人の食事摂取基準と食事バランスガイドについて学習し活用する。
第8回	食生活	現代における子どもの食生活の実態を知り、その課題について考える。わが国における食育の推進について理解する。
第9回	排泄、清潔	子どもの水分代謝の特徴を理解する。また、排尿・排便機能の発達について理解する。さらに、衣類の役割や清潔の必要性について考える。
第10回	胎児・新生児	受精、胎児の発育を理解する。新生児の特徴についても学習する。
第11回	妊娠・分娩	妊娠の成立、妊娠中の生活、妊娠期間について理解する。また分娩の経過に影響する産道・娩出力・胎児とその付属物について学習する。
第12回	子どもと家族を取り巻く社会	乳幼児とその家族の発達課題を理解する。また、統計資料や研究結果を用いて、子どもと家族を取り巻く社会の現状、児童虐待の現状について学習する。
第13回	地域における保健活動	母子保健法に基づいて実施される事業（健康診査、保健指導、療養援護、医療対策等）を理解する。また、わが国における国民健康づくり運動について学ぶ。
第14回	まとめ1（小テスト・解説）	小テストを実施し、解説を行う。
第15回	まとめ2（全体のふりかえりと課題の確認）	子どもの保健 I Aの総まとめを行う。また、同 I Bに向けた課題について確認する。

【授業の到達目標】

子どもの心身の発育・発達、生活、家族や社会とのつながりに関する基礎的知識を身につけ、保健の意義について説明することができる。

【事前・事後学習】

健康に関する出来事に注目すること、自分自身の生活習慣を振り返ること、子どもと接する機会をもつことにより、日ごろから子どもの保健に関心を寄せる。毎授業前までに、授業で扱う内容のテキストの部分を読んでくること。授業後はテキストや配布資料を用いて授業内容について調べること。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義の最初にこれまでの学習内容や課題に関する小テストを実施し、その結果を踏まえて資料等で提示する。

【成績評価基準】

子どもの心身の発育・発達、生活、家族や社会とのつながり等、子どもの保健に関する基礎的知識について説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	30	20	0	0

【テキスト】

・佐藤益子編著、子どもの保健 I、ななみ書房

【参考図書】

・薄井坦子、看護のための人間論 ナースが視る人体、講談社
 ・高野 陽ほか、母子保健マニュアル、南山堂
 ・中野綾美編、小児の発達と看護、メディカ出版

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1303	子どもの保健 I B	1年	後期	2	選択	堀 篤実 (1～5回) 安本 卓也 (6～15回)

【授業の目的と概要】

子どもに多くみられる疾病や事故の特徴を知り、保育現場における適切な予防や対応ができることを目標とする。子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。また、子どもの疾病とその予防や対応を具体的に学習する。子どもの精神保健とその課題について理解し、子どもとの関わりを修得する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	生活環境と精神保健	子どもの生活環境として、家族関係や文化・教育環境、社会環境の側面から子どもの精神保健について学ぶ。
第2回	発達と精神保健 (1) 乳幼児期の心の発達と精神保健	乳幼児期の発達の特徴と心の健康や問題行動について学ぶ。
第3回	発達と精神保健 (2) 幼児期の心の発達と精神保健	幼児期の発達の特徴と生活習慣に表れる問題や行動に表れる問題について学ぶ。
第4回	発達と精神保健 (3) 学童期の心の発達と精神保健	学童期の発達の特徴と不登校やいじめ問題について学ぶ。
第5回	精神保健のまとめ	精神保健の学びの振り返りとまとめの試験を行う。
第6回	子どもの健康状態の把握	子どもの健康を把握する意義とその方法について学ぶ。また、痛みや発熱等、日常にみられる症状を理解する。
第7回	子どもの疾病 (1) 感染症	感染とはなにか、感染成立の3要素について学習する。主なウイルス感染症、細菌感染症の特徴について理解する。
第8回	感染予防	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、学校保健安全法、予防接種法について学び、出席停止の期間や予防接種について理解を深める。また、食中毒の予防について理解する。
第9回	子どもの疾病 (2) 先天異常や障がい	遺伝子病・染色体異常、神経系疾患、内分泌・代謝性疾患等の特徴を理解する。先天異常や障がいをもつ子どもとその家族の看護について考える。
第10回	子どもの疾病 (3) アレルギー疾患	アレルギー疾患の特徴を理解する。また、皮膚の疾患、消化器疾患の特徴について学習する。慢性期の子どもとその家族の看護について考える。
第11回	子どもの疾病 (4) 呼吸器疾患、循環器疾患など	呼吸器疾患、循環器疾患、悪性新生物等の特徴を学習する。また、乳幼児突然死症候群について理解する。わが国における子どもの死亡原因の特徴を知り、終末期の子どもとその家族の看護について考える。
第12回	事故防止と安全管理	子どもに多い事故とその予防、一次救命処置の意義とその方法について理解する。保育現場における安全管理について学習する。
第13回	環境・衛生管理	保育環境の意義について考え、保育現場における自然環境および屋内・屋外施設の衛生管理について学習する。日常の清潔保持や消毒の意義とその方法を理解する。
第14回	施設等における保健活動	子どもや家族、多職種との連携について学習し、健康及び安全の実施体制に関する理解を深める。
第15回	まとめ	筆記試験を実施し、その後に試験の解説を行う。

【授業の到達目標】

子どもに多くみられる疾病や事故の特徴を知り、保育現場における適切な予防や対応ができる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに、授業で扱う内容のテキストの部分を読んでおくこと。授業後はテキストや配布資料を用いて授業内容について調べること。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。筆記試験は、解説とともに解答例を提示します。」

【成績評価基準】

子どもの疾病や事故の特徴を理解し、適切な予防や対応を説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	0	40	0	10 (毎授業後に提出する授業の振り返り)

【テキスト】

・佐藤益子編著、子どもの保健 I、ななみ書房 (子どもの保健 I Aより継続して使用する)

【参考図書】

・鴨下重彦・柳澤正義監修『こどもの病気の地図帳』講談社
 ・田中哲郎『新子どもの事故防止マニュアル』診断と治療社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2304	子どもの保健Ⅱ	2年	前期	2	選択	安本卓也

【授業の目的と概要】

子どもの健康および安全に係る保健活動の計画および評価について学ぶ。子どもの疾病とその予防および適切な対応について具体的に学ぶ。緊急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。現代社会における心の健康や地域保健活動についての理解を深める。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育における保健活動	保育における保健活動と実際の取り組みを理解する。
第2回	子どもの保健と環境	子どもの健康増進に望ましい保育環境を理解する。
第3回	子どもの発育の評価（身体の測定）	子どもの身体測定法の意義と実際の方法を学習する。
第4回	子どもの発育の評価（精神発達の評価）	子どもの精神発達の評価の意義と実際の方法を学習する。
第5回	乳幼児の養護1（抱っこ・おむつ交換・授乳）	乳幼児の養護について、抱っこ・おむつ交換・授乳の方法を演習する。
第6回	乳幼児の養護2（沐浴）	乳幼児の養護について、沐浴の方法を演習する。
第7回	乳幼児の養護3（沐浴）	乳幼児の養護について、沐浴の方法を演習する。
第8回	保育における看護1（発熱・咳）	保育における看護について、発熱・咳のときの症状の観察と対処法について演習する。
第9回	保育における看護2（下痢・嘔吐・脱水）	保育における看護について、下痢・嘔吐・脱水のときの症状の観察と対処法について演習する。
第10回	感染症の予防と対策（効果的な感染予防行動）	感染症の予防と対策について、感染について学習し、対応と予防法について演習する。
第11回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応（エピペンの使用方法）	個別な配慮を必要とする子どもへの対応について、熱性けいれん・てんかん、アレルギー性疾患、心疾患、腎疾患、内分泌疾患への症状の理解と対応について演習する。
第12回	子どもに起きやすい事故の応急処置1（ショック・出血と止血・外傷・骨折等）	子どもに起きやすい事故の応急処置について、ショック・出血と止血・外傷・骨折等について起こりやすい環境とその対応法を演習する。
第13回	子どもに起きやすい事故の応急処置2（異物の誤飲・痙攣・熱中症）	子どもに起きやすい事故の応急処置について、異物の誤飲・痙攣・熱中症の起こりやすい環境とその対応方法について演習する。
第14回	子どもの救命救急法	子どもの救命救急法について、気道確保、人工呼吸、心マッサージを演習する。
第15回	災害への備えと危機管理	災害への備えと危機管理について、実際の取り組みを理解する。

【授業の到達目標】

子どもの保健活動の知識や技術を身につけ、表現することができる。

【事前・事後学習】

事前学習：テキスト『子どもの保健Ⅱ』を使用し、次週の授業内容について予習してくる。

事後学習：子どもの健康や保健活動について日頃から関心を寄せ、授業内容を復習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

実技試験を課し、学生間での評価を通して課題を明確にし、そこでのポイントを講義や資料により提示していく。

【成績評価基準】

保育における保健活動とその実際の取り組みについて説明できる。乳幼児の養護について、その援助方法について実施できる。保育における看護について、子どもの症状と実際の対処法が説明できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	20	50	0

【テキスト】

・佐藤益子編著：『子どもの保健Ⅱ』，ななみ書房

【参考図書】

・高野陽 加藤則子 加藤忠明 松橋有子編著：『新保育ライブラリ 子どもを知る 小児保健[新版]』，北大路書房

・厚生労働省編：『保育所保育指針解説書』，フレーベル館

・山元恵子監修：『写真でわかる小児看護技術』，インターメディカ

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3305	子どもの食と栄養	3年	前期	2	選択	石山 絹子

【授業の目的と概要】

人間が望ましい生活習慣を身につけることにより、健康を保持・増進することができる。発育・発達のみられる小児期に望ましい生活習慣を身につけることは、将来の健康状態を左右する重要な課題である。しかし、その生活習慣の根幹を成す食生活についても考えて見ると、小児の食生活の現状は必ずしも望ましいものばかりとはいえない。この授業では小児の望ましい食生活を支えることを目的として、栄養に関する基礎的な知識、子どもの食生活の現状とあり方について学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	はじめに	授業内容や評価に関する説明を行い、どんなことを学んでいくのか確認する。第1回からテキストを使った講義に入るため、用意しておくこと。
第2回	子どもの健康な生活と食生活の意義	生活習慣病や現代の子どもの食生活の問題点を確認し、小児期から好ましい食習慣を身につけることの意義を学ぶ。また、体格指数の計算を行い、食生活の問題点を考察する演習を行う。
第3回	子どもの発育・発達	子どもの発育や発達に関して学ぶ。発達段階ごとに栄養形態が変化することから、身体的・精神的発達に合った栄養を行うことの必要性を確認する。
第4回	栄養に関する基礎的知識（糖質・脂質・たんぱく質）	炭水化物・脂質・たんぱく質の化学的特徴、体内での役割（消化・代謝）、摂取について学ぶ。また、食事摂取基準に関する演習を行う。
第5回	栄養に関する基礎的知識（ビタミンなど）	無機質・ビタミンの化学的特徴、体内での役割、摂取に関することを学ぶ。また、栄養価計算の演習を行う。
第6回	妊娠・授乳期の食生活	妊娠期・授乳期の食生活の特徴や留意点について学ぶ。
第7回	乳児期の食生活（母乳栄養と人工栄養）	母乳栄養の意義や留意点、人工栄養の栄養的特徴、食物アレルギーについて学ぶ。また、3種類の調製粉乳を試飲する演習を行う。
第8回	乳児期の食生活（離乳食）	離乳期の栄養や離乳食の形態・味の変化を学ぶ。また、3種類の離乳食を試食する演習を行う。
第9回	ビデオ教材による学習（胎児の発育・離乳食）	胎児の発育や離乳食についてビデオ教材を用いて視覚的に、より詳細に学ぶ。ビデオ内容はプリントの設問に応じて記録を行う。
第10回	幼児期の食生活	幼児期の食生活の特徴について学ぶ。また、食事バランスガイドを用いて自らの食事について評価する演習を行い、好ましい食事バランスや、食事内容の評価方法について学ぶ。
第11回	学童期の食生活	学童期の食生活の特徴について学ぶ。また、食育を行う場合の教育媒体として、食や食生活に関するカルタを作る演習を行う。
第12回	子どもの疾病と食生活	小児期の疾病や、各疾病における食生活での留意点を学ぶ。食物アレルギーについて再度確認し、食物アレルギー児への対応について学ぶ。
第13回	障害がある小児の食生活	障がいのある子どもの食生活の特徴や留意点について学ぶ。また、えん下助剤を用いたお茶や果汁ジュースを試飲する演習を行う。
第14回	児童福祉施設における食生活	児童福祉施設、および家庭での食事や栄養の留意点について学ぶ。
第15回	まとめ	これまでの講義内容を見直したうえで、試験を行い、学習度・理解度を判断する。

【授業の到達目標】

乳幼児の食生活に関する理解を深め、好ましい食生活について説明することができるようになる。

【事前・事後学習】

次回の授業内容のテキスト該当ページに目を通しておくこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

行われた演習の内容はレポートにまとめ提出する。提出されたレポートは評価を行い返却する。レポートの内容が不十分であり、評価の低いものは修正後、再提出してもよいとする。

【成績評価基準】

提出物より受講態度を、提出物及び試験より理解度を判断し総合的に評価します。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	50	0	0	0

【テキスト】

・飯塚美和子ら著 『最新子どもの食と栄養第8版』 学建書院

【参考図書】

・適宜紹介をします。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3306	家庭支援論	3年	後期	2	選択	荒川 あつ子

【授業の目的と概要】

現代の家庭のニーズは多様化し、その支援も多方面から必要となっているなかで、家庭の意義とその機能について学び、子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。家庭支援の必要性と、保育士等が行う家庭支援についても学ぶ。さらに、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。そのなかには、子育て支援サービス、保育所入所児の家庭や地域の子育て家庭への支援、要保護児童とその家庭への支援、子育て支援の課題も学ぶ。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	本講のねらいと概要	なぜ「家庭支援」が必要なのか、支援の対象や目的について学ぶ。
第2回	家族・家庭の形態と機能	家族・家庭の定義や機能について学ぶ。
第3回	現代社会と家族・家庭の変容	家族・家庭の変容はどのような要因や背景が影響しているのか学ぶ。
第4回	多様な家族・家庭の特徴	様々な形態を持つ家族・家庭の特徴について学ぶ。
第5回	男女共同参画社会とワークライフバランス	男女共同参画社会・ワークライフバランスについて学ぶ。
第6回	子育て家庭の不安・負担感の様相・要因	子育て家庭の不安・負担感やストレスの要因・様相について学ぶ。
第7回	ひとり親家庭への支援	児童虐待の実態とその対応・課題について学ぶ。
第8回	虐待家庭への支援	ひとり親家庭の状況・課題について学ぶ
第9回	特別な配慮を必要とする子どもを持つ家庭への支援	特別な配慮を必要とする子どもを持つ家庭の状況・課題について学ぶ
第10回	支援者の基本的姿勢と役割	家族・家庭を支援する際の基本的姿勢・役割について学ぶ
第11回	家族・家庭を支える法と制度	家族・家庭を支える法と制度について学ぶ。
第12回	家族・家庭を支える機関と施設	家族・家庭を支える機関と施設について学ぶ
第13回	事例を通して	事例を提示し家庭支援の実際を学ぶ。
第14回	今後の家庭支援の課題	今後の家庭支援の課題について考察する。
第15回	まとめ	まとめ・試験を行う。

【授業の到達目標】

1. 現代の家族・家庭の状況を把握できる。
2. 家庭支援の必要性を理解することができる。
3. 家族・家庭を支援する際の基本的姿勢・知識を理解することができる。

【事前・事後学習】

日頃から現代の家族・家庭をめぐる状況に関心や問題意識などをもち、関係する文献や新聞などに目を通し、自ら課題に取り組む積極性を培っておくこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験は解説とともに解答例を提示する。

【成績評価基準】

現代家族・家庭の状況の把握、家庭支援の必要性についての理解、家族・家庭を支援する際の基本的姿勢や知識を習得することができたかどうかを判断の基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60		40		

【テキスト】

・必要な資料を授業のなかで配布

【参考図書】

・適宜紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3307	多文化理解教育	3年	後期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	今津 孝次郎

【授業の目的と概要】

1990年代以降、外国人が集住する地域では、増加する外国につながる子どもの教育への取り組みについて各学校は模索を繰り返してきた。この20年の歩みのなかで、学校適応と日本語学習に関して一定の成果は上げてきたが、国内の高校や大学への進学者が徐々に増えつつある現在、新たな諸課題が浮上している。そこで内容的には、第一に文化や多文化といった基本概念を踏まえる。第二に新たな課題となる学習言語やキャリア教育、多文化共生といった諸問題について具体的に検討する。講義形式で行うが、一方的にならないように、リアクションペーパーに基づく質疑応答も含める。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	グローバル社会の学校が抱える基本問題	グローバル社会がいかなる影響を日本の学校に与えているかについて具体的に検討する。際結婚の増加とともに、日本文違う異文化を抱えた「外国につながる子ども」たちが近隣に多く住んでいる現実を目を向ける。
第2回	移民の増加と外国につながる子ども	移民や国際結婚の増加とともに、日本文化とは違う異文化を抱えた「外国につながる子ども」たちが近隣に多く住んでいる現実を目を向ける。
第3回	文化・異文化・カルチャーショック・多文化	文化とは何かを理解し、異文化同士が出会うときに必ず生じるカルチャーショックの仕組みを検討し、多文化の諸相を明らかにする。
第4回	異文化理解と自文化認識	異文化理解の重要性とともに、同時に自分化認識の側面にも十分な注意を向ける。
第5回	外国人児童生徒教育の20年	1990年代から外国人児童生徒教育が20年以上にわたって取組まれてきた歩みを整理する。
第6回	日本語教室の取り組み	日本語教室の成果と問題点、その変化と現在の課題について具体的に検討する。
第7回	多文化のなかの日本語	日本語の特徴と日本語教育の実践について、多文化の観点から検討する。
第8回	日常言語としての日本語の特徴	日常言語としての日本語の特徴と、その習得過程を検討する。
第9回	学力保障と学習言語	まだ十分に解明されていない学習言語の仕組みを明らかにし、その習得過程を検討する。
第10回	外国人児童生徒のキャリア教育	外国人児童生徒のキャリア教育は手つかずの課題であり、進学と就職、あるいはアイデンティティ形成の側面から検討する。
第11回	多文化保育	多文化保育の歩みと、その諸課題について、保育者の取り組みの観点から指摘する。
第12回	保護者・地域との連携	「外国につながる子ども」の保護者との関係や日本人の保護者との相互関係、さらには地域がどう受け入れるのか、について検討する。
第13回	地域社会の多文化共生	「多文化共生」の意味を明らかにし、各地域での実際の取り組みを眺めながら、グローバル化する地域社会での異文化交流の課題を探る。
第14回	教師の専門性と多文化理解教育	多文化理解教育について、教職志望者や現職教員が専門性向上のなかにかかり込んでいくべきか、を検討する。
第15回	多文化理解教育の課題	これまでの検討結果を総合し、多文化理解教育の課題について考察し、多文化保育や多文化教育の今後の方向性について考察する。

【授業の到達目標】

とりわけ愛知県内の保育所、幼稚園、小学校では必ず外国籍の子どもたちに対する保育や教育が身近な課題となるので、多文化や多文化保育・多文化教育、さらには多文化共生について、その正確な意味をはじめ、これまでの全国各地の実践の歩みを理解するとともに、具体的な取り組み事例を通じてそれらの諸方法と課題を理解する。

【事前・事後学習】

毎回の授業開始時に一つまたは二つの課題を提示して、授業終了直前に小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習をさらに展開する。次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通すことで事前学習を促す。

【課題に対するフィードバックの方法】

小レポート内容については、翌週にまとめてフィードバックし、全体で共有する。

【成績評価基準】

授業に集中することによって、どれだけ「聴く」力を体得でき、自分なりの考えを持つことができるか。毎回提出する小レポートや期末に提出する最終レポートで与えられる多文化保育・教育に関する現代の問題についてどれだけ的確に答えることができるか、という点が評価基準である。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	毎回の課題小レポート(30%)、期末最終レポート(60%)	授業への集中的態度、質問や意見、感想の発言など(10%)	0	0

【テキスト】

・特に指定しない。

【参考図書】

・参考書はそのつど紹介するとともに、参考資料は必要に応じてそのつど配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2308	国語	2年	前期	2	必修	小原 一臣

【授業の目的と概要】

幼児期から児童期への発達をふまえて就学前教育と小学校教育の特徴を理解し、幼保小連携の意義と必要性、課題に関する基礎的な知識の獲得を目指す。保育所保育指針、幼稚園教育要領の「言葉」と小学校学習指導要領「国語」の系統性を把握させる。小学校国語科の3領域1事項の指導計画の立案、発表を通して、国語についての理解を深めるとともに実践的指導力を養う。授業形態は演習とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	就学前教育と小学校教育の特徴を理解し、幼保小連携の意義と必要性、課題に関する基礎的な知識の獲得を目指すことを確認する。
第2回	読むことの指導計画立案（1）文学的文章	低学年の児童を想定し、学習者に最も適した学習活動を展開するための指導計画を立案する。
第3回	読むことの指導計画立案（2）説明的文章	文章の内容を理解し、筆者の考えや意図について、学習者自身の考えをもたせることができるような指導計画を立案する。
第4回	「読むことの指導」のプレゼンテーション	読むことの指導計画を立案する過程での気づきを手がかりにして、学習者中心の授業について考察し、プレゼンテーションをする。
第5回	書くことの指導計画立案（1）生活文	入門期が終了した時期の小学1年生の実態に応じた生活文の指導計画を立案する。
第6回	書くことの指導計画立案（2）報告文	中学年の児童が疑問に思ったことを調べ、報告する文章を書かせるための指導計画を立案する。
第7回	「書くことの指導」のプレゼンテーション	書くことの指導計画を立案する過程での気づきを手がかりにして、学習者中心の授業について考察し、プレゼンテーションをする。
第8回	話すこと・聞くことの指導計画立案（1）話す・聞く	身近なことや経験したことを話題とした低学年における話す・聞くの指導計画を立案する。
第9回	話すこと・聞くことの指導計画立案（2）話し合い	社会事象に関する課題について討論会を実施するという想定で、話し合いの指導計画を立案する。
第10回	「話すこと・聞くことの指導」のプレゼンテーション	話すこと・聞くことの指導計画を立案する過程での気づきを手がかりにして、学習者中心の授業について考察し、プレゼンテーションをする。
第11回	読書に関する指導計画立案	児童自らが進んで読書に取り組む契機となる読書の指導計画を立案する。
第12回	伝統的な言語文化に関する指導計画立案	昔話の語調や語り口を味わいながら、話の面白さを読み取ることができるような指導計画を立案する。
第13回	国語の特質に関する指導計画立案（1）言葉の特徴やきまり	低学年の児童に、助詞「は」「を」「へ」の音と表記の違いに気付かせ、正しく書き表すことを目標とする指導計画を立案する。
第14回	国語の特質に関する指導計画立案（2）書写	姿勢、筆記用具の持ち方、筆順など、文字を書く基礎的事項についての指導計画を立案する。
第15回	学習の振り返り	これまで学習したことを踏まえて、幼保小連携の意義と必要性、課題について再度、考察する。

【授業の到達目標】

幼保小連携の意義と必要性、課題に関する基礎的な知識を獲得する。
 保育指針、教育要領の「言葉」と学習指導要領「国語」の系統性について理解できる。
 小学校国語科の3領域1事項の指導計画が立案できる。

【事前・事後学習】

授業の予習や復習につながる課題に毎回取り組み、翌週までにレポートを提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポートは、授業の際、フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

幼保小連携の意義と必要性、課題に関する基礎的な知識を獲得したか。
 保育指針、教育要領の「言葉」と学習指導要領「国語」の系統性について理解できたか。
 小学校国語科の3領域1事項の指導計画が立案できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	40%	30%	30%	0%

【テキスト】

・必要に応じて資料を配付する。

【参考図書】

・必要に応じて参考図書を紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2309	社 会	2年	前期	2	初等教育コース:必修 幼児教育コース:選択	白井 克尚

【授業の目的と概要】

この授業では、小学校社会科の目的と教育内容についての基礎的理解を深め、教材研究の進め方についての方法論の基礎を習得することをめざしている。授業形態は、小学校社会科学習の目的と教育内容について、グループでの討議や話し合いを通して検討する演習方式である。授業計画は、自分の中にある小学校社会科のイメージを問い直すことから、各学年の目的と教育内容の検討を行い、小学校社会科学習の教材研究を実践的に行うことまでを考えている。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業のオリエンテーションー小学校社会科学習のイメージー	社会の授業計画と全体像についての説明を行う。
第2回	小3・社会科地域学習の目的と内容ー身近な地域や市(区、町、村)ー	社会科における身近な地域や市(区、町、村)に関する学習活動を行う。
第3回	小3・社会科地域学習の目的と内容ー生産や販売ー	社会科における生産や販売に関する学習活動を行う。
第4回	小4・社会科地域学習の目的と内容ー飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理ー	社会科における飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理に関する学習活動を行う。
第5回	小4・社会科地域学習の目的と内容ー県(都、道、府)の様子ー	社会科における県(都、道、府)の様子に関する学習活動を行う。
第6回	小5・社会科国土学習の目的と内容	社会科における国土に関する学習活動を行う。
第7回	小5・社会科産業学習の目的と内容	社会科における産業に関する学習活動を行う。
第8回	小6・社会科歴史学習の目的と内容	社会科における歴史に関する学習活動を行う。
第9回	小6・社会科政治学習の目的と内容	社会科における政治に関する学習活動を行う。
第10回	小6・社会科国際理解学習の目的と内容	社会科における国際理解に関する学習活動を行う。
第11回	小3・社会科地域学習内容への地理学的アプローチ	社会科における地域学習内容への地理学的アプローチにもとづいた、研究実践を行う。
第12回	小4・社会科地域学習内容への歴史学的アプローチ	社会科における地域学習内容への歴史学的アプローチにもとづいた、研究実践を行う。
第13回	小5・社会科国土・産業学習への地理学的アプローチ	社会科における国土・産業学習への地理学的アプローチにもとづいた、研究実践を行う。
第14回	小6・社会科歴史・政治・国際理解学習内容への歴史学的アプローチ	社会科における歴史・政治・国際理解学習内容への歴史学的アプローチにもとづいた、研究実践を行う。
第15回	授業のまとめー小学校社会科授業づくりの意義ー	社会科に関する研究実践の発表と授業のまとめを行う。

【授業の到達目標】

小学校社会科学習の目的と内容について学び、地理学的・歴史学的アプローチを通して、小学校社会科の授業づくりに関わる研究方法の基礎を習得することができる。

【事前・事後学習】

小学校社会の学習指導要領を読み直す。
研究実践の発表準備を計画的に進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された授業の振り返りは、翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

小学校社会の目的と教材内容について説明することができるか。
小学校社会の教材研究や授業づくりに関わる課題について、分析することができるか。
毎回の授業の振り返りを通して、課題について考えることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30	30 (プレゼンテーション)	40 (発表内容)

【テキスト】

- ・原田智仁編『社会科教育のルネサンスー実践知をもとめてー』保育出版社,2016年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社,2000年

【参考図書】

- ・必要に応じて提示する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2310	算 数	2年	前期	2	必修	坂井 武司

【授業の目的と概要】

算数指導における幼児期の経験の重要性を理解するために、源数学の観点から、数理的な遊びの考察を行う。また、算数指導における数学の必要性を理解するために、算数科の5領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の指導内容の数学的背景に関する演習を行う。さらに、算数と数学をつなぐ視点から、算数科の指導内容の本質について考察する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	幼児の遊びの中にある数学	源数学という観点から幼児の遊びを捉えることにより、幼児の遊びの中にある数学と算数科における幼・小接続について考察する。
第2回	算数指導への数学の必要性	算数と数学の違いを考えたり、分数の除法の計算方法を例に算数教材の背景を考えたりすることを通して、算数指導への数学の必要性について考察する。
第3回	「数と計算」領域の内容－自然数・整数－	ペアノの公理に基づいて自然数の加法・乗法の計算をしたり形式不易の原理に基づいて0や負の数の計算をしたりすることを通して、自然数の構成や整数への数の拡張について考察する。
第4回	「数と計算」領域の内容－小数・分数－	分数の四則計算をしたり小数と分数の関係を考えたりすることを通して、分数・小数の表記とその計算の意味や整数から有理数への数の拡張について考察する。
第5回	「数と計算」領域の内容－十進位取り記数法	十進法と二進法による位取り記数法の表記を比較したり十進法を二進法で表す計算方法を説明したりすることを通して、位取り記数法の意味やn進法について考察する。
第6回	「数と計算」領域の内容－筆算－	筆算のしくみを考えたり世界各国の筆算の仕方を試したりすることを通して、筆算の形式に共通する原理について考察する。
第7回	「数と計算」領域の内容－最大公約数－	100までの素数を見つけたり除法の原理に基づいてユークリッドの互除法のしくみを説明したりすることを通して、最大公約数を求める計算方法の意味について考察する。
第8回	「数と計算」領域の内容－奇数と偶数－	奇数と偶数の分類について考えたりカレンダーのしくみを考えたりすることを通して、整数を自然数nで割った余りという観点から整数を分けた剰余類について考察する。
第9回	「測定」・「図形」領域の内容－三角形・四角形の面積－	等積変形や倍積変形を用いて、三角形や四角形の面積を求め方を考えることを通して、量の性質の観点から三角形や四角形の面積について考察する。
第10回	「図形」領域の内容－円の面積－	円の面積を直接測定したり狭み込みや区分求積の考えを用いて求めたりすることを通して、近似値や極限の考えから円の面積について考察する。
第11回	「図形」領域の内容－対称な図形－	行列を用いて平面図形を対称変換させたり立体図形の対称性について調べたりすることを通して、平面図形や立体図形の構成について考察する。
第12回	「図形」領域の内容－図形の敷き詰め－	図形を敷き詰めて模様を作ったりオイラーの多面体定理をもとに敷き詰め可能な理由を説明したりすることを通して、平面図形や立体図形における敷き詰めについて考察する。
第13回	「変化と関係」領域の内容－比例・反比例－	比例や反比例の式やグラフを読み取ったり一次関数や分数関数との関連を考えたりすることを通して、比例と反比例の特徴について考察する。
第14回	「変化と関係」・「データの活用」領域の内容－平均・速さ－	相加平均・調和平均・相乗平均の意味を図的に捉えたり、平均の速さと速度の違いを考えたりすることを通して、微分と積分の観点から速さについて考察する。
第15回	「データの活用」領域の内容－場合の数－まとめ	場合の数を数え上げたり組合せを考えたりすることを通して、順列・組合せの意味や確率との関連について考察する。また、まとめとしてテストを行い、解答例の解説を行う。

【授業の到達目標】

- (1)算数教科書の数学的背景を考察する。
- (2)算数科の指導内容の本質を考察する。
- (3)算数指導における数学の必要性を考察する。

【事前・事後学習】

事前学習(30分)として、授業内容の概要の文の中で分からない用語について調べると共に、テキストの関連するページを読んでおきましょう。
事後学習(60分)として、授業中の演習問題を復習しておきましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の小テストと筆記試験は、模範解答とその解説を行います。

【成績評価基準】

- (1)算数教科書の数学的背景としての基礎的な知識・技能に関する問題を解決できる。(2)算数科の単元の指導内容について、その本質を説明できる。(3)算数指導における数学の必要性を説明できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	0%	10%	0%	30% 毎回の小テスト

【テキスト】

・齋藤昇編『授業に役立つ算数教科書の数学的背景』東洋館出版社

【参考図書】

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版社

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC2311	理 科	2年	前期	2	初等教育コース：必修 幼児教育コース：選択	柿原 聖治

【授業の目的と概要】

身近な自然現象を取り上げ、科学の基本的な概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。実験操作の基礎を身に付け、観察や実験を行い、探究的に考察する過程を重視し、問題解決の能力を身に付けさせる。実験の楽しさ・面白さを体感させる。一人ひとりの受講生が観察・実験を行うという授業形態をとる。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	実験器具の扱い方	ガラス器具の使い方、加熱器具の使い方
第2回	実験器具の基本操作	溶液の調製、ガラス管の折り方、曲げ方、毛細管づくり
第3回	科学の始まり	道具や火の活用、火起こし器を使った実験
第4回	物質の成り立ち	粒子概念、原子・分子の探究、原子の構造
第5回	燃焼と炎	燃える条件（燃焼の3要素）、炎の正体、炎色反応
第6回	燃焼の仕方	炎の出ない燃え方、ススが出る燃焼、炭づくり、水中での燃焼
第7回	空気や色々な気体	空気の成分、水素・酸素・窒素・二酸化炭素の作り方と性質
第8回	水に関する実験	水の電気分解、水の合成の実験
第9回	水の状態変化	スチームクリーナーを使った水の状態変化の実験
第10回	力の概念	力の合成・分解、運動の3法則、てこ・滑車
第11回	大気圧について	パスカルの原理、大気圧のすごさを体験する実験
第12回	水圧について	浮力の実験、噴水づくり、サイフォンづくり、水圧機
第13回	重さ比べ（密度）	アルキメデスの原理、液体の密度の測定の実験
第14回	エネルギーの考え方	位置及び運動エネルギー、振り子の運動、重力加速度の測定
第15回	熱の正体	空気の膨張・収縮、雲づくり

【授業の到達目標】

身近な自然現象を取り上げ、科学の基本的な概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。

【事前・事後学習】

理科の教科書を読み直す

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストの解説を行う。「調べ学習」を学生に課し、レポートとして提出させる。その後、コメントをつけて返す。

【成績評価基準】

実験への取り組み、毎回の小テスト、レポート課題により、総合的に評価する

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	40	0	30 (活動・ものづくりへの取り組み)	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

- ・「小学校学習指導要領解説 理科」文部科学省
- ・現行の小学校の理科教科書
- ・現行の中学校の理科教科書

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1312	生活	1年	後期	2	必修	白井 克尚 (1～5回) 柿原 聖治 (6～10回) 梶浦 恭子 (11～15回)

【授業の目的と概要】

この授業では、生活科の目的と教育内容についての基礎的理解を深め、教材研究の進め方についての方法論の基礎を習得することをめざしている。授業形態は、小学校生活科学習の目的と教育内容について、グループでの活動や体験活動を通して検討する演習方式である。授業計画は、社会系（第1回～第5回 担当:白井克尚）と自然科学系（第6回～第10回 担当:柿原聖治）と環境系（第11回～15回 担当:梶村晴美）の内容についてオムニバス方式（全15回）で、自分の中にある小学校生活科のイメージを問い直すことから、教材研究を実践的に行うことまでを考えている。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	生活科（社会系）の目的と教育内容（担当:白井克尚）	生活科（社会系）の講義計画と全体像
第2回	地域生活に関する生活科の目的と教育内容（担当:白井克尚）	自分と地域の人々、社会とのかかわりについての理解
第3回	公共に関する生活科の目的と教育内容（担当:白井克尚）	公共物や公共施設を利用についての理解
第4回	交流に関する生活科の目的と教育内容（担当:白井克尚）	身近な人々とかかわりや交流についての理解
第5回	生活科（社会系）における教材研究の実践と発表（担当:白井克尚）	生活科（社会系）の研究実践と発表
第6回	生活科（自然科学系）の目的と教育内容（担当:柿原聖治）	生活科（自然科学系）の講義計画と全体像
第7回	遊びに関する生活科の目的と教育内容（担当:柿原聖治）	遊びや遊びに使う物についての理解
第8回	季節に関する生活科の目的と教育内容（担当:柿原聖治）	四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付かせる活動
第9回	飼育栽培に関する生活科の目的と教育内容（担当:柿原聖治）	飼育, 栽培に関する活動
第10回	生活科（自然科学系）における教材研究の実践と発表（担当:柿原聖治）	生活科（自然科学系）の研究実践と発表
第11回	生活科（環境系）の目的と教育内容（担当:梶浦恭子）	生活科（環境系）の講義計画と全体像
第12回	学校生活に関する生活科の目的と教育内容（担当:梶浦恭子）	学校の施設や学校生活を支えている人々についての理解
第13回	家庭生活に関する生活科の目的と教育内容（担当:梶浦恭子）	家庭生活を支えている家族のことや自分でできるについて考えさせる活
第14回	成長に関する生活科の目的と教育内容（担当:梶浦恭子）	動植物が成長していることに気付かせる活動
第15回	生活科（環境系）における教材研究の実践と発表（担当:梶浦恭子）	生活科（環境系）の研究実践と発表

【授業の到達目標】

生活科の目的と教材内容について学び、教材研究の仕方などの小学校生活科の授業づくりに関する基本を理解することができる。

【事前・事後学習】

生活科の学習指導要領を見直す。
研究実践の発表準備を計画的に行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

研究実践の発表は、感想交流を通してフィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

生活科の目的と教材内容について説明することができるか。
生活科の教材研究や授業づくりに関わる課題について、分析することができるか。
毎回の授業の振り返りを通して、課題について考えることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40(授業のコメントシート)	30 (プレゼンテーション)	30 (発表内容)

【テキスト】

・『小学校学習指導要領解説 生活編』（平成29年6月告示 文部科学省）

【参考図書】

・必要に応じて提示する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1313	音楽 I	1年	前期	1	必修	水野 伸子 酒井 国作 鷲見 千鶴子 夏目 佳子 藤田 桂子

【授業の目的と概要】

音楽学習におけるピアノ演奏は、音楽を感得する方法として有効な手段である。単に作品の音楽性を学習・感得するだけでなく、子どもに音楽を指導する際、音楽的な指針・方法を与えてくれる。特に、保育の際、弾き歌いをしたり、リズム表現をしたり、子どもの歌を聴かせたりすることは保育上きわめて重要である。そこで、本演習では、楽典も取り入れながら、子どものための音楽活動を支える基礎技能としてのピアノ技術を学習する。初心者はバイエル教則本修了程度、経験者は様々な音楽作品を通して音楽性を高める。同時に、どうしたら自分の力でピアノ演奏技術を高めるか道筋を示すことにある。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション、進捗調査	講義の概要・注意事項（受講ルール、教室・電子楽器の使い方）について説明する。楽譜と演奏の基本を学習する。学生の個々人の進捗調査を行い、進捗に合わせた選曲する。
第2回	個人レッスン課題・楽典（1）楽譜の基本	初心者はバイエル8番～10番の中から選曲する。正確な拍を習得する。経験者は進捗状況により、バイエル48番或いは83番から始める。ピアノ演奏に必要な楽譜の基本について学ぶ。
第3回	個人レッスン課題・楽典（2）音の三要素	バイエル11番～17番の中から選曲する。スラーを意識したレガート奏法を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。高さや強さについて楽譜での書き方や音名について学ぶ。
第4回	個人レッスン課題・楽典（3）音楽の三要素①	バイエル18番～28番の中から選曲する。左手の和音伴奏、右手のレガート奏法、連指を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。リズム・メロディー・ハーモニーについて学ぶ。16分音符～全音符を理解し、基本の拍子を学ぶ。
第5回	個人レッスン課題・クラス内発表会（人前で表現する）音楽の三要素②	クラス内発表会を行う。互いの演奏を聴きあい感想を書く。書くことで表現を意識化し、ピアノ演奏表現の本質の理解につなげる。付点音符と休符について学ぶ。
第6回	個人レッスン課題・楽典（4）音程と長音階①	バイエル29番～31番の中から選曲する。タイの奏法を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。全音と半音、階名を学び、八長調の音階を理解する。
第7回	個人レッスン課題・楽典（5）音程と長音階②	バイエル32番～43番の中から選曲する。高音域・低音域の奏法を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。単音程に学び、音階の中の音程の関係を理解する。主音・属音・下属音を学ぶ。
第8回	個人レッスン課題・楽典（6）まとめ	バイエル44番～47番の中から選曲する。経験者は進捗に合わせて選曲する。第7回までの内容を総括する。
第9回	個人レッスン課題・楽典（7）派生音と反復記号	バイエル48番～54番の中から選曲する。左の伴奏形や休符、右手の付点のリズム奏法を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。# b ♯ の意味、反復記号を学ぶ。
第10回	個人レッスン課題・クラス内発表会（互いの演奏を聴く）調号と近親調の音階	クラス内発表会を行う。互いの演奏を聴きあい感想を書く。書くことで表現を意識化し、ピアノ演奏表現の本質の理解につなげる。調号の書き方や意味を理解し、音階や移動ト唱法を学ぶ。
第11回	個人レッスン課題・楽典（8）さまざまな楽譜と楽語	バイエル55番～59番の中から選曲する。へ音記号、伴奏形の奏法を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。楽譜に書かれている情報をまとめ、読み方を総括する。
第12回	個人レッスン課題・楽典（9）和音	バイエル60番～66番の中から選曲する。八長調・イ短調、伴奏形の奏法を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。長三和音・短三和音、属三和音を学び、主要三和音を理解する。
第13回	個人レッスン課題・楽典（10）コードネーム①	バイエル67番～72番の中から選曲する。ト長調の音階、3度の重音、6度の連続する重音を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。コードネームの基本を学び、読めるようにする。
第14回	個人レッスン課題・楽典（11）コードネーム②	バイエル73番～78番の中から選曲する。二長調の音階、臨時記号の連指、レガート、左手の小指を保つ奏法を習得する。経験者は進捗に合わせて選曲する。やや複雑なコードネームを学び、簡単なコードは演奏できるようにする。
第15回	個人レッスン課題・クラス内発表会・まとめ	試験を想定して、学習成果をクラス内で発表する。第14回までの内容を整理し総括する。

【授業の到達目標】

初心者はバイエル教則本終了程度、経験者はさまざまな音楽作品を通して音楽性を高めることができる。
保育士・幼稚園教諭・小学校教員として必要な基本的な音楽的能力を高めることができる。

【事前・事後学習】

第1回目の授業に、経験者で楽譜を持っている学生は楽譜を持って来る。初心者や現在楽譜を持っていない学生は、楽譜を持ってこなくてよい。予習・復習がきわめて重要である。特に、毎回の授業に対して必ず練習して臨み、毎回の課題を踏まえて練習を重ねる。自分が弾いている曲のCDなど模範演奏を聴くと参考になる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題（楽典）は添削の上返却して、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。
クラス内発表（ピアノ演奏）は、その時間に全体で課題を共有し表現理解につなげる。

【成績評価基準】

ピアノ曲の課題を理解し、日々練習を重ねることで技術を習得することができるか。
ピアノの基礎的音楽表現力を身に付けて、中間発表・実技試験で発表することができるか。
音楽作品を通して音楽性を高め、自らの力でピアノ演奏技術を上げていけるか道筋を示すことができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
25	0	25	50	0

【テキスト】

- ・『標準バイエル教則本』全音楽譜出版（初心者）
- ・学習進度に合わせた教材を選択する（経験者）

【参考図書】

- ・必要に応じて、ピアノ演奏に関する楽譜・図書を紹介する。
- ・必要に応じて、資料を配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1314	音楽Ⅱ	1年	後期	1	必修	酒井 国作 鷺見 千鶴子 夏目 佳子 久野 明子 藤田 桂子

【授業の目的と概要】

音楽Ⅰの内容に続くものである。ピアノの表現技術は、一朝一夕には身につくものではない。自分で表現していることが聴取者の感性に訴えないことも少なくない。そこで、本演習では、前期に続き楽典の理解を取り入れながら、子どもの音楽活動を支える基礎的な技能として、さらに高度なピアノ演奏技術の習得を目的としている。保育の際、弾き歌いや子どものリズム表現に対応できる基礎的な演奏技術を身につけることや、演奏技術が高まった者には、豊かな表現方法についても学習する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	講義の概要、注意事項（受講ルール、教室、電子楽器の使い方）を説明する。前期に弾き続き、楽譜と演奏の基本を学習する。夏休みの課題を弾く。個々人の進度に合わせて今年度の計画を立てる。
第2回	個人レッスン課題・楽典（1）79番～81番	バイエル79番～81番の中から選曲する。イ長調の音階、臨時記号、前打音、両手の交差、転調、伴奏形の奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第3回	個人レッスン課題・楽典（2）82番	バイエル82番を選曲する。81番同様弱起の曲、左手伴奏形のレガート・スタッカート、右手の1オクターブ移行の奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第4回	個人レッスン課題・楽典（3）83番	バイエル83番を選曲する。八長調の音階応用練習、84番の3度重音を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第5回	個人レッスン課題・クラス内発表会（自分なりに表現をする）	クラス内発表を行う。互いの演奏を聴きあい感想を書く。書くことで表現を意識化し、ピアノ演奏表現の本質の理解を深める。
第6回	個人レッスン課題・楽典（4）85番	バイエル85番を選曲する。3連音符、両手の役割変更によるレガート奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第7回	個人レッスン課題・楽典（5）87番	バイエル87番を選曲する。78番と同様に左手の小指の保持、右手の付点のリズム奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第8回	個人レッスン課題・楽典（6）89番	バイエル89番を選曲する。弱起の曲、右手の付点のリズムとレガート奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第9回	個人レッスン課題・楽典（7）90番	バイエル90番を選曲する。中間部、左手の重音（ホルンの5度）の音形の響きを意識した奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第10回	個人レッスン課題・クラス内発表会（聴くことで豊かな感性を育てる）	クラス内発表を行う。互いの演奏を聴きあい感想を書く。書くことで表現を意識化し、ピアノ演奏表現の本質の理解を深め、新たな表現を獲得する。
第11回	個人レッスン課題・楽典（8）91番	バイエル91番を選曲する。イ短調の音階、左手の小指を保つ奏法を習得する。調整の響きの変化を感じる。経験者は進度に合わせて選曲する。
第12回	個人レッスン課題・楽典（9）92番	バイエル92番を選曲する。ヘ長調の左手の分散和音を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第13回	個人レッスン課題・楽典（10）93番	バイエル93番を選曲する。8分の6拍子を意識して、右手の16分音符を正確に弾くことを習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第14回	個人レッスン課題・楽典（11）94番	バイエル94番を選曲する。右手のスラーの奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。
第15回	個人レッスン課題・クラス内発表会（音楽的な理解を深める）	試験を想定して、学習成果をクラス内で発表する。

【授業の到達目標】

音楽Ⅰに続き、初心者バイエル教則本修了程度、経験者はさまざまな音楽作品を通して音楽性を高めることができる。
音楽Ⅰの発展として、保育士・幼稚園教諭・小学校教員としての基本的な音楽的能力を高めることができる。

【事前・事後学習】

予習・復習がきわめて重要である。特に毎回の授業に対して必ず練習して臨み、毎回の課題を踏まえて練習を重ねる。自分が弾いている曲のCDなど模範演奏を聴くと参考になる。

【課題に対するフィードバックの方法】

クラス内発表（ピアノ演奏）は、その時間に全体で課題を共有し表現理解につなげる。

【成績評価基準】

ピアノ曲の課題を理解し、日々練習を重ねることで技術を習得することができるか。

ピアノの基礎的な音楽表現力を身に付けて、中間発表・実技試験で発表ができるか。

音楽作品を通して音楽性を高め、自らの力でピアノ演奏技術を高めていけるか道筋を示すことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	50	0

【テキスト】

- ・『標準バイエル教則本』全音楽譜出版（初心者）
- ・学習進度の合わせた教材を選択する（経験者）

【参考図書】

- ・必要に応じて、ピアノ演奏に関する楽譜・図書を紹介する
- ・必要に応じて、資料を配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3315	音楽Ⅲ	3年	前期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	矢内 淑子

【授業の目的と概要】

音楽Ⅰ・音楽Ⅱの内容に続くものである。1・2年で習得した音楽表現能力をさらに高めることを目的としている。技術面を高めるだけでなく、特に音楽的感性を高めることを目指す。子どもの聴覚は幼児期に最高に達するため、保育者の音楽的感性の練磨と表現技術は、直接に子どもの感性に影響を与える。本演習では、教材は、日本語歌唱表現、ピアノ演奏技術、伴奏法、アンサンブル（合唱・合奏）など、個々の習熟度や目的によって選択する。学習形態は、個人レッスンとグループレッスンを併用する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション	講義の概要、進め方、受講ルールについて説明する。
第2回	子どもの音楽的成長、発達、歌唱行動の基礎理解	子どもの音楽的成長・発達を踏まえて歌唱行動を理解することで、子どもの歌の選曲や環境設定に役立てる。
第3回	歌唱表現・ピアノ・伴奏法（1）子どもの歌・歌唱作品一音階	楽曲の調性を理解して、子どもの歌声をひきだす効果的な伴奏法、練習方法を習得する。
第4回	歌唱表現・ピアノ・伴奏法（2）子どもの歌・歌唱作品一主要三和音・和音の転回	主要三和音、転回形を理解して、子どもの歌声をひきだす効果的な伴奏法、練習方法を習得する。
第5回	歌唱表現・ピアノ・伴奏法（1）子どもの歌・歌唱作品一副三和音	副三和音を理解して、音色の変化を生かした効果的な伴奏法、練習方法を習得する。
第6回	歌唱表現・ピアノ・伴奏法（1）子どもの歌・歌唱作品一旋律と和音の関係、非和声音	旋律と和音の関係、非和声音を学び楽曲の理解を深めることで、音楽的に豊かな伴奏法を習得する。
第7回	歌唱表現・ピアノ・伴奏法（1）子どもの歌・歌唱作品一コードの基本知識	これまで学んだコードの基本知識を使用して、子どもの歌の伴奏法を習得し、初見試奏も試みる。
第8回	歌唱・ピアノ・弾き歌い（中間発表）	弾き歌いの中間発表を行う。個々に振り返り、今後の課題を記することで表現の本質の理解につなげる。
第9回	ピアノ即興演奏（1）基本的な動きとリズム	子どもの音楽的表現をひきだすことができる即興演奏の基本的な動きとリズムを習得する。
第10回	ピアノ即興演奏（2）リズム変奏と応用	子どもの音楽的表現をひきだすことができる即興演奏の変奏と応用、基本的な動きとリズムの応用を習得する。
第11回	子どもの歌の創作（1）詩と旋律	作詞を行い、日本語の発音や抑揚や言葉のイメージを大事にしてメロディーをつける。
第12回	子どもの歌の創作（2）伴奏付け	メロディーに合う拍子、調性、リズム、ハーモニーを選択して伴奏付けをする。
第13回	アンサンブル（1）パート練習	グループごとに演奏形態・楽曲を選択し、読譜・パート練習をする。
第14回	アンサンブル（2）全体合わせ	楽器配置やパート配置、指揮を取り入れて全体で合わせながら楽曲にあった音楽作りをする。
第15回	アンサンブルの最終発表会	アンサンブルの発表、授業のまとめをする。

【授業の到達目標】

保育者に必要な演奏技術、音楽的感性、音楽表現能力を習得する。
楽曲を理解を深めることで、歌唱・ピアノ伴奏に生かせることができる。

【事前・事後学習】

日々の練習が不可欠である。予習・復習がきわめて重要である。

【課題に対するフィードバックの方法】

歌唱の伴奏は、数人ずつフィードバックをし、現場を想定して発表を行う。
子どもの歌の作曲は、添削をして返却し、全体で共有する機会を持つ。
教材や実技発表は、グループの発表を録画し、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

学習意欲、学習態度、知識、技術の習得度、ピアノの弾き歌い・アンサンブルの発表等、総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40	60	0

【テキスト】

- ・小林美実『こどものうた200』チャイルド本社
- ・必用に応じて資料を配布する。

【参考図書】

- ・深見友紀子『子どもの弾き歌いベスト50』音楽の友社
- ・小林美実『続こどものうた200』チャイルド本社
- ・『標準バイエル教則本』全音楽譜出版

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2316	音楽表現技術	2年	後期	1	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	矢内 淑子 水野 伸子 久野 明子 藤田 桂子 西畑 佳澄

【授業の目的と概要】

本演習では、1年生で培った音楽的表現技術を確かなものにするだけでなく、ピアノを使用した子どもの歌の弾き歌いを中心に学び、レパートリーを増やす。子どもの発達に即した感性を育むような教材を選択しながら、子どもの歌の楽曲や歌詞を理解し、無伴奏による歌唱を徹底した後、ピアノ伴奏の弾き歌いを行う。教材は、「子どものうた」「伴奏教則本」を使用し、暗譜で弾けるようにする。学習形態は、個人レッスン及びグループレッスンを併用する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション、ピアノ伴奏・歌唱の意義	講義の概略、進め方、注意事項（受講ルール、教室、電子楽器の使い方）、弾き歌いの課題について説明をする。グループに分かれて、子どもの歌を歌う。
第2回	発声・歌唱と弾き歌い（1）行事の歌、伴奏法	歌声の素晴らしさ、声のでる仕組みを伝える。発声の三要素のうち「姿勢」について学ぶ。指定された「行事の歌」を歌唱する。ピアノ進度に合わせた伴奏形で弾き歌いする。
第3回	発声・歌唱と弾き歌い（2）生活の歌、伴奏法	発声の三要素のうち「呼吸」について学ぶ。指定された「生活の歌」を歌唱する。ピアノ進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。
第4回	発声・歌唱と弾き歌い（3）季節の歌、伴奏法	発声の三要素のうち「共鳴」について学ぶ。指定された「季節の歌」を歌唱する。ピアノ進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。
第5回	発声・歌唱と弾き歌い（4）いろいろな歌、伴奏法	発声の三要素の「姿勢・呼吸・共鳴」について復習する。指定された「いろいろな歌」を歌唱する。ピアノの進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。
第6回	発声・歌唱と弾き歌い（5）実習園の課題、伴奏法	「姿勢・呼吸・共鳴」を意識した発声練習をする。実習園から出された課題曲を練習する。ピアノの進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。
第7回	発声・歌唱と弾き歌い（6）実習園の課題、子どもを意識した弾き方	「姿勢・呼吸・共鳴」を意識した発声練習をする。実習園から出された課題曲を練習する。子どもを意識した弾き方を学ぶ。
第8回	クラス内発表会	歌2曲、弾き歌い2曲をクラス内で発表する。
第9回	発声・歌唱と弾き歌い（7）自由曲:歌詞の理解	レガート唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、歌詞の理解に重きを置いた練習をする。
第10回	発声・歌唱と弾き歌い（8）自由曲:楽譜・楽曲の理解	スタッカーと唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、楽譜・楽曲の理解に重きを置いた練習をする。
第11回	発声・歌唱と弾き歌い（9）自由曲:日本語の歌唱法	跳躍唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、日本語の発音に重きを置いた練習をする。
第12回	発声・歌唱と弾き歌い（10）自由曲:伴奏法	音域を広げる唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、伴奏法に重きを置いた練習をする。
第13回	身体表現のためのピアノ伴奏（1）基本的動きとリズム	身体表現のための伴奏法を学ぶ。具体的には、基本的動き（歩く、ゆっくり歩く、走る、スキップ、ギャロップ、ワルツ）などの伴奏法を学ぶ。
第14回	身体表現のためのピアノ伴奏（2）変奏と応用	身体表現のための伴奏法を学ぶ。13. で学んだ伴奏法を子どもの歌で応用することで、子どもの表現活動を引き出す伴奏法を学ぶ。
第15回	最終発表会、まとめ	歌2曲、弾き歌い2曲を最終発表して、まとめとする。

【授業の到達目標】

保育の内容を理解し、音楽指導するための基本的な感性を養う。子どもの音楽的表現遊びを豊かに連化できるように、子どもの発達に適した教材を選択し表現できるような技術を習得することができる。
子ども主体の音楽的表現を援助するための基礎を習得することができる。

【事前・事後学習】

予習と復習がきわめて重要である。子どもの歌の楽曲や歌詞を理解し、無伴奏を徹底した後、ピアノ伴奏の弾き歌いをする。

【課題に対するフィードバックの方法】

クラス内発表（弾き歌い・歌唱）は、その時間に全体で課題を共有し、音楽能力の育成につなげる。

【成績評価基準】

成績は、学習意欲、態度、知識、技術の習得度、期末試験の結果を総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	50	0

【テキスト】

- ・小林美実『こどものうた200』チャイルド本社
- ・必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

- ・小林美実『こどものうた100』、『続こどものうた200』チャイルド本社
- ・坪井春枝『楽しく学べる学生の楽典教室』(有) ケイ・エム・ピー

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1317	図画工作	1年	前期	2	必修	新實 広記

【授業の目的と概要】

図画工作の基本的な知識や技術を身につけ、子どもの造形意欲や創造性を引き出す造形指導の理論と方法を実践的に学習する。自らが試行錯誤しながら造形表現を追求し、創造する喜びを味わい、造形を愛好する心情を養う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	描画の技法と表現の研究	様々な描画表現に触れそれぞれの技法の特性を理解する。
第2回	版画の技法と表現の研究	様々な版画表現に触れそれぞれの技法の特性を理解する。
第3回	デザインの技法と表現の研究	デザインのアイディアの出し方とデザイン技法の実験をする。
第4回	工芸の技法と表現の研究	様々な工芸作品を紹介し工芸技法の実験をする。
第5回	色の三要素（色の理解と体験）	色の三要素の講義を行い実際に色水を使って色の混食を体験する。
第6回	色と形（視覚言語）	色と形の関係を視覚言語としての見方からアプローチする。
第7回	遊びと造形表現（玩具製作）	玩具製作を行い子どもの遊びと玩具の関係を理解する。
第8回	造形遊び（土）	様々な種類の粘土を体験し、それぞれの粘土の特性を理解し造形を行う。
第9回	造形遊び（紙）	様々な種類の紙素材を使った造形を行い、それぞれの素材を生かした造形を行う。
第10回	造形遊び（木）	木材を使った造形を行い、それぞれの素材の特性を生かした造形を行う。
第11回	造形遊び（身近な材料）	身近なもの、素材を使った造形を行い、それぞれの素材の特性を生かした造形を行う。
第12回	空間表現の研究（計画）	空間を使ったインスタレーション作品の展示計画を立てる。
第13回	空間表現の研究（制作）	計画を立てたインスタレーション作品の製作、展示を行う。
第14回	鑑賞活動	様々な鑑賞教育の事例を紹介し自らの鑑賞活動の方法を考える。
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り図画工作指導の意義についてまとめを行う。

【授業の到達目標】

図画工作の造形表現を実験することで、造形活動の楽しさを知り子どもの造形理解をはかる。また、画材・用具の取り扱いや、材料・素材の特徴・性質を理解し、造形の構造・仕組みを分析し応用する力を習得できる。図画工作科の目標と内容及びその指導法について理解できる。

【事前・事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回指示するキーワードとなる専門用語を予め調べておいてください。その上で、皆さんの声を踏まえながら理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

各回の授業後に、授業理解を確認するためのレポート課題を実施する。レポートの内容を確認後、より理解を深められるような自主学習の方法の提案や資料を提供する。

【成績評価基準】

子どもの造形に関して、図画工作の楽しみと技術を身につけることができたか、受講姿勢、授業ノートの完成度、提出作品、提出レポートから総合的に評価する。特に授業に取り組む態度を重視する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
	30	50	0	20(課題作品)

【テキスト】

・辻泰秀『幼児造形の研究－保育内容「造形表現」』明文書林

【参考図書】

・授業時に適宜紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2318	家庭	2年	後期	2	選択	正保 正恵

【授業の目的と概要】

小学校家庭科の意義、歴史、内容を概説するとともに、家庭科がグループワークと実習を重視する視点から愛知県の地産地消や食育を踏まえた食事づくり、小学校高学年の視点で身近で役立つ作品製作などの実習、家族を大切にしようとする気持ちを育てるためのインタビュー、アサーションについてのグループワークなどの実践を演習形式にて行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション 講義の概要と計画的な実習・製作・グループワークの準備	家庭科指導要領2008年版に示された家庭科の内容のうち、とくに2008年版から強調されていることを解説し、その点に沿った形で15回の計画が立てられていることを説明し、グループワークのために班編成を行う。
第2回	家庭科教育の意義（家庭科はなぜおもしろいのか）	家庭科の他の教科とは違う特徴について様々な方面から解説する。とくに五感を動かして身体を動かしての実習は、他の教科にはない特徴であり達成感や他社との共感を実感できる教科であることを解説する。
第3回	子どもの発達と家庭科（子どもと子どもの生活をみつめる）	家庭科は子どもの家庭生活と直結する教科であるため、子ども自身の発達やそれぞれの家庭との関係、あるいは家庭間の違い、プライバシーにも配慮が必要であることなどを解説する。
第4回	家庭科教育の歴史（ジェンダーをのりこえる）	とくに中学校・高校では女子だけが学んできた歴史を持つ教科であり、現代では全く逆に男女共同参画社会へ向けて男子も大いに学ぶ教科となっている点について解説。
第5回	家庭科の教育目的と内容（学習指導要領の解説）	学習指導要領を解説しつつ、家庭科を教えるにあたっての備えるべき資質についても言及する。
第6回	家庭科の基盤である環境、人権、食育を考える	家庭科は、他教科との関連もさることながら、地域や環境とは切り離せない教科であり、家庭内の人権、心身の発達のために欠かせない食育についても解説する。
第7回	学習形態（地域と連携した実践・体験学習）	後半に用意されている実習系の授業の準備として、グループ体制となり家庭・地域についての実習を行う。宿題として後半で提出するもの（サブバッグ・インタビュー・手袋シアターについての解説を行う。
第8回	学習環境（家庭科は校内・校外～地球）	学習環境は身近な教室のみではなく、それぞれの家庭であったり、地域であったり、さらに大きな環境を想定して想像力を働かせることができる対象を考える。
第9回	学習指導要領を踏まえた食事づくり（実習）	9、10回目を連続したものとしてとらえ、学習指導要領を踏まえた、愛知県の地産地消を考えた食事を作る。
第10回	愛知県の地産地消を考えた食事づくり（実習）	9、10回目を連続したものとしてとらえ、学習指導要領を踏まえた、愛知県の地産地消を考えた食事を作る。
第11回	修学旅行のためのサブバッグづくり（実習）	7回目に解説したサブバッグについて、完成させ発表会を行う。
第12回	自分の乳児のころをインタビューし、エピソードを発表し合う（グループワーク）	7回目に解説したインタビューについて、発表を行う。
第13回	アサーションについての学習と実習（グループワーク）	アサーションについて解説し、グループごとにロールプレイングを行う。
第14回	手袋シアターの製作	手袋シアターについて、グループごとに製作を完成させ、実際にグループ間でミーティングし予行練習を行う。
第15回	手袋シアターの発表とまとめ	手袋シアターの発表会を行う。

【授業の到達目標】

小学校の家庭科指導に当たって、家庭科で教えるべき内容について理解する。具体的内容としては、家族など身近な人間関係におけるコミュニケーション、食育を踏まえた家事技術、衣や住などの環境に配慮した製作などができる。

【事前・事後学習】

第1回目にすべての事前・事後学習についての説明をするが、実習系の作品・提出物として、サブバッグ（約1時間で買い物、型紙の作成）インタビュー記録（約3時間）、手袋シアターとそのシナリオ（約4時間）・調べ学習としての愛知県の地産地消作物のレポート（約3時間）などがある。その他、各自テキストや配布するプリントは事前に良く読んでおく必要がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは添削の上返却する。サブバッグ等はその場で採点し、返却する。インタビューは発表後採点し、返却する。

【成績評価基準】

各種提出レポート、提出作品等とまとめて行う試験を総合的に評価する。レポートを正確に記述しているか。提出物を丁寧に作成しているか。グループワークに積極的に取り組んでいるか。講義の内容を理解しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50%	20%	10%	0%	実習（作品、調理等グループワークへの取り組み） 20%

【テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』、鶴田敦子・伊藤葉子編著『授業力UP 家庭科の授業』日本標準
- ・『新しい家庭5・6』東京書籍
- ・『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省

【参考図書】

- ・適宜配布

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2319	体 育	2年	前期	2	必修	伊藤 数馬

【授業の目的と概要】

小学校学習指導要領の目標や内容を理解し、受講者自身が体験することで、心身共にその意味を知る。小学校6年間の子どもの発達だけでなく、就学前との連続性も理解できるようにする。健康への意識を高めることに加えて、実技については体操・綱引き・縄跳び・ボールゲーム・器械運動・表現運動などを行う。そのことをどのような手順で行うかについて、指導計画の立て方についても学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	学習指導要領「体育」についての内容理解	学習指導要領「体育」についての内容を理解する。
第2回	各学年の児童の発達特性と怪我の防止・病気の予防	各学年の児童の発達特性と怪我の防止・病気の予防について理解する。
第3回	就学前の子どもの発達と小学生の連続性について	就学前の子どもの発達と小学生の連続性について理解する。
第4回	「アイダアイダ」の体操とからだ育てを考える	「アイダアイダ」の体操を実践しからだ育てについて考える。
第5回	多様な運動(1) 綱引きなど力を試す運動	綱引きなど力を試す運動を実践し健康への意識を高める。
第6回	多様な運動(2) 縄跳びなど道具をつかう運動	縄跳びなど道具をつかう運動を実践し健康への意識を高める。
第7回	ゲーム型の運動(1) インディアカ	インディアカなどのゲーム型の運動を実践し健康への意識を高める。
第8回	ゲーム型の運動(2) 鬼遊び	鬼遊びなどのゲーム型の運動を実践し健康への意識を高める。
第9回	表現運動 フォークダンス	フォークダンスなど表現運動を実践し歴史が伝える運動文化に触れる。
第10回	ボール運動(1) ネット型ソフトバレー	ネット型ソフトバレーなどのボール運動を実践し健康への意識を高める。
第11回	ボール運動(2) ゴール型バスケットボール	ゴール型バスケットボールなどのボール運動を実践し健康への意識を高める。
第12回	器械運動(1) マット運動	マット運動などの器械運動を実践し健康への意識を高める。
第13回	器械運動(2) 跳び箱運動	跳び箱運動などの器械運動を実践し健康への意識を高める。
第14回	体育の指導計画の立て方	体育の指導計画の立て方について理解する。
第15回	本講義のまとめ	本講義で扱った内容をまとめ理解を確認する。

【授業の到達目標】

学修指導要領の内容を理解し、運動スキルの修得をテーマとする。授業の到達目標は子どもの発達過程の理解をすると共に、小学校教育における体育教育に役立つ実践能力を身に付ける。子どもたちが体を動かすことが好きになるような指導ができるように、授業計画の立て方やその具体的な指導法について学ぶ。

【事前・事後学習】

学習指導要領をしっかり読むことと日常より健康への意識を高めること。
運動習慣を身につけ小学校における体育科教育に役立つ運動スキル・実践能力を身に付け発揮できるようにすること。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するレポートについては、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つことで理解を深める。

【成績評価基準】

学習指導要領の内容を理解できているか
体育指導に必要な実践能力を発揮できているか
周囲と協力して安全面に配慮し、積極的に講義を受講できているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	20	40	0

【テキスト】

・授業中に適宜資料を配布する。

【参考図書】

・必要なものは授業中に指示する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3320	小学校英語	3年	前期	2	選択	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

小学校における外国語活動・外国語科（英語）の授業実践に必要な英語運用力ならびに英語に関する背景的な知識を身につけることを目的とする。概要は、授業実践に必要な、聞く・話す・読む・書く力を身に付け、小・中学校の接続を踏まえ、英語に関する基本的知識、第二言語習得、絵本や歌を含む児童文学、異文化理解に関する事項について理解する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション、学習指導要領、教材紹介、英語力を知る	授業の進め方、学習指導要領における外国語活動・外国語科、教材、英語力について知る。
第2回	小学校英語授業映像による授業観察(1)、歌の指導(1)、スモールトークとやりとり(1)	小学校英語の授業を映像で知る、歌・スモールトークとやりとりを体験する。
第3回	音声に関する基本的知識、歌の指導(2)、スモールトークとやりとり(2)	英語の音声について知り、歌・スモールトークとやりとりを練習する。
第4回	発音と綴りの関係に関する基本的知識、小学校英語授業映像による授業観察(2)、	発音と綴りの関係について知り、小学校英語の授業を映像で観察する。
第5回	文構造に関する基本的知識、外国語活動の教材と授業体験	文構造について知り、外国語活動の教材とその使い方を知る。
第6回	文法に関する基本的知識、外国語科の教材と授業体験	文法について知り、外国語科の教材とその使い方を知る。
第7回	語彙に関する基本的知識、デジタル教材・音声教材の活用	語彙について学び、デジタル教材、音声教材の活用について知る。
第8回	第二言語習得に関する基本的知識、歌・ゲームの活用(1)	第二言語習得理論を学び、歌・ゲームの活用について知る。
第9回	第二言語習得に関する基本的知識の授業への取り入れ方、スモールトークとやりとり(3)	第二言語習得理論を活用した指導を学び、活用について知る。スモールトークの練習をする。
第10回	絵本を含む児童文学についての基本的知識、絵本の活用と読み聞かせ	絵本を含む児童文学について知り、絵本の活用と読み聞かせについて学ぶ。
第11回	英語を使った活動の体験と英語のやりとり、歌・ゲームの活用法(2)	英語を使った活動を体験し、歌・ゲームの活用を行なう。
第12回	異文化理解に関する基本的知識、絵本の読み聞かせの発表(1)	異文化理解について知り、絵本の読み聞かせの発表をする。
第13回	異文化コミュニケーションに関する基本的知識、絵本の読み聞かせの発表(2)	異文化コミュニケーションについて知り、絵本の読み聞かせの発表をする。
第14回	正書法に関する基本的知識（板書・掲示物等）、文字指導	正書法について知り、練習する。文字指導について学ぶ。
第15回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

小学校における「外国語活動」「外国語（英語）」の意義と目標を理解し、教材を使って指導するための英語の背景的基本的知識と運用能力を身に付ける。

【事前・事後学習】

予習として、該当する資料等を読み、疑問点を明らかにしてから授業を受講する。各回の内容について、理論を実践をどのように具体化するかをよく理解する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、前時の内容を確認するチェックテストを行なう。学んだ内容を取り入れたミニ指導案を書き、実際の指導における活用法を確認する。

【成績評価基準】

「外国語活動」「外国語（英語）」の目標やその内容が説明できる。
英語の基本的な背景知識が身に付いている。
英語を指導できる運用能力が身に付いている。
小学校英語に関する諸課題、指導内容を理解し、実際の指導を考えることができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	25	20	25	0

【テキスト】

・酒井英樹ほか『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』
・投野由紀夫 編『チャンクで英単語 Basic』三省堂

【参考図書】

・文部科学省『小学校学習指導要領（外国語）』
・文部科学省『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』
・文部科学省『Let's Try! 1&2』『We Can! 1&2』

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3321	幼児の科学	3年	前期	2	初等教育コース：選択 幼児教育コース：必修	柿原 聖治

【授業の目的と概要】

幼児にとって科学とは「なぜ」と疑問に思うことである。「なぜだろう」と思うには周りの環境から心地よい刺激を受けなければならない。幼児の科学教育に関わるものはどんな環境を与えることができるのか考えたい。疑問に思ったことは解決に向けて科学の方法にしたがって活動をする。幼児にもできる知的活動をしながら幼児なりに解決していくものである。このとき教育に携わる者の援助や必要となる科学知識はどんなことなのかを理解させたい。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業計画と全体像	教育要領の領域「環境」のねらいと内容
第2回	科学の方法	「なぜ」と疑問に思うことの意義
第3回	幼児の知的活動	身近な環境とのかかわり、好奇心・探究心
第4回	空間認識	図形の世界とパズル
第5回	折り紙の制作	折り紙やちぎり絵を活用した活動
第6回	栽培を楽しむ	栽培計画・栽培管理、ビデオ鑑賞
第7回	小動物を飼育する	小動物と飼育に関する学習、ビデオ鑑賞
第8回	自然観察 園庭や園外にて	園庭や園外にて、自然観察
第9回	生き物の科学 植物	植物の観察、ビデオ鑑賞
第10回	生き物の科学 動物	動物に関する学習、ビデオ鑑賞
第11回	科学あそび	遊具とのかかわり、空気に関するあそび
第12回	鏡の不思議	光の性質、鏡を使った遊び
第13回	視覚の不思議	錯視を利用したおもちゃ作り
第14回	つり合いの不思議	やじろべえ、モビール作り、シーソー遊び
第15回	まとめ	総括

【授業の到達目標】

園児は遊びの中から科学的なことを見出し、条件を変えて遊びを楽しみ、その中から科学的な見方・考えに気づく。そのような活動になるように、受講生にはその指導法を体得する。

【事前・事後学習】

身近な自然や現象に興味・関心を持つ

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストの解説を行う。回収後、コメントをつけて返す。

【成績評価基準】

活動・ものづくりへの取り組み、小テスト、レポート課題により、総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	40	0	30 (活動・ものづくりへの取り組み)

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・必要に応じて提示する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3322	総合表現技術	3年	後期	2	初等教育コース：選択 幼児教育コース：必修	矢内 淑子 伊藤 数馬 新實 広記

【授業の目的と概要】

身体表現・音楽表現・造形表現に関する知識と技術を習得する。それらを統合して、表現活動にかかる教材の活用と作成を通して、保育環境の構成や、遊びの展開のための実践を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	身体表現に関する知識や技術を学ぶ1：身体や運動機能の発達と表現の知識と技術	幼児の身体や運動機能の発達について知識を得る。と同時に各年齢にふさわしい身体表現教材についての技術を磨く。
第2回	身体表現に関する知識や技術を学ぶ2：日常生活や経験における展開について	身体表現は大きく2つの側面をもつ。日常現れるひとつは表出に近いもの、もう一つは表現である。ここでは日常生活に見られる前者の表現について、事例を見ながら学ぶ。
第3回	身体表現に関する知識や技術を学ぶ3：劇遊び・発表会等の展開の方法について	身体表現で表現の総合的な教材として、劇遊び・発表会の事例を鑑賞する。自ら簡単な劇を演じて、お話から劇へ発展させるプロセスを学ぶ。
第4回	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ1：テーマ曲の作曲	必要なメインテーマの曲を作曲する。
第5回	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ2：バックグラウンドミュージックの構成	場面ごとに必要な音楽や音を用意する。
第6回	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ3：歌の練習	歌の練習や演奏の練習を行う。
第7回	造形表現に関する知識や技術を学ぶ1：場面スケッチ	場面構成の数の決定やその場面のスケッチを行う。
第8回	造形表現に関する知識や技術を学ぶ2：小道具・衣装の作製	必要な小道具や衣装を作る。
第9回	造形表現に関する知識や技術を学ぶ3：大道具・背景の作製	大道具や背景の製作を行う。
第10回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ1：テーマの決定	劇のテーマを決める。役柄など劇に必要なことを決める。
第11回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ2：シナリオ作り	シナリオを作る。また、発声法も学ぶ。
第12回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ3：本読み	シナリオを見ながら脚本の本読みを行う。
第13回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ4：立ち稽古	劇づくりの共同製作を通して、お互いのアイディアや造形表現を融合し一つの形にまとめあげる。
第14回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ5：リハーサル	各表現技術を総合して、劇として完成させる。言語表現では台詞で筋をつなぎ、身体表現では表現に深みを与え、音楽表現では劇の効果を高め、造形表現では場面を設定するなどを感じながら、豊かな劇へと作り上げる。
第15回	発表とまとめ	劇の発表を行い、まとめとする。

【授業の到達目標】

保育内容を理解した上で、子どもの遊びが豊かに展開されるための知識や技術を学ぶ。各表現力の向上とともに、それらを統合した表現活動の展開を行えるようにする。

【事前・事後学習】

事前学習：4つの領域の基礎を復習しておく。

事後学習：ボディレッスンを常に行う。また、授業時間内でできなかったものをやり遂げる。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループごとに発表された制作物や表現作品については、全体で共有する機会を持ち、互いに意見交換や評価をすることで、課題に対するフィードバックを行う。

【成績評価基準】

授業に対する参加態度と各回の授業におけるレポートや実践を総合的にみて判断する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	40	40	0

【テキスト】

・必要なものについては授業の中で配布するので、特別な指定はなし。

【参考図書】

・授業時にその都度指示をする。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2323	教育方法論	2年	前期	2	必修	山川 法子

【授業の目的と概要】

幼稚園や学校の現場における教育活動に必要な、教育の方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む）の基礎的な知識を習得し、考え方を理解する。さらに、実際の活用方法を検討し現実的課題を探究する。授業は講義形式で行うが、全時間を通じて、グループでの討議を併用し、以下の3点を実施する。(1) 歴史上の著名な教育方法について、その意義を理解し現在の教育方法にどのような影響を及ぼしているかを考察する。(2) 現在の「学校」における教育理念を理解した上で、授業で用いている教育方法（教材や教具、情報機器等を含む）を検討する。(3) 学んだ内容を総合して、学習指導案の作成を試み、学校における教育方法の現実的課題を探究する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	教育方法とは何か	歴史的に、学校において行われてきた教育方法について、概観する。
第2回	様々な教育方法（1） 校舎・園舎、教室の施設や設備	現在の校舎・園舎や教室に備わる施設や設備の状況を知り、子どもたちの学びのために、どのような工夫がなされているかを考察する。
第3回	様々な教育方法（2） 教師の工夫①（教材、教具）	教育方法のうちの授業の方法に焦点を当て、教師は授業において、子どもたちの学びを促進するために、どのような工夫を実施しているか、教材・教具に着目して考察する。
第4回	様々な教育方法（3） 教師の工夫②（話し方）	教育方法のうちの授業の方法に焦点を当て、教師は授業において、子どもたちの学びを促進するために、どのような工夫を実施しているか、話し方に着目して考察する。
第5回	様々な教育方法（4） 発達段階と発達課題 授業の技術（1）	子どもの発達段階を考慮した課題とは何かを考察する。
第6回	授業計画の考え方と学習評価の方法（診断的・形成的・総括的）	授業を計画するにあたって、教師はどのような考え方を必要とするのかを、子どもの学習成果の評価に焦点を当てて検討する。
第7回	授業の技術（2） 教材の活用方法の検討	授業で扱う題材に対し、どのような教材を用い、どのような方法で活用すると効果的かを検討する。
第8回	授業の技術（3） OHP・プロジェクタ等の情報機器の種類と活用方法	授業で用いることができる情報機器の利点・欠点を知り、どのような授業で、どのような情報機器を用いることが可能か、何を用いると効果的かを検討する。
第9回	授業の技術（4） 板書やカードなどと情報機器の利用効果の比較	授業を実施するにあたり、子どもに提示する方法としての板書・カードなどと、情報機器の利用効果について、具体的に比較検討する。
第10回	授業の技術（5） 授業形態の比較検討（チーム・ティーチング、ディスカッション等）	現在、授業で多く用いられる授業形態を知り、どのような授業・場面で、どのような形態を用いると効果的かを比較検討する。
第11回	学習指導案の作成（1） 単元計画	授業の組み方について、これまでに計画されてきたものを参考にし、実際の授業を想定して単元（学習指導案）を組み立てる。
第12回	学習指導案の作成（2） 本時計画（教材の活用と情報機器の利用を含む）	授業の組み方について、これまでに計画されてきたものを参考にし、実際の授業を想定して本時（学習指導案）を組み立てる。
第13回	模擬授業の実施	本時の計画を元にして、模擬授業を実施する。
第14回	学習指導案の改良	実施した模擬授業を振り返り、改良点を検討して学習指導案の修正を行う。
第15回	学校教育における教育方法の現実的課題の探究	現在の学校教育において、教育方法に関してどのような課題が存在しているかを検討する。

【授業の到達目標】

幼稚園や学校の現場における教育活動に必要な、教育の方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む）の基礎的な知識の習得、考え方の理解、実際の活用方法の検討と現実的課題の探究を目標とする。

【事前・事後学習】

毎回の授業終わりに、授業で学んだことや自分なりに考えたことを記録することにより復習にあてる。また、とくに後半の回において、「授業準備」の実践を行うため、そのための事前準備が必要である。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業始めに、前回の小レポート等に対するコメント等により、フィードバックする。

【成績評価基準】

毎回の授業終わりに提出する小レポートにおいて、授業で学んだ内容から、どれだけ自分なりに考察を深めたか、また、最終レポートとして学習指導案の作成を課すが、授業で学んだ内容を自分なりに吸収し反映できているかを評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
	小レポート（60%）、最終レポート（40%）を総合的に評価する			

【テキスト】

・特になし

【参考図書】

・参考書はそのつど紹介、参考資料は必要に応じて適宜配布

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2324	保育内容(健康)	2年	後期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	伊藤 数馬 (1～8回) 安本 卓也 (9～15回)

【授業の目的と概要】

領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、情報機器及び教材の活用方法等も理解しながら、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	健康および領域「健康」の意味	一般的な健康の定義について概説し、幼児の場合はどのように捉えたらよいか具体的な事例を挙げて説明する。また領域「健康」とはなにかを、保育の基本の視点から理解できるようにする。
第2回	健康にかかわる幼児の生活実態と今後の課題	幼児が生活する環境がはたして幼児の健康にとって望ましいものかどうか、生活面での問題点を具体的に示しながら検討する。また何が課題かを明確にする。
第3回	幼児の身体・運動面の発達の特性 形態面・機能面において	乳幼児の発育・発達と関連させながら概説し、形態面の発達の特性を明確にする。また身体・運動機能面について、神経機能や循環機能、消化排泄機能など、機能面の発達の特性についても明確にする。
第4回	運動遊びの意義—幼児の発達と遊びの楽しさ	運動遊びの中で、幼児は何を身に付けているのか。最も重要なのは意欲の根幹である充実感を得ることである。そのためには幼児が遊びに感じる楽しさの変化を知り楽しさを追究する指導のあり方を学び説明できるようにする。
第5回	運動遊びに関する指導計画、指導案の作成	乳幼児の発育・発達を踏まえた上で、運動遊びに関する指導計画や指導案の作成方法を理解する。
第6回	運動遊びと保育者の援助Ⅰ 固定遊具、鬼遊び	ブランコやすべり台、ジャングルジム、総合遊具など遊具を使った遊びや鬼遊びをビデオや保育事例を参考に年齢に応じてどのように指導したらよいか説明する。
第7回	運動遊びと保育者の援助Ⅱ ボール遊び、かけっこ・リレー	ボール遊びやかけっこ・リレーについて、ビデオや保育事例を参考に年齢に応じてどのように指導したらよいか説明する。
第8回	運動遊びと保育者の援助Ⅲ なわとびや竹馬遊び	なわとびや竹馬を使った遊びについてビデオや保育事例を参考に年齢に応じてどのように指導したらよいかを説明する。
第9回	健康・安全に関する生活習慣指導 発達の・自律意義	健康・安全に関する生活習慣を身に付ける発達の意義について学び、指導のあり方について明確にする。また生活習慣を幼児自らが意欲を持って取り組む自律的獲得ができるようにするには、どのような指導や配慮が必要かについて明確にする。
第10回	生活習慣に関する指導計画、指導案の作成	乳幼児の発育・発達を踏まえた上で、生活習慣に関する指導計画や指導案の作成方法を理解する。
第11回	清潔および病気の予防の指導・模擬保育	手洗いやうがい、歯磨きなどの清潔の指導についてビデオや保育事例を参考に年齢に応じてどのように指導したらよいかを説明し模擬保育を行う。
第12回	衣服の着脱および片付けの指導・模擬保育	着替えや片付けの指導についてビデオや保育事例を参考に年齢に応じてどのように指導したらよいかを説明し模擬保育を行う。
第13回	排泄および安全の指導・模擬保育	排泄についてはとくに排泄後の処理やトイレの使い方やマナーなどを中心にビデオや保育事例を参考にどう指導したらよいかを説明し模擬保育を行う。
第14回	栄養・食事の指導・模擬保育	食事指導については好き嫌いや少食への対応だけでなくいわゆる食育として心を育てるにはどうすればよいかなどをビデオや保育事例を参考に説明し模擬保育を行う。
第15回	本講義のまとめ	幼児自らが意欲的に取り組むことができる運動・健康・安全指導における保育者の役割を理解することを確認する。

【授業の到達目標】

領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している
領域「健康」における内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解し、幼稚園教育における評価の考え方を理解している
指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができ、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテキストの章(またはページ)で興味をもった事柄やわからない字句、内容を調べる。また授業の中でわかりにくかったこと、テキストや配布資料で疑問となったことは授業担当者に尋ね、参考書などで調べる。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するレポートについては、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つことで理解を深める。

【成績評価基準】

領域「健康」の定義や幼児の身体運動面の発育発達が説明できるか
幼児が自ら意欲をもって取り組む運動指導や健康安全な生活習慣の主体的な自律的な獲得の主要ポイントが説明できるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	20	0	60 (模擬保育・指導案)

【テキスト】

・武藤隆著『事例で学ぶ保育内容領域健康』萌文書林

【参考図書】

・講義時に適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2325	保育内容（人間関係）	2年	後期	2	初等教育コース・選択 幼児教育コース・必修	伊藤 理絵

【授業の目的と概要】

情報化、核家族化、少子高齢化など現代社会の変化の中で子どもたちを取り巻く環境は、著しく変化し、それらは基本的な生活習慣の欠如、コミュニケーション能力の不足、運動能力の低下、自制心や規範意識の不足等、子どもの育ちの変化として表れてきている。本授業では、原題において求められている人との関わりの能力をどのように育て、その習得をいかに支援していったらよいかについて、幼稚園教育要領及び、保育所保育指針に示されている領域（人間関係）の内容から（発達）の問題と関連付けて明らかにしていく。また、受講者自身の人間関係能力の向上に留意し、子どもの人間関係に関わる力を育てる指導者・保育者として何を考え、何をなすべきかを学生自身が理解することをめざす。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	人と関わる力を養う保育とは	領域「人間関係」の基礎知識について要領・指針のポイントを理解する。
第2回	生活と遊びを通して育つ人とかかわる力(1)	3歳未満児の事例分析を通して、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。
第3回	生活と遊びを通して育つ人とかかわる力(2)	3歳以上児の事例分析を通して、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。
第4回	0・1・2歳児の人間関係(1)	3歳未満児の保育に関する事例検討を行う。
第5回	0・1・2歳児の人間関係(2)	3歳未満児の事例から、次の日の自由遊びの立案を作成する。
第6回	3歳児の人間関係	3歳児における安定した関係の中で共に過ごす喜びについて、観察演習を行う。
第7回	4歳児の人間関係	4歳児における自己主張と自己抑制について、観察演習を行う。
第8回	5歳児の人間関係	5歳児における協同して遊び・学ぶ・活動することについて、観察演習を行う。
第9回	発達を踏まえた人間関係の指導案(1)	領域「人間関係」の観点から年間計画と月案を作成する。
第10回	発達を踏まえた人間関係の指導案(2)	領域「人間関係」の観点から週案を作成する。
第11回	発達を踏まえた人間関係の指導案(3)	領域「人間関係」の観点から立案を作成する。
第12回	人と関わる力を養う教材の活用(1)	社会生活における望ましい習慣や態度の形成と道徳性・規範意識の芽生えを育む教材を工夫する。
第13回	人と関わる力を養う教材の活用(2)	一人ひとりを生かした集団づくりを育む教材を工夫する。
第14回	模擬保育(1)	3歳未満児の指導案を発表、実践し、振り返りを行う。
第15回	模擬保育(2)	3歳以上児の指導案の発表、実践し、振り返りを行う。

【授業の到達目標】

- 1) 幼児教育・保育の5領域の理解した上で、保育内容「人間関係」の全体構造を説明できる。
- 2) 乳幼児期の人間関係の発達を踏まえて自立心および協同性を育てる指導上の留意点を理解し、指導案を作成することができる。
- 3) 生活と遊びを通して育つ人と関わる力について、模擬保育等の実践と振り返りを行い、保育を改善する視点を身に付け、評価することができる。
- 4) 保育者として子どもの人と関わる力を養う上で必要な教材および情報機器の活用法を理解し、実践に取り入れる工夫ができる。
- 5) 保育内容「人間関係」と小学校以降の生活や教科等との関連性や保育実践の動向について考え、実践に取り入れることができる。

【事前・事後学習】

1. 課題や復習を行う際には、これまでの実習やボランティアで子ども同士のかかわり方、保育者と子どものかかわりを観察し、記録したことを、領域「人間関係」の観点から分析し、人間関係の指導法について考えるようにする（15回の授業を通して8時間程度）。
2. 予習や復習、課題を行う際は、テキスト・配布資料・新聞記事・インターネット等で調べ、自分の考えを自分の言葉でまとめるようにする（15回の授業を通して7時間程度）。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業で出した課題は、添削・採点の上で返却する。課題レポートや筆記試験は、授業内で何が出題されるか示すので、提示された期間内の質問に対して解説する。

【成績評価基準】

1. 観察・記録したことを、領域「人間関係」の観点から分析し、人間関係の指導法について考えることができるか。
2. テキスト・配布資料・新聞記事・インターネット等で調べ、自分の考えをまとめることができるか。
3. 自分の人との関わり方も含めて振り返りを行い、改善することができるか。
4. PDCAサイクルの評価法の視点から実践を改善することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%	30%	30%		

【テキスト】

- ・無藤隆（監修）『事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係 改訂版』（萌文書林、2018年）
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（いずれも平成29年告示）

【参考図書】

- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年）
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成30年）
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）
- ・無藤隆（編）『育てたい子どもの姿とこれからの保育－平成30年度施行幼稚園保育所認定こども園新要領・指针对応－』（ぎょうせい、2018年）

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2326	保育内容（環境）	2年	後期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	梶浦 恭子

【授業の目的と概要】

主として、幼稚園教育要領及び保育所保育指針で示された保育内容の領域「環境」のねらいと内容及びその取扱いについて理解し、その指導法を修得する。講義と演習を有機的に取り入れることで、この領域に関する保育の基本的な資質・能力を養う。その際、具体的教材や視聴覚教材の利用、意見交換も取り入れる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	幼稚園教育の基本と領域「環境」	幼稚園教育の基本（資質・能力、育ってほしい姿）と領域「環境」を理解する
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保認定こども園教育・保育要領と領域「環境」	子どもが環境を認識する経験を理解する（自然、動植物、遊具、数量や図形や文字）
第3回	自然と幼児 自然を幼児は生活にどう取り入れるか（演習 平和公園にて）	自然は幼児にとって身近な環境か（遊びを引き出す自然環境・感覚遊びの体感）
第4回	自然物と幼児の遊び	幼児がしたい遊びとは何か（石や木枝葉の遊び）を学生が創造し発表（個・集）
第5回	自然と幼児と保育者 幼児に関わる保育者の指導法	乳幼児の発達と保育（内容の取扱いを学ぶ）
第6回	身近な植物、小動物と幼児 驚きや発見の調査発表	動植物の科学的な法則性や発見（私の環境・空間）の共有化を図る
第7回	領域「環境」の指導計画と展開	発達に合わせた環境を考え指導計画を練る
第8回	保育の実際（3歳児の保育計画）	自分の遊びが生まれ運動拡大3歳児の遊び紹介 感覚運動遊び 砂・粘土・木の実
第9回	保育の実際（4歳児の保育計画）	描くつくる活動で保育室環境を整える活動紹介 フロッター・ジュ、空き箱製作、粘土遊び
第10回	保育の実際（5歳児の保育計画）	仲間遊び、科学的な遊びを好む5歳児の遊び紹介 協同的な遊び ルールのある遊び
第11回	海外の幼児教育 教育環境と実践	レジオ・エミリアの幼児教育における環境（人的環境と物的環境）
第12回	領域「環境」の指導計画案と10の「育てたい姿」・小学校とのつながり	指導計画案の作成 個別指導
第13回	3歳児指導計画発表（視聴覚教材の利用）と意見交流	指導計画案の発表3歳児 活動の導入や展開紹介
第14回	4、5歳児指導計画発表（視聴覚教材の利用）意見交流	指導計画案の発表4歳・5歳児 活動の導入や展開紹介
第15回	まとめ	領域「環境」の学びの整理

【授業の到達目標】

幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して、保育を構想する方法を身に付けることである。

【事前・事後学習】

次の授業のために、提示資料を読む。

課題は、図書館などで調査しデータで予め作成して授業準備しておく。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出レポートは、添削、評価し返却する。全体で共有を行いフィードバックする。

【成績評価基準】

資料作成は前もってできたか。

レポートはテーマに沿い、丁寧に記述できたか。

グループ活動は相手を尊重し受け入れるなど行いつつ、自分の意見を述べているか。

専門に対するモチベーションを常に持ち合わせて行動しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	15	15	0	20（発表）

【テキスト】

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保認定こども園教育・保育要領
- ・環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて 高山静子 エイデル研究所

【参考図書】

- ・植物はすごい 田中修 中央公論新社刊 田んぼの生きもののおもしろ図鑑 湊秋作 農文協
- ・領域 環境 事例で学ぶ保育内容 無藤隆 明文書林
- ・ポケット 美育文化協会
- ・乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～（医学映像教育センター）
- ・レジオ・エミリアの幼児教育1 驚くべき学びの世界【モノとの対話】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2327	保育内容（言葉）	2年	後期	2	必修	橋村 晴美

【授業の目的と概要】

乳幼児の言葉の発達について学び、豊かな言葉を育むための保育者のかかわり、生活環境について理解を深める。また、保育場面を想定したグループワークや事例学習をとおして、実践的な指導力を養う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	幼児教育の目的と領域「言葉」	幼児教育の基本的な考え方と領域「言葉」の位置づけについて理解する
第2回	乳幼児期の子どもの言葉の発達	人間における言葉の意義と乳幼児期の子どもの言語獲得の過程について学ぶ
第3回	領域「言葉」のねらいと内容、内容の取扱い	領域「言葉」の考え方と実践上の留意点について学ぶ
第4回	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」と養護	3歳未満児における領域「言葉」の考え方と実践上の留意点について学ぶ
第5回	言葉による伝え合いを育む保育の評価と改善	領域「言葉」における評価のあり方と課題の見つけ方を学ぶ
第6回	領域「言葉」と小学校教科国語とのつながり	就学前教育の領域「言葉」と小学校教育「言葉」の違いについて理解する
第7回	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた領域「言葉」の保育構想	乳幼児の子どもにおける言葉の意義について理解する
第8回	幼児の体験との関連を考慮した情報機器・教材①（「言葉あそび」）	言葉あそびを通して言葉の発達を促す保育内容について学ぶ
第9回	領域「言葉」における指導計画の構造とその実際	言葉の発達を促す保育計画について学ぶ
第10回	領域「言葉」における指導計画とその評価	言葉の発達を促す保育評価のあり方について学ぶ
第11回	幼児の体験との関連を考慮した情報機器・教材②（「児童文化財」）	児童文化財を用いて言葉の発達を促す保育内容について学ぶ
第12回	領域「言葉における児童文化財を用いた指導計画	児童文化財を用いて言葉の発達を促す指導計画を構想する
第13回	領域「言葉」における児童文化財を用いた模擬保育	児童文化財を用いて言葉の発達を促す保育実践を行い、評価する（される）
第14回	領域「言葉」をめぐる現代的課題	領域「言葉」と保育の総合性について学ぶ
第15回	領域「言葉」をめぐる現代的課題に応える保育の構想	乳幼児の子どもを育てる保育者の役割と援助について理解する

【授業の到達目標】

乳幼児期の言葉の発達過程を理解して、言葉の機能について説明できる。
 言葉の感覚を豊かにする教材について基礎的な知識を得、実践力を身につける。
 言葉の発達を促す教材について基礎的な知識を得、実践力を身につける。

【事前・事後学習】

毎授業までに、1日10分、身近な乳幼児を意識的に観察して、生活の中で使う言葉、遊びの中で使う言葉、印象に残った言葉等を書き出しておき、それぞれの言葉の特徴を整理しておく。
 毎授業までに必ず1冊は児童文化財に慣れ親しみ、題目や出版先、発行年、選書の理由等について、まとめておく。

【課題に対するフィードバックの方法】

定期的に課題を回収し、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。
 よくできた課題を印刷・配付などして、全体に紹介する。

【成績評価基準】

レポートは、「関心・意欲・態度」の観点から、
 授業への参加貢献度は、「事前・事後学修の取組み」や「グループワークへの貢献度」の観点から、
 実技試験は、「発声・発音」「話し方」「表情」「立居振舞」「相互作用」の観点から到達度を見る。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	40%	30%	30%	0%

【テキスト】

- ・文部科学省 「幼稚園教育要領（2017）」 フレーベル館
- ・厚生労働省 「保育所保育指針（2017）」 フレーベル館
- ・内閣府・文科省・厚労省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（2017）」 フレーベル館

【参考図書】

- ・必要に応じて随時、配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2328	保育内容（音楽表現）	2年	前期	2	必修	水野 伸子

【授業の目的と概要】

子どもの生活において、子どもはどのような表現活動を行おうとするのか、その内容にはどのようなものがあるのか、どのような環境が表現を誘発するのか、どのような要素が表現活動の源泉となっているのか、表現以外の4領域との関連はどうか、どうして子どもに表現を指導しなければならないのか等について、本演習では学習する。特に音や音楽は、子どもの生活において、どのような位置を占めるのかについて、資料やDVD教材等を用いて理解する。また、音楽表現の指導は、どのような方法によってなされるのか、子どもの世界観や発達との関連、環境設定との関連、保育者の援助等について演習を行う。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	本授業の目的と授業計画、自己課題の設定	本授業のねらいと授業計画を理解し、自らの課題を明確にする。
第2回	幼児期の学びとそれを支える人間関係	音への興味からわかる幼児の音楽的な発達のみちすじと、その音楽的経験を支える周りの人間関係について理解する
第3回	手作り楽器等の音遊びにおける幼児の認識や思考の過程	手作り楽器で遊ぶ幼児の事例から、乳幼児の音に対する認識や思考の過程を知る。
第4回	領域「表現」のねらいと内容	幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領・保育所保育指針における領域「表現」の内容を理解する
第5回	わらべうた、言語表現・身体表現・造形表現との関係を踏まえた保育の構想	わらべうたの教育的意義について、言語表現・身体表現・造形表現との関係から整理する。
第6回	幼児期の音感覚、日本人の音楽的文化化（(Musical Enculturation)）	母語のもつリズムや音程から培われる伝統的な音感覚と現代文化である西洋音楽の音感覚が融合されて幼児期の音感覚が形成される過程を理解する
第7回	発達心理学の視点から捉える乳幼児期の音楽的発達、小学校教育との接続	乳幼児の音やリズムに対する反応から、音楽的発達のみちすじを理解する。
第8回	民俗学の視点から捉える人間と音楽の関係	縄文時代や弥生時代に生きていた先祖は、どのように音や音楽と関わってきたのか、その原初的な関係を検討することにより、人と音や音楽との関係を問直す。
第9回	リトミックと身体表現、及び保育の構想	人間の身体の中にあるリズムをきっかけにして動きに転換し、音楽的理解にかえたリトミックの考え方を理解し、保育に活かす方法を知る。
第10回	コダーイ・メソッドとわらべうた、及び保育の構想	声を重視し、歌うこと、特に母語からなるわらべうた、ハンドサイン、トニック・ソルファ法を理解し、保育に活かす方法を知る。
第11回	オルフ・メソッドとリズム、及び保育の構想	人と音楽の原初的な関係から、エレメンタール（根元的）な音楽のあり方を理解し、保育に活かす方法を知る。
第12回	療法的音楽活動、評価の考え方	人が心身ともに健康に生活することを目指し、子どもの側に立って行なう療法的音楽活動の方法を知り保育に活かす方法を知る。
第13回	音遊びによる模擬保育と指導案の作成	実際に音遊びによる模擬保育を体験し、子どもの反応を予測し、それを基に指導案を組み立てる
第14回	うたによる模擬保育と指導案の作成	実際にうたを用いた模擬保育を体験し、子どもの反応を予測し、それを基に指導案を組み立てる
第15回	発達や学びの過程を踏まえた乳幼児の音楽表現、定期試験	発達や学びの過程を踏まえ、乳幼児の音楽表現はどのようにあることが望ましいのか自分なりの考えを持つ

【授業の到達目標】

領域「表現」に示されたねらいや内容の意味することを説明できる
 幼児の音楽的発達や学びの過程を説明できる
 具体的な子どもの反応を想定して保育を構想することができる。

【事前・事後学習】

事前学習:次の授業で学ぶ関連テキストの章を読み、わからない音楽用語や疑問に思う内容を明確にする（1時間程度）
 事後学習:授業で出された課題に取り組む（1時間程度）

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは添削して返す。
 筆記試験は、解説を付けた解答例を示す。

【成績評価基準】

領域「表現」に示されたねらいや内容の意味することを説明できたか
 幼児の音楽的発達や学びの過程を説明できたか
 具体的な子どもの反応を想定して保育を構想することができたか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%	30%	30%		

【テキスト】

- ・「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」（保育出版社）
- ・「幼稚園教育要領」（文部科学省）
- ・「保育所保育指針」

【参考図書】

- ・「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1329	保育内容（造形表現）	1年	後期	2	必修	新實 広記

【授業の目的と概要】

幼児の日常生活における造形表現の意味について概説し、具体的な保育実践のあり方と指導法に関して、以下の内容を実践的に学習する。(1) 教育要領（幼稚園）、保育指針（保育所）「表現」に置ける造形活動の位置づけ。(2) 子どもの絵画表現の発達とその指導のあり方。(3) 子どもの制作表現の発達とその指導のあり方。(4) 色、形、イメージなどの造形感覚を高めるための実践演習。以上の学習の中で常に「生きる力」の基本の一つとなる観る力、考える力などを養成する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション（授業説明、注意事項）	授業の概要と目的、受講にあたっての注意事項を説明する。
第2回	身体で描く絵画表現「フィンガーペインティング」（子どもの絵画表現の発達）	子どもの絵画表現の発達を踏まえたフィンガーペインティングの技法とその指導の方法を学ぶ。
第3回	色で遊ぶ「色の発見」（子どもの絵画表現の発達）	子どもの絵画表現の発達を踏まえた色遊びの技法とその指導の方法を学ぶ。
第4回	身近な素材を使った造形遊び（素材研究）	様々な身近な素材を使って造形遊びを行いそれぞれの素材の特性を理解し、その指導の方法を学ぶ。
第5回	箱で遊ぶ「ダンボールアート」（素材研究）	段ボール素材の特性を生かした大型作品の製作をグループで行い共同製作の楽しみを味わいその指導の方法を学ぶ。
第6回	子どもと自然「光を楽しむ」（素材研究）	子どもと自然の関わりとして光や影を題材にした造形活動を行いその指導の方法を学ぶ。
第7回	子どもと自然「木を楽しむ」（素材研究）	子どもと自然の関わりとして木片素材を使用した造形活動を行いその指導の方法を学ぶ。
第8回	子どもと自然「土を楽しむ」（素材研究）	子どもと自然の関わりとして粘土素材を使用した造形活動を行いその指導の方法を学ぶ。
第9回	イメージを豊かにする造形遊び「コラージュ素材収集」（子どもの発達と指導方法）	雑誌や包装紙、柄布などからコラージュを行うための素材を収集する楽しみを味わいその指導の方法を学ぶ。
第10回	イメージを豊かにする造形遊び「コラージュ貼付け」（子どもの発達と指導方法）	前回収集したコラージュ素材をもとに貼付けを行いコラージュの楽しみを味わいその指導の方法を学ぶ。
第11回	環境を豊かにする造形遊び・計画「模擬保育」	模擬保育で行う題材を決め、ねらい、対象年齢、用具、材料などの指導計画を行う。
第12回	環境を豊かにする造形遊び・制作「模擬保育」	目の前に子どもがいることをイメージしながら模擬保育を効果的に行う。
第13回	環境を豊かにする造形遊び・展示「模擬保育」	模擬保育で制作した作品を効果的に教室に展示し環境を豊かにする。
第14回	模擬保育の振り返り「模擬保育」	模擬保育の振り返りを行い良かった点、反省点などを書き出し、意見交換を行う。
第15回	「生きる力を養う造形表現指導のあり方」（まとめ）	これまでの授業内容を振り返り幼児における造形表現の意義についてまとめを行う。

【授業の到達目標】

履修者は、子どもの造形の理解を土台に、造形指導の理論と方法、技術を学び、指導実践に生かすことのできる基礎的な表現方法を身に付けることができる。

【事前・事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回指示するキーワードとなる専門用語を予め調べておく。その上で、皆さんの声を踏まえながら理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

各回の授業後に、授業理解を確認するためのレポート課題を実施する。レポートの内容を確認後、より理解を深められるような自主学習の方法の提案や資料を提供する。

【成績評価基準】

子どもの造形に関して、造形指導の理論と方法を理解し、技術を身につけることができたか、受講姿勢、授業ノートの完成度、提出作品、提出レポートから総合的に評価する。特に授業に取り組む態度を重視する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	50	0	20（課題作品）

【テキスト】

・辻泰秀『幼児造形の研究—保育内容「造形表現」』明文書林

【参考図書】

・必要に応じて資料を配付する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2330	保育内容（身体表現）	2年	前期	2	必修	伊藤 数馬

【授業の目的と概要】

幼児の身体表現は、教師の態度や言葉かけ等、その指導法により大きく影響される。そこで実際に指導案を作成し模擬保育を行い、その後のディスカッションを通して、身体表現に必要な指導法を学ぶ。模擬保育では教員・保育者の役割だけでなく子どもの役割も行い、子どもが感じる心を想像して、表現意欲がでる言葉かけ、より発展的に進める方法を考える。また、身体表現の教材についての技能を高めるようにする。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	教育要領「表現」における身体表現とその意味	教育要領「表現」について名前の由来、ねらい、内容とその取扱いについて解説を聞く。その上で、身体表現がもつ教育的意味についての知見を深め、実際の場面を想定して、条文の内容を理解する。
第2回	身体表現指導における保育士・教師の役割	子どもの豊かな感性や表現は、指導者の表現力の豊かさが強く影響することを知る。指導者のことばかけ・表現力がその中心となること、そのために授業中・在学中・就職後に行わねばならないことについて考える。
第3回	身体表現のための身体作りⅠ リズム感を育てる	子どものリズム感を育成することは表現力育成の基礎になる。そのためには、指導者自身のリズム感をよくする必要がある。ここでは、リズム感を高めるリズム表現遊びの習得と、その技術向上を目指す。
第4回	身体表現のための身体作りⅡ 動くのが楽しい身体	動くこと（表現）は本来楽しいものであること、楽しくないと表現はできないこと（心の解放）、身体表現は自分なりの動きでよいことなど、表現が楽しいと感じるような教材の習得と、その技術を磨く。
第5回	身体表現のための身体作りⅢ 柔軟な身体作り	豊かな身体表現をするためには、柔軟な心と身体が必要である。そのための「くねくね体操」、模倣力を養う「身体のスケッチ」、イメージを表現する「イメージ表現」、「無対象表現」などから、身体表現力を養う。
第6回	言葉かけⅠ 身体表現への導入をどうするか	身体表現ではその導入が最も難しい。子どもたちの気持ちや自然と表現に向かうためには「ことばかけ」が大きな役割を占める。それは場合によって多種多様であるが、事例を見ながら、自分なりのスタイルを考える。
第7回	言葉かけⅡ 身体表現の発展を考える	身体表現は単発で終わったり、模倣だけになったりする。それを発展させていくために「ことばかけや態度」、「集団へ広げていく手法」、「関連する教材の提示」、「発表会への導入」など、多くの手法があることを学ぶ。
第8回	身体表現指導における指導案の計画・作成	身体表現指導における指導案について、ねらいや内容について解説を聞く。その上で、実際の場面を想定して、指導案の計画・作成を理解する。
第9回	年齢別の身体表現指導Ⅰ 年少児を対象とした指導案作成・模擬保育	楽しいとこご笑う1歳児、うれしいとやたら走る2歳児、などの年少児の特性を知り、それに合った教材を実際に体験し、教材の内容といくつかの種類を覚える。
第10回	年齢別の身体表現指導Ⅱ 年中児を対象とした指導案作成・模擬保育	教材の素材そのものの感触を楽しむ3歳児、色々な動きにチャレンジする4歳児、などの年中児の特性を知り、それに合った教材を実際に体験し、教材の内容といくつかの種類を覚える。
第11回	年齢別の身体表現指導Ⅲ 年長児を対象とした指導案作成・模擬保育	たいていの動きをこなし、集団での表現を楽しめる年長児の特性を知り、それに合った教材を実際に体験し、教材の内容といくつかの種類を覚える。一つの作品を作り上げるまでのプロセスも事例より学ぶ。
第12回	教材別指導のポイントⅠ 日常保育における手遊び・体操・ダンス等	日常保育でよく使用される手遊びの指導と導入について実践する。子どもたちの大好きな幼児体操を覚える。日常保育で踊られるフォークダンスやリズムダンスなどをしっかり覚える。
第13回	教材別指導のポイントⅡ 運動会における作品	運動会では多くの機会に、作品の発表が行われる。各年齢向けの教材を知っておくことが必要である。実際に作品を演じてみて、互いに鑑賞し合って、子どもたちにどのように種落していくかを考える。
第14回	教材別指導のポイントⅢ 生活発表会における作品	生活発表会は身体表現のもっとも大きなイベントであり、現場でもその指導を必要とする。そのために、作品を知ること、どのようなプロセスで子どもたちの表現力を引き出せるかを学ぶ。
第15回	本講義のまとめ	この授業を通して身体表現の持つ意味等についてディスカッションを行う。その後、自分で一番表現したい作品をレポートして提出する。

【授業の到達目標】

子どもの表現の中で身体表現の果たす役割を理解し、実技を通して手遊びや表現作品のいくつかを自分のものにできる

身体表現指導の際に使う言葉かけを多く活用することができる

指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができ、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている

【事前・事後学習】

事前指導：作品のヒントになるものを見つけてくる。

事後指導：授業で行う作品について、反復練習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するレポートについては、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つことで理解を深める。

【成績評価基準】

領域「表現」についての理解ができているか

子ども向けの作品が作れたかどうか

授業への参加が積極的であり、表現された内容が豊かであったか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	20	0	60（模擬保育・指導案）

【テキスト】

・古市久子『保育表現技術』ミネルヴァ書房

【参考図書】

・絵本等の教材資料については授業の時に指示する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3331	国語科教育法	3年	後期	2	初等教育コース・必修 幼児教育コース・選択	小原 一臣

【授業の目的と概要】

小学校国語科の本質を理解するとともに、学習指導を行うための基礎となる知識、技能（書写を含む）の習得を目指す。小学校学習指導要領「国語」について理解を深め、児童の言語能力を培うための実践的指導力を育成する。教科書教材をもとに、国語科の学習指導案を作成し模擬授業を行うことを通して、基本的な授業構想の方法と指導技術を身に付ける。書写に関する事項においては、基本的な実践的指導力を身に付ける。授業形態は演習とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	小学校国語科の全体像及び学習者（小学生）の特質の理解	小学校国語科の全体像を把握するとともに学習者の特質を理解して、「日本語のよりよい使い手」について考察する。
第2回	小学校学習指導要領「国語」各領域及び事項の目標・内容の理解	小学校学習指導要領「国語」各領域及び事項の目標・内容を理解し、国語科教育によって培う言語能力について考察する。
第3回	教材研究（1）文学的文章「ごんぎつね」の分析及び教材化	「ごんぎつね」の構造を分析し、登場人物の心情・行動を把握する。そして、作品のテーマに迫る授業を行うための教材化を図る。
第4回	教材研究（2）説明的文章「すがたをかえる大豆」の分析及び教材化	「すがたをかえる大豆」の構造を分析し、筆者の考えを読み取る。この文章によって、どのような言語能力を伸ばそうとするのか検討させたのち、教材化を図る。
第5回	教材研究（3）インタビュー「きいて、きいて、きいてみよう」の分析及び教材化	「きいて、きいて、きいてみよう」を手がかりにして、話すこと・聞くことを国語科の学習として取り立てて学ぶことの意義を踏まえた上で、教材化を図る。
第6回	教材研究（4）意見文「自分の考えをつたえるには」の分析及び教材化	「自分の考えをつたえるには」を手がかりにして、書くことの特性及び学習過程について理解を深め、教材化を図る。
第7回	国語科学習指導案の作成（1）児童の言語能力の把握と分析	児童の言語能力を把握するための具体的な方法を知り、学習指導案の作成に生かすことができるようにする。
第8回	国語科学習指導案の作成（2）教材分析	児童の実態や教材の系統を踏まえた上で、学習目標を達成するための教材分析の方法について学ぶ。
第9回	国語科学習指導案の作成（3）発問及び板書構成	児童の思考を深めるための発問について検討する。また、児童の思考を促すとともに授業全体を俯瞰できる板書構成の仕方について学ぶ。
第10回	模擬授業及び授業研究（1）授業分析の視点と方法	授業分析の視点について学ぶ。受講者が実施した模擬授業の検討を通して、よい授業とはどのようなものか考察する。
第11回	模擬授業及び授業研究（2）思考を深める学習構造	児童の思考を深めるための要素や学習構造について、模擬授業の検討を通して学ぶ。
第12回	模擬授業及び授業研究（3）児童の変容と授業評価	児童の変容を検証する手立て及び授業評価の方法について学び、次時の授業に生かす手がかりについて考察する。
第13回	書写に関する事項の指導法（1）文字を書くための基礎的事項	姿勢、筆記用具の持ち方、筆順など、文字を書く基礎的事項について、実習を通して身に付ける。
第14回	書写に関する事項の指導法（2）目的に応じた書き方	目的に応じた書き方を実習を通して理解し、書写で学んだことを日常生活や他の学習に生かせるようにする。
第15回	小学校国語科の今日的課題の検討	全国学力学習状況調査の結果から国語科授業の課題を明らかにし、その改善策について討議する。

【授業の到達目標】

児童の言語能力を培うための基礎的指導事項が理解できる。
 小学校学習指導要領「国語」の目標・内容が理解できる。
 国語科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
 書写指導の基本的な実践的指導力を身に付けている。

【事前・事後学習】

授業の予習や復習につながる課題に毎回取り組み、翌週までにレポートを提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポートは、授業の際、フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

児童の言語能力を培うための基礎的指導事項が理解できたか。
 小学校学習指導要領「国語」の目標・内容が理解できたか。
 国語科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができたか。
 書写指導の基本的な実践的指導力を身に付けられたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	40%	30%	30%	0%

【テキスト】

・必要に応じて資料を配付する。

【参考図書】

・必要に応じて参考図書を紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2332	社会科教育法	2年	後期	2	初等教育コース:必修 幼児教育コース:選択	白井 克尚

【授業の目的と概要】

この授業では、小学校社会科の授業や学習指導について、授業づくりの基礎を習得することをめざしている。授業形態は、実践記録の分析や模擬授業等を行う演習方式である。その際、授業ビデオや授業記録を印刷したプリントなどを多く用いて検討する。授業計画は、各学年の授業と学習指導の分析から、学習指導案を試作し、模擬授業を行うことまでを考えている。授業を通じて、社会科授業観を深め、小学校社会科教師の仕事の複雑さを理解する契機となることを願っている。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業のオリエンテーション: 小学校社会科授業の目標について	社会科教育法の講義計画と全体像
第2回	小学校社会科における学習内容と評価について	小学校社会科における学習内容と評価について理解する。
第3回	小学校社会科における教材研究について	小学校社会科における教材研究について理解する。
第4回	第3学年 社会科地域学習に関する授業実践事例と学習指導の分析	第3学年 身近な地域や市(区、町、村)に関する授業と学習指導の分析を行う。
第5回	第4学年 社会科地域学習に関する授業実践事例と学習指導の分析	第4学年 生産や販売に関する授業と学習指導の分析を行う。
第6回	第5学年 社会科産業学習に関する授業実践事例と学習指導の分析	第5学年 産業に関する授業と学習指導の分析を行う。
第7回	第6学年 社会科歴史学習に関する授業実践事例と学習指導の分析	第6学年 歴史に関する授業と学習指導の分析を行う。
第8回	小学校社会科における授業づくりについて	小学校社会科における授業づくりについて理解する。
第9回	小学校社会科における授業研究について	小学校社会科における授業研究について理解する。
第10回	小学校社会科における学習指導案の作成について	小学校社会科における学習指導案の作成について理解する。
第11回	第3学年 社会科地域学習に関する模擬授業	第3学年 社会科地域学習に関する模擬授業を行う。
第12回	第4学年 社会科学習に関する模擬授業	第4学年 社会科学習に関する模擬授業を行う。
第13回	第5学年 社会科産業学習に関する模擬授業	第5学年 社会科産業学習に関する模擬授業を行う。
第14回	第6学年 社会科歴史学習に関する模擬授業	第6学年 社会科歴史学習に関する模擬授業を行う。
第15回	授業のまとめ: 小学校社会科授業の学習指導について	授業のまとめを行う。

【授業の到達目標】

小学校社会科における授業計画を構想し、立案することができる。
児童の実態を踏まえて、小学校社会科の学習指導案を設計し、展開することができる。

【事前・事後学習】

小学校社会科の学習指導要領を読み直す。
模擬授業の準備を計画的に進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

模擬授業は、授業研究を通して感想を交流し、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

小学校社会科の授業づくりに関する基本を身につけているか。
小学校社会科の授業づくりに関わる課題について、実践を通して考えることができるか。
毎回の授業の振り返りを通して、課題について考えることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	授業のコメントシート (40%)	模擬授業(30%)	学習指導案(30%)

【テキスト】

・土屋武志編『実践から学ぶ解釈型歴史学習～子どもが考える歴史学習へのアプローチ～』梓出版社,2015

【参考図書】

・『小学校学習指導要領解説 社会科編』(平成29年6月告示 文部科学省)

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2333	算数科教育法	2年	後期	2	初等教育コース:必修 幼児教育コース:選択	坂井 武司

【授業の目的と概要】

算数科のねらいと算数指導の本質を理解するために、国内外の学力調査問題の演習を通して、算数科で育みたい「数学的に考える資質・能力」について考察する。また、数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動を通じた算数科の指導方法・指導内容の本質・子どもの認識について理解するために、算数科の5領域における数学的活動に関する演習を行う。さらに、指導と評価の一体化についての理解を深めるために、算数科学習指導案の作成と模擬授業を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	算数科教育の今日的課題－PISA調査・TIMSS調査－	PISA調査・TIMSS調査を通して「数学的に考える資質・能力」について捉え、算数科のねらいと本質について考察する。
第2回	「数と計算」領域の指導(1)～整数と計算(加法・減法)～	「数と計算」領域の目標と内容の概要を捉えると共に、整数の加法・減法の計算方法を考えたり問題作りをしたりすることを通して、十進位取り記数法に基づいた指導方法や加法的構造について考察する。
第3回	「数と計算」領域の指導(2)～整数と計算(乗法・除法)～	整数の乗法・除法に関して、数直線を用いて問題解決をしたり筆算の仕方を説明したりすることを通して、加法・減法との関係に基づいた指導方法や乗法的構造について考察する。
第4回	「数と計算」領域の指導(3)～小数と計算～	小数の計算に関して、数直線を用いて問題解決をしたり筆算の仕方を説明したりすることを通して、整数から小数へと計算方法を拡張する指導方法や小数の計算の意味について考察する。
第5回	「数と計算」領域の指導(4)～分数と計算～	分数の計算に関して、テープ図や面積図を用いて問題解決をしたり計算の仕方を説明したりすることを通して、単位の考えに基づいた指導方法や分数の計算の意味について考察する。
第6回	「図形」領域の指導	「図形」領域の目標と内容の概要を捉えると共に、図形を作図したり色板を使って図形を構成したりすることを通して、帰納と演繹の考えに基づいた指導方法や図形の包摂関係について考察する。
第7回	「図形」・「測定」領域の指導	「量と測定」領域の目標と内容の概要を捉えると共に、体を使って長さを測定したり台形の面積の求め方を考えたりすることを通して、測定の原理に基づいた指導方法や面積公式の統合について考察する。
第8回	「変化と関係」領域の指導	「変化と関係」領域の目標と内容の概要を捉えると共に、図・表・式・グラフを読み取ったりそれらに関係づけたりすることを通して、関数の考えに基づいた指導方法や割合と比・比例の関係について考察する。
第9回	「データの活用」領域の指導	「データの活用」領域の目標と内容の概要を捉えると共に、表に整理したりグラフから傾向を読み取ったりすることを通して、統計の意義に基づいた指導方法や場合の数について考察する。
第10回	数学的な見方・考え方を育む指導－全国学力・学習状況調査－	全国学力・学習状況調査のA・B問題を解決することを通して、数学的な見方・考え方を育む指導方法について考察する。
第11回	算数科における発展的な学習・ICTの活用・プログラミング教育	数学的活動の概要を捉えると共に、算数科における発展的な学習・ICTの活用・プログラミング教育の位置付けについて考察する。
第12回	算数科における評価と授業設計	評価のためのルーブリックを作成したり児童の記述を判定したりすることを通して、算数科における評価方法や指導と評価の一体化について考察する。
第13回	算数科学習指導案の作成	第5学年「面積」の単元に関して、算数科学習指導案を作成する。
第14回	算数科模擬授業	第6学年「分数のわり算」・「比例」の単元に関して、グループでの授業構想(10分)・模擬授業(10分)・全体討議(10分)を行う。
第15回	算数科教育のまとめ	算数科教育まとめとしてテストを行うと共に、解答例の解説を行う

【授業の到達目標】

- (1) 算数科教育の目標に基づき、算数科のねらいと算数指導の本質を考察できる。
- (2) 算数科における5領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の指導内容の本質と指導方法を考察できる。
- (3) 算数科における子どもの認識と数学的活動の意義に基づき、数学的活動の内容を検討できる。
- (4) 指導と評価の一体化の考えに基づき、算数科の授業を構想できる。

【事前・事後学習】

第1週～第9週の事前学習(60分)として、学習指導要領の関連するページを読み、算数科のねらい・5領域の目標と指導内容・算数的活動についてまとめておきましょう。また、事後学習(30分)として、授業中の演習問題を復習しておきましょう。第10・12週の事前学習(60分)として、国立教育政策研究所のHPから全国学力・学習状況調査結果と評価規準の作成のための参考資料を検索し、読んでおきましょう。第13週の事前学習(60分)として、第5学年「面積」の単元の内容を算数の教科書や指導書で確認しておきましょう。また、事後学習(90分)として、学習指導案を完成させましょう。第14週の事前学習(90分)として、第6学年「分数のわり算」・「比例」の単元の内容を算数の教科書や指導書で確認しておきましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポート(算数科学習指導案)は、添削・採点の上で返却します。
毎回の小テストと筆記試験は、模範解答とその解説を行います。

【成績評価基準】

(1) 算数科教育の目標に基づき、算数を学習する意義について説明できる。(2) 算数科における5領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の指導内容に関して、指導のポイントとなる数学的な概念や見方・考え方を説明することができる。(3) 算数科における指導内容の本質に基づき、適切な数学的活動を学習展開に位置付けることができる。(4) 算数科の授業設計の方法及び評価方法に基づき、算数科学習指導案を作成できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	10% 算数科学習指導案	10%	0%	20% 毎回の小テスト

【テキスト】

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版社

【参考図書】

・国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校算数』教育出版
・齋藤昇編『子どもの学力を高める新しい算数科教育法』東洋館出版社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2334	理科教育法	2年	後期	2	初等教育コース・必修 幼児教育コース・選択	柿原 聖治

【授業の目的と概要】

安全に実験を行えるように、実験の基本操作を身に付ける。小学校理科の学習内容を、実験を通して教えることができるようにする。演示実験ではなく、学生実験を中心とした授業形態をとる。探究的に考察する過程を重視した授業の方法、実験教材の授業への生かし方、教材の配列の仕方、身近な物を使った実験教材の開発などについて論じる。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	実験の基本操作	加熱器具の使い方（理科実験用ガスコンロ、ガスバーナーの使い方）
第2回	実験方法、考察	対照実験、思考実験、定性・定量実験、考察と結果の区別
第3回	物体の膨張・収縮	空気、水の膨張・収縮を調べる実験
第4回	燃焼・酸化・火災	燃焼の条件、使い捨てカイロの酸化、炎の正体を調べる実験
第5回	空気の成分と割合	空気や吐く息の組成を調べる実験、脈拍の測定
第6回	酸性・アルカリ性	身近な草花から指示薬を作る実験、水溶液調べ
第7回	気体の製法と性質	発泡入浴剤などで気体を発生させ、性質を調べる実験
第8回	大気の様子	天気図、台風、結露、防災教育、雲を作る実験
第9回	宇宙の構造	太陽と月の動き、季節、惑星と恒星、夏・冬の大三角の観察
第10回	回路、導体さがし	直列・並列回路づくり。導体・不導体を調べる実験
第11回	金属の性質	金属の共通の性質や、金属の膨張・収縮を調べる実験
第12回	電解質と電池	身近な物を使った電池づくり、プログラミングの提示
第13回	磁石・磁気	手回し発電機を使った実験、プログラミングの実際
第14回	指導案の作成	指導案の構成と作成方法。授業設計
第15回	実践と発表	模擬授業を行い、話し合いをして検討する

【授業の到達目標】

理科教育を行うのに必要な知識と実験の技能を修得する。
安全に実験が行えるように、実験の基本操作や事故防止の方法を身に付ける。
小学校理科の学習内容を、実験を通して教えることができるようにする。
理科授業を楽しく展開させる指導法を習得する。

【事前・事後学習】

理科の教科書を読み直す

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストの解説を行う。「調べ学習」を学生に課し、レポートとして提出させる。その後、コメントをつけて返す。

【成績評価基準】

実験への取り組み、毎回の小テスト、レポート課題により、総合的に評価する

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	40	0	30（活動・ものづくりへの取り組み）

【テキスト】

・なし

【参考図書】

- ・現行の「小学校学習指導要領 理科」文部科学省
- ・現行の「小学校の理科教科書」大日本図書
- ・現行の「中学校の理科教科書」東京書籍

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2335	生活科教育法	2年	後期	2	初等教育コース：必修 幼児教育コース：選択	柿原 聖治 (1～5回) 梶浦 恭子 (6～10回) 白井 克尚 (11～15回)

【授業の目的と概要】

この授業では、小学校生活科の授業や学習指導について、授業づくりの基礎を習得することをめざしている。授業形態は、実践記録の分析や模擬授業等の演習形式である。その際、授業ビデオや授業記録を印刷したプリントなどを多く用いて検討する。授業計画は、オムニバス方式（全15回）で、自然科学系（5回）と環境系（5回）と社会系（5回）の内容に関する学習指導に分かれて行う。授業を通じて、生活科授業観を深め、生活科教師の仕事の複雑さを理解する契機となることを願う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	生活科（自然科学系）の授業づくりについて（担当：柿原聖治）	生活科（自然科学系）の授業づくりについて理解する。
第2回	季節に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：柿原聖治）	季節に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第3回	遊びに関する生活科授業と学習指導の分析（担当：柿原聖治）	遊びに関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第4回	飼育栽培に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：柿原聖治）	飼育栽培に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第5回	生活科（自然科学系）における教材研究と学習指導案の作成について（担当：柿原聖治）	生活科（自然科学系）に関する模擬授業を行う。
第6回	生活科（環境系）の授業づくりについて（担当：梶浦恭子）	生活科（環境系）の授業づくりについて理解する。
第7回	家庭生活に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：梶浦恭子）	家庭生活に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第8回	学校生活に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：梶浦恭子）	学校生活に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第9回	成長に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：梶浦恭子）	成長に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第10回	生活科（環境系）における教材研究と学習指導案の作成について（担当：梶浦恭子）	生活科（環境系）に関する模擬授業を行う。
第11回	生活科（社会系）の授業づくりについて（担当：白井克尚）	生活科（社会系）の授業づくりについて理解する。
第12回	地域生活に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：白井克尚）	地域生活に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第13回	公共に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：白井克尚）	公共に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第14回	交流に関する生活科授業と学習指導の分析（担当：白井克尚）	交流に関する生活科授業と学習指導の分析を行う。
第15回	生活科（社会系）における教材研究と学習指導案の作成について（担当：白井克尚）	生活科（社会系）に関する模擬授業を行う。

【授業の到達目標】

生活科における授業計画を構想し、立案することができる。
児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導案を設計し、展開することができる。

【事前・事後学習】

生活科における授業計画を構想し、立案することができる。
児童の実態を踏まえて、小学校生活科の学習指導案を設計し、展開することができる。

【課題に対するフィードバックの方法】

模擬授業は、授業研究を通して感想を交流し、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

生活科の授業づくりに関する基本を身につけているか。
生活科の授業づくりに関わる課題について、実践を通して考えることができるか。
毎回の授業の振り返りを通して、課題について考えることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30(授業のコメントシート)	40 (模擬授業)	30 (学習指導案)

【テキスト】

・『小学校学習指導要領解説 生活編』（平成29年6月告示 文部科学省）

【参考図書】

・必要に応じて提示する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3336	音楽科教育法	3年	後期	2	初等教育コース:必修 幼児教育コース:選択	水野 伸子

【授業の目的と概要】

本演習では、小学校音楽科における指導方法、教材研究を中心に授業の計画、進め方、評価の仕方を学ぶ。教材研究は、小学校で扱う歌唱作品、器楽作品を演奏したり、鑑賞したりする。また、授業計画作成の基本的な考え方を学び、指導計画・指導案を作成する。子ども主体の指導方法を理解するために、具体的な授業場面を想定して、音楽科授業の進め方、楽しさなどについて意見交換をする。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	本授業の目的と授業計画、学校教育で教科として音楽を学ぶ意味	学校教育に音楽の教科があるのはなぜか。音楽科教育が担う役割、新学習指導要領が示す目標、それらと関連付けて本授業の目的を理解するとともに、自己課題を明確にする。
第2回	音楽科教育の歴史の変遷	我が国における音楽科教育の歴史の変遷を学び、音楽科教育が伝統音楽と西洋音楽をどのように扱い、何を大事にしてきたのかを理解する。
第3回	小学校学習指導要領（音楽）の内容と幼児期の教育との接続	学習指導要領（音楽）の目標及び内容を理解し、幼児期までに育ってほしい姿を踏まえた指導、音楽的な見方・考え方を働かせた学習とはどういうことかをグループでの意見交流を通して学ぶ。
第4回	教科書研究（教材分析）	各学年で育成する資質・能力（知識・技能・思考力・判断力・表現力等）は何かという課題のもと、担当学年ごとにグループに分かれて、現行の教科書の教材分析を資料をもとに行い意見交流する。
第5回	題材構成の内容と考え方	教材と題材の違いを整理して理解し、題材構成の考え方を事例から学ぶ。
第6回	教材曲の分析、構造や曲想との関連	教材曲の分析を、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの観点から行い、曲想や音楽の構造との関連から理解する。
第7回	表現（歌唱）の内容と発達段階に即した音楽学習指導理論	学童期の発声における発達の道筋を知り、教科書の構成から歌唱指導の内容を整理するとともに指導の留意点を理解する。
第8回	表現（歌唱）の内容と表現を引き出す指揮法	教材曲を選び、指導案の展開部分を実際に作成する作業を通して、歌唱の授業内容を理解する。表現を引き出す実践的指揮法を学ぶ。
第9回	表現（器楽）の内容と指導の留意点、及び指導案の作成	楽器の特性を生かした器楽活動の内容を理解し、歌唱とは違う味わいを感じ取り、器楽指導の留意点を学ぶ。実際に、合奏の楽しさや難しさを体験しながら指導案の展開を考える。
第10回	表現（音楽づくり）の内容と指導の留意点、及び指導案の作成	反復、呼びかけとこたえ、変化などの音や音楽のつなげ方、重ね方から音楽の仕組みを学び、思いや意図をもって全体のまとまりを意識した音楽づくりを、実際に体験しながら指導案の展開を考える。
第11回	音楽的発達に応じた鑑賞の内容と指導の留意点、及び指導案の作成	児童の鑑賞能力を発達に即して段階的に整理し、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを手がかりに、能動的・創造的に鑑賞する方法を理解する。
第12回	日本人の伝統的な音感覚と日本音楽の授業設計	わらべうたや民謡などがもつ伝統的な音感覚の良さを知り、日本の楽器による演奏を鑑賞し、伝統的な音感覚を理解する。
第13回	サウンド・エデュケーションの観点による模擬授業と授業改善の視点	マリーシェーフアーが提唱するサウンドマップ、サウンドスケープ等の音に着目した音楽教育の内容を実際に体験することにより、人と音との関係を民俗学的視点から捉え直す。
第14回	学習指導要領の趣旨を反映した評価の在り方・指導要録の内容	指導計画や授業の展開との関連から児童の学習を充実させていく「指導に生かす評価」と、年度末等に総括的に行う「記録に残す評価」の考え方や内容を理解する。
第15回	教材曲の分析をもとに指導案の作成、定期試験	自分で選択した教材曲を分析し、曲想と音楽の構造などとの関わりを理解した上で、学習指導案を作成する

【授業の到達目標】

音楽的な見方・考え方を働かせて学習するとは、どのようなことかを説明できる。

教材曲を分析し、それを生かした表現ができる。

目指す姿を明確にした指導案を作成することができる

【事前・事後学習】

事前学習:次の授業で学ぶ歌唱共通教材の歌詞を読み、リズムと音程を別々に読譜してくる。

次の授業で学ぶリコーダー演奏曲の読譜をし、練習してくる。(1時間程度)

事後学習:授業で出された課題をテキストに記入する(1時間程度)

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは添削して返却する。

筆記試験は、解説を付けた解答例を示す。

【成績評価基準】

音楽的な見方・考え方を働かせて学習することがどのようなことかを説明できたか。

教材曲を分析し、それを生かした表現ができたか。

目指す姿を明確にした指導案を作成することができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%	30%	30%		

【テキスト】

- ・自作テキスト（学習プリントを含む）
- ・「小学校学習指導要領解説 音楽編」（文部科学省）
- ・現行の小学校教科書「小学校音楽1～6」（教育出版）

【参考図書】

- ・指定しない

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2337	図画工作科教育法	2年	後期	2	初等教育コース:必修 幼児教育コース:選択	新實 広記

【授業の目的と概要】

講義全般を通じて、美術教育の歴史、子どもの造形美術表現の発達、特徴・特質、心理、造形美など、授業展開の基礎となること等を総合的に、演習を交え学習する。特に近年、重要視されている鑑賞学習についても、その意義と具体的な指導展開の技術を学ぶ。さらに、多くの作例また授業例を参考にしながら、学習指導案を作成し、模擬授業を行って子どもの主体性や個性を引き出す学習指導の方法や評価のあり方をクラス全体で互いに発表し合いながら学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	講義「子どもの造形表現」(発達、特徴・特質、心理)	子どもの造形表現に関わる発達、特徴・特質、心理について学ぶ
第2回	講義「図画工作科の性格と目標」(人間の形成)	図画工作科の性格と目標、人間の形成にどのような役割があるのかを学ぶ
第3回	講義「美術科教育の歴史」(教育の目標とその変遷)	美術科教育の歴史を振り返り、教育の目標とその変遷についても学ぶ
第4回	講義「図画工作科の材料・用具、技法について」、 演習「見立て遊び」(教材研究)	図画工作科の材料・用具、技法について、見立て遊びを通して実践的に学ぶ
第5回	講義「『造形遊び』のねらいと題材」、演習「身近な材料で造形遊び」(教材研究)	造形遊びのねらいと題材について身近な材料で造形遊びを実践的に行い学ぶ
第6回	講義「『絵や立体に表す』活動のあり方と実際」、 演習「色と形を楽しむ」(教材研究)	絵や立体に表すための活動のあり方を色と形を楽しむ造形活動で学ぶ
第7回	講義「子どもの造形と環境」、演習「共同製作の楽しみ」(教材研究)	子どもの造形と環境について共同製作を通してその楽しみを体験的に学ぶ
第8回	講義「表現と鑑賞」、演習「鑑賞活動」(教材研究)	表現と鑑賞に関して鑑賞活動を実際に行いその方法を学ぶ
第9回	講義「図画工作科の学習展開の留意点」、演習「学習指導要領の分析」(学習指導案の作成)	図画工作科の学習展開の留意点、学習指導要領の分析を行う
第10回	講義「図画工作科の授業と評価」、演習「映像資料、教科書をもとにした分析」(学習指導案の作成)	図画工作科の学習展開の留意点、学習指導要領の分析を行う
第11回	講義「図画工作科の学習指導要領と指導計画」(学習指導案の作成)	図画工作科の学習指導要領と指導計画を行う
第12回	演習「模擬授業グループA」(模擬授業の振り返りとまとめ)	模擬授業を実施しグループで反省点、改善点をまとめそれらの意見を共有する
第13回	演習「模擬授業グループB」(模擬授業の振り返りとまとめ)	模擬授業を実施しグループで反省点、改善点をまとめそれらの意見を共有する
第14回	演習「模擬授業グループC」(模擬授業の振り返りとまとめ)	模擬授業を実施しグループで反省点、改善点をまとめそれらの意見を共有する
第15回	講義「図画工作科の授業づくりについてまとめ」	図画工作の授業づくりに必要なポイントをこれまでの授業を振り返りまとめる

【授業の到達目標】

小学校学習指導要領「図画工作科」について、教科目標、学年目標及び内容について確認するとともに、学年間の発展的展開について理解する。子どもの造形の発達段階や学習指導要領の内容に合わせた材料の準備から学習指導案の作成、授業展開、授業分析に至るまでの図画工作科の性格・目標を捉えた図画工作科指導計画を自立的に構築できる。

【事前・事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回指示するキーワードとなる専門用語を予め調べておいてください。その上で、皆さんの声を踏まえながら理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

各回の授業後に、授業理解を確認するためのレポート課題を実施する。レポートの内容を確認後、より理解を深められるような自主学習の方法の提案や資料を提供する。

【成績評価基準】

子どもの造形に関して、造形指導の理論と方法を理解し、技術を身につけることができたか、受講姿勢、授業ノートの完成度、提出作品、提出レポートから総合的に評価する。特に授業に取り組む態度を重視する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	50	0	20 (課題作品)

【テキスト】

・辻泰秀・他『造形教育の手法－えがく・つくる・みる－』明文書林

【参考図書】

・授業時に適宜紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3338	家庭科教育法	3年	前期	2	初等教育コース:必修 幼児教育コース:選択	正保 正恵

【授業の目的と概要】

家庭科の目標である生活文化の継承、民主的な家庭づくり、環境への配慮に関して、先行授業分析を行いながら新たに身につけるべき指導方法を学ぶ。これらを踏まえ、指導案を書き模擬授業を行い、授業に対する相互評価を行うことで学生同士のコミュニケーションを大切にするグループワークの方法も身につける。演習形式にて進めていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション 講義の概要と小学校家庭科指導要領・教科書を読む	小学校家庭科の目標、指導要領を解説し、教科書を概観するとともに講義全体のアウトラインを説明する。また、指導案についての説明を行う。
第2回	家庭科は身近で奥が深い(先行授業分析(1))	家庭科は子どもが好きな科目のベスト1(女子)ベスト2(男子)にもなっているように、自分自身の生活に関連した学びができる科目である。面白い科目をどう教えるか、考える。
第3回	正しい答えは一つではない(先行授業分析(2))	家庭科は数学などと違って、必ずしも正しい答えが1つとは限らない。個人の嗜好や経済条件などによって選択していくことを間接部教科でもある。
第4回	自分の生活の役に立てる(先行授業実践分析(3))	「気づく」「考える」「実行する」ことで、より良い生活をめざすことができることをどう伝えるか、教師自身の生活実践も問われることを知る。
第5回	何が公正なのかを問う(先行授業分析(4))	家庭科は以前は女子のみに教えられていた歴史があるが、今日では男女共同参画をめざして男女で学び、また子どもの権利条約や高齢者や障がい者のために何ができるのか考えることも必要である。
第6回	生活の中の教材(教材化の手順と留意点:教材研究)	教師に求められる専門的力量は、授業構成員、即興的判断力とともに教材開発力がある。身近な題材を活かしながらどのような教材を作っていくのか、学ぶプロセスを描きながら教材開発を考える。
第7回	指導方法(1)ロールプレイングの技法による授業効果(実践も含む)	家庭生活を大切にする心情を育てるためには、ロールプレイングは効果的な方法である。実践しながらその技法を身につける。
第8回	指導方法(2)バズセッションの技法による授業効果(実践も含む)	バズセッションは、6-6セッションとも呼ばれ、ある課題をグループで話し合いをして結論を出し、それをクラス全体で発表して意見をまとめていく技法である。実践しながら技法を学ぶ。
第9回	指導方法(3)食育と実験・実習の技法による授業効果(実践も含む)	実験・実習の技法について、実際の実習を例にしてその事前の準備・事後の片付けも含めて実践し、技法を身につける。
第10回	指導方法(4)身近な生活環境を整える実験・実習による授業効果(実践も含む)	実際に掃除の手順と意思決定、実践、評価をグループワークで行い、授業に繋げる。
第11回	授業評価	授業を行うときには、必ず評価方法についても検討しておく必要がある。どのような観点で評価するのか、家庭科の独自性を活かす評価方法を学ぶ。
第12回	授業づくり(1)「家族」の指導案を書く	あらかじめ個人で書いた「家族」についての指導案をもとに、グループで話し合いグループごとに一つの指導案にまとめる。
第13回	授業づくり(2)「食生活」の指導案を書く	あらかじめ個人で書いた「食生活」についての指導案をもとに、グループで話し合いグループごとに一つの指導案にまとめる。
第14回	模擬授業(1)「家族」の実践学習を実践する	第12回で作成した指導案に基づき、実践を行う。そしてお互いに評価しあうことで実践の力を高める。
第15回	模擬授業(2)「食生活」の実践学習を実践する・まとめ	第13回で作成した指導案に基づき、実践を行う。そしてお互いに評価しあうことで実践の力を高める。また、全体のまとめと試験を行う。

【授業の到達目標】

小学校の家庭科指導に当たって、家庭科の本質を理解し、必要な基礎的事項についての理論を踏まえた指導の方法にもとづいた授業の実践ができる。

【事前・事後学習】

家庭科指導法では、具体的に内容を理解するための配布プリントを事前に予習する(各1時間)。また、授業について内容を理解したうえで指導案を書く(約5時間)。また、授業のための準備を行う(約3時間)。さらに、事後評価を行う(約1時間)。そのため、事前に予習をしながらの宿題、事後に評価を交えての宿題を課す。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは、添削を行い返却します。指導案についても、添削を行います。評価票についても、最後に返却します。

【成績評価基準】

家庭科では、4つの評価観点(1)家庭生活への関心・意欲・態度、(2)生活を創意工夫する能力、(3)生活の技能、(4)家庭生活についての知識・理解の学習状況を評価するが、本講義もそれらを踏まえながら評価を行う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	30	5	15	0

【テキスト】

- ・『小学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省、小学校家庭科教科書、『授業力UP 家庭科の授業』鶴田敦子・伊藤葉子 編著 日本標準
- ・『新しい家庭5・6』東京書籍
- ・『小学校学習指導要領家庭編』文部科学省

【参考図書】

- ・適宜配布予定

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3339	体育科教育法	3年	後期	2	初等教育コース:必修 幼児教育コース:選択	伊藤 数馬

【授業の目的と概要】

小学校における体育科学習指導の目標と内容、指導計画、学習指導法について学習する。運動は、発育発達の著しい小学生にとって、特に重要な役割を持つため、学習指導要領の内容を十分に理解し、各運動の特性を踏まえた指導のあり方について学習する。理論にもとづき授業を計画・実践するための基本的な知識を提供することとともに、教材研究、模擬授業の実践、講評などを通して、体育科の指導力を養う。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	体育科の目標及び内容	体育科の目標及び内容について、学習し考察する。
第2回	各学年の目標及び内容 第1・2学年(1) 目標及び内容	第1・2学年の目標及び内容について、学習し考察する。
第3回	各学年の目標及び内容 第1・2学年(2) 学習の評価と教材研究	第1・2学年の目標及び内容、またその学習の評価と教材研究について、学習し考察する。
第4回	各学年の目標及び内容 第3・4学年(1) 目標及び内容	第3・4学年の目標及び内容について、学習し考察する。
第5回	各学年の目標及び内容 第3・4学年(2) 学習の評価と教材研究	第3・4学年の目標及び内容、またその学習の評価と教材研究について、学習し考察する。
第6回	各学年の目標及び内容 第5・6学年(1) 目標及び内容	第5・6学年の目標及び内容について、学習し考察する。
第7回	各学年の目標及び内容 第5・6学年(2) 学習の評価と教材研究	第5・6学年の目標及び内容、またその学習の評価と教材研究について、学習し考察する。
第8回	指導計画の作成と内容の取扱い(1) 指導計画作成上の配慮事項、内容の取扱い	指導計画の作成と内容の取扱いについて、指導計画作成上の配慮事項を学習し考察する。
第9回	指導計画の作成と内容の取扱い(2) 指導案の作成、グループ討議	指導計画の作成と内容の取扱いについて、指導案を作成し、グループ討議を行う。
第10回	模擬授業(1) 授業実践、質疑応答及び講評 低学年を対象とした模擬授業	低学年を対象とした模擬授業を実践し、その後質疑応答及び講評を行う。
第11回	模擬授業(2) 授業実践、質疑応答及び講評 中学年を対象とした模擬授業	中学年を対象とした模擬授業を実践し、その後質疑応答及び講評を行う。
第12回	模擬授業(3) 授業実践、質疑応答及び講評 高学年を対象とした模擬授業	高学年を対象とした模擬授業を実践し、その後質疑応答及び講評を行う。
第13回	模擬授業(4) 授業実践、質疑応答及び講評 器械運動の模擬授業	器械運動における模擬授業を実践し、その後質疑応答及び講評を行う。
第14回	模擬授業(5) 授業実践、質疑応答及び講評 表現運動・表現リズム遊びの模擬授業	表現運動・表現リズム遊びにおける模擬授業を実践し、その後質疑応答及び講評を行う。
第15回	本講義のまとめ	本講義で扱った内容をまとめ理解を確認する。

【授業の到達目標】

小学校体育科における基本的知識を体系的に理解することができる
運動の特性とそれに応じた教材についての理解を深めることができる
各学年に対応した指導案を作成し、授業することができる

【事前・事後学習】

学習指導要領を精読し、各回のテーマの内容を事前に理解すると共に、学習した内容を各自ノートにまとめ、模擬授業の計画立案に活用できるようにすること。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するレポートについては、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つことで理解を深める。

【成績評価基準】

小学校体育科学習指導の目標と内容、指導計画、学習指導法について説明することができるか。
小学校学習指導要領の内容を十分に理解し、各運動の特性を踏まえた指導のあり方について説明することができるか。
教材研究、模擬授業の実践、講評などを通して、体育科の指導力を習得しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	20	0	60 (模擬授業・指導案)

【テキスト】

・『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省(東洋館出版社)

【参考図書】

・講義時に適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3340	小学校英語教育法	3年	後期	2	選択	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

目標は、小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることである。概要は、小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、中・高英語教育との連携と役割、児童や学校の多様性への対応力、児童期の第二言語習得の特徴の理解と留意点・活用法、実践に必要な基本的指導技術の習得、英語でのやり取りの進め方、文字の導入法と指導、授業づくりに必要な知識と技術、学習状況の評価の方法等、授業実践に必要な知識・指導技術・授業づくりを学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション、学習指導要領、映像による小学校英語授業観察(1)	授業の進め方、学習指導要領、小学校英語の授業の確認。
第2回	小・中・高の連携と小学校の役割、児童や学校の多様性への対応、主教材(1)と指導案	小中高の連携、児童や学校の多様性、主教材と指導案について学ぶ。
第3回	子どものことばの学び方の確認（言語習得、類推から理解、音声でのインプット等）	子どもの言語習得について確認し、指導上の活用についてまなぶ。
第4回	伝え合うことのポイント、4技能、言葉の面白さへの気づき、国語との連携、他教科活用	伝え合うためのポイント、国語との連携、他教科の活用等の指導上の留意点を学ぶ。
第5回	英語でのスモールトーク、クラスルームイングリッシュ(1)、模擬授業体験(1)と指導案作成	スモールトークの実践と模擬授業の体験、指導案作成を行なう。
第6回	学習到達目標、年間指導計画、短時間学習、学習指導案の形式と立案、主教材(2)	学習到達目標、年間指導計画、短時間学習、指導案作成、主教材について学ぶ。
第7回	模擬授業(1)、振り返り、英語のやり取りの実践演習(1)、クラスルームイングリッシュ(2)	模擬授業を行ない、振り返りを行なう。英語のやり取りの方法を学ぶ。
第8回	模擬授業(2)、振り返りと授業体験、文字の導入方法と留意点、読む活動	模擬授業を行ない、振り返り、改善方法を学ぶ。文字指導と読む活動について知る。
第9回	模擬授業(3)、振り返りと授業改善、文字指導と書く活動、クラスルームイングリッシュ(3)	模擬授業を行ない、振り返り、改善方法を学ぶ。文字指導と書く活動について知る。
第10回	題材の選定、教材研究、ICT教材の活用、英語のやり取りの実践演習(2)	教材研究、ICT教材の活用法、英語のやり取りの実践を行なう。
第11回	模擬授業(4)、聞く・話す指導、振り返りと授業改善	模擬授業を行ない、振り返りと改善方法を学ぶ。聞く・話す指導について学ぶ。
第12回	学習状況の評価（パフォーマンス評価、到達目標）、英語のやり取りの実践演習(3)	評価について学ぶ。英語のやり取りの実践を行なう。
第13回	チームティーチングによる指導の在り方と模擬授業体験(2)	チームティーチングについて学び、その模擬授業体験を行なう。
第14回	模擬授業(5)、チームティーチングの実際	チームティーチングを取り入れた模擬授業を行ない、振り返り、改善を行なう。
第15回	模擬授業(6)、まとめ	最終模擬授業(6)とまとめをする。

【授業の到達目標】

「外国語活動」「外国語（英語）」の目標に合った授業が、1人で工夫しながらできるようになることが目標である。

【事前・事後学習】

指導する単元について、目標、指導内容をよく確認しておく。
教材研究を行ない指導案を作成し、模擬授業の練習をする。
クラスルーム・イングリッシュ、スモールトークの練習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは返却後、復習プリントを配布し、学生は解答が間違っていた部分すべてについて、正解を記入して提出する。既に行った小テスト数回分を範囲として、再度テストを行い、定着を目指す。

模擬授業では、録画を行い、学生たちが自らの発表を客観的に観て意見を出し合うことにより再度練習し、改善に向けてのフィードバックを行なう。

【成績評価基準】

英語や言語習得の知識を生かして、目標に合わせた指導案が書けるか。
教材研究を行ない、授業を工夫することができるか。
指導案に従って、実際に1人で授業ができるか。
クラスルーム・イングリッシュが使える、スモールトークができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	30	10	30	0

【テキスト】

- ・文部科学省『Let's Try! 1&2』『We Can! 1&2』
- ・樋口忠彦ほか『小学校英語教育法入門』研究社
- ・投野由紀夫編『チャックで英単語 Basic』三省堂

【参考図書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領（外国語）』
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2341	小学校情報活用教育	2年	前期	2	選択	坂本 将暢

【授業の目的と概要】

情報を分かりやすく伝えられる文章を書く力、ICTを効果的に活用して、わかりやすい授業、協働的な学びができる授業を設計するために必要となる知識と技能の習得を目標とする。具体的には、デジタル教科書やタブレットPC、デジタル教材等のICTを活用した授業方法、協働的な学習を行う授業の設計方法の講義と演習を行う。さらに、児童が情報端末を安全に利用するために必要な情報モラル教育の指導案の作成演習も行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	情報教育の目標	文部科学省が定義している情報教育の目標について解説する。
第2回	教育の情報化に関する国の施策	教育の情報化に関する国の施策を解説する。
第3回	フューチャースクール事業・学びのイノベーション事業実証校で行われた実践事例の紹介	フューチャースクール事業・学びのイノベーション事業実証校で行われた実践事例を紹介し、ICTの有効な活用方法について検討する。
第4回	プログラミング教育の概要	2020年からの必修化が目標されているプログラミング教育について解説する。
第5回	プログラミング教育の実践	プログラミング教育で使用されるであろうソフトウェアを使って、教材等を作成する。
第6回	ICTを活用した授業実践と分析1	ICTを活用した授業映像（小3）を視聴し、ICTが授業にどのような影響を与えているかを検討する。
第7回	ICTを活用した授業実践と分析2	ICTを活用した授業映像（小5）を視聴し、ICTが授業にどのような影響を与えているかを検討する。
第8回	ICTを活用した授業実践と分析3	ICTを活用した授業映像（小6）を視聴し、ICTが授業にどのような影響を与えているかを検討する。
第9回	ICTを活用した授業の要点整理	視聴および分析にもとづいて、ICTを授業で用いる際の留意点や影響を整理する。
第10回	ICTを活用した授業の構想	実際に教師になったことを想定して、ICTを活用した授業を考える。
第11回	ICTを活用した授業の指導案作成	実際に教師になったことを想定して、ICTを活用した授業の指導案を作成する。
第12回	ICTを活用した授業で使用するデジタル教材の作成	実際に教師になったことを想定して、ICTを活用した授業で用いるデジタル教材を作成する。
第13回	模擬授業と相互評価1	作成した指導案にもとづいて、また作成したデジタル教材を使って模擬授業をする。
第14回	模擬授業と相互評価2	作成した指導案にもとづいて、また作成したデジタル教材を使って模擬授業をする。
第15回	教育の情報化に関するグループ討議	情報モラル教育やプログラミング教育の意味をグループで討議する。

【授業の到達目標】

- (1) 教育の情報化の目標を理解する。
- (2) 情報機器を授業に取り入れる意味を考える。
- (3) 自分の意見を相手に分かりやすく伝えることができる。
- (4) 自身の経験や価値観にもとづいて、授業を構想することができる。
- (5) ICTを活用した授業を構想し、指導案とデジタル教材を作成できる。
- (6) 情報モラル教育やプログラミング教育の意味を、深く考えることができる。

【事前・事後学習】

- (1) WordやGoogleドキュメントなどのワープロ・ソフトで文字を書いたり、表を作成したり、図を挿入したりできるようにしておく。
- (2) PowerPointやGoogleスライドなどのプレゼンテーション・ソフトで文字を書いたり、図形を描画したりできるようにしておく。
- (3) Scratch (<https://scratch.mit.edu/>) がどのようなツールか確認しておく。
- (4) プログラミン (<http://www.mext.go.jp/programin/>) がどのようなツールか確認しておく。
- (5) 参考図書『ルビィのぼうけん』（リンダ・リウカス、翔泳社）を読んで、プログラミングの基本を学んでおく。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で課す各レポート・宿題については、採点後の授業内で解説をして、受講者に返却をする。本授業の最後に取り組み指導案作成では、指導案の添削を行い、共通する事項については受講者全員で共有できるように授業内で補足説明をする。また、模擬授業に対しては、児童・生徒役のほかの受講者と授業者からのコメントでフィードバックする。

【成績評価基準】

プログラミング教育について、肯定／否定や賛否だけではなく、多角的かつ批判的に考えて、その意味を考えることができるか。視聴する小学校での実践事例について、教育的効果を深く考察することができるか。作成および実施する情報機器を用いた模擬授業について、それまでに学んだことを生かしているか。また、自分以外の模擬授業について、小学生の立場で受講し、授業研究の視点で評価することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50（主としては、5回目の教材、6回目から8回目までの分析結果、11回目の指導案、12回目のデジタル教材、15回目のレポートを評価対象とする。）	20（6回以上欠席した者は失格とする。また授業の参加態度）	30（教師役および児童役としての模擬授業）	0

【テキスト】

・小学校学習指導要領総則解説編

【参考図書】

- ・教育の情報化の推進（文部科学省）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm
- ・現行学習指導要領（文部科学省）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm
- ・リンダ・リウカス（作）・鳥井雪（訳）、ルビィのぼうけん、翔泳社
- ・Scratch（MIT）<https://scratch.mit.edu/>
- ・プログラミン（文部科学省）<http://www.mext.go.jp/programin/>

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3342	道徳教育の理論と方法	3年	前期	2	選択	丹下 悠史

【授業の目的と概要】

この授業は、①道徳教育に関する理論の学習（代表的理論の紹介・日本の道徳教育の歴史・諸外国の価値教育）、②道徳の授業例の紹介（構成的インカウンターゲーム・ロールプレイ・モラルジレンマ・ディベート）、③道徳の授業案の作成と模擬授業の実施、の3つから構成される。授業のなかで受講生自身が道徳的価値・道徳的判断力・道徳的感受性を身につけるとともに、先達の理論や指導案を参考にしながら、それを子どもたちに効果的に伝達していく方法について学ぶ。受講生をひと班6名程度の班にわけ、主にグループワークを用いて授業を進める。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	本授業の概要、道徳の学習経験の振り返り	はじめに講義の趣旨、内容、評価等について説明する。また、道徳教育とは何か、そもそも道徳とは何かといった基礎的な問いを、受講生各自の経験を振り返りながら考える。
第2回	道徳の本質・道徳とは何か	道徳的価値とは、道徳的であるとはどのようなことか、道徳と法やルールには違いがあるかを、哲学や倫理学の知見を手がかりにして考察する。
第3回	子どもの成長と道徳性の発達	教育の受け手である子どもの道徳性の発達を、社会学や心理学の知見を手がかりにして考察する。
第4回	道徳教育の歴史（1）	明治期～戦時期における日本の道徳教育の形態や方法を理解し、現在の道徳教育との共通点や相違点を考察する。
第5回	道徳教育の歴史（2）	戦後の道徳教育の形態や方法を理解し、道徳教育の今日的課題について議論する。
第6回	子どものモラルをめぐる課題	いじめ・子どもの荒れ・青少年の犯罪といった子どものモラルをめぐる諸問題を理解し、現代の子どもや子どもを取り巻く環境について考察する。
第7回	道徳科の指導（1）	中学校の学習指導要領の道徳に関する記述を吟味し、目標・内容・教育活動全体を通じた指導といった道徳教育の位置づけを理解する。
第8回	道徳科の指導（2）	道徳科の具体的な授業方法を理解し、それぞれの指導法の特徴を考察する。
第9回	道徳科の指導（3）	道徳科の学習過程の分析・評価方法を学び、これらによる授業改善についての基礎的な知識・技能を獲得する。
第10回	主体的な学びに向けた道徳科の指導計画（1）	道徳科の指導計画の作成に向け、教材解釈とその授業設計への活用の仕方を学ぶ。
第11回	主体的な学びに向けた道徳科の指導計画（2）	道徳科の指導計画の作成に向け、発問構成および指導過程の計画の仕方を学ぶ。
第12回	主体的な学びに向けた道徳科の指導計画（3）	道徳科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。
第13回	道徳科における新しい教育課題	情報モラル・生命倫理・社会の持続可能な発展といった、道徳教育における現代的課題を理解し、学校段階にそくした実践の方法を考察する。
第14回	海外における道徳の教育	市民性教育、価値教育等、海外における日本の道徳教育に相当する教育実践を学び、その意義や課題を考察する。
第15回	本授業のまとめ	これまでの学修内容を振り返り、考査に向けて課題を明確化する。

【授業の到達目標】

1. 道徳及び道徳性に関する諸理論、道徳教育の歴史や意義を説明できる。
2. 学校教育における道徳教育の位置づけ、内容、今日的課題を説明できる。
3. 道徳科の授業を計画したり、既存の実践を評価し自らの見解を述べることができる。

【事前・事後学習】

教育に関するニュースに関心を持ち、情報を収集することが望ましい（例えば、毎日5分程度新聞やニュース番組から教育についての話題を探すなど）

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業で回収するコメントシートを適宜授業において紹介する。

筆記試験の際、解答例と解説を提示する。

【成績評価基準】

「授業の到達目標」に対応した、以下の3つの基準により成績を評価する。

1. 日本の道徳教育の歴史的変遷および今日的課題に関する基礎的な知識を修得しているか。
2. 道徳教育の実践および道徳・倫理に関する諸問題を、これまでに蓄積されてきた理論的・実践的知見を通して分析することができるか。
3. 道徳科の授業実践を計画するにあたり、生徒の発達段階や目標に応じて適切な資料・実践例にアクセスすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60		20		40（授業内に課す課題（指導案の作成））

【テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説』

【参考図書】

- ・田中智志・橋本美保監修、松下良平編著『道徳教育論』一藝社
- ・松下良平『道徳教育はホントに教育的か?』日本図書センター
- ・永井均『倫理とは何か』筑摩書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3343	特別活動の理論と方法	3年	後期	2	選択	山田 真紀

【授業の目的と概要】

この授業は、特別活動の教育的意義と課題を実践的観点から考察することを目的とし、① 特別活動の理論（哲学的背景・歴史・諸外国での実施状況）、② 学級活動や生徒会活動の指導方法の紹介、③ 学校行事の企画立案の3つから構成される。特別活動が「学級づくり」「学校づくり」に欠かせない活動であることを理解し、将来教壇に立ったときに効果的な実践ができるように、実践力を高めることを重視する。受講生をひと班6名程度の班にわけ、主にグループワークを用いて授業を進める。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	授業内容ガイダンス・ミニアクティビティ（名刺交換・漢字ゲーム）	この授業の15回分の流れ、この授業に参加するうえでの心構えやルールについて説明する。アイスブレイクとして名刺交換ゲームと漢字ゲームを行う。
第2回	班決定・自己紹介ゲーム・私に関する10のクイズ	グループワークをする際の班を作る。グループメンバーの相互理解が深まるような自己紹介的活動を行う。
第3回	学級活動① モデル活動「廃棄物ゲーム」	学級活動として行うにふさわしい「廃棄物ゲーム」を体験し、その意味と課題について分析する。
第4回	学級活動② モデル活動「私の自慢」	学級活動として行うにふさわしい「私の自慢」を体験し、その意味と課題について分析する。
第5回	特別活動の理想的な形：東京都八王子市立武分小学校の実践の紹介	特別活動の理想的な形のイメージを形成するために、東京都八王子市立武分小学校の実践を紹介する。（ビデオ視聴）
第6回	学習指導要領① 学級活動：話し合い活動の進め方	学級活動として「話し合い活動」を行ううえでの指導法について学び、実際にミニ学級会をする。
第7回	学習指導要領② 児童会活動の進め方・児童会の意義と課題	学級の組織や委員会活動と有機的な連携をもつ児童会活動の在り方について解説する。
第8回	学習指導要領③「特別活動」の構造・教員採用試験情報（筆記）	特別活動の学習指導要領を読み、内容への理解を深める。教員採用試験（筆記）に関する情報提供もする。
第9回	学習指導要領④「特別活動」の構造・教員採用試験情報（面接・論述）	学習指導要領解説「特別活動編」を輪読し、その内容への理解を深める。教員採用試験（面接・論述）に関する情報提供もする。
第10回	世界の特別活動 日本の特別活動の特徴について	世界の特別活動の実態についての論文を読み、日本の特別活動の特徴について知る。
第11回	学校行事① 遠足の企画書作成	遠足の企画書を作成する。遠足の場は「トヨタ産業技術記念館」と「ノリタケの森」である。
第12回	学校行事② 遠足の企画書発表・遠足等学外活動における配慮	各自で作成した企画書を読み合わせ、児童にとって学びが多く、楽しく、有意義な1日のコーディネートの方法について学ぶ。
第13回	特別活動に関する論文を読む① 見通しのある指導を行うために	特別活動を効果的に指導していくためには「見通しのある指導」が不可欠である。特活の論文を読み、「見通しのある指導」について学ぶ。
第14回	特別活動に関する論文を読む② 特活を通して意欲的な児童を育てるために	特活の論文を読み、特活を通して意欲的な児童を育てるための方法論について学ぶ。
第15回	授業全体のまとめ・小テスト・最終レポート提出	授業全体の学びについて復習する。学習指導要領に関する小テストをする。最終レポートを回収する。

【授業の到達目標】

特別活動に属する諸活動を適切に指導できるだけの知識と技能を身につける。特に、(1) 特別活動が児童の人間形成に及ぼす重要な効果について理解するとともに、学校を「学びある共同体」に創造していくうえでも不可欠の活動であることを理解できる、(2) 見通しをもって効果的な実践を展開できるだけの実践力を身につけることができる。

【事前・事後学習】

事前：事前作業を指示する場合がありますので、作業を終えてから授業に参加すること。企画書作成においては、学習指導要領を熟読するとともに、指定した施設の下調べをしておくこと。

事後：「学習指導要領解説 特別活動編」を手に取り、授業で扱った部分について復習すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは、添削・採点の上で返却します。
課題レポートは、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

【成績評価基準】

- (1) 学習指導要領の「特別活動」の内容を十分に理解することができたか。
- (2) 特別活動が児童の人間形成に及ぼす重要な効果について理解するとともに、学校を「学びある共同体」に創造していくうえでも不可欠の活動であることを理解できたか。
- (3) 見通しをもって効果的な実践を展開できるだけの実践力を身につけることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	30	20	0	20（授業内で貸す課題の完成度）

【テキスト】

- ・小学校学習指導要領（文部科学省、平成27年）文部科学省HP上で閲覧
- ・小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省編、平成27年）文部科学省HP上で閲覧

【参考図書】

- ・必要に応じて授業内にて指示する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2344	特別支援保育	2年	前期	2	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	後藤 永子

【授業の目的と概要】

「障がい」の概念と障がい児保育の基本を理解する。その上でさまざまな障がいの理解と保育における援助を学ぶ。個別支援とともに、子ども同士のかかわりの中で育つ保育実践について理解する。家庭や関係機関の連携と、現状と今後の課題についても学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷	障がいをもつこととはなにか、歴史から障がい児保育を探る
第2回	障がい児保育の基本	統合保育とはなにか、今では当たり前前の保育の形態といえることを理解する
第3回	障がい児の理解と保育における援助	障がい児の理解と保育現場における療育を学ぶ
第4回	視覚・聴覚障がい児の理解と援助	視覚・聴覚障がい児の理解と保育者として援助を理解する
第5回	運動・内部障がい児の理解と援助	運動・内部障がい児の理解と保育者として援助を理解する
第6回	知的障がい児の理解と援助	知的障がい児の心の理解と保育者として援助を理解する
第7回	発達障がい児の理解と援助(自閉症スペクトラム)	発達障がい児の理解と保育者としての援助、自閉症スペクトラムを理解する
第8回	発達障がい児の理解と援助(LD・ADHD)	発達障がい児の理解と保育者として援助、LD・ADHDを理解する
第9回	言語障害のさまざまな原因	言葉の障害の原因と原因ごとの援助の方法を学ぶ
第10回	ノーマライゼーションとインクルージョン	ノーマライゼーションからインクルージョンへの道筋を理解する
第11回	障がい児保育の実際	障がい児保育の援助対応を障がいの種類や程度から理解する
第12回	子ども同士のかかわりと育ち	健全児と障がい児がともに育ち合うなかでも成長・発達していくグループダイナミックスの効果を理解する
第13回	家庭支援と関係機関との連携	障がい児家庭支援と関係機関との連携のあり方を学ぶ
第14回	個別の支援と支援の広がりをつながり	個別の支援を保育所・幼稚園から地域のリソースへとつなげる方法を学ぶ
第15回	障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題	障がいのある子どもの保育にかかわる現状を探り、多くの課題を学ぶ

【授業の到達目標】

障がいのある子どもがゆっくりでも園での生活を受け入れ、その子らしさ自分らしさを確かなものにしていくことが保障されていく保育現場でなければならない。障がいをもった子と向き合ったとき、保育者として、さりげない配慮で「添う」ことから共に歩んでいけるようになる。

【事前・事後学習】

自分のこれまでの生活のなかで障がい児との出会いやテレビや本で見た経験についてA4、400字1枚にまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは、次週に返却し、課題について説明し理解を深める。ミニテストは、自己採点させ、各問題の説明をする。

【成績評価基準】

障がいをもった子と向き合ったとき、保育者として、さりげない配慮で「添う」ことから共に歩んでいけるようになるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	20	0	60(確認ミニテスト)

【テキスト】

・毎授業ごとにプリントを配布

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2345	乳 児 保 育	2年	前期	2	選択	芝田育彦（1～8回） 岩原千里（9～15回）

【授業の目的と概要】

この乳児保育の授業では、参考資料を通しての授業と、実践を通しての授業を大きな柱として行います。乳児の毎日の成長から見付けられる問題点と、それに対してどの様に係わっていくのかを伝えると同時に、乳児と保育者との関わり合いの中から、ひとりひとりの成長から得られる感動を共有する事の大切さと、それを共有出来る喜びも伝えていきたいと思えます。そして、関係専門機関と連携を密にしていかなければならない、現在の社会に於ける、乳児保育の必要性和重要性も、同時に学んで貰う事を目的とします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	乳児保育の現状と課題について	現在の乳児保育の状況と、問題点について学ぶ
第2回	乳児保育に於ける保育所の一について	保育所に於ける、乳児保育の1日の流れとそこでの保育士の役割を学ぶ
第3回	成長過程（6か月未満）に於ける乳児保育について	6か月未満の乳児の保育と、そこでの保育士の役割を学ぶ
第4回	成長過程（6か月から1歳6か月）に於ける乳児保育について	6か月から1歳6か月の乳児の保育と、そこでの保育士の役割を学ぶ
第5回	成長過程（1歳6か月から2歳6か月）に於ける乳児保育について	1歳6か月から2歳6か月の乳児の保育と、そのでの保育士の役割を学ぶ
第6回	乳児保育に於ける環境について	乳児保育を実践する中で、環境の大切さと保育士の役割を学ぶ
第7回	乳児保育に於ける保健活動について	乳児保育を実践する中で、保健活動の重要性を学ぶ
第8回	乳児保育と保育計画について	保育計画の必要性和記録の持つ意味と重要性について学ぶ
第9回	乳児保育に於ける保護者、保育所、保健所、地域との連携について	乳児保育を実践する中での保護者、保育所の役割、保健所との関係、地域との関係について学ぶ
第10回	家庭に於ける子育てと、保育所に於ける乳児保育について	家庭内での子育てと保育所に於ける乳児保育の長所や短所を含む、違いについて学ぶ
第11回	乳児の養育環境と、乳児保育の課題について	乳児に於ける養育環境の重要性和乳児保育を実践する時の養育環境の問題点について学ぶ
第12回	保育所に於ける育児支援活動について	保育所に於ける、育児支援活動の重要性和必要性を学ぶ
第13回	教材を使用しての乳児保育実践（その1）	乳児保育の中で実際に役立つ教材作りをする（その1）
第14回	教材を使用しての乳児保育実践（その2）	乳児保育の中で実際に役立つ教材づくりをする（その2）
第15回	これからの乳児保育とその課題について	現在の乳児保育の問題点を見詰めて課題として考えて、これからの乳児保育に役立てる事を学ぶ

【授業の到達目標】

乳児保育は、ひとりひとりの成長過程を学び、家庭、保育所、保健所、地域等との連携の重要さを学び、その中から一人の保育者としての関わり方を学ぶ事を目標とします。

【事前・事後学習】

日頃より、数ある情報収集手段を通して、乳児保育関係の情報に関心を持つと同時に、その背景にも関心を持ち、授業を通して乳児保育の大切さと必要性の知識を深めて、意欲的に取り組む事とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

筆記試験は傾向と解答を、実技試験は取り組みと理解度を、授業中に必要性を感じた時に提示して、解説していきます。

【成績評価基準】

授業に取り組む姿勢や意欲、実技態度、レポートの提出状況とその内容、試験の結果の以上を総合して、評価をする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	10	10	40	個々の受講生の努力や意欲を成績の方に、プラスαとして加算出来る様にと考えて居ます。

【テキスト】

・必要に応じて、資料を配付する事で、授業を充実させていきたいと思えます。

【参考図書】

・必要に応じて、紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2346	社会的養護内容	2年	後期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

家庭から離れ、里親や児童養護施設など社会的養護のもとで生活することになった子どもたちのことを理解し、社会的養護を利用する子どもと家族の立場になって考え、日常的に展開されている子どもの生活や援助者の支援について学ぶ。今年度は学外学習に積極的に取り組むと共にグループ単位での研究報告を行い、相互評価を実施する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	社会的養護内容を学ぶために / 授業計画の確認と学外学習①事前指導	社会的養護内容を学ぶためのオリエンテーション、授業計画の確認を行う。学外学習①の事前指導を行う。
第2回	学外学習①里親制度普及事業への参加	学外学習①として名古屋市の里親制度普及事業に参加して後日参加レポートにまとめて提出する。
第3回	学外学習①事後指導と振り返り・児童虐待防止の現状と課題	学外学習①事後指導としての振り返りと、児童虐待問題・対応に関する講義を行う。
第4回	学外学習②事前指導—社会的養護の動向とオレンジリボンキャンペーン—	学外学習②の事前指導を行う。
第5回	学外学習②オレンジリボンキャンペーンへの参加	学外学習②の機会として、自治体の主催するオレンジリボンキャンペーン活動に参加し、後日参加レポートを作にまとめて提出を行う。
第6回	学外学習②事後指導と振り返り	学外学習①事後学習としての振り返りと指導を行なう。
第7回	VTR学習①—施設養護の実際—	施設養護に関するVTR学習を行い、視聴後にワークシートを作成して提出する。
第8回	学外学習③事前指導—施設養護—	学外学習③の事前指導として施設養護の実際を講義する。
第9回	学外学習③施設行事への参加	学外学習③の機会として、自治体のオレンジリボンキャンペーン活動に参加し、後日参加レポートを作にまとめて提出を行う。
第10回	学外学習③事後指導と振り返り	学外学習③の事後指導と振り返りを行う。
第11回	VTR学習②—家庭養護の実際—	里親委託に関するVTR学習を行い、視聴後にワークシートを作成して提出する。
第12回	グループ研究の説明とグループ分け テーマ設定	グループ研究の取り組み方法を説明し、テーマの設定とグループ分けを行う。
第13回	グループ研究活動	研究テーマ別のグループに分かれて資料収集や分析・考察を行い発表用の資料を作成する。
第14回	グループ研究報告①前半グループの発表を行う	設定されたテーマを担当する学生によるグループ研究報告を行い、相互評価を実施する。担当教員は担当グループから事前提出された資料を印刷して全員に配布するとともに、報告後には内容に関する講評と補足説明を実施する。
第15回	グループ研究報告②後半グループの発表を行う	設定されたテーマを担当する学生によるグループ研究報告を行い、相互評価を実施する。担当教員は担当グループから事前提出された資料を印刷して全員に配布するとともに、報告後には内容に関する講評と補足説明を実施する。

【授業の到達目標】

1. 社会的養護の現状と動向を把握できる
2. 施設養護の内容について理解できる
3. 家庭養護の内容について理解できる
4. グループ研究と報告を通して、グループワークとプレゼンテーションの力が育まれる
5. 相互評価を通して、自己評価と課題の明確化を図ることができる

【事前・事後学習】

全体の事前学習としては、社会的養護の復習を行い、本授業におけるテキスト事例や配布資料を精読しておくこと。

グループ研究報告に際しては、自分の担当するテーマに関する課題レポートを作成して提出する。その上でグループのメンバーと協力して研究報告をまとめ、グループの資料を作成して報告の1週間前に担当教員に提出する。授業後には配布資料やワークシート等をポートフォリオにまとめるとともに、報告後の課題レポートを作成して期日までに提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業で使用するブリーフレポートは回収後、評価を入れて次回授業時に返却する。小テストは採点后に返却し、模範解答を解説する。

【成績評価基準】

1. 社会的養護の現状と動向を把握できるか
2. 施設養護の内容について理解できるか
3. 家庭養護の内容について理解できるか
4. レジデンシャルワークに求められる援助の実際と基礎的な技術を理解できるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40	0	提出物40/ポートフォリオ20

【テキスト】

・堀場純矢編著 『子どもの社会的養護内容』 福村出版

【参考図書】

・長谷川真人・堀場純矢編著 『児童養護施設の援助実践』 三学出版
 ・神戸賢次・喜多一憲編 『新選 児童の社会的養護原理』 みらい

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3347	生徒・進路指導の理論と方法	3年	前期	2	初等教育コース・必修 幼児教育コース・選択	今津 孝次郎 (1～10回) 高綱 睦美 (11～15回)

【授業の目的と概要】

いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題、ならびに子どもが社会的・職業的に自立し、自分らしい生き方を実現するための進路指導上の諸課題を追究するために、幅広い取組みの理論と実践的方法を学ぶ。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	生徒指導・進路指導の歴史 (1) 生徒指導の歩み	教育課程のなかでの生徒指導の位置づけを理解し、生徒指導がどのような経緯で展開してきたかを検討する。
第2回	生徒指導・進路指導の歴史 (2) 進路指導の歩み	教育課程のなかでの進路指導の位置づけを理解し、進路指導がどのような経緯で展開してきたかを検討する。
第3回	児童・生徒理解の原理 (1) 子どもの発達段階	子ども理解にとって、その発達過程を知ることが最も重要であり、児童期から青年前期、青年後期への変化を分析する
第4回	児童・生徒理解の原理 (2) 子ども理解の諸方法	子ども理解の諸方法について、観察、面接、質問紙法、などのやり方を習得する。
第5回	生徒指導・進路指導における児童・生徒と教師の関係	生徒指導・進路指導については子どもと教師の関係が大切であり、子ども理解を探究しようとするラポールづくりなどの基本的態度を学ぶ。
第6回	児童・生徒の問題行動と指導法 (1) 不登校	不登校の概念とその歴史について理解したうえで、さまざまな不登校への対処法について、事例から検討する。
第7回	児童・生徒の問題行動と指導法 (2) いじめ	いじめの概念とその歴史について理解したうえで、具体的ないじめ問題の検討を通じて、いじめの早期発見・早期解決法について習得する。
第8回	児童・生徒の問題行動と指導法 (3) 非行	非行の概念とその歴史を理解したうえで、具体的な非行の事例を通して、非行抑止と、非行克服の諸方法について学ぶ。
第9回	児童・生徒支援のスクールソーシャルワーク	スクールカウンセリングと比較しながらスクールソーシャルワークの方法について理解し、学校を地域全体で支援する新たな体制について学ぶ。
第10回	校内教員組織と保護者・地域との連携体制	教師の仕事は「協業」であるから、学校内組織をはじめ、地域の諸組織との連携を不可欠とするという点にまで視野を広げる。
第11回	進路指導とキャリア教育	進路指導とキャリア教育の概念とその歩みについて理解したうえで、近年のキャリア教育の問題点と課題を具体的に検討する。
第12回	キャリア教育の意義と目的	キャリア教育の意義と目的を再確認したうえで、学校段階ごとのキャリア教育の継続的発展過程を理解する。
第13回	キャリア教育の方法と技術	キャリア教育は予期した以上に幅広い諸能力の形成と関わるので、自己理解力や情報探求力、各種職場訪問を通じた経験学習などを育む諸方法や技術を習得する。
第14回	小学校のキャリア教育	小学校ではあくまでキャリア教育の基礎として、職業や進学の仕組みについての基本知識を得るために、さまざまな人物の具体的なキャリアを通じて多様な生き方から学ぶなどの工夫を試みる。
第15回	小学校のキャリア教育実践の可能性	小学校のキャリア教育はまだ未開拓であり、全国のさまざまな実践事例を通じて、その可能性を探る。

【授業の到達目標】

生徒指導と進路指導という重要で、かつそれらの指導にはさまざまな困難を伴う課題について、これまでの実践成果に基づく基本的な知識と技術を確実に習得するとともに、子どもたちの現実に即した取り組みが可能となる基本姿勢を確立する。

【事前・事後学習】

毎回の授業開始時に一つまたは二つの課題を提示して、授業終了直前に小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習をさらに展開する。次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通すことで事前学習を促す。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

授業に集中することによって、どれだけ「聴く」力を体得でき、自分なりの考えを持つことができるか。毎回提出する小レポートや期末に提出する最終レポートで与えられる現代教育問題についてどれだけ的確に答えることができるか、という点が評価基準である。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	毎回の課題小レポート (30%)、期末最終レポート (60%)	授業への集中的態度一質問や意見、感想の発言などー (10%)	0	0

【テキスト】

・小泉冷三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房

【参考図書】

・「生徒指導提要」文部科学省
・他の参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて随時配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3348	幼児理解の理論と方法	3年	前期	1	初等教育コース:選択 幼児教育コース:必修	後藤 永子

【授業の目的と概要】

保育における子どもの姿を通して、幼児理解の理論と方法を学ぶ。子どもの発達・成長を基に、一人ひとりを理解することは、保育にとって不可欠である。多くのエピソードや事例から遊びや生活を通して、子どもがどのように物や人との関わりを学び、自ら考える力を身につけていくかを理解する視点と方法を学ぶ。その中で「気になる子ども」についての理解と指導についても学ぶ。さらに、家庭との連携とこれからの課題についても考える。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育における幼児理解とは	子どもとは何か、幼児理解の基本を理解する
第2回	発達を基にした幼児理解のための視点と方法	子どもの日々の育ちから、発達を理解する
第3回	遊びを通した幼児理解(1)物や人との関わり の遊び場面から	玩具との関わり、大人との関わりから幼児理解をする
第4回	遊びを通した幼児理解(2)共同遊びと連合 遊びの場面から	遊びを通して子ども同士の関わりから人間関係を学ぶ
第5回	生活の中での幼児理解(1)仲間づくりやト ラブルの場面から	さまざまな子ども同士のトラブルから保育者の関わりを学ぶ
第6回	生活の中での幼児理解(2)ルールづくりや 話し合いの展開の場面から	子ども同士の関わりの中から育ちの力を理解する
第7回	個人差と「気になる子ども」の理解と指導	一人ひとりの個人差の理解と「気になる子ども」の対応を学ぶ
第8回	保育における幼児理解と指導としての課題に ついて	保育における幼児理解の現状から、保護者との連携とこれからの課題につ いて理解する

【授業の到達目標】

幼児の発達や認識を基に、幼児の遊びや生活を通して幼児理解のための理論と方法を習得出来る。

【事前・事後学習】

保育実習・教育実習・サービス・ラーニングを通して、遊びの中から子ども理解をしてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは次週には返却し、課題の説明をする。ミニテストは、テスト終了後に解説をする。

【成績評価基準】

保育者・教育者として、幼児の遊びや生活を通して幼児理解のための理論と方法を習得出来たか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	20	0	30(授業内の確認ミニテ スト)

【テキスト】

・適宜プリントを配布します

【参考図書】

・必要に応じて紹介します

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3349	教育・保育相談	3年	後期	2	必修	堀 篤実 (1～8回) 後藤 永子 (9～15回)

【授業の目的と概要】

教育：保育相談支援の意義を、幼児の発達や生活から幼児理解を踏まえ、その実際を理解する。カウンセリングの基本的な知識を理解し、保護者支援の方法と技術、地域とのネットワークを学ぶ。以上の内容を演習形式で行う。

(オムニバス方式/全15回)

(堀篤実)

学校で起こるいじめや発達障害等についての理解を深め、カウンセリングの基礎知識を得ることでそれらへの対処の方法を学ぶ。

(後藤永子)

保育所・幼稚園における子ども理解を踏まえ、保護者支援の実際を理解する。子どもの様子から保護者との相互理解を図る方法を学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンス 教育相談とは (担当:堀)	教育相談の講義の概要、事前事後学習、受講の留意点 (堀)
第2回	教育相談の目的とありかた (担当:堀)	1 教育相談とは 2 教育相談の歴史 3 教育相談のあり方 (堀)
第3回	学校で起こる諸問題①多様化する不登校・いじめの理解と対応 (担当:堀)	1 不登校の定義と現状 2 不登校生徒への対応 3 いじめの定義と現状と対応 (堀)
第4回	学校で起こる諸問題②神経症の問題・反社会的行動 (担当:堀)	1 神経症の問題の成り立ちと対応について 2 反社会的行動と心理的背景 (堀)
第5回	発達障害の理解と対応 (担当:堀)	1 発達障害とは何か 2 学校で問題となる3つの発達障害 (堀)
第6回	カウンセリングの基礎知識①カウンセリングマインドとは (担当:堀)	カウンセリングにおける聴く技術と聴く心 (堀)
第7回	カウンセリングの基礎知識②カウンセリングの諸技法 (担当:堀)	カウンセリングの基本的技法と応用 試験 (堀)
第8回	保護者への保育相談支援の意義 (担当:後藤・堀)	保育相談支援のあり方、立場性と関係性の理解する (後藤・堀)
第9回	保育の特性との専門性を生かした相談支援 (担当:後藤)	保育現場の子どもと保護者の支援、地域の子育て支援の現状を理解する (後藤)
第10回	保育現場から小学校への連携と、地域における関係機関等の連携・協力 (担当:後藤)	連携・協力から支援する現状を理解する (後藤)
第11回	幼稚園・保育所および小学校における相談支援の現状 (担当:後藤)	相談支援の現状からさまざまな事例をロールプレーを通して体験する (後藤)
第12回	特別な対応を要する家庭への支援 (担当:後藤)	障害児を持つ保護者、虐待等の保護者に対する支援の現状を事例から学ぶ (後藤)
第13回	保護者への相談支援の方法と技術 (担当:後藤)	保護者への相談支援の方法と技術をロールプレーを通して問題点を学ぶ (後藤)
第14回	保護者への相談支援の内容と限界 (担当:後藤)	育ての問題、保護者自身の問題等、多岐にわたる相談内容と限界について学ぶ (後藤)
第15回	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス (担当:後藤)	保育カンファレンスの実際とカウンセリングマインドの重要性を理解する (後藤)

【授業の到達目標】

教育・保育相談とは何かを理解し、小学校・幼稚園・保育所、地域の実際の現場での支援が出来る。

【事前・事後学習】

今回のテーマにそった課題が毎回出されるので、予習をしてくる。(堀)

保育実習・教育実習・サービス・ラーニングを通して、保育者の保護者支援を学んでください。(後藤)

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の振り返りレポートを翌週フィードバックし、全体で共有する。堀

小レポートは解説し返却、ロールプレーは問題点を話し合う。後藤

【成績評価基準】

教育・保育相談とは何かを理解し、信頼関係を基本とした保護者支援が、小学校・幼稚園・保育所、地域の実際の現場で出来ようになったか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
25% (堀)	15% 毎回の振り返りレポート (堀) 15% (後藤)	10% (堀) 10% (後藤)	0	25% ロールプレー (後藤)

【テキスト】

・堀:適宜プリントを配布

・後藤:プリントを配布

【参考図書】

・堀:適宜、紹介します

・後藤:適宜、紹介します

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC3350	相 談 援 助	3年	前期	2	選択	浅井 彰子

【授業の目的と概要】

保育や幼児教育に携わる専門職には、保護者や地域への支援も求められている。多様な生活状況にある子育て家庭を支えるために、相談援助に必要な知識や技術を身につけることをめざし、事例検討や演習を中心に授業を進めていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	本科目の趣旨、授業計画について	相談援助の授業を受けるためのオリエンテーションを行い、到達目標などの共通理解をはかる
第2回	相談援助の理論	相談援助がなぜ必要なのかを探り、保育現場におけるソーシャルワークについて理解する
第3回	相談援助の意義	個人、グループ、地域に対応する相談援助の社会福祉としての意義を探る
第4回	相談援助の機能	相談援助は子どもの幸せにどのように機能するのかを学ぶ
第5回	保育と相談援助	全国保育士会倫理綱領をとおして、保育士が担う専門性を理解する
第6回	相談援助の方法	個人や家庭に対する相談援助の過程を知る
第7回	相談援助の技術①	パイスティックの原則をもとに信頼関係をむすぶための技術を学ぶ
第8回	相談援助の技術②	エコマップやジェノグラムなど環境をアセスメントする技術を学ぶ
第9回	相談援助の実際①	相談援助の対象とその理解、ニーズのとらえ方を学ぶ
第10回	相談援助の実際②	相談援助の記録のし方について学ぶ
第11回	相談援助の実際③	相談援助の評価の視点、その活用について学ぶ
第12回	事例分析①	児童虐待への対応や障害のある子どもとその家族への対応を事例をとおして学ぶ
第13回	事例分析②	ひとり親家庭や子育て不安をかかえる家庭への対応を事例をとおして学ぶ
第14回	関係機関との協働や社会資源の活用	関係機関との協働と専門職間の連携の必要性を探り、活用できる社会資源について知る
第15回	授業の総括	授業を振り返り、全体のまとめを行い、相談援助の大切なポイントを確認する

【授業の到達目標】

保育・幼児教育の専門職としての相談援助の意義を理解できている。

相談援助に必要な技術を習得できている。

子どもとその家族を支援することは社会全体の暮らしやすさにつながるという視点が養えている。

【事前・事後学習】

授業の前にテキストの当該箇所を1時間程度かけて精読しておく。配布した資料などは整理して、参考文献などとともに活用しながら、1時間程度事後学習をする。実習やボランティアなどに参加する折には、専門職をめざす者としての視点から子どもや保護者の様子をとらえて学ぶ機会とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポートは翌週フィードバックし、重要なポイントは全体で共有する。

【成績評価基準】

相談援助の意義や機能が理解できているか。

相談援助の技術や方法が習得できたか。

相談援助によって子育て家庭を守るという専門性が認識できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

・吉田真里『生活事例からはじめる相談援助』青踏社

【参考図書】

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1601	サービス・ラーニング実習Ⅰ	1年	前期	1	選択	白井 克尚 他

【授業の目的と概要】

「サービス・ラーニング」実習は、2年次以降から始まる教育実習、保育実習に向けて不安や苦手意識を克服するための「プレ教育実習」である。教育現場に触れ、子ども達や現場教員と関わる中で体験したことを通じて学び自らの課題を発見することが目的である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション「サービス・ラーニング」ハンドブックの説明	「サービス・ラーニング」の心得、各種手続きについて知る
第2回	「サービス・ラーニング」事前指導	「サービス・ラーニング」実習に向けて身だしなみ、言葉遣い、お礼状の書き方などを習得する
第3回	先輩による「サービス・ラーニング」体験談	「サービス・ラーニング」実習経験者の先輩から体験談スピーチを聞く
第4回	小学校運動会「サービス・ラーニング」(準備)	名東区内における小学校運動会の準備を手伝う
第5回	小学校運動会「サービス・ラーニング」(本番)	名東区内における小学校運動会の活動を手伝う
第6回	児童館「サービス・ラーニング」(準備)	児童館における子どもたちの活動補助やお祭り、イベントの準備を手伝う
第7回	児童館「サービス・ラーニング」(活動補助)	児童館における子どもたちの活動補助やお祭り、イベントの活動を手伝う
第8回	「サービス・ラーニング」中間指導と振り返り	「サービス・ラーニング」実習先からの評価や自己評価を踏まえた中間指導
第9回	名東区子育て支援「サービス・ラーニング」(活動補助)	名東区子育て支援の活動補助を行う
第10回	幼稚園「サービス・ラーニング」(準備)	幼稚園における遠足やお祭り、運動会の準備を手伝う
第11回	幼稚園「サービス・ラーニング」(保育補助)	幼稚園における遠足やお祭り、運動会の保育を手伝う
第12回	保育所「サービス・ラーニング」(準備)	保育所における遠足やお祭り、運動会の準備を手伝う
第13回	保育所「サービス・ラーニング」(保育補助)	保育所における遠足やお祭り、運動会の保育を手伝う
第14回	「サービス・ラーニング」実習事後指導と報告会準備	保育所における遠足やお祭り、運動会の保育を手伝う
第15回	「サービス・ラーニング」報告会	「サービス・ラーニング」実習の報告会を行い実習を通じた学びを共有する

【授業の到達目標】

2年次からの実習に向けて教師・保育者としての多様な視点をもつことができる。

自らの課題を見つけることができる。

主体的に行動することができる。

【事前・事後学習】

「サービス・ラーニング」実習のスケジュール計画と事前準備を行う。

実習後にレポートを記入し、振り返りを行い明らかになった自らの課題を次回の実習に向け改善する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された実習記録は、授業においてフィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

「サービス・ラーニング」実施報告レポートをもとに2年次からの実習に向けて教師・保育者としての多様な視点をもつことができたか、自らの課題を見つけることができたかを総合的に評価する。「サービス・ラーニング」実習状況と訪問指導をもとに、主体的に行動することができたかを参加意欲・態度として評価する。「サービス・ラーニング」報告会の準備と発表が十分にできていたかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	「サービス・ラーニング」実施報告レポート40%	参加意欲・態度（実習記録より）30%	0	「サービス・ラーニング」報告会30%

【テキスト】

・「サービス・ラーニング」ハンドブック

【参考図書】

・授業時に必要に応じて適宜紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC1602	サービス・ラーニング実習Ⅱ	1年	後期	1	選択	白井 克尚 他

【授業の目的と概要】

「サービス・ラーニング」実習は、2年次以降から始まる教育実習、保育実習に向けて不安や苦手意識を克服するための「プレ教育実習」である。教育現場に触れ、子ども達や現場教員と関わる中で体験したことを通じて学び自らの課題を発見することが目的である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	オリエンテーション「サービス・ラーニング」ハンドブックの説明	「サービス・ラーニング」の心得、各種手続きについて知る
第2回	「サービス・ラーニング」事前指導	「サービス・ラーニング」実習に向けて身だしなみ、言葉遣い、お礼状の書き方などを習得する
第3回	先輩による「サービス・ラーニング」体験談のスピーチ	「サービス・ラーニング」実習経験者の先輩から体験談スピーチを聞く
第4回	小学校学芸会・作品展「サービス・ラーニング」	名東区内における小学校学芸会・作品展の活動を手伝う
第5回	小学校授業参観見学	名東区内における小学校授業参観の見学を行う
第6回	児童館「サービス・ラーニング」（企画、準備）	児童館における子どもたちの活動補助やお祭り、イベントの企画、準備を手伝う
第7回	児童館「サービス・ラーニング」（活動実施）	児童館における子どもたちの活動補助やお祭り、イベントの活動を行う
第8回	「サービス・ラーニング」中間指導と振り返り	「サービス・ラーニング」実習先からの評価や自己評価を踏まえた中間指導
第9回	名東区子育て支援「サービス・ラーニング」（活動補助）	名東区子育て支援の活動補助を行う
第10回	幼稚園遠足「サービス・ラーニング」（活動補助）	幼稚園における遠足に参加し活動を手伝う
第11回	幼稚園運動会「サービス・ラーニング」（活動補助）	幼稚園における運動会の活動を手伝う
第12回	保育所「サービス・ラーニング」（準備）	保育所における遠足やお祭り、運動会の準備を手伝う
第13回	保育所「サービス・ラーニング」（活動補助）	保育所における遠足やお祭り、運動会の活動を手伝う
第14回	「サービス・ラーニング」実習事後指導と報告会準備	「サービス・ラーニング」実習先からの評価と自己評価を踏まえた事後指導と報告会準備を行う
第15回	「サービス・ラーニング」報告会	「サービス・ラーニング」実習の報告会を行い実習を通じた学びを共有する

【授業の到達目標】

2年次からの実習に向けて教師・保育者としての多様な視点をもつことができる。

自らの課題を見つけることができる。

主体的に行動することができる。

【事前・事後学習】

「サービス・ラーニング」実習のスケジュール計画と事前準備を行う。

実習後にレポートを記入し、振り返りを行い明らかになった自らの課題を次回の実習に向け改善する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された実習記録は、授業においてフィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

実践報告の発表は、感想交流を通してフィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

【成績評価基準】

「サービス・ラーニング」実施報告レポートをもとに2年次からの実習に向けて教師・保育者としての多様な視点をもつことができたか、自らの課題を見つけることができたかを総合的に評価する。「サービス・ラーニング」実習状況と訪問指導をもとに、主体的に行動することができたかを参加意欲・態度として評価する。「サービス・ラーニング」報告会の準備と発表が十分にできていたかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	「サービス・ラーニング」実施報告レポート40%	参加意欲・態度(実習記録より) 30%	0	「サービス・ラーニング」報告会30%

【テキスト】

・「サービス・ラーニング」ハンドブック

【参考図書】

・授業時に必要に応じて適宜紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3603	教育実習Ⅰ事前事後指導	3年	前期	2	選択	今津 孝次郎 梶浦 恭子

【授業の目的と概要】

幼稚園における教育実習を確かな学びの機会とするために具体的な準備と省察を行うことを目的とする。その内容として、実習の意義と目的を再確認し、実習園を研究し、実習計画に照らして教材研究を行い、指導計画を作成する。自己評価の視点を確認して実習に臨み、前期実習（6月実施予定）についての省察を踏まえて、後期実習（9月実施予定）の目標を明確化し、取組み計画を立てる。実習全体の終了後に実習全体を通じた総合的な省察をカンファレンス形式で行う。演習形式で行う。グループ討議を踏まえた発表に基づいて全体討議でさらに検討するというステップを繰り返す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	教育実習の意義と目的	教育実習の意義について「社会人となる」「インターンシップ」などの観点から理解する。
第2回	教育実習とは一全体の過程と養成課程における位置づけ	「観察」「参加」「実習」の3段階を中心に、実習の実際の流れを理解する。
第3回	子どもを理解する	幼児段階の発達の特徴について、健康やことば、人間関係などの面から理解する。
第4回	幼稚園を理解する	幼稚園について、教育方針、施設、時間、教育課程などの点からその概要を理解する。
第5回	幼稚園における教育内容を理解する	健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域について理解する。
第6回	実習園の選定と手続き	幼稚園によって特徴の違いあることを知るとともに、実習に必要な書類作成に馴れる。
第7回	教材の研究	自由遊びや歌、絵本、手遊び、ペープサート、パネルシアターなど具体的な実践を知る。
第8回	指導計画の意義	指導計画を書く意義とその内容構成を理解する。
第9回	指導計画の作成（1）①一部分実習指導案の作成	部分実習の指導案を実際に作成する。
第10回	指導計画の作成（1）②一部分実習指導案のグループワーク	作成したその指導案をグループワークで相互に検討し合う。
第11回	指導計画の作成（2）①全日実習指導案の作成	全日実習の指導案を実際に作成する。
第12回	指導計画の作成（2）②全日実習指導案のグループワーク	作成したその指導案をグループワークで相互に検討し合う。
第13回	実習記録の意義と書き方	実習日誌を書く意義と目的について理解しながら、実習日誌の書き方について検討する。
第14回	前期実習の省察	前期実習の成果と問題点についてグループワークで相互に検討する。
第15回	後期実習の課題	後期実習に向けた課題をグループワークで相互に検討する。

【授業の到達目標】

毎回の課題を確実に達成しながら、教育実習に関する基礎知識と技法を習得するとともに、グループワークに積極的に参加する態度を養う。社会人としてのマナーを身につけ、実習生としての自覚も高めつつ、実習の準備と振り返りをおこなう態度を確立できる。

【事前・事後学習】

授業後に分からなかった点や疑問点をチェックし、次回の授業で質問するなどして確認する。グループメンバー同士で事前・事後に討議し合う態度も積極的に身に付ける。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

①ミニレポート、②指導計画、③グループワークの参加度をもとに、実習の自己評価も参照しながら総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	毎回の小レポート(30%)、最終レポート(50%)	授業およびグループワークへの積極的参加(20%)	0	0

【テキスト】

- ・小林育子・他『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林
- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館

【参考図書】

- ・参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて随時配布する。。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3604	教育実習Ⅰ（幼稚園）	3年	前期	4	選択	今津 孝次郎 梶浦 恭子

【授業の目的と概要】

幼稚園の保育全般に4週間参加し、保育実践を通して教師としての役割を学びながら教職意識を向上させる。園児の年齢的発達の特徴を知り、何をどのように援助するかを実際に体得することが目標である。初期の観察、中期の部分参加実習を体験した後、最後に研究保育の実践を行う。その間、保育者としての必要な言葉かけの方法、園児への対応のタイミングや内容、関わりや程度等を体験する。同時に保育環境の詳細や園の構成人の役割を知ることとともに、保護者との関係を円滑に持てることの諸方法についても学び、教職の幅広い意味について問い直す。実習形式でおこなう。幼稚園教員から常に指導を受けながら、同時に大学教員も適宜助言をおこなう。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第2回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第3回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第4回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第5回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第6回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識・技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第7回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識・技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第8回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識・技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第9回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識・技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第10回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識・技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第11回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、各自で調べ学習を進める。
第12回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、各自で調べ学習を進める。
第13回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、各自で調べ学習を進める。
第14回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、各自で調べ学習を進める。
第15回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、各自で調べ学習を進める。

【授業の到達目標】

実習前に抱いていた課題がどのように達成され、また達成されなかったかについて、実習終了後に振り返って明確にすることができる。さらにその後の新たな課題を積極的に掲げることができる。

【事前・事後学習】

実習前に抱いていた課題がどのように達成され、また達成されなかったかについて、実習終了後に振り返って明確にすることができる。さらにその後の新たな課題を積極的に掲げることができる。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価基準】

実習園の評価を基本とし、訪問指導時の評価や各種提出書類、実習日誌の書き方などに関する評価を総合する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	実習園の評価（80%）、訪問指導時の評価や各種提出物、実習日誌の評価（20%）

【テキスト】

・小林育子他『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』明文書院。

【参考図書】

・各自必要に応じて各種の参考書や参考資料に当たる。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC4605	教育実習Ⅱ事前事後指導	4年	前期	2	選択	白井 克尚

【授業の目的と概要】

教育実習の事前指導では、小学校における教育実習の目的・意義・方法等の概要を学ぶ。具体的には、実習の心構えを身に付けるとともに、児童の観察・学習指導案作成・学級経営・生徒指導の方法などを学ぶ。事後指導では、教育実習の成果を実習の記録から分析し、自らの課題を明確にする。また、その解決策を他の学生と交流し、実習体験の共有化を通してよりよい解決策を探究する。演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	教育実習の意義と目的、心構え。	教員という立場で実習することを理解する。教育実習も正式な授業の一部であることを理解し、児童にとっての貴重な学習時間であることを理解する。教員としての言葉遣い、子どもへの適切な対応、服装、マナーを身に付ける。、守秘義務についての理解を深め、SNSなどに決して情報を載せないことを確認する。
第2回	児童の理解と小学校校務分掌の理解。	児童の学校生活の流れを理解する。児童の発達段階（低・中・高学年別）における特徴を理解する。小学校の校務分掌について理解する。学校組織を理解する。研修制度について理解する。
第3回	学習指導案の作成。(教科)	学習指導案を作成する。教科は自分の取り組みたいものとする。指導案に発問を具体的に記入する。児童の学習行動を予想して記述する。学習プリントを作成する。板書計画を作成する。
第4回	模擬授業と課題の発見、解決策の話し合い。	4名が模擬授業を行う。模擬授業に対する課題を発見し、その解決策について話し合う。
第5回	教育実習日誌の書き方。	教育実習日誌を使いその書き方を学ぶ。教育実習日誌を指導して下さる指導教官に感謝して、謙虚に指導が受けられる心構えを育成する。
第6回	教育実習の心構え、服装、マナー、守秘義務。	教育実習直前にあたり心構えを徹底する。特に、守秘義務は公務員としての大切な義務であることを知り、決して、どんなことでも実習校に関する情報をSNSなどには載せないことを理解する。
第7回	教育実習の振り返り・課題の把握。(学級経営・生徒指導・実習授業について)	教育実習の成果を実習記録から分析し、自らの課題を明らかにする。課題をノートにまとめ、課題別にグルーピングして話し合いを行う。
第8回	教育実習の課題と解決策をグループで話し合う。(学級経営・生徒指導について)	教育実習課題別グループでその解決策を話し合う。その結果をまとめる。(学級経営・生徒指導について)
第9回	教育実習課題を解決する方策について、プレゼンテーション資料を作成する。(学級経営・生徒指導について)	教育実習課題を解決するためのプレゼンテーション資料を協働して作成する。(学級経営・生徒指導について)
第10回	教育実習課題を解決する方策について、プレゼンテーションを行う。(学級経営・生徒指導について)	教育実習課題を解決する方策について、プレゼンテーションを行う。(学級経営・生徒指導について)
第11回	教育実習の振り返り・課題の把握。(実習授業について)	教育実習課題をグループで話し合う。授業の発問を重点化して話し合いを行う。(実習授業について)
第12回	教育実習の課題をグループで話し合う。(実習授業について)	教育実習課題の解決策についてグループで話し合う。授業の発問を重点化して解決策を作成する。(実習授業について)
第13回	教育実習課題を解決する方策について、プレゼンテーション資料を作成する。(実習授業について)	教育実習課題を解決するためのプレゼンテーション資料を作成する。(実習授業について)
第14回	教育実習課題を解決する方策について、プレゼンテーションを行う。(実習授業について)	教育実習課題を解決する方策について、協働してプレゼンテーションを行う。(実習授業について)
第15回	教育実習の自己課題についてレポートにまとめる。	教育実習の自己課題についてレポートにまとめる。受講学生のレポートを資料集としてまとめる。

【授業の到達目標】

小学校における教育実習の目的・意義・方法等の概要を理解できる。
 教育実習の成果を分析し、自らの課題を明らかに、解決策を探究できる。
 事前・事後学習

【事前・事後学習】

事前に学習課題を提示する。課題についてレポートにまとめて授業に臨む。
 本字の学習の内容についてまとめ、レポートを作成する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された最終レポートは、添削・採点の上で返却する。

【成績評価基準】

小学校における教育実習の目的・意義・方法等の概要を理解できたか。
 教育実習の成果を分析し、自らの課題を明らかに、解決策を探究できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	最終レポート(40%)	グループワークの積極的参加(20%)	0	学習指導案(20%) プレゼンテーション(20%)

【テキスト】

- ・文部科学省 小学校学習指導要領 総則編
- ・教育実習日誌

【参考図書】

- ・参考書は必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC4606	教育実習Ⅱ（小学校）	4年	前期	4	選択	白井 克尚

【授業の目的と概要】

教師としての職業観、使命感、職責の重大さを、教育実習をととして学ぶ。小学校現場を体験し、教師と児童、児童と児童の心の交流の大切さを理解する。初期は観察を中心とし、中期には部分実習を体験し、最後に研究授業の実践を行う。また、児童との心の交流を深める方法を学ぶ。具体的には、教師としての児童への声かけの方法、児童への対応のタイミングを学ぶ。それとともに、集団の中で児童一人一人に応じた指導の方法を学ぶ。さらに、職務遂行上、教職員間の意志の疎通が大切なことを学び、自ら進んで意志の疎通を図ろうとする態度を育成する。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	担当指導教員からの指導。(学級経営・教科指導・特別活動・道徳教育等)と実習観察。(実習校の教員からの指導は実習校の事情により、順序は前後する。また、指導教員は例であり、この場合もある。)	教育実習担当教員から教育実習ガイダンスを受ける。学校のこと、児童のこと、実習についての予定等を記録をしながら注意深く聞き取る。また、学級経営、教科指導、特別活動、道徳等の指導について学ぶ。
第2回	教務主任からの指導(教育課程)と実習観察。(授業観察・授業外観察)	教務主任からの指導(教育課程)について学ぶ。教育課程は教育の総合計画であり、学校教育目標達成のための羅針盤であることを知る。
第3回	教頭からの指導(校務全般)と実習観察。(授業観察・授業外観察)	教頭から、学校経営全般の事項を学ぶ。学校経営における校務分掌の意味、学年主任、教科主任、体育主任、生徒指導主事、各教科主任の働きや機能について学ぶ。
第4回	校長からの指導(学校経営)と実習観察。(授業観察・授業外観察)	校長から学校経営について学ぶ。学校経営方針策定の方法、人事、予算、施設等についての学校経営における中核的要素について学ぶ。学校のリーダーとして何が必要であり、どのように学校を運営するのかを学ぶ。
第5回	生徒指導主事(生徒指導)からの指導と実習観察。(授業観察・授業外観察)	生徒指導主事から、生徒指導の現状や課題について学び、その解決策について考える。地域の特色と教員の協働体制についてどのように取り組むのかを学ぶ。
第6回	体験実習。(授業観察)	授業観察を行う。授業観察については観察項目に従い観察する。観察後、実習生自ら指導教員からの指導を受けるため、質問項目を作成して質問する。
第7回	体験実習。(授業外観察)	授業観察を行う。前回の授業観察結果と比較し、比較結果に従い質問する。
第8回	教科指導案の作成。	教科指導案の作成。教科指導案の作成においては、大学で学習した指導案の形式を参考に、実習校での指導案の形式に従い、指導教員の指導を受けながら指導案を計画的に作成する。発問構成を考え、発問を具体的に教科指導案に記述する。合わせて板書構成を考え板書計画を作成する。
第9回	実習授業。(教科指導)	教科に関する実習授業を行う。学習指導要領の目標・内容に即し、到達目標を設定して授業を行う。児童の集中度が授業評価のバロメーターであることを知る。
第10回	道徳指導案あるいは特別活動指導案の作成。	道徳あるいは特別活動の指導案の作成。道徳あるいは特別活動の指導案の作成においては、大学で学習した指導案の形式を参考に、実習校での指導案の形式に従い、指導教員の指導を受けながら指導案を計画的に作成する。
第11回	道徳あるいは特別活動の実習授業。	道徳あるいは特別活動に関する実習授業を行う。学習指導要領の目標・内容に即し、到達目標を設定して授業を行う。児童の集中度が授業評価のバロメーターであることを知る。
第12回	実習授業の振り返り。(教科)	教科に関する授業における教育的意義をとらえ、実践力を培うため、授業課題を明らかにし、その課題解決の方策を考える。
第13回	実習授業の振り返り。(道徳あるいは特別活動)	道徳や特別活動の授業における教育的意義をとらえ、実践力を培うため、授業課題を明らかにし、その課題解決の方策を考える。
第14回	総合的な実習の振り返り。	教科指導、道徳、特別活動の指導、学校経営、学級経営、生徒指導、安全指導、教員研修の領域から、教員としての知識、技能の修得の大切さを理解する。
第15回	小学校教育実習の記録作成。	教育実習記録を完成させる。作成に当たっては、具体的な児童の発言や指導教員の発言について記述し、それに対する自分の考えを記述する。

【授業の到達目標】

教師としての職業観、使命感、職責の重大さが理解できる。
 教師と児童、児童と児童の心の交流の大切さが理解できる。
 児童との心の交流を深める方法を学ぶ。
 教職員とのコミュニケーションを積極的に取る態度を身につける。

【事前・事後学習】

事前訪問の打合せ事項を確認する。指導案作成については、大学で学んだ指導案の形式と内容を確認する。
 返却された教育実習日誌をもとに、課題を整理し、その課題解決のための方策を整理する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された教育実習日誌は、確認をした上で返却する。

【成績評価基準】

教師としての職業観、使命感、職責の重大さが理解できたか。
 教師と児童、児童と児童の心の交流の大切さが理解できたか。
 児童との心の交流を深める方法を学べたか。
 教職員とのコミュニケーションを積極的に取る態度を身につけたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	実習校の評価(80%) 訪問始動時の評価と各種提出物、教育実習日誌(20%)

【テキスト】

・文部科学省 小学校学習指導要領 総則編
 ・教育実習日誌

【参考図書】

・各自必要に応じて参考資料を調べる。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2607	保育実習事前指導 I A	2年	前期	2	選択	後藤 永子 橋村 晴美

【授業の目的と概要】

保育所実習の目的、概要、意義と、基本的な心構え、実習にかかわる上での倫理等について理解する。保育所の一日の流れを理解して、参加、観察実習の実習ノートの記録と指導案の作成を学ぶ。実習保育所への提出書類についても事前準備をする。また、実習で使用するネームの制作も行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育所実習とは(橋村)	実習生という立場で保育の現場である保育所において主体的に学ぶ体験であることを理解する
第2回	保育所実習の基本理解(後藤)	保育所実習では、観察実習・参加実習・部分責任実習を通して実際に学ぶ体験学習であることを理解する
第3回	保育所の一日の流れの理解(橋村)	登園から降園までの流れを理解する
第4回	保育所実習の心構えと留意点について(橋村)	園長・主任・保育士の指導の基、真摯に主体的に実習に挑むことを理解する
第5回	実習園への提出書類について(後藤)	初めての实習に際して、自己課題を明確に文章化する
第6回	提出書類の制作(橋村)	実習園に提出する「個人票」、「誓約書」、「実習にあたって」を制作する
第7回	子ども理解の事前学習(橋村)	身体の育ち、心の育ち、言葉の育ちに分け、子どもの育ちを再確認する
第8回	実習生のマナーと守秘義務について(後藤)	生活習慣を整え、常識ある行動、守秘義務の重要性を理解する
第9回	実習ネームの制作(1)型紙から裁断(橋村)	実習中にエプロンに付ける布の手作りネームの制作を行う(1)型紙から裁断
第10回	実習ネームの制作(2)縫製(橋村)	実習中にエプロンに付ける布の手作りネームの制作を行う(2)縫製
第11回	観察・参加実習の理解と記録(後藤)	観察実習と参加実習の相違を理解し、記録することの重要性を学ぶ
第12回	保育内容について(橋村)	保育の計画に基づく保育内容と子どもの発達過程に応じた保育内容を理解する
第13回	保育環境について(橋村)	子どもの生活や遊びと保育環境を理解する
第14回	実習ノートと指導案の作成指導(後藤)	実習ノートは実習中に毎日、気付きを書き、今日の課題を明日の実習に繋げるものであり、指導案は責任実習のための指導計画であることを理解し作成を試みる
第15回	指導案と主活動について(橋村)	指導案の主活動を考えるに際して、導入の流れを考え制作、ゲームなどを考え作成を試みる

【授業の到達目標】

初めての保育所実習が充実した貴重な体験となるように、学生自身が主体となり、問題意識を持ち学習を進めることが出来る

【事前・事後学習】

実習に向けて、年齢別絵本を探し、読み込むことにより、絵本読み、素話しに自信を付けておく

【課題に対するフィードバックの方法】

提出物は、実習に向けての自己課題が明確か、面談をして対応する

【成績評価基準】

初めての保育所実習が充実した貴重な体験となるように、学生自身が主体となり、約束を守り、健康管理に努め、日頃から身だしなみに気を付け、問題意識を持ち学習を進めることが出来るか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30	0	70 (提出物の日程約束を守る、提出物の丁寧さや誤字脱字のないきれいな文字)

【テキスト】

- ・田中まさ子編『三訂 幼稚園・保育所実習ハンドブック』(株)みらい
- ・プリントを用意します

【参考図書】

- ・必要に応じて紹介する

科目番号	授 業 科 目 名	配当年度	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC2608	保育実習事前指導 I B	2年	前期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の目的、概要、意義と、基本的な心構え、実習にかかわる上での倫理等について理解する。一日の流れを理解して、実習ノートの記録方法を学ぶ。種別施設特性に応じた事前準備をする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	履修オリエンテーション	保育実習 I B と事前指導としての本授業の履修方法を説明し、実習に向けてのアンケート及びワークシートを記述させる
第2回	福祉施設実習の意義と目的	授業時に記述させたワークシートを返却してコメントした後、テキストに基づき福祉施設で行う保育実習 I B の意義と目的、条件等の説明を行い、ワークシートに記述させる
第3回	福祉施設実習の内容とイメージに関する視聴覚学習	前回の授業時に記述させたワークシートを返却してコメントした後、福祉施設実習の内容とイメージを把握するためのビデオ視聴をさせ、ワークシートに記述させる
第4回	外部講師による児童福祉施設とその援助実践の理解	実習施設から外部講師を招き、児童福祉施設とその援助に関する実践を講師から直接聞き、その内容をワークシートに記述させる
第5回	福祉施設を利用する子ども・障害児者の理解	授業時に記述させたワークシートを返却してコメントした後、テキストに基づき福祉施設を利用する子どもや障がい児者に関する講義を行い、ワークシートに記述させる
第6回	福祉施設職員の職員及び職務の理解	テキストに基づき福祉施設職員及びその職務に関する講義を行い、ワークシートに記述させる。
第7回	福祉施設の生活と実習の方法・形態	生活施設における生活に寄り添う実習方法とその形態を解説し、ワークシートに記述させる
第8回	配属施設の発表と修正・実習ノートの確認	配属施設の第一次案を発表して確認するとともに必要な修正作業を行う。その後、記録作成を行う実習ノートを配布して氏名等を記入しながら中味の確認を行う
第9回	配属施設の確定 個人票・誓約書・その他書類の作成	配属施設を確定したうえで、実習施設に提出する個人票、誓約書、その他書類を確認しながら必要事項を記入させる
第10回	保育実習 I B の課題とは何か	テキストに基づきながら、保育実習 I B の課題を確認し、課題と抱負の作成につなげる
第11回	課題と抱負の作成 1 下書き作成	課題と抱負の書き方を解説しながら、項目ごとに下書きを作成させる
第12回	課題と抱負の作成 2 下書き完成	課題と抱負の書き方を解説しながら、項目ごとに下書きを完成させ、提出させる
第13回	保育実習 I B の心構えと注意事項	課題と抱負の清書に向けてコメントし、必要な訂正を行う。実習に向けての心構えと注意事項の確認を行い、ワークシートに記述させる
第14回	課題と抱負の修正・必要書類の完成	前回の授業時に記述させたワークシートを返却してコメントした後、課題と抱負の清書を記述して提出させる
第15回	授業のまとめ 夏休みの課題	本授業全体のまとめを行い、課題と抱負未提出者に提出を促すとともに、夏休み及び保育実習 I B に取り組む後期に向けての課題と諸注意を確認する

【授業の到達目標】

保育実習 I B（施設実習）の全体像を把握して意義、目的、内容を理解できる。

保育実習 I B（施設実習）に向けて必要な準備に取り組むことができる。

保育実習 I B（施設実習）に必要な手続きを整えることができる。

保育実習 I B（施設実習）の課題を明確にすることができる。

【事前・事後学習】

文献、新聞報道やインターネット記事等による文献学習を通して、児童福祉施設等に関する基礎知識の習得に努めること。また、各授業時間までに該当する箇所のテキストを事前に読んでわからない部分に下線を引いておくこと。授業後には配布した資料、ワークシート等をすべてポートフォリオにまとめ、事後学習に活かすこと。規定時間以上のサービス・ラーニングに取り組んで報告書を提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや提出書類については添削して評価を行い、授業内で返却して解説し、改善を図らせる。

【成績評価基準】

保育実習 I B（施設実習）の全体像を把握して意義、目的、内容を理解できるか。

保育実習 I B（施設実習）に向けて必要な準備に取り組むことができるか。

保育実習 I B（施設実習）に必要な手続きを期限を守りながら整えることができるか。

保育実習 I B（施設実習）の課題を明確にすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30	0	70（課題と抱負等の文書作成と提出状況・正しい事務手続きと期限内の実施状況・サービスラーニング取り組み状況）

【テキスト】

・愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編 『保育士をめざす人の福祉施設実習』（株）みらい

【参考図書】

・講義時、あるいは、実習施設の指導教員より紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2609	保育実習指導 I A	2年	後期	2	選択	後藤 永子 橋村 晴美

【授業の目的と概要】

学外の保育所実習に必要な基礎知識を習得する。実習の事前、実習中、事後指導を通じて、保育士としての資質、能力、技能を習得する。実習園での保育方針を学ぶと共に責任実習を行う。実習生としての自己課題を明確にして、次の実習に繋げる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	事前訪問指導の要点(橋村)	実習1か月前におこなわれる事前訪問指導を実習の1日目と理解する
第2回	保育所保育指針の理解と事前訪問指導時の提出書類について(後藤)	保育所保育指針の復習と事前訪問指導時の提出する個人票・制約書の作成をする
第3回	実習園での生活と1日の流れ(後藤)	担当保育士のもとで実習園での配属クラスと1日の流れを把握しておく
第4回	実習期間中の流れの理解(橋村)	実習期間中は検温に始まり、担当保育士の指示に従い、保育に参加する
第5回	子どもの観察と参加から記録に繋げる(橋村)	観察・参加実習のなかで実習日誌に記録し、適切な言葉の指導を受ける
第6回	実習生の立場・心構え(橋村)	実習生の立場を理解し、真摯に指導を受ける
第7回	子どもの発達過程の理解(橋村)	子どもの発達過程に即した言葉掛け、対応を学ぶ
第8回	子どもへの援助とかかわり(後藤)	子どもへの適切な援助とかかわりを学ぶ
第9回	子どもの生活や遊びと環境構成(橋村)	環境構成の重要性を理解し、適切な環境構成を整える
第10回	実習園の配属クラスに合わせた責任実習(橋村)	指導案をあらかじめ提出し、指導を受け責任実習を行う
第11回	参加・観察実習の記録の取り方(橋村)	毎日の実習日誌の提出から、1日の反省を実習の課題に繋げる
第12回	記録に基づく省察と反省(後藤)	実習を終えて記録に基づく省察と反省を行う
第13回	実習生としての自己課題(後藤)	事後指導のなかで自己課題を明確にする
第14回	実習課題の達成度について(橋村)	実習課題の達成度を明確にする
第15回	保育士の役割と職業倫理(橋村)	保育士の役割を理解し、職業倫理を理解する

【授業の到達目標】

保育所実習に必要な知識を習得して、事前準備、本実習、実習後の反省と省察を通して保育所保育士の援助ができる。

【事前・事後学習】

実習に向けて、責任実習のためのペーパーサート、パネルシアター、ゲーム、手遊びの準備をしておく

【課題に対するフィードバックの方法】

実習後、面談を通して保育士として自己課題を達成出来たか確認をする。

【成績評価基準】

保育所実習に必要な知識を習得して、事前準備、本実習、実習後の反省と省察を通して保育所保育士の援助ができるようになったか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50 (主体的に実習に挑むことができた)

【テキスト】

- ・保育実習事前指導 I A で使用した教科書
- ・プリントを配布

【参考図書】

- ・適宜、紹介していく

科目番号	授 業 科 目 名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担 当 者 名
EC2610	保 育 実 習 指 導 I B	2年	後期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

保育実習事前指導 I B の指導を踏まえ、学外の居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習に必要な基礎知識を習得するとともに、必要書類の作成、事務手続き、実習施設における事前訪問、実習計画の作成と実習の実施、記録の作成、報告書の作成等を行う。実習の事前、実習中、事後指導を通じて、保育士としての資質、能力、技能を習得する。達成目標を立て、実習計画書を制作する。実習生としての自己課題を明確にして、次の実習に繋げる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	履修オリエンテーション・保育実習事前指導 I B の振り返り	保育実習 I B と事前指導としての本授業の履修方法を説明し、保育実習事前指導 I B を振り返りながらワークシートを記述させる。
第2回	配属施設の確認・施設実習の概況説明 宿泊に伴う留意点について	保育実習 I B の配属施設を確認して配属施設に関する概況説明を行う。また、テキストに基づいて宿泊に伴う施設実習の留意点を説明する。
第3回	保育実習 I B の実習内容と方法に関するVTR学習	VTRに基づき保育実習 I B の実習内容とその方法を確認しながらワークシートに記述させる。
第4回	実習記録の書き方・個別記録について	前回の授業時に記述させたワークシートを返却してコメントした後、テキストに基づき実習記録の書き方を指導する。
第5回	実習計画書の作成	テキストに基づき実習計画書の作成を行う。
第6回	細菌検査等の手続確認 実習計画書の完成	細菌検査等の手続に関するガイダンスを実施する。完成した実習計画書の提出をさせる。
第7回	提出書類の最終確認 事前訪問ガイダンス	事前訪問日に持参する5点セットの提出書類の最終確認を行う。テキストに基づいて事前訪問のガイダンスを行う。
第8回	事前訪問日確認 事前訪問に関する留意点	事前訪問日の確認を行い、事前訪問に向けての留意点を確認する。
第9回	実習施設における事前訪問	実習施設に訪問して、施設の指導担当者によって保育実習 I B に向けてのガイダンスと施設内見学を行う。(概ね2時間以上)
第10回	事前訪問報告書提出 事前訪問の実施報告	実施した事前訪問報告書を提出して事前訪問に関する報告を行う。
第11回	保育実習Ⅲ実習報告会への参加と記録	3年生が実施する保育実習Ⅲの実習報告会に参加して記録する。
第12回	実習反省会および実習の終え方について 実習報告書について	実習反省会および実習の終え方についてと指導を行う。また、実習後に作成する実習報告書について説明する。
第13回	直前指導・諸注意	保育実習 I B の直前指導、諸注意・諸連絡を行う。身だしなみや健康状態を確認する。
第14回	事後指導 ①実習報告書と礼状の作成と提出	事後指導として実習報告書と礼状の書き方を確認し、作成作業を行う。
第15回	事後指導 ②保育実習 I B 課題の確認 保育実習ⅡⅢに向けて	事後指導として保育実習 I B の総括を行い到達点を確認すると共に、次の実習に向けての課題を確認する。

【授業の到達目標】

保育実習 I B (施設実習) の実習計画を作成できる。
 保育実習 I B (施設実習) に向けて必要な手続きを行い準備に取り組むことができる。
 保育実習 I B (施設実習) の内容と記録方法を理解することができる。
 保育実習 I B (施設実習) の振り返りと分かち合いを行い、次の実習につなげることができる。

【事前・事後学習】

夏休み等を利用して児童福祉施設等の見学やボランティア活動を行うことが望ましい。また、配属された実習施設の種別に応じた対象児者や施設に関連する情報を各自で収集して予備知識を増やしておくこと。配布資料や作成した文書、各自で収集した資料や事前訪問時に配布された施設パンフレット等については、すべてポートフォリオにまとめて実習及び事後学習に活用すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出書類については添削して評価を行い、授業内で返却して解説し、改善を図らせる。

【成績評価基準】

保育実習 I B (施設実習) の実習計画を作成できるか。
 保育実習 I B (施設実習) に向けて必要な手続きを行い準備に取り組むことができるか。
 保育実習 I B (施設実習) の内容と記録方法を理解することができるか。
 保育実習 I B (施設実習) の振り返りと分かち合いを行い、次の実習につなげることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40	0	60 (実習計画書・実習報告書等の提出状況、期限内の正しい事務手続き、ワークシートの作成状況等)

【テキスト】

・愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編 『保育士をめざす人の福祉施設実習』(株)みらい

【参考図書】

・講義時、あるいは、実習施設の指導教員より紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2611	保育実習 I A	2年	後期	2	選択	後藤 永子 橋村 晴美

【授業の目的と概要】

保育所の内容、機能等を実践現場での体験を通して学ばせる。既習の教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を養う。保育士としての職業倫理と、子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を取得させ、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を通して学ぶ。保育所の生活に参加させ、乳幼児への理解を深めさせるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	以下の内容を実習中に行う 保育所実習の役割や機能について(橋村)	以下の概略を実習中に行う 保育所実習の役割や機能を具体的に理解する
第2回	保育所の生活と1日の流れについて(後藤)	保育所の生活と1日の流れを共に生活するなかで学ぶ
第3回	保育所保育指針の理解について(橋村)	保育所保育指針の理解から保育の展開を実践から学ぶ
第4回	既習の教科の内容を踏まえ子ども理解に繋げる(後藤)	既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ
第5回	子どもの理解について(橋村)	子どもの観察とその記録による理解に繋げる
第6回	子どもの発達過程の理解(後藤)	子どもへの援助やかかわりから子どもの発達過程への理解に繋げる
第7回	保育内容について(橋村)	保育の計画に基づく保育内容の実践を学ぶ
第8回	保育環境について(橋村)	子どもの遊びや生活から保育環境を整える重要性を学ぶ
第9回	子どもの安全と健康について(後藤)	生活をともにする中で子どもの安全と健康を守る対応を学ぶ
第10回	保育の計画について(橋村)	保育課程と指導計画の理解と活用について学ぶ
第11回	部分実習について(橋村)	部分実習を通して、立案、教材の準備、保育の展開、反省、評価を学ぶ
第12回	観察・参加実習と記録について(橋村)	観察・参加実習から記録に基づく省察・自己課題へと繋げる
第13回	保育職としての保育士について(橋村)	保育職としての保育士の役割を理解する
第14回	職員間の役割分担について(後藤)	職員間の役割分担から連携や協働を学ぶ
第15回	保育士と職業倫理について(橋村)	保育職としての保育士の職業倫理から守秘義務について理解する

【授業の到達目標】

保育の現場である保育所の機能を理解し、乳幼児の生活実態に触れながら、保育士の役割及び保育技術について具体的に体得できる。

【事前・事後学習】

乳幼児の年齢別絵本の選定、手遊び、素話しの練習、保育教材、ピアノを習得しておく。

【課題に対するフィードバックの方法】

面談を通して、学生本人の自己課題を明確にする。

【成績評価基準】

保育所の機能を理解し、乳幼児の生活実態に触れながら、保育士の役割及び保育技術について具体的に体得することができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100 (実習園での評価を基に実習日誌、面談を通して総合評価)

【テキスト】

・保育実習指導 I A で使用した教科書、プリントを実習中、随時参考とする

【参考図書】

- ・各自、実習に必要なと思われる参考文献(絵本等)を持っていくこと
- ・国語辞典は実習時に必ず持っていくこと

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC2612	保育実習 I B	2年	後期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して学ばせる。既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。保育士に必要な職業倫理と子どもの最善の利益の具現化について学ばせる。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を進化させる。居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めさせるとともに、施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	提出書類（個人票・課題と抱負・実習計画書等）の作成と提出	保育実習 I Bを行うにあたり、その提出が定められている書類（個人票・課題と抱負・実習計画書等）の作成と提出を期日までに行う。
第2回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第3回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第4回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第5回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第6回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第7回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第8回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第9回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第10回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第11回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第12回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第13回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第14回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第15回	実習記録の作成と提出、およびお礼状の発送、報告書の提出	実習記録の作成と提出、およびお礼状の発送、報告書の提出を行う。

【授業の到達目標】

1. 居住型児童福祉施設に入所する子どもとその生活を理解できる。
2. 児童福祉施設の役割・機能を実践的に学ぶことができる。
3. 施設保育士の役割と職務内容を体験的に理解できる。

【事前・事後学習】

保育実習事前指導 I Bおよび保育実習指導 I Bを受講して単位を取得することを前提とする。

また、社会的養護の単位を事前に取得していること。

事前学習としては、実習施設で提示される情報や、文献・雑誌等の内容理解を深める。

日頃より、新聞やテレビなどで報道される児童の問題に関心をもち、それらの情報をインターネットや文献学習を通して内容理解を深める。そして、児童福祉施設等における見学やボランティア活動を行うこと。

事後学習としては、実習及び事前・事後指導で配布された資料やパンフレット等の資料や実習の成果物をポートフォリオに整理してまとめるとともに、報告書を作成して提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出書類については添削して評価を行い、授業内で返却して解説し、改善を図らせる。

【成績評価基準】

1. 居住型児童福祉施設に入所する子どもとその生活を理解できるか
2. 児童福祉施設の役割・機能を実践的に学ぶことができるか
3. 施設保育士の役割と職務内容を体験的に理解できるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（到達目標の達成状況・実習態度、姿勢等を含めた保育・施設実習先の総合評価を基礎に、受講態度・提出物などを総合して評価する。ただし、受講態度・出席状況によっては、実習を中止させる場合がある。）

【テキスト】

・愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』（株）みらい

【参考図書】

・講義時、あるいは、実習施設の指導教員より紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3613	保育実習Ⅱ 事前事後指導	3年	後期	2	選択	後藤 永子 橋村 晴美

【授業の目的と概要】

保育所での学外実習を履修する前後の指導を行う。事前指導では、オリエンテーションを行い、保育士としての必要な資質・能力・技術を学ぶ。実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方などを学ぶ。事後指導では、実習の体験を各自まとめさせ、自己課題を明確化させる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	保育実習ⅠAの反省と課題の再検討(橋村)	保育実習Ⅱに向けて
第2回	保育士としての資質・能力・技術の習得(後藤)	保育実習Ⅱの目標は、保育士としての資質・能力・技術の習得することである
第3回	地域子育て支援について(橋村)	保育所の役割のなかに地域の子育て支援が含まれており、その援助について学ぶ
第4回	育児支援と関係機関との連携について(橋村)	育児支援と関係機関との連携について理解を深める
第5回	個別援助と集団援助の技術について(後藤)	個別援助と集団援助の技術について理解を深める
第6回	自己課題の明確化について(橋村)	自己課題を明確にして、保育実習Ⅱに繋げる
第7回	保育士の職業倫理の理解と提出書類について(橋村)	守秘義務を再確認して、誓約書、個人票、「実習に向けて」等の提出書類の作成をする
第8回	保護者支援の方法について(橋村)	保護者支援の方法を具体的に学び、コミュニケーションの方法を実践する
第9回	実習園の保育目標と、実習生の日課について(後藤)	実習園の保育目標を理解し、実習生の日課から即した保育に努める
第10回	実習配属クラスの乳幼児の理解について(橋村)	配属クラスの乳幼児の理解から適切な援助と対応を体得する
第11回	子どもの最善の利益のための配慮について(橋村)	子どもの最善の利益を常に考え、援助できる保育に心掛ける
第12回	全日実習の計画と準備(橋村)	全日実習の指導案と準備について指導を受け、責任実習を行う
第13回	保育実践の展開と、記録と反省(後藤)	責任実習の反省から省察を行い、次の計画に繋げる
第14回	実習全体の反省と評価(後藤)	実習全体の反省を通して課題を見出し、評価を真摯に受ける
第15回	保育士としての課題(橋村)	保育所保育士としての課題を明確にし、保育実習報告集の制作を行う

【授業の到達目標】

職業倫理を守り、保育所保育士として必要な資質、能力、技術を習得できる。

【事前・事後学習】

保育所の持つ社会的使命を理解できるように自己学習を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習後、面談を通して保育士として自己課題を達成出来たか確認をする。

【成績評価基準】

保育所保育士として必要な資質、能力、技術を習得できることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50 (自主的に実習に挑むことができた)

【テキスト】

- ・保育実習ⅠAの授業に使用した教科書
- ・プリント配布

【参考図書】

- ・適宜、紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3614	保育実習Ⅲ 事前事後指導	3年	後期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

児童福祉施設等（保育所以外）での学外実習を履修する前後の指導を行う。事前指導では、オリエンテーションを行い、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方などを学ばせる。事後指導では、実習の体験を通して、自分を振り返り、各自にまとめさせ、発表する。発表の仕方を通して自分の課題を明らかにし、次の学びにつなげる具体的な学習を浮き彫りにさせる。尚、授業計画の5回目までは前期に開講し、後期は6回目からの開講とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	履修オリエンテーション・実習施設アンケート	保育実習Ⅲ及び本授業の履修オリエンテーションを実施する。保育実習ⅠBの振り返らせながら、実習を希望する施設に関するアンケートを配布して記述させる。
第2回	配属施設1次案・ボランティア活動報告書および課題と抱負の提出	諸条件及び学生に記述させたアンケートに基づいて策定した配属施設1次案を発表して必要な修正と確認を行う。また、ボランティア活動報告書と課題と抱負の下書きを提出させる。
第3回	保育実習Ⅲの目標・課題の設定	実習ノートや報告書、自己評価等を活用して各自の保育実習ⅠBを振り返らせながら、保育実習Ⅲの課題と目標を設定させる。
第4回	配属施設の確定と概況説明・実習ノートの配布	配属施設の確定をしたうえで、実習施設の概況説明を行う。実習ノートを配布して氏名等を記入させ、個人票その他の書類を作成させる。
第5回	課題と抱負の作成・完成、4点セットの作成	保育実習Ⅲの課題と抱負の作成作業を行う。細菌検査の実施方法を説明する。
第6回	4点セットおよび課題と抱負の提出	4点セットの必要書類と合わせ、課題と抱負を提出させる。必要に応じて個人指導を実施する。
第7回	保育実習Ⅲにおける実習内容	テキストに基づいて保育実習Ⅲの実習内容を把握させる。
第8回	実習記録（個別記録・エピソード）の書き方	テキストに基づいて保育実習Ⅲの記録（個別記録・エピソード記録）の書き方を理解させる。
第9回	実習計画書	作成した課題と抱負に基づいて、保育実習Ⅲにおける実習計画書を作成させる。
第10回	事前訪問に向けて・事前訪問報告書の書き方	テキストに基づいて事前訪問に向けてのガイダンスを行い、事前訪問報告書の作成方法を確認させる。
第11回	実習施設における事前訪問	各自が実習施設に訪問して、施設職員から直接実習に向けての指導を受け、施設内を見学させてもらうことによって保育実習Ⅲの具体的なイメージをつかみ、学生各自が具体的な準備をする。
第12回	諸注意・直前指導	保育実習Ⅲの諸注意・諸連絡・直前指導を行う。また、実習に向けての身だしなみと健康状態の確認を行う。
第13回	事後指導1・実習報告書・お礼状の書き方	事後指導として、テキストに基づいて実習報告書の作成方法とお礼状等の事後手続を確認させる。
第14回	事後指導2・自己評価と実習報告書の作成	事後指導として、保育実習Ⅲの自己評価と報告書の作成を行わせる。
第15回	保育実習Ⅲ実習報告会	提出した実習報告書に基づき、実習報告会を実施する。

【授業の到達目標】

- ①保育実習Ⅲの全体像を把握して、その意義、目的、内容を理解できる。
- ②保育実習Ⅲに向けて必要な準備に取り組むことができる。
- ③保育実習Ⅲに必要な手続きを整えることができる。
- ④保育実習Ⅲの報告および振り返りと分かち合いを行うことができる。

【事前・事後学習】

保育実習ⅠBの実習ノート及び自己評価を確認し、成果と課題をまとめておくこと。
各授業時間までに該当する箇所のテキストを事前に読んでわからない部分の下線を引いておくこと。
授業後は配布した資料、ワークシート等をすべてポートフォリオにまとめ、事後学習に活かすこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや提出書類については添削して評価を行い、授業内で返却して解説し、改善を図らせる。

【成績評価基準】

- ①保育実習Ⅲの全体像を把握して、その意義、目的、内容を理解できたか。
- ②保育実習Ⅲに向けて必要な準備に取り組むことができたか。
- ③保育実習Ⅲに必要な手続きを期限を守って整えることができたか。
- ④保育実習Ⅲの報告および振り返りと分かち合いを行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40	0	60（課題と抱負・実習計画書・実習報告書の作成状況、期限内の正しい事務手続き）

【テキスト】

・愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』（株）みらい

【参考図書】

・講義時、あるいは、実習施設の指導教員より紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3615	保育実習Ⅱ	3年	後期	2	選択	後藤 永子 橋村 晴美

【授業の目的と概要】

保育実習ⅠAで学んだ実践体験を踏まえ、保育所の保育を実際に行い実践させ、保育士として必要な資質・能力・技術を学ばせる。家庭と地域の生活の実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	以下の内容を実習中に行う 保育全般への参加について(橋村)	以下の概略を実習中に行う 保育全般への参加から保育技術の習得をする
第2回	子どもの実態把握について(後藤)	子どもの実態把握を通して一人ひとりの発達の特性に応じてかかわる
第3回	子ども個人差の理解(橋村)	子ども個人差の理解から対応方法の習得、特別な支援を要する子どもへの対応を学ぶ
第4回	環境構成について(橋村)	清潔・安全な環境、子どもの主体性が発揮できる環境を構成する
第5回	子育て支援のあり方について(後藤)	子育て支援のあり方を理解して、その実態と援助を学ぶ
第6回	保護者対応について(橋村)	子どもの保護者とのコミュニケーションの方法の具体的習得を実践から学ぶ
第7回	指導計画の立案について(後藤)	全日実習を通して、指導計画の立案、教材の準備、保育の展開、反省、評価を学ぶ
第8回	地域社会との連携について(橋村)	地域社会に対する理解、連携の具体的方法を学ぶ
第9回	子どもの最善の利益について(後藤)	子どもの最善の利益への配慮を学ぶ
第10回	人的環境としての保育士とは(橋村)	人的環境としての保育士の役割と援助を学ぶ
第11回	個と集団への援助(橋村)	個と集団への援助のあり方を体得する
第12回	保育士・職員間の役割について(橋村)	保育士・職員間の役割分担と連携・協働を体得する
第13回	保育士としての職業倫理について(橋村)	保育士としての職業倫理、守秘義務について体得する
第14回	保育士に求められるものは(後藤)	保育士に求められる資質、能力、技術の習得をする
第15回	自己課題について(橋村)	自己課題を明確化する

【授業の到達目標】

保育実習Ⅱは、保育実習ⅠA(保育所)で学んだ保育の実践経験を踏まえ、実習を通して、保育の知識・技術をより高めるとともに、社会人としての自覚を持って、保育士としての一層の実践力、応用力を身につけることができる。

【事前・事後学習】

保育実習ⅠAで学んだ実習内容や指導内容、反省点を踏まえ、保育実習ⅠAより前進することができるよう、関連する教科目の復習をして臨むとともに、問題意識をもって、意欲的、主体的に取り組むこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習の前後に面談を行い、保育士としての自覚を持ち、心情、意欲、態度が備わったかの確認をす。

【成績評価基準】

保育の実践経験を踏まえ、実習を通して、保育の知識・技術をより高めるとともに、社会人としての自覚を持って、保育士としての一層の実践力、応用力を身につけることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100(実習園での評価を基に実習日誌、面談を通して総合評価)

【テキスト】

・保育実習ⅠAの保育所実習時に使用した教科書、プリントを随時参考とする

【参考図書】

- ・自作の保育教材(ペープサート、パネルシアター等)を持参する
- ・国語辞典は必ず持参する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC3616	保育実習Ⅲ	3年	後期	2	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を学ばせる。家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	提出書類（個人票・課題と抱負・実習計画書等）の作成と提出	保育実習Ⅲを行う上で定められている書類（個人票・課題と抱負・実習計画書等）の作成と提出を期限内に行う。
第2回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第3回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第4回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第5回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第6回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第7回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第8回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第9回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第10回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第11回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第12回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第13回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第14回	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施	10日間（宿泊）、通い実習（2週間・12日）の実施
第15回	実習記録の作成と提出、およびお礼状の発送、報告書の提出	実習記録の作成と提出、およびお礼状の発送、報告書の提出を行う。

【授業の到達目標】

- ①児童福祉施設等の養護を実践に実践し、施設保育士の資質・能力・技術を習得できる。
- ②家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力、判断力を養うことができる。
- ③子育てを支援する保育士の基礎的な援助技術を習得できる。

【事前・事後学習】

保育実習Ⅰで学んだことを基礎として、さらに児童福祉施設において必要な知識や技能についての理解を広げ深めることをねらいとするため、保育実習Ⅰにおける到達点と課題を整理するとともに、児童家庭福祉、社会的養護、社会的養護内容等関連する授業内容を復習しておくこと。また、実習施設（ホームページ）で提示される情報や、文献・雑誌等の内容理解を深める。また、日頃より、新聞やテレビなどで報道される児童の問題に関心をもち、それらの情報をインターネットや文献学習を通して内容理解を深めること。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出書類については添削して評価を行い、授業内で返却して解説し、改善を図らせる。

【成績評価基準】

- ①児童福祉施設等の養護を実践に実践し、施設保育士の資質・能力・技術を習得できるか。
- ②家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力、判断力を養うことができるか。
- ③子育てを支援する保育士の基礎的な援助技術を習得できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（到達目標の達成目標を中心に、実習態度・姿勢等を含めた保育・施設実習先の総合評価を基礎に、受講態度・提出物などを総合して評価する。ただし、受講態度・出席状況によっては、実習を中止させる場合がある。）

【テキスト】

・愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編「保育士をめざす人の福祉施設実習」（株）みらい

【参考図書】

・講義時、あるいは、実習施設の指導教員より紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC4701	教職実践演習（幼・小）	4年	後期	2	初等教育コース：必修 幼児教育コース：選択必修	今津 孝次郎 白井 克尚 梶浦 恭子

【授業の目的と概要】

本授業の基本的方法の一つは、6から8名程度の小グループによるグループワークであり、もう一つはプロジェクト法という一定のテーマについての集団的取り組みと、模擬授業とを主な柱にしている点である。いずれも参加型学習形態で、教師に必要な協働性の育成を目標に込めている。この基本的方法に沿って、子ども理解、教材研究や指導計画、指導記録、特別支援、学校安全、保護者・地域の連携、教師の専門性といった重要な事項について、総合的に学習し、教職をスタートさせるための資質能力を向上させる。演習形式でおこなう。グループ討議を踏まえた発表に基づいて全体討議でさらに検討するというステップを繰り返す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	課題の明確化	教育実習の記録と評価を中心にした学修を振り返りながら、本授業での課題を見出す。
第2回	プロジェクト法（1）テーマの設定	教科・生徒指導ないし保育に関するテーマをグループごとに話し合う。
第3回	プロジェクト法（2）テーマの発表	各グループのテーマを発表する。テーマの探究作業はグループごとに実施。
第4回	子どもの発達段階の検討	各グループで討議し、全体で検討し子ども理解の視点と課題を確認する。
第5回	教材研究の諸課題	各グループで討議し、全体で検討して手法と課題を確認する。
第6回	指導計画と指導記録の書き方	書き方を各グループで討議し、全体で検討し手法と課題を確認する。
第7回	模擬授業（1）計画	各グループで内容・方法・評価について討議して全体で課題をまとめる。
第8回	模擬授業（2）実施第1回	各グループ代表者が模擬授業を行い、主に授業の内容・方法について検討する。
第9回	模擬授業（3）実施第2回	残りのグループ代表者が模擬授業を行い、主に教師役と子ども役の関係について検討する。
第10回	特別支援が必要な子ども	子どもに関する基礎知識と指導法について習得しつつ、グループで諸事例の検討を行う。
第11回	学校安全	学校安全の基礎知識と指導法について習得しつつ、グループで諸事例の検討を行う。
第12回	保護者・地域との連携	保護者・地域連携に関する基礎知識と技法について習得しつつ、グループで諸事例の検討を行う。
第13回	プロジェクト法（3）プレゼンテーションの技法	グループの成果を発表する際のプレゼンテーション技法について全体で検討する。
第14回	プロジェクト法（4）残りのグループの協働性	残りのグループが聞く際の協働性の重要性について全体で検討する。
第15回	教師の専門性の検討	第2～14回を振り返り、教師の使命や責任を含む資質能力を検討して課題を確認する。

【授業の到達目標】

幼稚園及び小学校教員に求められる知識・技術・態度について、在学中に習得した各内容を総合しながら不足部分を補い、さらに充実させるための課題を見出して、教職生活を円滑に開始できる資質能力を身につけることを目標とする。第一に子どもを理解するための視点と子どもと教員との諸関係について再確認する。第二に教科と保育内容に関わる知識と技術を総合的に検討し直す。第三に授業の基本方法であるグループワークを通じて、社会性や対人関係を向上する。第四に毎回の授業を積み重ねるなかで、使命感や責任感、教育愛の自覚をいっそう高める。

【事前・事後学習】

グループ討議に積極的に参加できるように事前準備をおこなう。毎回の小レポートで新たに発見した課題について事後学習をおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

小レポート内容については、翌週にまとめてフィードバックし、全体で共有する。

【成績評価基準】

本授業の参加態度と毎回の小レポート、そして本授業を振り返るレポートにより総合的に評価する。担当教員による評価と学生による自己評価を組み合わせて、学生が自身の到達度と課題について自らの問題として理解するよう促す。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	毎回の小レポート (30%)、期末最終レポート (40%)	授業への集中的態度、 グループ討議への参加 度、全体討議への貢献度 (30%)	0	0

【テキスト】

・特になし

【参考図書】

・参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて適宜配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
EC4702	保育実践演習	4年	後期	2	初等教育コース・選択 幼児教育コース・選択必修	後藤 永子

【授業の目的と概要】

保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。既習の教科、必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、必要な知識・技能を習得したことを確認する。時代に即した保育に関する課題、例えば、子育て支援、少子化、虐待の世代間連鎖等について分析・考察・検討をテーマごとにグループ討論、時にはロールプレイングの手法を用い、研究発表に繋げる。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容の概要
第1回	ガイダンスとこれまでの学習の振り返り	保育実践演習の意義と自己課題を明確にする
第2回	保育士の意義と役割について考える(1)	保育士として子どもとのかかわりについてのグループ討議
第3回	保育士の意義と役割について考える(2)	保育士として保護者対応についてのグループ討議
第4回	保育士の意義と役割について考える(3)	地域から期待される保育士についてのグループ討議
第5回	子ども理解を通して(1)	本当に子どもが好きですか、グループ討議
第6回	子ども理解を通して(2)	先輩から学ぶ保育の現場、実践的な話から考察を深める
第7回	保育士としての協働と同僚性について(1)	同僚とのコミュニケーションが保育の質に繋がる、グループ討議
第8回	保育士としての協働と同僚性について(2)	先輩から学ぶ保育の現場、保育の質について考察を深める
第9回	生活の場としての保育	養護と教育についてグループ討議
第10回	個と集団について	個とのかかわりから集団を考える、クラス運営に繋げる、グループ討議
第11回	保育士の倫理	園長を招き、全国保育士会倫理要綱について学ぶ
第12回	保育をめぐる現代の課題	園長を招き、子どもと保護者の現状の問題点について学ぶ
第13回	模擬保育(1)	お話しを中心に、絵本、ペープサート、パネルシアター
第14回	模擬保育(2)	表現活動を中心に、音楽活動、造形活動
第15回	保育士へのスタートを目指して	自己課題の確認と保育士としての資質、能力、態度を習得する

【授業の到達目標】

実習を通して学んだ子どもへの理解や援助、施設への機能とそこでの保育士の役割について認識を深めることができる。使命感や責任感、社会性や対人関係能力を高め、保育士としての資質、能力、態度を習得することができる。

【事前・事後学習】

サービス・ラーニングを通して、現場実践を深める。保育士としての自己課題を明確にしていく

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは、返却時に全体で話し合い共有する機会を持つ、実技課題に関しては発表形式にて共有する。

【成績評価基準】

授業に集中すること。グループワークに積極的に参加できるか。出題されるレポート、課題に対する取り組みとその達成度で評価する

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	40%	50%	10%	0%

【テキスト】

- ・保育所保育指針
- ・随時プリントを配布

【参考図書】

- ・適宜紹介をする